第十三課　四季の移り変わり

■新出語

四季　四季

移り変わり　變換

移り変わる　改變

桜だより　櫻花的訊息

～だより　…的訊息，有關…的消息

たより　消息，信件

春分　春分

本格的だ　眞正的，完全的，熱切的

訪れ　來訪

訪れる　拜訪

冷え込む　變冷，轉涼

冷える　變冷

太陽　太陽

光　光綫

草木　植物，草木

芽　新芽

伸び出す　開始展露，伸出，滋長

各地　各地區

上旬　每一個月的前十天、上旬

満開　盛開

北日本　日本北部

やっと　最後，終於，剛巧

雪どけ　溶雪

とける　溶化

梅　梅花，梅樹

盛り　巔峯

中旬　一個月的中間十天

～半島　～半島

南岸　南岸

上陸する　靠岸，登陸

つばめ　燕子

そろそろ　逐漸地

官庁　政府機關

会計年度　會計年度

会計　會計

年度　一個（會計、學）年度

新入生　新生

梅雨　梅雨季節

さわやかだ　清爽的，放晴

五月晴れ　五月典型常見的蔚藍天空

～から～にかけて　由…至…

上空　上空

高気圧　高氣壓

　気圧　氣壓

すっぽりと　完全地，密不通風的

包む　包圍起

安定する　安定，穩定

　安定　安定性

海水浴　海水浴

登山　登山

　登山する　爬山

絶好だ　最好的

高原　高原

海岸　海灘，海邊

避暑地　避暑地

　避暑　避暑

涼を求める　找涼爽的地方

にぎわう　熱鬧

夕立　黃昏陣雨

巨大だ　巨大的

入道雲　厚雲層

もくもくと広がる　悄悄地擴大

　広がる　擴大，伸展

やがて　很快地，不久

激しい　激烈的，兇猛的

雷鳴　雷聲

伴う　附帶，伴隨

ぐったりとする　非常疲倦地

生気　活力，精力旺盛，生氣、生機

取り戻す　恢復，回復

　戻す　復原

実り　收穫

台風シーズン　颱風季

　～シーズン　一季

去る　離開

めっきり　相當地，非常

菊　菊花

つぼみ　花苞

ふくらむ　膨脹　綻放

抜けるような青空　天空蔚藍、狀若透明

　青空　青天，藍天

黄金色　金黃色

波打つ　如波起伏

刈り入れ　收穫，收割

色づく　染上…顏色

柿（かき）　柿子

実（み）　果實，硬果

夕日（ゆうひ）　落日，夕陽

風物詩（ふうぶつし）　增添四季　有詩意魅力的種種自然景象，詠自然的詩歌

　風物　自然景象

　詩　詩

ぶどう　葡萄

なし　梨

りんご　蘋果

みかん　（日本）蜜柑

栗（くり）　栗子

味覚（みかく）　滋味，味覺

店先（みせさき）　商店前面

下旬（げじゅん）　一個月的最後十天，下旬

初雪（はつゆき）　初雪

北国（きたぐに）　北部地方

山国（やまぐに）　多山的省分

もみじ　楓樹，有紅葉，楓葉

届く（とどく）　抵達

紅葉（こうよう）　紅葉

　紅葉する　葉子變紅

一雨（ひとあめ）ごとに　每一場雨

　一雨　一場雨

彩り　色彩，五彩繽紛

深める　加深，加濃

山間部（さんかんぶ）　山脈，山區

平野部（へいやぶ）　平原

　平野　平原

次第（しだい）に　逐漸地

移ってくる　朝…移動

近郊（きんこう）　近郊

半（なか）ば　半途，中間

～あたり　～附近

木枯（こがら）し　瑟瑟寒風

落葉（おちば）　落葉

舞（ま）う　跳舞、飛舞

太平洋側（たいへいようがわ）　太平洋畔

　太平洋　太平洋

日本海側（にほんかいがわ）　「日本海」邊

　日本海　日本海

天候（てんこう）　天氣

違い　差異

大雪注意報（おおゆきちゅういほう）　大雪警報

　大雪　大雪

　注意報　（氣象）警報

　注意　注意，警告

注意する　留心，警覺

西風　西風

からからに乾く　烘乾，非常乾燥

異常乾燥注意報　異常乾燥的警報

異常乾燥　異常乾燥

異常だ　異常的，不正常的

乾燥　乾燥

乾燥する　變乾

火災発生件数　火災次數

火災　火災

発生　發生

発生する　發生（動詞）

件数　案件次數

ぐっと　急遽轉變成～，非常地～

増す　增加

江戸の華　江戸之花

江戸　江戸，東京在明治維新以前的舊名

火の用心　提防火災

用心　警惕，預防

用心する　警覺，小心（動詞）

一段と　更～，更加～

神経を使う　非常小心地，格外用心

神経　神經

のど　喉嚨

痛める　傷害，痛

かぜひき患者　感冒患者，感冒

患者　患者，病患（由客觀接觸的人，如醫生、護士使用，很少由病人本身或其家屬使用該字）

当然　當然地

■ 本　文

桜だより

春分を過ぎると、本格的な春の訪れを迎える。朝晩はまだ冷え込んでも、昼間の太陽の光は明るい。草木の芽が伸び出し、各地からの桜だよりも聞かれるようになる。

四月の上旬、東京で桜が満開のころ、北日本ではやっと雪どけが始まり、梅の盛りとなる。三月中旬に九州や四国、紀伊半島の南岸に上陸したつばめは、そろそろ関東にも姿を見せ始める。しかし、北海道の春はまだ遠い。

四月は官庁の会計年度が変わる月。学校も新入生を迎えて、新しい一年が始まる。

梅雨

五月は、さわやかな五月晴れの空に新緑が映える。しかし、それも長くは続かず、六月中旬ごろになれば、うっとうしい梅雨に入る。気温が低く、しとしと降るのは梅雨の前期。後期はむし暑く、大降りとなることが多い。所によっては集中豪雨の被害が出たりもする。

家の中までじめじめし、食べ物は腐りやすく、洗濯物も乾かない。うっかりしていると、下駄箱の中の靴までが黴で真青になる。都会生活者にとっては、空梅雨で終わってくれた方がありがたいのかもしれない。しかし、稲作には大事な雨だ。

このころ北海道では好天が続き、春と夏が同時に訪れたように、野の花が咲き乱れ、美しい季節となる。

盛夏

七月に入ってすぐのころ、梅雨明けを思わせる晴天の続くことがある。しかし、これは梅雨の中休みで、梅雨が明けて真夏を迎えるのは、例年七月中旬過ぎである。

梅雨明けから八月の上旬にかけての一・二週間、日本の上空は高気圧にすっぽりと包まれて、安定した天気が続く。暑さはきびしいが、海水浴や登山には絶好だ。高原や海岸の避暑地は涼を求

める人たちでにぎわう。

八月も中旬になると、夕立が多くなる。青い空に巨大な入道雲がもくもくと広がり、やがて激しい雷鳴を伴って強い雨が降り出す。昼の暑さにぐったりとしていた草木もやっと生気を取り戻す。

実りの秋

九月の台風シーズンが去れば、めっきり秋らしくなり、菊のつぼみがふくらむ。秋は収穫の季節である。抜けるような青空のもとで、黄金色に波打つ稲の刈り入れが行われる。真赤に色づいた柿の実が夕日に映えるのは、秋の風物詩の一つである　ぶどう・なし・柿・りんご・みかん・栗など秋の味覚がくだもの屋の店先に並ぶ。

早い年には九月の下旬、遅くても十月に入れば、富士山には初雪が見られる。北国や山国からはもみじのたよりが届く。紅葉は一雨ごとにその彩りを深め、北から南へ、山間部から平野部へと次第に移ってくる。東京の近郊に紅葉が見られるようになるのは十一月の半ばごろである。そのころには、北国や高い山には雪が降り始める。

冬の訪れ

十二月に入り、東京あたりで木枯しに落葉が舞うようになると、日本列島は太平洋側と日本海側で極端な天候の違いを示す日が多くなる。

日本海側では、年の変わらぬうちに大雪注意報の出ることもある。一方、太平洋側では晴天が続き、強い西風で空気はからからに乾き、毎日のように異常乾燥注意報が出される。火災発生件数もぐっと増す。「火事は江戸の華」などと言ってはいられない。

火の用心に一段と神経を使う。のどや鼻を痛めたかぜひき患者も当然増える。

しかし、東京から富士山の美しい姿が見られる日の多いのもこの季節である。

■ 用 例

1. A・草木の芽が伸び出し、各地からの桜だよりも聞かれるようになる。(l. 3)

(1) 菊もかおる十月下旬になると、空が一段と澄んでくる。

(2) 何もかも値上がりして、欲しいものも容易には買えなくなった。

(3) まだ子供だと思っていた妹ももう高校生になった。

(4)「こんな月もない夜の山道を、よく迷わずに越えられたね。」

B・八月も中旬になると、夕立が多くなる。(l. 31)

(1) 私の生まれ故郷は北海道も北のはずれだ。

(2) 日本の近代化が始まったのは、明治維新つまり十九世紀も半ばを過ぎてからである。

(3) 暮もいよいよ押しつまって、あと二日を残すだけとなった。

2. ・六月中旬ごろになれば、うっとうしい梅雨に入る。(l. 13)

(1) 九月の末になれば、富士山には初雪が見られる。

(2) この辺の店は、九時を過ぎればみんな店を閉めてしまう。

(3) あのころは、金があれば旅行ばかりしていた。

(4) あの二人は会えばきまってけんかをしている。

(5)「彼はこう言えばああ言い、ああ言えばこう言う。全くへそ曲がりのやつだ。」

五月　五月（舊名）

新緑　新綠的樹葉

映える　映現，照耀

うっとうしい　鬱悶的，沮喪的

気温　氣溫

しとしと降る　靜靜地下雨

前期　前期，前段時期

後期　後期，後段時期

むし暑い　酷熱的

大降り　傾盆大雨

集中豪雨　密集豪雨

集中する　集中

豪雨　豪雨

じめじめする　極潮濕泥濘的
sticky

腐りやすい　易腐敗的
spoil

腐る　腐敗，腐壞

洗濯物　洗濯清洗的衣物

洗濯　洗衣服

洗濯する

乾く　弄乾

うっかりする　不小心，疏忽，粗心大意

下駄箱　房屋入口有抽屜的鞋櫃

下駄　木製拖鞋

黴　黴菌

真青だ　深青

都会生活者にとって　對都市居民而言

都会生活者　都市居民

生活　生活

生活する　過生活，謀生（動詞）。

空梅雨　乾梅雨（梅雨時期不下雨）

稲作　稻作

稲　稻子

大事だ　重要的

好天　晴天

野　田野

咲き乱れる　花朵怒放

盛夏　盛夏，酷熱的天氣

梅雨明け　梅雨結束

晴天　晴天

中休み　中止，中間停止

梅雨が明ける　雨季結束

真夏　仲夏

会話　　四季の移り変わり

(1)

時　春分のころ

人　A：ある大学の教員

　　B：Aの同僚

A1：このところ[1]、だいぶあったかになってきましたね。

B1：ほんとに、今日なんか、上着（うわぎ）なし[2]でもいいようですね。まったく、暑さ寒さも彼岸（ひがん）まで[3]とは、うまいことを言った[4]ものですね。

A2：彼岸っていえば、あしたはお中日（ちゅうにち）[5]ですね。

B2：ええ、学校も休みですね。ところが、このごろの学生ですと、彼岸って聞いても、ピンと[6]こないらしいですよ。

A3：そうらしいですね。春分って言わないと……。

B3：だけど、わたしたちぐらいになると、やっぱり、彼岸、て言うほうが、どうもぴったりくる[7]感じですね。

四季的轉換

(1)

時　間：春分左右

人話物：A：大學教授

　　　　B：A的同事

A1：最近天氣暖和多了，不是嗎？

B1：的確，像今天，連外套都不必穿了，俗話說「暑熱酷寒只到彼岸」，眞是一點都不錯。

A2：說到「彼岸」，明天就是春分了，不是嗎？

B2：對，那天也放假不上課。不過你知道，現在的學生聽到你說「彼岸」，似乎都不太清楚那是什麼意思呢？

A3：似乎如此，你得說〝春分〞……。

B3：不過像我們這種年齡的人，說「彼岸」還是比較順口，不是嗎？

3. • 所によっては集中豪雨の被害が出たりもする。(l. 15)

(1) 正月は年によっては温泉で過ごしたりもする。

(2) 学校によっては男子学生の長髪を禁止したりもする。

(3) 若いからといってだれもが派手なものを好むわけではない。人によっては地味な方が好きだともいう。

(4) いくらいい辞書だといっても、値段によっては売れないこともある。

(5) 見方によっては、太陽が地球の周りを回っているとも言える。

4. • 都会生活者にとっては、空梅雨で終わってくれた方がありがたいのかもしれない。(l. 19)

(1) 体の弱い者にとっては、医療費が安いほどありがたいことはない。

(2) どんな悪人であっても、親にとっては可愛い子供なのだ。

(3) 外国語を覚えることなど、彼のような天才にとっては何でもないことであった。

(4) 海水の汚染は、日本のような水産国にとっては重大な問題である。

(5)「そんな失敗はあなたにとっても不名誉なことだし、研究を指導したわたしにとっても嬉しいことじゃありません。」

5. • 七月に入ってすぐのころ、梅雨明けを思わせる晴天の続くことがある。(l. 24)

(1) 日本に着いてすぐのころは、言葉が通じなくて困ったものだ。

(2)「生まれてすぐの赤ちゃんは、まだ目が見えないそうです。」

(3) ここへ引越してきてすぐの時分は、遊び相手がいなくてさびしい思いをした。

(4) 大学に入ってすぐの夏休みにアメリカへ旅行した。

(5)「郵便局は、あのかどを曲がってすぐの建物ですよ。」

6. ・十二月に入り、東京あたりで木枯しに落葉が舞うようになると、日本列島は太平洋側と日本海側で極端な天候の違いを示す日が多くなる。(l. 48)

(1) 北半球と南半球では気候が全く逆になる。

(2) 私立大学は文科系と理科系とで授業料に大きな違いがある。

(3) あそこのうちの子は、兄と弟では性格がまるっきり反対だ。

(4) この建物は表から見るのと裏から見るのとでずいぶん感じが違う。

(5) 彼の話もあまり信用できない。聞くと見るとでは大違いだった。

7. ・「火事は江戸の華」などと言ってはいられない。(l. 54)

(1) こう忙しくては、避暑などとのんきなことは言っていられない。

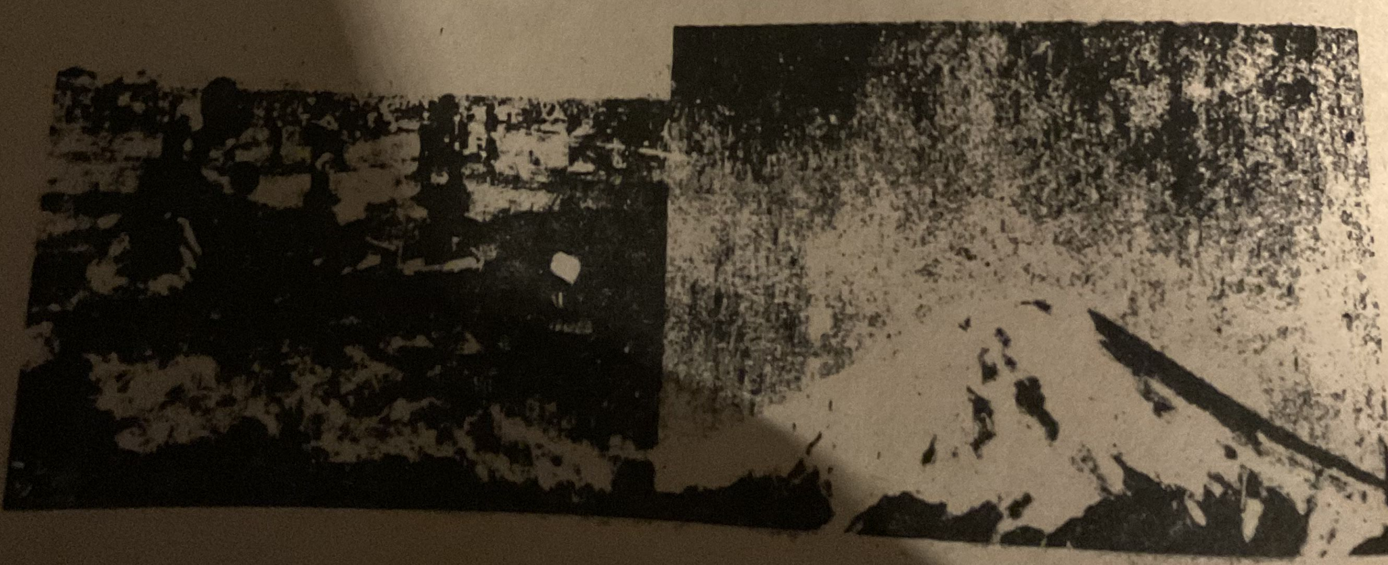
(2) 我々はだれでも年をとるのだから、老人問題は「自分には関係がない」などと言ってはいられない。

(3) 二年も浪人を続けると、「落ちたらまた受ければいい」などと言ってはいられなくなる。

(4) あの男が真犯人だと決まったわけではないのだから、これで事件が解決したなどと喜んではいられない。

(5)「そんなに熱があっては出かけるのは無理ですよ。」

「いや、今日会わなければ二度と会えないかもしれないのだから、体の具合が悪いなどと言って寝てはいられないのです。」



A₃：早くカラッとして[12]くれないかなあ、なんて思ってばかりいると、しまいには、くさくさして[13]きますよ。

B₃：まあねえ。でも、先生なんかはまだいいんじゃないですか、夏休みがあるんですから。

A₄：いやあ、そう言えば、まあ、そうですが。だけど、このごろの会社は、ほとんど冷房（れいぼう）が入ってる[14]から、多少（たしょう）はよくなったでしょう。

B₄：いや、それが、わたしのように営業担当（えいぎょうたんとう）のものは、しょっちゅう出たり入ったりしてますんでね、涼（すず）しくなったり、暑くなったり。

A₅：あ、それはまいり[15]ますね。

B₅：夕方帰るころには、もうぐったりですよ。

A₃：當你成天一心一意盼望天晴時，到頭來全不是那回事。

B₃：對，就是這樣嘛！不過你們當老師總是比較好吧！不是嗎？畢竟你們有暑假。

A₄：呃，可以這麼說……。不過，我覺得你們的情況也比以前好一點了，因爲現在幾乎所有公司都有冷氣。

B₄：問題是像我們這種負責業務的人，一天到晚出出進進，結果就一會兒涼快，一會兒酷熱……。

A₅：喔，那太苦了。

B₅：在我晚上回到家時。我已經快累死了。

(3)

時　夏の終わりごろ

人　A：ある会社員

B：もとAと同じ課に所属して

いた女子社員

A_1：おめでとうございます。いよいよ御結婚だそうですね。

B_1：ありがとうございます。これからも、どうかよろしくおねがいします。[16]

A_2：ところで、式は、いつ、おあげになるんですか。[17]

B_2：はい、あのう、[18]十月の半ばということになっているんですが。

A_3：十月ですか、そりゃ、いちばんいい時ですね。秋は結婚シーズンだなんていうけど、たしかに新婚旅行にいい時ですよ、天気もいいし、もみじもきれいだし。

B_3：はあ、そうなんですが、実は、その、[19]もみじじゃなくって、旅行、ハワイなんです。

---

(3)

時　間：夏末

說話者：A：公司職員

B：A以前的同事，一名女職員

A_1：恭喜你，聽說你快結婚了。

B_1：謝謝您。

A_2：婚禮什麼時候舉行？

B_2：計劃在十月中旬。

A_3：十月，那是最好的時間了，不是嗎？大家都說秋天是結婚季節，而且確實是蜜月的好時候。天氣好，楓葉美極了……

B_3：是不錯，不過老實告訴你，事實上我們看不到楓葉，我們要去夏威夷。

A₄：いや、まったく。[8]
B₄：ところで、桜はまだでしょうね。
A₅：まだでしょう、ここら辺では。[9] でも、もっとあったかいとこなら、もう咲いてますよ、きっと。

(2)

時　　梅雨の季節
場所　朝の通勤電車の中
人　　A：ある大学の教員
　　　B：Aの近くに住む会社員

A₁：よく降るなあ。つゆあけはまだでしょうか。
B₁：ああ、まだ七月のはじめだから、もうしばらくはしんぼうしなくちゃだめでしょうね。
A₂：わたしはこの時期(じき)がいちばんかないませんね。[10] じめじめした[11]日が一か月もつづいて。
B₂：まったくですね。

A₄：你說得不錯。
B₄：順便問一下，我想櫻花現在還沒開吧？
A₅：這附近的，我想還沒有，不過在比較暖和的地帶，現在一定開了。

(2)

時　間：梅雨季節
場　景：早晨上班的電車內
說話者：A：大學教授
　　　　B：A的隣居，一名公司職員

A₁：好大的雨啊！雨季不是過了嗎？
B₁：不，現在還只是七月初，所以我想還要再多忍耐一些時候。
A₂：對我來說，這是一年中最難受的一段日子，整個月又濕又冷的日子一天接一天的！
B₂：我也有同感。

B₄：いや、ぼくが行ったところはたっぷりあったよ。ま、絶好のコンディションだったな。

A₅：ふうん、いいなあ、スキーができるってのは。冬の寒さなんか、ちっとも苦にならないんだなあ。[23]

B₅：申し訳ないな。こっちは寒けりゃ[24]寒いほどうれしいね。[25]

A₆：へえ。

B₆：一年の半分ぐらい冬だったらどんなにいいだろう。

A₇：冗談言うな。[26]こっちなんか、[27]冬がなけりゃいいと思ってるんだ。早くあったかくなってくれなくちゃ、いつになってもかぜがなおんないし。[28]

B₇：スキーに行くとなおっちゃうもんだよ。

A₈：そんなもんかね。[29]

B₄：不知道啊？我去的時候雪很多呀！很棒！可以說是最好的情況呢！

A₅：嗯，眞是好極了，會滑雪的話，對冬天的寒冷，好像一點都不引以為苦。

B₅：當然！就我自已來說，天氣愈冷，我越高興。

A₆：喔，老天！

B₆：如果半年都是冬天可有多好！

A₇：別開玩笑，以我來看，如果都沒有冬天才棒！如果天氣再不快一點轉暖和，我要捱不過這種寒冷了。

B₇：如果你去滑雪，你就捱得過了。

A₈：我會去的!?……

註解

(1)このところ——最近。 (2)上着なし——沒穿外套。 (3)暑さ寒さも彼岸まで：暑熱酷寒只到彼岸，換言之，三月第三星期之後不再有酷寒的氣候，九月第三星期後不再有酷熱的氣溫。 (4)うまいことを言う——言中的，一針見血。 (5)お中日：為期七天的彼岸期的中間日，即春分及秋分兩日。 (6)ピンとくる——直覺瞭解，領悟。(0)(7)(7)ぴったりくる——完全正確，ぴったり：(0)。 (8)いや，まったく——嗯，一點也不錯。 (9)ここら邊では——在這附近。 (10)かなわない——不是…的對手，手力對抗…，

A₄：えゝ ハワイですか。

B₄：ええ、むこう[20]も、そう希望しておりますので。

A₅：ハワイに行くんですか、すごいなあ。それじゃ、季節は、あまり関係ないですね。

B₅：はい、その、結婚してしまうと、二人そろって海外旅行なんて、ちょっとできそうもありませんので。

A₆：いやあ、そんなこともないでしょうけど、一生(いっしょう)の思(おも)い出(で)なんだから、少しぐらい、デラックスにやってもいいですよ。日本の秋なんて、また、いつでも見られますからね。

A₄：什麼？夏威夷？

B₄：對的，那也是他想去的地方。

A₅：你們要去夏威夷！怎麼會！跟季節沒什麼關係吧！是嗎？

B₅：是的，沒什麼關係，你知道一我們一旦結婚後，不太可能再一起出國了。

A₆：喔，我想不致於如此，不過蜜月是值得回味一生的事，所以你們稍微豪華一點也沒錯。至於日本的秋天，什麼時候都看得到，不是嗎？

1. 彼岸・秋分(しゅうぶん)[2] ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、彼岸って聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。秋分って言わないと。

2. あめ[3]・キャンディー ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、あめって聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。キャンディーって言わないと。

3. だいだい色[4]・みかん色[5] ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、だいだい色って聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。みかん色って言わないと。

4. 帳面(ちょうめん)[6]・ノート ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、帳面って聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。ノートって言わないと。

5. 外套(がいとう)[7]・オーバ ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、外套って聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。オーバーって言わないと。

6. 寝台(しんだい)[8]・ベッド ──→
A： ところが、このごろの若い人ですと、寝台って聞いても、ピンとこないらしいですよ。
B： そうらしいですね。ベッドって言わないと。

III. A「ところで、桜はまだでしょうね。」
B「まだでしょうね、ここら辺では。でも、もっとあったかいところなら、もう咲いてますよ、きっと。」
A：順便問一下，我想櫻花樹現在不會已經開花了，是嗎？
B："我想，這一帶還沒有，不過到現在，溫暖一點的地區一定已經開了"。

3. 暑くなる・冷房がほしい——→

A： このところ、だいぶ暑くなってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、冷房がほしいようですね。

4. 暑くなる・海水浴にでも行きたい——→

A： このところ、だいぶ暑くなってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、海水浴にでも行きたいようですね。

5. すずしくなる・上着がほしい——→

A： このところ、だいぶすずしくなってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、上着がほしいようですね。

6. 寒くなる・ストーブをつけたい——→

A： このところ、だいぶ寒くなってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、ストーブをつけたいようですね。

II. A「ところが、このごろの若い人ですと、彼岸って聞いても、ピンとこないらしいですよ。」

B「そうらしいですね。春分って言わないと。」

A：但是現在的年輕人聽到你說“彼岸”似乎有點莫明奇妙。

B：“的確，你必須說“春分”。

「……。まったく；暑さ寒さも彼岸までとは、うまいことを言ったものですね。」……(1)B_1

「彼岸っていえば、あしたはお中日ですね。」……(1)A_2

「ええ、学校も休みですね。ところが、このごろの学生ですと、彼岸って聞いても、ピンとこないらしいですよ。」……(1)B_2

「そうらしいですね。春分って言わないと……。」……(1)A_3

這是表示他人所說的方式之一，此處要注意的是乃不但同意，她應將他的看法換個方式重述一次。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 彼岸・春分——→

A： ところが、このごろの若い人ですと、彼岸って聞いても、ピンとこないらしいですよ。

B： そうらしいですね。春分って言わないと。

(4)

時　一月の終わりごろ

人　A：大学の寮に住む学生

　　B：Aの友人。Aと同じ寮に住む

A_1：二・三日、姿が見えなかったようだけど、どっかへ出かけていたのかい[21]。

B_1：うん、また、スキーへ行ってきたんだよ。

A_2：どこ。

B_2：新潟(にいがた)の方さ。

A_3：そういえば、だいぶ黒くなっているのは、雪焼(ゆきや)けってわけか。

B_3：そういうこと[22]。行ってる間、よく晴(は)れててな。

A_4：雪はどうなの。今年は雪不足(ゆきぶそく)で、困ってるスキー場(じょう)が多いらしいじゃないか。

---

(4)

時　間：一月末

說話者：A：住宿舍的大學生

　　　　B：A的同宿舍同學

A_1：我似乎二、三天沒看見你了，你到那裏去了？

B_1：對，我又去滑雪了。

A_2：在那裏？

B_2：在新潟

A_3：這麼說來，你變得這麼黑是滑雪曬的？

B_3：對，我在那裏的那段時間，天氣實在好。

A_4：雪怎麼樣？我不是聽說今年很多滑雪勝地都因爲雪量不足而頭痛嗎？

吃不消，受不了。 (11)じめじめする——潮濕鬱悶的。 (12)カラッとする——潮濕度很低，極乾燥。(O) (13)くさくさする——脾氣焦躁，有一解即發之勢(O)。 (14)冷房が入っている——裝設了冷氣。 (15)まいる——令人崩潰，覺得吃力。 (16)これからもどうかよろしくおねがいします：此處未翻譯，因爲它只是在這種情況下習慣被用的一種禮貌的措詞，没什麼特別意思。 (17)式をあげる——舉行儀式、典禮。 (18)あのう——唔，嗯。 (19)その——唔，嗯。 (20)むごう——（婚禮中的）對方。 (21)かい＝か（C,m）。 (22)そういうこと——這下你說對了。 (23)苦にならない——完全不打擾某人。 (25)寒けりゃ寒いほどうれしい——愈冷愈開心。 (26)冗談言う——開玩笑，冗談言うな：別開玩笑（な表示否定）。 (27)こっさ——我。 (28)なおんない＝なおらない(C)。 (29)そんなもんかね——是這樣嗎？（多少帶有嘲弄的口氣）。

■ 会話の練習

I．A「このところ、だいぶあたたかになってきましたね。」

B「ほんとに、今日なんか、上着なしでもいいようですね。」

A：最近天氣變得暖和多了，不是嗎？"

B："的確，像今天這種天氣，連外套似乎都不太需要，是嗎？"

「このところ、だいぶあったたかになってきましたね。」……(1)A₁

「ほんとに、今日なんか、上着なしでもいいようですね。まったく、暑さ寒さも彼岸までとは、うまいことを言ったものてすね。」……(1)B₁

這種以天氣爲主的話題常常緊接著問候語，甚至取而代之。注意第二個說話者不僅同意，並繼續擴大這個話題。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）あたたかになる・上着なしでもいい──→

A： このところ、だいぶあたたかになってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、上着なしでもいいようですね。

1. あたたかになる・上着がいらない──→

A： このところ、だいぶあたたかになってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、上着がいらないようですね。

2. あたたかになる・暖房（だんぼう）なしでもいい──→

A： このところ、だいぶあたたかになってきましたね。

B： ほんとに、今日なんか、暖房なしでもいいようですね。

3. 御留学だ────→

A： おめでとうございます。いよいよ御留学だそうですね。

B： ありがとうございます。これからも、どうかよろしくおねがいします。

4. 卒業なさる────→

A： おめでとうございます。いよいよ卒業なさるそうですね。

B： ありがとうございます。これからも、どうかよろしくおねがいします。

5. 会社をお作りになる────→

A： おめでとうございます。いよいよ会社をお作りになるそうですね。

B： ありがとうございます。これからも、どうかよろしくおねがいします。

6. 店をお始めになる────→

A： おめでとうございます。いよいよ店をお始めになるそうですね。

B： ありがとうございます。これからも、どうかよろしくおねがいします。

V. A「旅行は、いつ、お出かけになるんですか。」

B「はい、あのう、十月の半ばということになっているんですが。」

A「十月ですか、そりゃ、いちばんいい時ですね。」

A：“你打算何時動身旅行？”

B：“我們可能在十月中去。”

A：十月？那是最好不過的季節了，不是嗎？”

「ところで、式は、いつ、おあげになるんですか。」……(3)A_2

「はい、あのう、十月の半ばということになっているんですが。」……(3)B_2

「十月ですか、そりゃ、いちばんいい時ですね。秋は結婚シーズンだなんていうけど、たしかに新婚旅行にいい時ですよ、天気もいいし、もみじもきれいだし。」……(3)A_3

這是詢問別人的計劃並在聽到後表示熱心的慣例。

第七課　盆と正月

■ 新出語

盆　盆節
在八月中旬深信死者靈魂會回到自己家中

家中　全家

うちそろう　そろう的強調用法

そろう　全部到齊

さわぐ　吵鬧，喧嘩

年中行事　年中例行之節目

行事　每年都舉行的節目

何としても　無論如何

大ざっぱだ　概略

言い方　說法表達方式

一年の行事のうち　所有一年節日中

残り　剩餘

占める　佔有

もともと　本來

旧暦によって　根據舊曆

旧暦　陰曆

行う　實行、施行

～以降　以後

新暦　新曆，陽曆

移行する　移轉，改換到～

移行　移轉

畑仕事　農事，田裡的工作

畑　旱田，田地，蔬菜園

～おくれ　慢～，晚～

商店　商店

奉公人　傭工，雇員

奉公　服務，效勞（名詞）

奉公する　效勞，服侍（動詞）

休暇　假日

郷里　故鄉

現在　現在

週休制　週末假日的制度

週休　星期假日

～制　～制度

普及する　普及（動詞）

本来の　本來的

本来　本來

古くから　自古以來

御霊祭　「祭靈」節（舉行祭祀或膜拜祖先的儀式）

たまたま　偶然，碰巧

結びつく　連結

迎え火　迎魂火（生火迎接死者靈魂回來。）

たく　起火

先祖　祖先

霊　靈魂

さまざまだ　各式各樣

ごちそう　豐盛的食物

供える　供奉

盆踊り　傳統的「盆」舞

なぐさめる　安慰

送り火　送靈火

送り出す　送行，送出去

地方によって　依地方的不同

地方　地區，地方

これら　這些

異なる　不同，有差別（動詞）

場合　場所，情況

いずれの場合にも　不管那一種情形

つまり　即是

交歓　歡聚，聯歡（名詞）

交歓する　聯誼，歡聚，聯歡（動詞）

一貫する　一以貫之，貫徹（動詞）

一貫　一以貫之，貫徹（名詞）

子孫　子孫

むつみ合う　和睦，和好

機会　機會

日本列島を通じての～　整個日本島～

駆られる　被～驅使

民族大移動　民族大遷移

民族　民族，人民

移動　移動，遷移，移民

移動する　遷移，移動（動詞）

なるほど　可以了解的

うなずける　確實

うなずく　點頭，贊同，了解

■ 本　文

家中の者がうちそろってにぎやかにさわぐ様子を、「盆と正月がいっしょに来たようだ」という。この二つは、日本人の年中行事の中で何としても欠かせないものである。大ざっぱな言い方をすれば、一年の行事のうち正月の行事が半分を、盆の行事が残りの半分を占める、と言えないこともない。もともとこれは旧暦によって行われるものであった。明治以降は、正月の行事は新暦に移行したが七月の盆の行事は、畑仕事の関係で旧暦のままか一月おくれで行う所が多い。

昔は、商店などの奉公人が休暇をもらって郷里に帰ることのできる日は、年に二回、正月の十六日と盆の十六日だけであった。現在のように週休制が普及し、週休二日制も広まろうとしている時代でも、正月と盆の帰省客のために国鉄が列車を大増発し、それでも各列車が満員になるという事実を見れば、この二つの行事がどんなに重要なものであるかがわかる。

盆と正月には、徹夜までして切符を買ったり、何時間も立ち詰めの苦しい思いをしたりしても故郷へ帰らなければならない、というのはどういうことなのか。当人たちも、なぜかと聞かれれば返事に困るであろう。とにかく、帰巣本能の嵐が盆と正月には、日本列島を吹きまくる。

正月はさておき、盆について言うなら、盆という言葉は于蘭盆という仏教語に由来するが、盆の行事の大部分、特に主要な部分はすべて日本特有のものであって、仏教の本来の行事ではない。日本に古くからある御霊祭の習慣に、仏教がたまたま結びついたものと考えられる。

七月十三日に迎え火をたいて先祖の霊を迎える。そして、さま

ざまなごちそうを供えたり、盆踊りをしたりして霊をなぐさめる。十五日か十六日に送り火をたいて送り出す。地方によってこれらの行事は形の異なる場合もあるが、いずれの場合にも先祖の霊をもてなす、つまり生きている者が死者と数日間の交歓を行うという考えは一貫している。先祖と子孫、広い意味での親と子がむつみ合う機会であることを考えれば、日本列島を通じての帰巣本能に駆られた民族大移動も、なるほどとうなずける気がする。

■ 用　例

1.・この二つは、日本人の年中行事の中で何としても欠かせないものである。(*l.* 2)

(1) 水産資源は、日本人の生活に何としても欠かせないものである。

(2) 空気と水は、人間が生きていくために、何としても必要なものだ。

(3) 彼のしたことは何としても許すことはできない。

(4) 朝から頭がひどく痛むが、きょうは試験だから何としても学校に行かなければならない。

(5)「三十歳までに何としてもヒマラヤへ行くぞ。」と彼はよく言っていたが、とうとうその夢は実現しなかった。

2.・大ざっぱな言い方をすれば、一年の行事のうち正月の行事が半分を、盆の行事が残りの半分を占める、と言えないこともない。(*l.* 3)

(1) 人間は、一生の三分の一をベッドの中で過ごす、と言えないこともない。

(2) 医者という職業は、ふつうのサラリーマンと違って、二十四時間勤務だと言えないこともない。

(3) 学生時代の失恋が、彼の性格を変えてしまった、と言えないことも

ない。あれ以来、彼は何となく陰気な感じになってしまった。

(4) 少年犯罪の多くはその家庭環境に原因があると言えないこともない。

(5) 文明が発達したために、かえって人類は多くの不幸を味わわなければならなくなったと、言えば言えないこともない。

3. A • もともとこれは<u>旧暦によって</u>行われるものであった。(l. 5)

(1) 今年度の授業は、この時間割によって行われる。

(2) 未成年者の喫煙は法律によって禁じられている。

(3) 航空機の運航は天候によって影響を受けることが多い。

(4) この大学の学長は教職員の投票によって選ばれる。

B • <u>地方によって</u>これらの行事は形の異なる場合もあるが、いずれの場合にも先祖の霊をもてなす、つまり生きている者が死者と数日間の交歓を行うという考えは一貫している。(l. 27)

(1) アメリカでは州によって異なる法律が定められている。

(2) 考え方は人によって違うのだから、自分がいいと思うことだからといって、人に強制するのはよくない。

(3) 宗教によっては、豚肉を食べることを禁じている。

4. • 現在のように週休制が普及し、週休二日制も広まろうとしている時代でも、正月と盆の帰省客のために国鉄が列車を大増発し、それでも各列車が満員になるという事実を見れば、この二つの行事がどんなに重要なものであるかがわかる。(l. 11)

(1) 彼はお金もあるし、地位もある。それでもわたしは彼と結婚する気にはなれない。

(2) あの旅館は古くてきたないし、食事もいいとは言えない。それでもお客に人気があるというのはどういうわけだろう。

(3) 彼は毎日いっしょうけんめい勉強しているが、それでも成績がよく

ならない。

(4)「できるだけのことはしてあげたのに、それでもまだ不満だと言うんですか。」

(5) 家も人手に渡り、家族にも見放され、それでも彼は研究をあきらめようとはしなかった。

5. • この二つの行事が<u>どんなに重要なものであるか</u>がわかる。(l. 13)

(1) 数学の分野では、基礎的な計算力が、どんなに大切なことであるかがよく知られている。

(2) 彼の元気のなさを見れば、あの経験が彼にとってどんなに苦しいものであったかがわかる。

(3) 失ってみて、妻がどんなに大切なものであったかがよくわかった。

(4) 私の卒業を両親がどんなに楽しみにしているかと思うと、なまけているわけにはいかない。

(5) 病人がどんなに辛い気持でいるかは君のような健康な人間には理解してもらえないだろう。

6. • 盆と正月には、<u>徹夜までして</u>切符を買ったり、何時間も立ち詰めの苦しい思いをしたりしても故郷へ帰らなければならない、というのはどういうことなのか。(l. 15)

(1) ぼくは君とけんかまでして自分の主張を押し通すつもりはない。

(2) 彼は自分の生活まで犠牲にして、会社のためにつくした。

(3) 旅館の予約もし、指定券まで手に入れたのに、急用で旅行を中止しなければならなくなった。

(4) いちばん信頼していた彼までが私を裏切った。

(5) 科学の進歩によってとうとう月にまで行けるようになった。

7. • 正月はさておき、<u>盆について言うなら</u>、盆という言葉は盂蘭盆という仏教語に由来するが……(l. 20)

(1) 人柄はさておき、仕事の点についていうなら、新入社員の中では山田君がいちばんよくできる。

(2) 柄のよしあしは別にして、品質についていうならどちらもほとんど変わりがない。

(3) 日本語の文字の特徴についていうなら、漢字・ひらがな・かたかなと三つの異なる体系を使いわけているということが見逃すことのできない点である。

(4) この大学には有名な先生が大ぜいいるが、経済学に関していうなら、まず小林先生の名をあげなければならない。

(5) 彼の病状はここ二・三日に限っていうなら、特に悪化する傾向は認められない。

8. • 日本に古くからある御霊祭の習慣に、仏教がたまたま<u>結びついたものと考えられる</u>。(l. 23)

(1) 日本列島は、大昔はアジア大陸とつながっていたものと考えられる。

(2) 今後、海外との文化交流はますます盛んになるものと思われる。

(3) 長期予報によると今年の冬はかなり寒さが厳しいものと思われる。

(4) 台風六号は今夜半九州南部に上陸するものと予想される。

(5)「ぼくは君が約束どおりに来るものとばかり思っていたよ。」

9. • 先祖と子孫、<u>広い意味での親と子</u>がむつみ合う機会であることを考えれば、日本列島を通じての帰巣本能に駆られた民族大移動も、なるほどとうなずける気がする。(l. 30)

(1) 彼は政治家としてはあまり評価されていないが、財界での実力はかなりのものらしい。

普及　普及（名詞）

週休二日制　一星期休息二天的制度

広まる　擴展

時代　年代，時代

帰省客　返鄉旅客

帰省　回家，返鄉

帰省する　回家，返鄉（動詞）

国鉄　國鉄，日本国家鉄路

だい 大増発する　加開很多班車

増発　增加班次

増発する　增加列車班次，加開很多列車

それでも　即使如此

各～　每個～

満員　客滿

事実　事實

どんなに～(で)あるか　多麼地～

重要だ　重要的

徹夜までする　徹夜不眠不休

徹夜する　整晚不睡，熬夜

立ち詰め　一直站著

苦しい　困難的，難受的，痛苦的

故郷　故鄉

当人　當事人，本人

なぜ　爲什麼

とにかく　無論如何，總之

帰巣本能　回巢的本能

帰巣　回巢，回到窩巢

本能　本能

嵐　暴風雨，強風

日本列島　日本群島

列島　列島群島

吹きまくる　吹遍，横掃

～はさておき　把～擺一邊，暫時不提

～について　關於～

于蘭盆　盂蘭盆節

仏教語　佛教語

仏教　佛教

～に由来する　起源於，由～而來的

由来　由來

大部分　大部份
(of)

部分　部分

主要な　主要的，最重要的

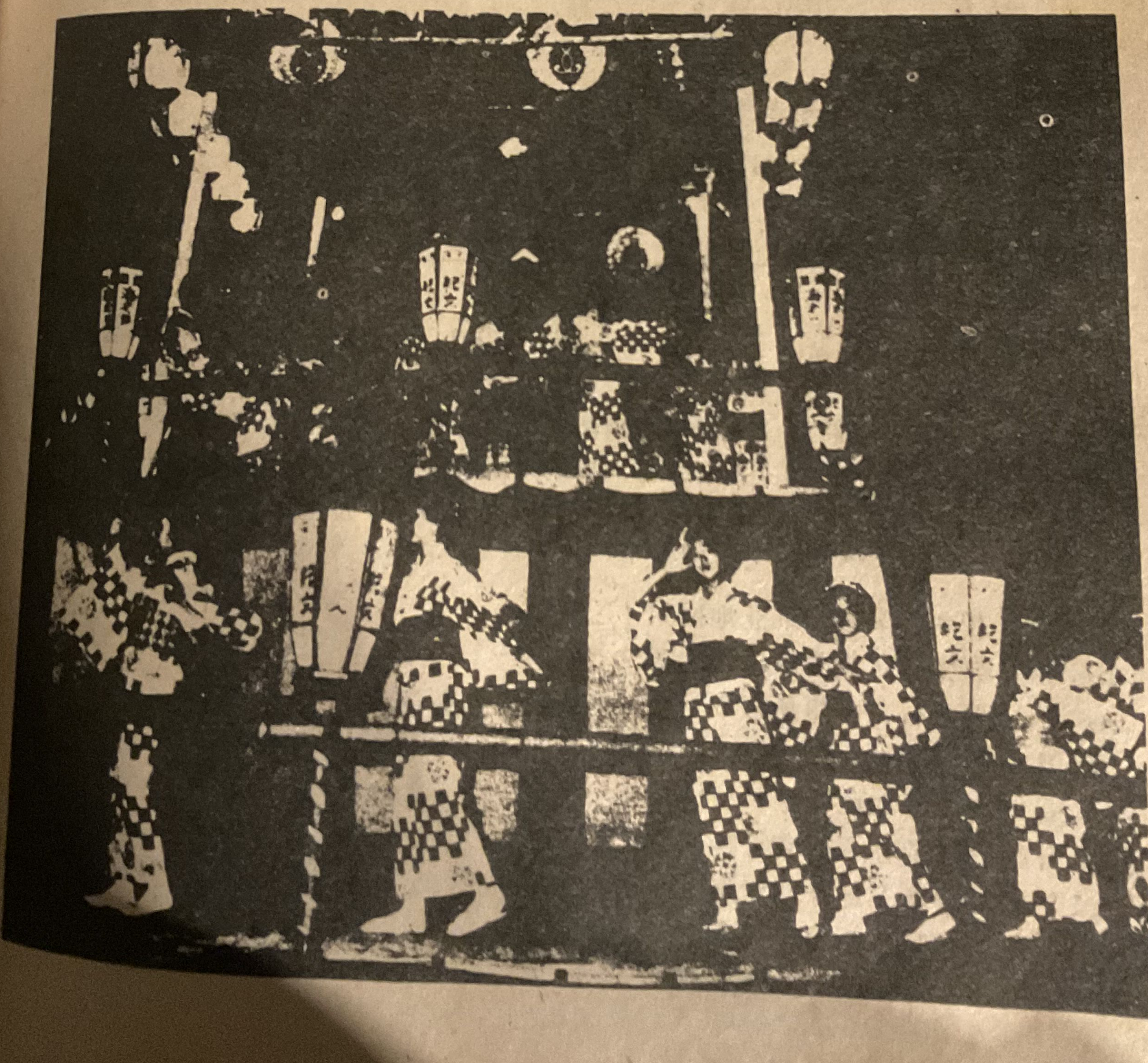
特有の　特有的，獨特的

(2) 森鷗外は医学の分野での業績(ぎょうせき)よりも文学の世界での業績で名が知られている。

(3) 彼のような男が真(しん)の意味での英雄(えいゆう)と言えるのだろう。

(4)「君の計画している事業に私も金銭面(きんせんめん)での協力は惜(お)しまないつもりです。」

(5) 彼女の病気を治(なお)すためには、いい薬を飲ませることよりも精神面(せいしんめん)での適切(てきせつ)な治療(ちりょう)をしてやることのほうが必要だ。



A15：ああ、そういうわけですか。いずれにせよ[14]、八月の中ごろは旅行を避けた方がよさそうですね。

A15：啊！原來如此，不管怎麼說，我想最好避免在八月中旬外出旅行比較好。

註解

(1)いや＝いいえ（不）。 (2)また：不是指"重覆""再度"，而是表示前面提到的某人已經做了一個完全相反的決定。 (3)八月の中ごろでしたか：當說話人努力回想他從前聽說的事情時，常用過去式表示。 (4)お客をさばききれない——旅客爲數衆多，無法全部載送。 (5)立ちっぱなし——直站立著。 (6)まだいい——相當幸運，還好。 (7)だれもかれも——人人，毎個人。 (8)どうしてまだ——爲什麼他們必須去做……。 (9)あっちこっちの～——這個那個。 (10)親類の多い少ない——親戚多寡。 (11)一人一人——一次一個，逐一，單獨地。 (12)手ぶら——空著手，沒有帶東西。 (13)學生時代ならともかく——學生時代的話還好（那時候你可以常回家，以後可不行了）。 (14)いずれにせよ——無論如何。

■ 会話の練習

I. いろいろ用事もあるので、八月の中ごろにならないとだめなんです。

我還有許多事要做，所以不到八月中旬不能動身。

いや、いろいろ用事もあるので、八月の中ごろにならないとだめなんです。……A_2

這句型有點像反反句型，用以強調說話者的自身限制，注意不是以八月の中ごろになればいい的表達，這裡的練習不必拘於「時間」，試以千円以下でないと買えない之例來表達。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 八月の中ごろ——→

いろいろ用事もあるので、八月の中ごろにならないとだめなんです。

1. 来週——→

いろいろ用事もあるので、来週にならないとだめなんです。

■ 会話　　　　お盆

時　大学が夏休みに入る直前
人　A：ある大学の外国人教師
　　B：Aと同じ大学の教員。石山

A_1：夏休みには東北の方へ行こうと思ってるんですよ。
B_1：ほう、それはいいですね。夏休みになったらすぐお出かけですか。
A_2：いや[1]、いろいろ用事もあるので、八月の中ごろにならないとためなんです。
B_2：八月の中ごろに東北へ。
A_3：ええ、そのつもりですが。
B_3：また[2]、たいへんな時に行くんですねえ。
A_4：だいへん、といいますと。
B_4：お盆ですよ。お盆。
A_5：はあ。

「盆」節

時間：大學暑假剛剛開始的時候
人物：A——某大學的外國教師
　　　B——石山，同一大學的另一位老師

A_1：我在想今年暑假去東北地區呢！
B_1：哦！那太好，放暑假馬上去嗎？
A_2：不，因爲有許多事所以不到八月中旬是不能動身。
B_2：八月中旬去東北？
A_3：是的，打算如此，但……
B_3：什麼！你要在那個非常時候去！
A_4：「非常時候」是什麼意思？
B_4：「盆」節呀！「盆」節！
A_5：哦……？

B5：くにへ帰る人たちで、どの列車も超満員（ちょうまんいん）の時ですから。東北地方（ちほう）は特にすごい。

A6：ああ、お盆て、八月の中ごろでしたが[3]。あの、「ボン」と「ショーガツ」のお盆ですね。

B6：そうそう。

A7：そんなに混むもんですか。

B7：そりゃ、すごいですよ。臨時（りんじ）列車が何本も出るんですが、それでもお客をさばききれない[4]ほどですから。

A8：そうなんですか。石山さんも、お盆のころに東北の方へ行ったことがあるんですか。

B8：ええ、三年ほど前に山形（やまがた）まで行ったんですけど。

A9：どうでした。

B9：朝の通勤電車（つうきんでんしゃ）以上（いじょう）でしてね。荷物を持ったまま四時間半も立ちっぱなし[5]で。もう、足の筋（すじ）がつっぱっちゃいましたよ。

A10：へえ。そりゃひどいですね。

B10：でも、ぼくなんかは、小さなかばん一つだったからまだいい[6]んですよ。帰省客はだれもかれ[7]も大（おお）荷物だから。

B5：那時每班車都被返鄉的人擠得爆滿，特別是往東北地方。

A6：啊，「盆」節在八月中旬嗎？是「盆節」和「新年」的盆節嗎？

B6：是的

A7：那樣擁擠嗎？

B7：是的，非常擁擠，即使是多加幾班臨時列車，還是不能把旅客全部都運走。

A8：是嗎？石山先生，聽說你曾在「盆」節時去東北呢！

B8：對！差不多三年前我去過山形，但……

A9：怎麼了？

B9：比早上的上班電還要擁擠呢！我拿著行李，足足站了四小時半，只得靠脚筋支撐過去。

A10：嘿！眞可怕。

B10：對！我的情況還好，只是一個小皮箱包，要回家的旅客每個人都提著大行李。

A11：混むのがわかってるのに、どうしてまた。[8]

B11：お土産を持って行くんですよ。家族はもちろん、あっちこっちの[9]親類の分もありますから。

A12：そんなに。

B12：叔父さん、叔母さん、従兄弟、そこの子供たち……。まあ、人によって親類の多い少ない[10]はありますが、安いものでもいいから、とにかく一人一人[11]に何かを用意するなんて人もいるようですよ。

A13：ふうん。それじゃ大荷物になるわけでしょうが、なんでまた、おおぜいの人にお土産をあげなくちゃならないのか、ちょっと。

B13：まあ、ぼくにもはっきりはわかりませんが、手ぶら[12]で人の家に行くのは失礼だ、という考え方がありますし、それに、なにしろ、久しぶりで帰るわけだから。

A14：じゃ、時々帰っていれば、お土産は別にいらないんですか。

B14：いや、そりゃ、そうでもないでしょうが、お盆でもないとくにへはなかなか帰れないんですよ。学生時代ならともかく[13]、勤めていると。

A11：明知道那樣擁擠，爲什麼還……

B11：他們都帶名產回去呢！給自己家人是當然的，還有，這裡那裡的親戚也有份呢？

A12：有那麼多嗎？

B12：叔父，叔母，表兄弟，堂兄弟們，表姊妹，堂姊妹們，還有他們的孩子……啊，不管親戚是多少，有人似乎覺得即使很便宜的東西也沒關係，無論如何要爲每個人準備些東西呢！

A13：嗯，所以爲什麼每個人都帶著大行李。

B13：啊！我也不懂，因爲有人認爲空著手到別人家是件失禮的事，並且無論如何，那麼久沒回家了。

A14：哪！如果時常回去的話，名產就不需要了嗎？

B14：不，那也不盡然吧！但如果不是「盆」節，就難得回故鄉去，學生時代還好，一旦做事上班就不一樣了。

A：我正想暑假時去旅行呢？
B：那真好，暑假開始馬上就要去了嗎？
「夏休みには東北の方へ行こうと思ってるんですよ。」……A₁
「ほう、それはいいですね。夏休みになったらすぐお出かけですか。」……B₁

注意B以A剛講完的例句來繼續會話，表面上看來是沒什麼困難，但是初學者通常都會忘了以這種形式來擴大會話的內容。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）夏休み ──→

　A：　夏休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。夏休みになったらすぐお出かけですか。

1. 休み ──→

　A：　休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。休みになったらすぐお出かけですか。

2. 春休み ──→

　A：　春休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。春休みになったらすぐお出かけですか。

3. 冬休み ──→

　A：　冬休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。冬休みになったらすぐお出かけですか。

4. 八月 ──→

　A：　八月には旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。八月になったらすぐお出かけですか。

5. 試験休み[4] ──→

　A：　試験休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。試験休みになったらすぐお出かけですか。

6. 正月休み ──→

　A：　正月休みには旅行に行こうと思っているんですよ。
　B：　それはいいですね。正月休みになったらすぐお出かけですか。

6. ぬれた着物を着る ——→
　ぬれた着物を着たまま四時間半も立ちっぱなしでした。

III. 家族はもちろん、親類の分もありますから、たいへんなんですよ。
他們送禮物給家人是當然的但親戚也有幾份，所以很不得了。

お土産を持って行くんですよ。家族はもちろん、あっちこっちの親類の分もありますから。
……B_{11}

這是解釋一種不爲外人所了解的特殊情況，注意在〜はもちろん的用法，練習中要注意帶禮物給每個人的難處，不過你也可以另外的例子，例如：仕事はもちろん、つきあいもあります來代換。

練習　例にならって文を作りなさい。

(例) 親類の分もある ——→
　家族はもちろん、親類の分もありますから、たいへんなんですよ。

1. 友達の分もある ——→
　家族はもちろん、友達の分もありますから、たいへんなんですよ。

2. 近所の人の分もある ——→
　家族はもちろん、近所の人の分もありますから、たいへんなんですよ。

3. 近所の人へのお土産もある ——→
　家族はもちろん、近所の人へのお土産もありますから、たいへんなんですよ。

4. 会社の人の分も買う ——→
　家族はもちろん、会社の人の分も買いますから、たいへんなんですよ。

5. 友達からも頼まれる ——→
　家族はもちろん、友達からも頼まれますから、たいへんなんですよ。

6. 親類にも文句を言われる ——→
　家族はもちろん、親類にも文句を言われますから、たいへんなんですよ。

IV. A「夏休みには旅行に行こうと思っているんですよ。」
　B「それはいいですね。夏休みになったらすぐお出かけですか。」

2. 満員になる──→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでも満員になるんですから。

3. 超満員になる──→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでも超満員になるんですから。

4. どの列車も満員になる──→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでもどの列車も満員になるんですから。

5. 朝の通勤電車以上に混む──→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでも朝の通勤電車以上に混むんですから。

6. 身動きができないほど混む──→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでも身動きができないほど混むんですから。

⑴月末 ⑵提著皮箱 ⑶背在肩上 ⑷考試後的短暫假日。

5. なれている────→

A： ひどい目にあいましたね。

B： ええ、でも、わたしなんかは、なれていたから、まだいいんですよ。

6. 小さい子供がいない────→

A： ひどい目にあいましたね。

B： ええ、でも、わたしなんかは、小さい子供がいなかったから、まだいいんですよ。

VI. A「そんなに混むんですか。」

B「そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでもお客をさばききれないんですから。」

A：那麼擁擠嗎？

B：噢！非常的擁擠，加開了許多的臨時列車，仍然不能載完全部的旅客。

「そんなに混むんですか。」……A_7

「そりゃ、すこいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでもお客をさばききれないほどですから。」……B_7

要注意そんなに和そりや的發音要清楚，試用別種情況來用這句型。

A： そんなに～ですか。

B： そりゃすごいですよ。～。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）お客をさばききれない────→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでもお客をさばききれないんですから。

1. 乗れない人もある────→

A： そんなに混むんですか。

B： そりゃ、すごいですよ。臨時列車が何本も出るんですが、それでも乗れない人もあるんですから。

通常都

V. A「ひどい目にあいましたね。」
B「ええ、でも、わたしなんかは、小さなかばん一つだったから、まだいいんですよ。」
A："你一定很難過吧！"
B："是的，不過我只有一個小皮箱所以我還好。
「へえ、そりゃひどいですね。」……A_{10}.
「でも、ぼくなんかは、小さなかばん一つだったからまだいいんですよ。……。」……B_{10}.

這是對同情反應的練習，注意B很愉快的回答的時候，也表明了他是相當幸運，在你練習後請加上（きのうは電車の中で三時間も立ちつぱなしでした）在前面再次練習。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）小さなかばん一つだ ⟶
A： ひどい目にあいましたね。
B： ええ、でも、わたしなんかは、小さなかばん一つだったから、まだいいんですよ。

1. 荷物が少ない ⟶
A： ひどい目にあいましたね。
B： ええ、でも、わたしなんかは、荷物が少なかったから、まだいいんですよ。

2. 家族が少ない ⟶
A： ひどい目にあいましたね。
B： ええ、でも、わたしなんかは、家族が少なかったから、まだいいんですよ。

3. 年が若い ⟶
A： ひどい目にあいましたね。
B： ええ、でも、わたしなんかは、年が若かったから、まだいいんですよ。

4. 体がじょうぶだ ⟶
A： ひどい目にあいましたね。
B： ええ、でも、わたしなんかは、体がじょうぶだったから、まだいいんですよ。

2. 来年の春——→

いろいろ用事もあるので、来年の春にならないとだめなんです。

3. 来月のはじめ——→

いろいろ用事もあるので、来月のはじめにならないとだめなんです。

4. さらい週——→

いろいろ用事もあるので、さらい週にならないとだめなんです。

5. 土曜日の夜——→

いろいろ用事もあるので、土曜日の夜にならないとだめなんです。

6. 月末——→

いろいろ用事もあるので、月末にならないとだめなんです。 3-A完

II. 荷物を持ったまま四時間半も立ちっぱなしでした。

我拿著行李足足站了四小時半。

荷物を持ったまま四時間半も立ちっぱなしで、……B。

注意まま之前有～た／だ形式的動詞。此句型用以形容其他事物繼續的情形。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）荷物を持つ——→

荷物を持ったまま四時間半も立ちっぱなしでした。

1. かばんをさげる[2]——→

かばんをさげたまま四時間半も立ちっぱなしでした。

2. かさをさす——→

かさをさしたまま四時間半も立ちっぱなしでした。

3. かばんを肩にかける[3]——→

かばんを肩にかけたまま四時間半も立ちっぱなしでした。

4. 荷物を両手にさげる——→

荷物を両手にさげたまま四時間半も立ちっぱなしでした。

5. 子供をだく——→

子供をだいたまま四時間半も立ちっぱなしでした。

第十一課　都会と若者

■ 新出語

都会　都市，城市

若者　年輕人

大都市　首都，大城市

都市　都市

東京なり大阪なり横浜なり　東京或大阪或橫濱

気づく　注意

映画館　電影院

単なる　只是，單單

印象　印象

とどまる　停止，留下，限於，止於e

実際の　實際的，眞實的

数字に当たる　核對數字

数字　數字

当たる　參考，核對

二十三区　東京二十三區，東京本部（除大東京所包括的東京近郊地區）

～区　～區（一個城市地理上，政治上所劃分的區域）

二十歳台　二十歲

～台　～標準、程度、範圍

人口　人口

全人口　全部人口，總人數

パーセント　百分比

～に過ぎない　不過～

主要都市　主要城市

二倍　二倍

～倍　～倍

人口流入　人口流入

流入　流入，注入

流入する　流入（動詞）

南部　南部

北部　北部

多数　多數

西部　西部

ただ　僅僅，只有

機械化　機械化

機械　機器，機械

失業する　失業（動詞）

失業　失業

一家を挙げて　舉家，全部

一家　一家，整家

健康　健康

むしばむ　侵蝕，蟲蛀

貿易面　貿易方面

貿易　貿易，進出口

貿易する　貿易，交易（動詞）

～面　～方面

食糧自給率　食糧自給率

自給　自給自足

自給する　自給（動詞）

率　率，比率

極端だ　極端的

低下　跌落，低下

低下する　跌落，低下（動詞）

象徴的だ　象徵性的

農業政策　農業政策

政策　政策

歪み　扭曲，歪斜

歪む　使變形，歪斜（動詞）

クローズアップする　特寫；精細觀察，研究

老人　老人，"老一輩的市民"

寂しい　寂寞的，孤獨的

出稼ぎ　（短時期）離家出外賺錢

このように　這樣地

過疎化する　使人口變得稀疏

それどころか　豈只那樣，別說……（就連）……

農家　農家

後継者不足　後繼無人

後継者　後繼者

不足　不足，短缺

不足する　供應不足，不夠（動詞）

～自体　～本身，～自體

このまま　正如

状態　情況，情形

放っておく　放任，忽視，不管

といって　即使如此

規制　限制，限定

規制する　控制，限定（動詞）

環境汚染　環境汚染

環境　環境

これ以上　更，更多

奨励金制度　獎金制度

奨励金　奬金

奨励　鼓勵，奬勵

奨励する　鼓勵，鼓舞（動詞）

制度　制度

設ける　設立，建立，爲做～而準備～

末梢的だ　枝節末微無關緊要的

解決　解決

解決する　解決（動詞）

総合的だ　全盤的，綜合的

総合　綜合

総合する　綜合（動詞）

抜本的だ　根本的，抽根斧底的

対策　對策，解決方法

■ 本　　文

日本の大都市、東京なり大阪なり横浜なりを歩いてみると、若者が多いのに気づく。電車に乗っても、食堂や映画館に入っても、若い人が多い。これは単なる印象にとどまらず、実際の数字に当たってみても、東京二十三区の二十歳台の人口は全人口の二十三パーセント、京都では二十四パーセントを占める。ミラノでは十三パーセント、ニューヨークでは十二パーセントに過ぎない。つまり、西欧の主要都市の二倍ということになる。

もちろん、世界中どこの国でも農村から都市への人口流入はある。アメリカでは、南部から北部への人口流入のほか、プエルトリコやメキシコなどから多数の人が北部や西部の大都市へ入って行く。イタリアなどでも、南部の農村から北部の都会へ大量の人口流入が見られる。ただ日本と違うのは、欧米の場合、機械化が進んだため失業した人などが一家を挙げて移住することが多いということである。

日本では、農村にちゃんと一家が残り、その家から若者だけが離れて単身大都会へ出て来るという形が多い。この場合、全国の教育水準の驚くべき均一化と標準語の普及が大いにものを言う。きのう農村から出て来た若者が大都市の工場へ入っても、互いにすぐ話も自由に通じるし、上役から言われた仕事も理解でき、一応こなせる。こういう有能な若者が農村の自然の中で元気(げんき)に育ち、大都会へ出て来て、安い賃金で勤勉に働き、貯蓄にも励んで、日本経済の推進力となってきたのである。

今まではそれでよかったかもしれない。だが、問題はこれからである。水質汚染も進み、空気の汚れもひどくなって、都会へ出て来た若い労働力の健康がむしばまれていく現状を無視するわけにはいかなくなったのである。

また、貿易面に現れた食糧自給率の極端な低下に象徴的に示されているように、日本の農業政策の歪みも大きくクローズアップされてきた。農村では、妻と子供、それに老人が寂しく家を守っている所も多い。若者たちは都会に出て行き、父親もまた、一年の半分近くを都会へ出稼ぎに行っているのである。このように過疎化した農村からは、もう今までのように若い労働力を送り出し続けることはできない。それどころか、農家の後継者不足自体が問題になっているのである。

このままの状態を放っておいてよいわけはない。といって、何かの規制を作って、都会の環境汚染がこれ以上進まないようにするとか、農村へ人が戻(もど)って来るように奨励金制度を設けるとかいうような末梢的な方法では、問題の解決にはなるまい。都会だけを、また農村だけを考えるのではなく、より総合的な、抜本的対策が必要なのである。

用　例

1. ・日本の大都市、東京なり大阪なり横浜なりを歩いてみると、若者が多いのに気つく。(l.1)

(1) この程度のものは専門店へ行かなくても、スーパーなりデパートなりで買える。

(2)「その問題については、先生になり先輩になり相談してみたらどうですか。」

(3) 国際（こくさい）会議に出席するなら、英語なりフランス語なり二か国語ぐらいは話せる方がいい。

(4)「その件については、私が直接行くなり電話をかけるなりして、連絡します。」

(5)「わからないからと言ってすぐ人にきかないで、辞書をひくなり何なりして自分で調べてみたらどうだ。」

2. ・電車に乗っても、食堂や映画館に入っても、若い人が多い。(l.2)

(1) 夏休みは海へ行っても山へ行っても人ばかりで、のんびりできない。

(2) 辞書をひいても参考書（さんこうしょ）を見てもこのことばは載（の）っていない。

(3) 彼はアフリカへ行ったまま、2年たっても3年たっても帰って来なかった。

―――――＊―――――＊―――――＊―――――

(4)「そのドアは押してもあきませんよ。引いてください。」

(5) 油（あぶら）でよごれたものは水で洗（あら）ってもきれいにならない。

3. ・これは単なる印象にとどまらず、実際の数字に当たってみても、東京二十三区の二十歳台の人口は全人口の二十三パーセント、京都では二十四パーセントを占める。(l.3)

(1) 彼の軽率な行動によって迷惑を受けたのは、私ひとりにとどまらない。

(2) 大気汚染は大都市にとどまらず、今や中小都市から農村にまで及んでいると言ってよい。

(3) 今回の政界の汚職事件は、国内のみにとどまらず、国際的な問題に発展しそうだ。

(4) 日本語の中に占める外来語の割合がいかに大きいかということは、単なる推測にとどまらず、統計的な調査によっても明らかにされている。

(5) マルクスの唯物弁証法は社会科学の分野にとどまらず、学問のあらゆる分野に大きな影響を及ぼした。

4. • ミラノでは十三パーセント、ニューヨークでは<u>十二パーセントに過ぎない</u>。(*l. 5*)

(1) あの人を知っていると言っても、何かの会で一、二度会ったに過ぎない。

(2) フランスに行ったと言っても、パリに二泊したに過ぎない。

(3) 人口わずか五万に過ぎないこの小都市に年間百万を越える観光客が訪れる。

(4)「その辞書は新版ですね。」

「そうですけど、旧版の誤植を訂正したに過ぎないようですよ。」

(5) この論文は他人の説をうまく利用してまとめあげたものに過ぎない。

5. • つまり、西欧の主要都市の<u>二倍ということになる</u>。(*l. 6*)

(1) ゆうべ1時に寝て今朝6時に起きたから、5時間しか寝ていないということになる。

(2)「あなたと山田さんとはどんなご関係ですか。」
「あの人は私の父の弟の子供です。」
「ああ、それじゃ、あなたたちはいとこ同士ということになりますね。」
(3) 来月から国鉄運賃があがるので、一度都心へ出かけると、電車賃だけで千円以上もかかるということになる。
(4)「今あまり遊んでいると、試験の時になって泣きごとを言うようなことになりますよ。」
(5) みんなで相談した結果、大学祭にはフランス語劇をやろうということになった。

6. • 日本では、農村にちゃんと一家が残り、その家から若者だけが離れて単身大都会へ出て来るという形が多い。(l. 15)
(1)「あなたのおっしゃったことは、今でもちゃんと覚えています。」
(2) きょうは一時間前にちゃんと家を出たのに、電車の事故で三十分も遅刻してしまった。
(3)「耳が遠いから聞えないと思って悪口を言ったら、ちゃんと聞えているわ。」
(4) きょうは私の方が早いだろうと思ったのに、部屋に入ったら彼はもうちゃんと来ていた。
(5)「酒は飲めないなんて言って、ちゃんと飲んでいるじゃないか。」

7. • 貿易面に現れた食糧自給率の極端な低下に象徴的に示されているように、日本の農業政策の歪みも大きくクローズアップされてきた。(l. 27)
(1) 彼の思想はこの本によく表されている。
(2) 死亡者数の激増に端的に現されているように、交通問題は年々深刻になってきている。

(3) 今回の試験の成績には彼の日ごろの実力が十分には反映されていない。

(4) 肉類の消費量に明らかにされているとおり、最近の食生活は大きく変化している。

(5) 特効薬のききめが病状の好転にはっきり示されている。

8. • 過疎化した農村からは、もう今までのように若い労働力を送り出し続けることはできない。それどころか、農家の後継者不足自体が問題になっているのである。(*l.* 31)

(1)「田中君のように大学の成績が悪くては、いい所に就職するのはむずかしいでしょうね。」

「いやあ、それどころか卒業できるかどうかもあぶないくらいですよ。」

(2) こう不景気が長引くと新入社員を採用する余裕は全くない。それどころか、社内の人員整理まで考えなければならないかもしれない。

(3) 三月になっても暖かくなるどころか、毎日、真冬のような寒さが続いている。

(4) 彼は漢字が読めないどころか、ひらがなも満足には書けない。

(5) 約束の時間に遅れてはいけないと思ってタクシーに乗ったら、道がひどく混んでいて早く着くどころか、かえって十五分も遅刻してしまった。

9. • このままの状態を放っておいてよいわけはない。といって、何かの規制を作って、都会の環境汚染がこれ以上進まないようにするとか、農村へ人が戻って来るように奨励金制度を設けるとかいうような末梢的な方法では、問題の解決にはなるまい。(*l.* 35)

(1) たばこは健康によくないということは百も承知だ。といって、そう簡単にやめられるものではない。

(2) 日本が水産資源に恵まれていることは確かだ。といって、保護することも考えずに乱獲(らんかく)を続けていれば、やがては資源不足を招くことになろう。

(3) このところ風邪(かぜ)ぎみで頭は痛いし、体はだるい。といって、会社を休むわけにもいかず、サラリーマンというのは辛いものだ。

(4) 彼は三十代(だい)の終わりにはライフワークとも言える大きな研究をなしとげた。といって、その後の人生を何もせずに過ごしたというのではない。

(5) 不順な天候が続いて野菜がひどく値上(ねあ)がりした。だからといって、食べないわけにはいかず、主婦にとっては悩(なや)みのたねだ。

■ 会　話　　　　　　　　都会と若者

人　A：ある大学の教員
　　B：Aの友人。Aとは異なる大学の教員

A₁：君は江戸っ子[1]だったね。

B₁：ああ、ぼくのところは代々本所(だいだいほんじょ)だから、これでも[2]生粋(きっすい)の江戸っ子なんだよ。あんまりいきじゃないけど。

A₂：いやいや、ぼくみたいな田舎育(いなかそだ)ちから見りゃ[3]、実にスマートだよ。

B₂：いや、どうも[4]。

A₃：ぼくも下町(したまち)に住むようになって長いんだけど、どうも相変(あいか)わらずやぼでね。

B₃：君の家、たしか[5]、千住(せんじゅ)だったね。

A₄：うん。

B₄：いやあ、申(もう)し訳(わけ)ない[6]けど、あそこは下町じゃないんだよ。

都市和年輕人

人物A：某大學的教員
　　B：A的朋友。與A不同學校的大學教員。

A₁：聽說你是道地的江戶人。
B₁：嗯，我家代代住在本所，的確是貨眞價實的江戶人哪。雖然我不太帥。
A₂：那裡那裡，由我這鄉下人看來，的確是帥啊。
B₂：那裡哦，謝謝。
A₃：我住在這工商區已經很久了，依然是不脫鄉土味，儍儍的耶！
B₃：記得你家是在千住吧。
A₄：嗯。
B₄：不過，對不起，那兒不是「下町」區哪。

B_{10}：やあ、その傾向は今でも変わらないんじゃないか。ぼくの学校は、学生の大部分が地方出身なんだ。

A_{11}：ぼくんとこ[14]もそうらしい。ま、東京には大学が多いから、学生だけでも大変な数になるだろう。

B_{11}：そして、卒業してもそのまま東京に住みつくってわけか。

A_{12}：そりゃ、田舎だと就職のチャンスがないもの。東京に出りゃ[15]なんとかなる[16]ってのは、かなり、当たってる[17]よ、今の日本じゃ。

B_{12}：そうだな、確かに。ああ、そういえば欧米の大都市に比べて、東京は、若者人口の比率が、ぐんと[18]高いんだってね。

A_{13}：それは、町を歩いた感じでもわかるなあ。新宿とか六本木とか、ぼくら[19]みたいな中年は少ないものね。

B_{13}：うん、場所によっちゃ[20]、ぼくらが入れそうな店がないものね。みんな若者相手の店で。

A_{14}：まったく、ほんとに東京は若者だらけ[21]だな。

B_{14}：これじゃ、田舎には人がいなくなっちゃうだろうね。

B_{10}：那兒，這傾向現在還是沒變啊，我的學校大部份的學生都是地方出身的。

A_{11}：我那兒大概也是。反正東京的大學很多，光是學生的數字就很驚人的。

B_{11}：那麼，畢業以後就這樣在東京住下了。

A_{12}：那就是，在鄉下就沒有就業的機會啊。都以為到東京總有辦法，以現在的日本來講，果真是如此啊。

B_{12}：嗯，說的也是。哦，這麼說來比起歐美的大都市，聽說東京的年輕人口比率相當高哪。

A_{13}：這走在街上就會感覺出來的。新宿或六本木，像我們一樣的中年人好少哦。

B_{13}：嗯，有些地方還找不到我們可以進去的店。盡是以年輕人為對象的店哪。

A_{14}：可不是，眞的東京盡是年輕人哦。

B_{14}：這麼一來，鄉下不就沒有人了麼？

A5：しかし、山の手じゃないことは確かだし。

B5：そう、山の手でも下町でもない、つまり、江戸じゃないんだな。[7]

A6：江戸に入らない。ああ、そういえば、「本郷もかねやすまでは江戸の内」、だったね。[8]

B6：そう、それなんだよ。昔は江戸の町、それも下町といえるのは、ずいぶん狭い区域だったんだね。

A7：なるほど。東京と江戸は違うわけか。

B7：東京の方がずっと広い。

A8：うん、広いだけじゃなく、人間の数が、だんぜん違うね。

B8：戦争中は別にして、明治になってから東京の人口は増える一方だったものね。[9] 特に戦後の増え方はすごい。

A9：ことわっておくけど、[10] ぼくが東京に来たのは戦前だよ。

B9：学生の時からずっと東京にいるわけか。もっとも、[11] そういう人は多いね。

A10：みんな、青雲の志を抱いて[12] 東京へ、東京へと出て来たわけよ。それほどでもないか。[13]

A5：但是，那也不是「山之手」區。

B5：是啊，也不是偏僻地方也不是工商區，換句話說都不是江戶啊。

A6：不算江戶啊。哦，所以以前人們說「本鄉兼安都在江戶之內」。

B6：對，你說得一點不錯。古代江戶的熱鬧區，或者說是工商區，是很狹窄的區域呢。

A7：原來這樣，我想那就是東京與江戶是不同的了。

B7：東京範圍比較大了。

A8：嗯，不但是大，人口數也不大相同哦。

B8：戰時不算，到了明治以後東京的人口一直是增加，尤其是戰後可增加的厲害了。

A9：說實在的，我到東京來是戰爭以前哪。

B9：從學生時代一直在東京啊。說眞的，這樣的人很多。

A10：都抱着很大的希望朝東京，向東京而來的哪。是不是誇大了一點。

A19：同感だ。ぼくも定年(ていねん)[31]になったら国へ帰って、塾(じゅく)[32]でも開(ひら)くとするかな。

B19：いいなあ、故郷があるってのは。

A19：同感！到了退休我也想回到故鄉開個補習班。
B19：太棒了！你還有故鄉 可以回去！

註解

(1)江戸っ子：在東京或江戸世居三代以上的人。 (2)これでも——雖然也許我看起來不像。 (3)見りゃ＝見れば(C)。 (4)いや、どうも——哦，不必，心領了。 (5)たしか〜だ——用於當說話者不太確定或者で在詢問某種消息，求證某事。另一方面，たしかに表示指定。 (6)申し訳ない——申し訳ございません是較謙遜的道歉說法，此處多少帶有開玩笑的性質。 (7)老江戸分爲兩區"山之手"與"下町區"後者地勢較低，是商販集中的地帶，前者地勢較高，爲高級住宅。 (8)かねやす：在本鄉的一家商店與和服一起穿戴的衣飾配件和裝飾品，在此出售。 (9)〜する一方——繼續……下去。 (10)ことわっておく——（在我們進一步行動以前）我必須告訴你，（以免你誤解）。 (11)もっとも——當然。 (12)青雲の志を抱く——胸懷大志。 (13)それほどでもないか：他的言行變得富詩意，而且有點自嘲。 (14)ばくんとこ＝ばくのところ(C)。 (15)出りゃ＝出ればば(C)。 (16)なんとかなる——多少有一點效果。 (17)當たって（い）る——正中目標，準確。 (18)ぐんと：用於表示一種遽增的情況(O)。 (19)ぼくら：ぼく的複數
(20)場所によっちゃ＝場所によっては——依地點不同而各異。 (21)だらけ——充滿（錯誤、痛苦、難題罪行）。 (22)その分——那個部分，那種程度，那種地步。 (23)息苦しい——呼吸困難（此處是比喻法）。 (24)そころで——順便一提。 (25)なんかで讀んだ——我在某個地方讀過。 (26)言ってたっけ：以っけ爲結尾；表示不確定以及努力回想。 (27)なるほど——我能了解爲什麼他們要那麼做／我了解。 (28)殺到する——蜂湧而至。 (29)背を向ける——背向，背棄。 (30)心強い——令人振奮的。 (31)定年になる——到了退休的年齡。 (32)塾：私立學校，包括從小學到高中的學生因爲需要額外指導或準備入學考試所參加的正規學校以外的補習班。

会話の練習

1. A「山田さんはピアノをお習いになったそうですね。」
B「ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。」
A：「山田先生聽說您學過鋼琴呢。」
B：「是是，我只學過一點，彈得不大好，但……」

「君は江戸っ子だったね。」……A
「ああ、ぼくのところは代々本所だから、これでも生粋の江戸っ子なんだよ。あんまりい
きじゃないけど。」……B

注意B的回答後半部只是客氣的表示，不必太注重那些話的涵意，B用的句型適用在肯定他人的話語的一部分，同時採取部份保留的態度。

練習 例にならって会話をしなさい。また、相手によって名前をかえなさい。

(例) ピアノをお習いになった──→
A： 山田さんはピアノをお習いになったそうですね
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

1. ピアノをおひきになる──→
A： 山田さんはピアノをおひきになるそうですね。
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

2. 絵をおかきになる──→
A： 山田さんは絵をおかきになるそうですね。
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

3. 詩をお作りになる──→
A： 山田さんは詩をお作りになるそうですね。
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

4. テニスがお好きだ──→
A： 山田さんはテニスがお好きだそうですね。
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

5. つりがご趣味だ──→
A： 山田さんはつりがご趣味だそうですね。
B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

6. 水泳をだいぶおやりになる——→山田さんは水泳をだいぶおやりになるそうですね。

A： 山田さんは水泳をたいぶおやりになるそうですね。

B： ええ、これでも少しはやるんですよ。あんまり上手じゃないけど。

A「わたしのところは、学生の大部分が地方出身なんです。」

B「わたしのところもそうなんですよ。」

A：「在我們學校，大部分的學生是從鄉下來的。」

B：「我們學校也是喔。」

「……。ぼくの学校は、学生の大部分が地方出身なんだ。」……B[10]

「ぼくんとこもそうらしい。……。」……A[11]

與他人建立關係時有一點很重要，就是找到你和他共同之處，此處B做的回答很適宜表示這個意思。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 学生が地方出身だ——→

A： わたしのところは、学生の大部分が地方出身なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

1. 学生が就職希望者だ——→

A： わたしのところは、学生の大部分が就職希望者なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

2. 先生が女性だ——→

A： わたしのところは、先生の大部分が女性なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

3. 店員が女性だ——→

A： わたしのところは、店員の大部分が女性なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

4. 商品[2]が輸入品だ——→

A： わたしのところは、商品の大部分が輸入品なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

5. 出版物が専門書だ——→

A： わたしのところは、出版物の大部分が専門書なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

6. お客が若い人だ——→

A： わたしのところは、お客の大部分が若い人なんです。

B： わたしのところもそうなんですよ。

Ⅲ. A「卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。」

B「そりゃ、田舎だと就職のチャンスがありませんからね。」

A：「畢業後仍然在東京定居下來嗎？」

B：「嗯，因爲鄉下沒有就業的機會呢。」

「そして、卒業してもそのまま東京に住みつくってわけか。」……B_{11}

「そりゃ、田舎だと就職のチャンスがないもの。東京に出りゃなんとかなるってのは、かなり、当たってるよ、今の日本じゃ。」……A_{12}

表示"某事爲一種很自然的後果"在そりゃ—からね中含有這樣的意思，這種句型是表現對人所說的話的肯定，之後再加上一個理由。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 田舎だと就職のチャンスがない——→

A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。

B： そりゃ、田舎だと就職のチャンスがありませんからね。

1. 都会の生活は便利だ——→

A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。

B： そりゃ、都会の生活は便利ですからね。

2. 若者は都会が好きだ——→

A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。

B： そりゃ、若者は都会が好きですからね。

3. 都会の生活は若者にとっておもしろい——→

A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。

B： そりゃ、都会の生活は若者にとっておもしろいですからね。

4. 東京のほうが就職のチャンスがある——→

A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。

B： そりゃ、東京のほうが就職のチャンスがありますからね。

5. 田舎へ帰ってもいい仕事がない――→
A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。
B： そりゃ、田舎へ帰ってもいい仕事がありませんからね。

6. 田舎だと東京のような生活ができない――→
A： 卒業してもそのまま東京に住みつくってわけですか。
B： そりゃ、田舎だと東京のような生活ができませんからね。

V. A「ほんとに本が高くなりましたね。」
B「ええ、これじゃ、学生も大変でしょうね。」

A：「書變得昂貴了。」
B：「是，這樣，學生也很頭大耶！」

「まったく、ほんとに東京は若者だらけだな。」……A_{14}
「これじゃ、田舎には人がいなくなっちゃうだろうね。」……B_{14}

"學生"後面的も表示不只是學生們買書很吃力，B的回答表示對因某些事而受影響的人很同情。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例） 本が高くなる・学生――→
A： ほんとに本が高くなりましたね。
B： ええ、これじゃ、学生も大変でしょうね。

1. 暑くなる・勉強――→
A： ほんとに暑くなりましたね。
B： ええ、これじゃ、勉強も大変でしょうね。

2. 寒くなる・通勤――→
A： ほんとに寒くなりましたね。
B： ええ、これじゃ、通勤も大変でしょうね。

3. 肉や魚が高くなる・家庭の主婦――→
A： ほんとに肉や魚が高くなりましたね。
B： ええ、これじゃ、家庭の主婦も大変 しょうね。

4. 就職がむずかしくなる・学生───→

A： ほんとに就職がむずかしくなりましたね。

B： ええ、これじゃ、学生も大変でしょうね。

5. 人件費が高くなる・会社の経営───→

A： ほんとに人件費が高くなりましたね。

B： ええ、これじゃ、会社の経営も大変でしょうね。

6. 乗物が混むようになる・通勤───→

A： ほんとに乗物が混むようになりましたね。

B： ええ、これじゃ、通勤も大変でしょうね。

V. A「ずいぶん税金が高くなりましたね。」

B「ええ、その分、物価が上がるわけですよ。」

A：「稅金變得相當高了呢！」

B：「是的，隨着物價也會上漲喔！」

「過疎地域が多くなってるそうだね。」……B$_{15}$

「その分東京が過密化するわけだ。……。」……A$_{16}$

B所說的表示A敍述的事實的必然結果。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例） 物価が上がる───→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、物価が上がるわけですよ。

1. 収入が減る───→

A． ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、収入が減るわけですよ。

2. 生活が苦しくなる───→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、生活が苦しくなるわけですよ。

3. 商売がやりにくくなる───→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、商売がやりにくくなるわけですよ。

4. 値段が高くなる ——→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、値段が高くなるわけですよ。

5. 国民の不満が大きくなる ——→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、国民の不満が大きくなるわけですよ。

6. 経営が苦しくなる ——→

A： ずいぶん税金が高くなりましたね。

B： ええ、その分、経営が苦しくなるわけですよ。

VI. A「東京がいやだという若者が出ているそうですね。」

B「ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。」

A：「聽說有很多青年人討厭東京呢。」

B：「呀，那個，我好像也在那裡讀過。」

「…… ところで、その息苦しい東京がいやだという若者が出ているそうだね。」……B_{16}

「ああ、それ、ぼくもなんかで読んだ……、」……A_{17}

試試看以どこかで聞きました或誰かに聞きました代替何かで讀みました。在這對話中，第二個說話者回答說他對A提出的資料也有所知悉，以此來強調他們之間的共同關係。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 東京がいやだという若者が出ている ——→

A： 東京がいやだという若者が出ているそうですね。

B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

1. 大学を中退する人がふえている ——→

A： 大学を中退する人がふえているそうですね。

B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

2. 田舎には若い人が少なくなった ——→

A： 田舎には若い人が少なくなったそうですね。

B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

3. 日本の出版物には翻訳書が非常に多い ──→
   A： 日本の出版物には翻訳書が非常に多いそうですね。
   B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

4. 都会に背を向ける若者が出てきた ──→
   A： 都会に背を向ける若者が出てきたそうですね。
   B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

5. 食料品の大部分は輸入している ──→
   A： 食料品の大部分は輸入しているそうですね。
   B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

6. 昔江戸といったのは狭い区域だった ──→
   A： 昔江戸といったのは狭い区域だったそうですね。
   B： ああ、それ、わたしも何かで読みましたよ。

---

(1)釣魚　(2)商品，貨物　(3)人工費

第三課　ふすまの部屋

■ 新　出　語

ふすま　紙門
（手拉式的重門，上面糊有不透明的厚紙，用來隔間或做爲通小房間的門。）

ある青年（せいねん）　某位青年

青年　青年

思（おも）い出（だ）す　想起、懷念

親類（しんるい）　親戚

かくれんぼ　捉迷藏

なんだ、そんなことか　什麼？那就是你所說的嗎？

昔（むかし）　過去

へえ　嘿！眞的嗎？

不思議（ふしぎ）だ　不可思議

～顔（かお）をする　以～表情

たいてい　大體上

障子（しょうじ）　紙窗
（手拉式的輕便紙門，用細木條爲骨架，上糊半透光的薄紙，用在需要透光的房間。）

しきる　隔間，分開

全部（ぜんぶ）　全部

はずす　拿走，拆下

家全体（いえぜんたい）　整個家

一部屋（ひとへや）　一個房間

大座敷（おおざしき）　大的榻榻米房間

座敷　典型日式房間，榻榻米房間

婚礼（こんれい）　婚禮

法事（ほうじ）　佛教葬禮儀式（在死者死後的週年紀念上擧行）

もてなす　招待

それほど～(で)ない　沒有那麼～的

一続（ひとつづ）きの　連續的

このような　像這種的～，這樣的

寝室（しんしつ）　臥室

用途（ようと）　用途，用處

示（しめ）す　表示，指示，顯示

指（さ）す　指出

八畳（はちじょう）　有八個的榻榻米的房間

～畳　（榻榻米計算單位）～個

四畳半（よじょうはん）　有四個半的榻榻米

広さ　大小

奥の間　裏間房子・内屋

わからぬ　不知道（這是文言的形式
ぬ是動詞否定的結尾）

呼ぶ　稱呼

その時々　一時一時的

用途の面　就用途而言

名前をつける　命名

名前のつけようがない　無法命名

近ごろ　最近

様子　狀況、情況、情形

家財道具　傢俱、家庭用具

～わけにはいかない　不能～

洋服だんす　衣櫃

戸棚　櫥櫃（有架子）

役をする　扮演～

役　角色・職責

■ 本　文

ある青年が子供のころを思い出して、親類におもしろい家があったと話してくれた。

「ふすまをあけると次の部屋で、そこのふすまをあけると、またその向こうが次の部屋、というふうに、どこのふすまをあけてもみんな次の部屋になっているので、かくれんぼをするのにとてもよかった。」と言うのである。

「なんだ、そんなことか。日本の家は昔はみんなそうだったんだよ。」と答えると、その青年は、「へえ、そうですか。」と、不思議そうな顔をした。

昔の家の部屋は、たいていふすまか障子でしきられていた。部屋と部屋の間のふすまを全部はずしてしまうと、家全体が一部屋の大座敷になる。婚礼や法事の時には、そうやって大勢の客をもてなした。どれほど大きな家でなくても、ふすまをはずせば二部

屋や三部屋は一続きの部屋になるのが普通だった。

このような畳の部屋には、寝室とか食堂とかいうような用途を示す名前がない。部屋を指す時には、八畳とか六畳とか四畳半とかいう、広さを示すことばを使ったり、座敷とか奥の間といった、わかったようなわからぬような名前で呼んだりする。部屋の使い方がその時々で違うため、用途の面から名前をつけたくても、名前のつけようがないのである。

しかし、日本の家も近ごろではだいぶ様子が変わってきた。昔に比べて家財道具がふえたため、どちらのふすまをあけても隣りの部屋というわけにはいかなくなった。ふすまの前に洋服だんすや戸棚を並べたりしては、ふすまがふすまの役をしなくなってしまうからである。

■ 用　例

1. 「ふすまをあけると次の部屋で、そこのふすまをあけると、またその向こうが次の部屋、というふうに、どこのふすまをあけてもみんな次の部屋になっているので、かくれんぼをするのにとてもよかった。」と言うのである。*(l. 3)*

(1) 今月は田中君の家、来月は鈴木君の家というふうに、毎月会場をかえて集まることにした。

(2) 春は花、秋はもみじというふうに、四季折々の自然を楽しむ生活が今ではめずらしいものになってしまった。

(3) 一人帰り、また一人帰るというふうに順に席を立って、とうとうだれもいなくなってしまった。

(4) 夜ふかしはする、酒は浴びるほど飲むというふうな生活が、体にいいわけがない。

(5) ちょっと仕事をしてはお茶を飲み、また少しやってはお化粧に立つというふうで、まじめに働いているとは思えない。

＊　＊　＊

(6)「わたしのやるとおりにやってください。はい、こういうふうに足を曲げて。」

2. • それほど大きな家でなくても、ふすまをはずせば二部屋や三部屋は一続きの部屋になるのが普通だった。*(l.13)*

(1)「子供にカメラを買ってやろうと思うのですが、五万円ぐらいで買えますか。」
「いや、お子さんなら、それほど高価なものじゃなくてもいいと思いますよ。」

(2)「彼は部屋数が八つもある家をつくったそうですよ。」
「それはうらやましいですね。それほど大きな家でなくても、わたしも自分の家がほしいですね。」

(3) 最近の自動車の普及はめざましい。それほど収入の多い家でなくても自動車を買うようになった。

(4) 彼の病気はそれほど心配しなくても大丈夫だと医者は言っていた。

(5) 発車までまだ30分あるから、それほど急がなくても間に合うだろう。

3. • ふすまをはずせば二部屋や三部屋は一続きの部屋になるのが普通だった。*(l.13)*

(1) 今日手紙を出したのだから、返事が来るまで一週間や十日はかかるだろう。

(2) どんなに丈夫な人でも、一生の間に一度や二度は病気をすることがあるだろう。

(3)「二日や三日の旅行にそんなに大きな荷物を持って行く必要はないと

思いますよ。」

(4) 反対する者が一人や二人いても、私はこの計画を実行する。

(5)「二万や三万の金なら、いつでも貸してやるよ。」

4. • 部屋の使い方がその時々で違うため、用途の面から名前をつけたくても、名前のつけようがないのである。*(l. 18)*

(1) 発音の面だけから見れば、日本語はけっしてむずかしくはない。

(2) あの男は教師の目から見るとてもいい学生なのに、友だちの間ではひどく評判が悪い。

(3) 年からいえば、もう子供がいてもおかしくないのに、彼はまだ学生生活をつづけている。

(4) 工場の建設は町の繁栄という点からは望ましいことだが、一方、環境を守る立場から考えると、喜んでばかりもいられない。

(5)「山田君は今度の試験ではずいぶん成績がよかったね。」
「いや、彼の実力からすれば、あれくらいの成績は当然ですよ。」

5. • 名前をつけたくても、名前のつけようがないのである。*(l. 19)*

(1) こんなにひどくこわれていては、直しようがない。

(2) 住所がわからないのだから連絡のとりようがない。

(3) いくら聞かれても知らないことは答えようがない。

(4)「もっと早く医者にみせれば手のほどこしようがあったかもしれません。」

(5) 考えようによっては、貧乏暮しも気楽でいい。

6. • どちらのふすまをあけても隣りの部屋というわけにはいかなくなった。*(l. 22)*

(1) 今の職場は自分には向いていないと思うが、ほかに適当な仕事も見

つからないのでやめるわけにはいかない。

(2) 買う金はあるが、将来のことを考えると、あまりぜいたくなものを買うわけにはいかない。

(3)「急用ができて出席するわけにはいかなくなったので、みなさんによろしくお伝え下さい。」

(4)「医者はもっと休んだほうがいいというんですが、仕事のことを考えると、そうしているわけにはいきません。」

(5)「こんなひどい雨の日に出かけなくてもいいのに。」

「いや、約束をしてしまったので、そういうわけにもいかないんですよ。」

7. • ふすまの前に洋服だんすや戸棚を並べたりしては、ふすまがふすまの役をしなくなってしまうからである。(l. 23)

(1) あまり議論ばかりしていては計画が進まなくなってしまう。

(2) 来るかどうかわからない人をいつまでも待っていては飛行機に乗り遅れてしまう。

(3) こんなに外来語がたくさんはいってきては、伝統的な日本語が失われてしまうのではないかといって心配する人がいる。

(4)「そんなに乱暴に扱っては、こわれてしまいますよ。もっと大切に扱って下さい。」

(5) いくら忙しくても毎晩のように徹夜をしたりしていては体をこわしてしまう。

(1)

人　A：ある会社員(かいしゃいん)

B：Aの上役(うわやく)

A₁：今度、引越(ひっこ)しなさるんだそうですね。

B₁：うん、今の家が狭(せま)いんでね。

A₂：新(あたら)しい家はいく間[1]あるんですか。

B₂：ダイニング・キッチンと畳の部屋が二つ、書斎(しょさい)が一つ。ま、四部屋だね。けっして広くはないけどね。

A₃：都会(とかい)では標準的(ひょうじゅんてき)な大きさじゃないですか。

B₃：ま、そうだね。いなかへ行けば、もっと広い家も多いだろうけど。

A₄：広いっていえば、[2]ぼくが子供のころ遊(あそ)びに行った親戚(しんせき)の家には、おもしろい家がありましたよ。

紙窗門的房間

(1)

人物：A：一位公司職員

B：A的上司

A₁：這次聽說你要搬家呢？

B₁：嗯，現在的家房子很窄小呢。

A₂：新的家有多少個房間呢？

B₂：餐廳、厨房和二間榻榻米的臥房，加上一間書房，有四間房子，並不寬敞，但……

A₃：在都市可說是標準的大小不是嗎？

B₃：是的，假若去鄉間的話更大的房間一定更多。但……

A₄：說到寬敞，在我童年遊玩過的親戚家中有一個很有趣的家。

B₃：でも、うちみたい[8]にふすまの前に洋服だんすや整理だんすがおいてあると、ふすまをはずすわけにいかないから、結局は壁と同じよ。

A₄：じゃ、狭いことは昔と同じで、機能性はむしろ減ってしまってるわけか。

B₄：そういうことになる[9]わね。

B₃：但是像我們家衣櫃和抽屜放在紙窗扇之前不能把紙窗扇拿開，結果可說是和牆沒有兩樣。

A₄：那麼，就狹窄而言和從前一樣，但在機能性上反而減少很多了呢！

B₄：大概是這樣吧！

註解

(1)いく間：いく這個字首字的意思是"有多少……"參考比較いくつ。 (2)廣いって言えば＝廣いと言えば——說到"大"、"寬廣"。 (3)おもしろいって＝おもしろいと言うのは——你說"有趣"是指什麼？(C) (4)部屋がある：有房間し這個ある通常出現在一長串解釋中間，沒有特指的對象，此地A在回憶而不是對B而言，他的長輩不會覺得用あ爲有任何失禮。 (5)なんだそんなことか——什麼？你指的就是這種事？(帶有輕視的語氣) (6)いわば——可以這麼說。 (7)生活の知恵——有關日常生活的普通知識，生活常識。 (8)うちみたいに——就像在我們自己家裏一樣。 (9)そういうことになる——就是那麼一回事／可以說就是相當於那樣。

■ 会話の練習

I．畳の部屋は便利ですね、いく通りにも変化するんですから。

榻榻米房間很便利實用，可以變做很多用途。

日本の家は便利だね。一つの部屋が朝は食堂、昼は茶の間、夜は寝室、ときには客間と、いく通りにも変化するんだから。……(2)A₁

這句型是先把結果表明，再加以解釋。與 畳の部屋はいく通りにも變化するから便利ですね 比較，這句型把說話者的強調語氣表現得更清楚。

(2)

人 A：海外生活を終えて帰国した中年の男

B：Aの妻（Aと共に帰国する）

A₁：日本の家は便利だね。一つの部屋が朝は食堂、昼は茶の間、夜は寝室、ときには客間と、いく通りにも変化するんだから。

B₁：そうね。

A₂：それに、例えば、四畳半と六畳の仕切りのふすまをはずしてしまえば、十畳半の大きな座敷になるし‥‥。

B₂：機能的なのね。一軒の家の中で、大勢の人がいっしょに暮らさなければならなかったから、そこから生まれたいわば[6]生活の知恵[7]というわけね。

A₃：そんなわけだね。

---

(2)

人物：A：結束國外生活回國的一位中年男子

B：A的妻子（與他一齊回國）

A₁：日本家不是很便利嗎？一間房間早上可充當餐廳，白天成爲飲茶房間，到了晚上便成爲臥室，有時充當客廳，可變做好幾種用途。

B₁：對的

A₂：此外，例如把四個半榻榻米和六個榻榻米房間的紙窗扇拿開就便成爲十個半大的房間。

B₂：日本的房子有多種機能不是嗎？很多人必須在一棟房子裡一起生活，因此產生所謂"生活的智慧"。

A₃：我想是如此吧！

B₄：おもしろいって。[3]

A₅：座敷にふすまがありますね、そこのふすまをあけると次の部屋がある。[4] そこの部屋のふすまをあけるとまた次の部屋、また次と。ふすまを全部はずすと、何十畳という大きな部屋になるんです。

B₅：なんだ、そんなことか。[5] 日本の家は昔はみんなそうだったんだよ。

A₆：へえ、そうですか。

B₆：そうだよ。ふすまをはずすと家全体が大きな座敷になる。そこで婚礼や法事をやったんだ。

A₇：今はホテルなんかで結婚(けっこん)の披露宴(ひろうえん)をやりますけど、昔は自分(じぶん)の家でやれたんですね。

B₇：そうだよねえ。考えてみると、わたしたちの生活もだいぶ変わってきているんだね。

B₄：怎麼"有趣"？

A₅：榻榻米房間裏有紙窗扇，那邊的房間打開是另一個房間，打開那裡的紙門又是另外的房間，假若全部的紙窗扇移開就成爲很大的幾十個榻榻米的房間。

B₅：是那樣嗎？日本的房子從前都是那樣的呀！

A₆：嘿！是嗎？

B₆：是的，把紙窗扇移開，整個房子變得很大的房間。可以在那裡舉行婚禮和葬禮。

A₇：我們在旅館舉行結婚的披露宴，但是從前在自己家裡舉行呢！

B₇：的確如此，想想看我們的生活也改變了很多呢！

Ⅳ. 映画っていえば、この間の映画はおもしろかったですね。

講到電影，前幾天的電影很有趣，對不？

広いっていえば、ぼくが子供のころ遊びに行った親戚の家には、おもしろい家がありましたよ。……(1)A_1

注意～つていえば的語調，用以反應其他人所講過和發展說話題材的方法。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 映画・おもしろい映画 ⟶

映画っていえば、この間の映画はおもしろかったですね。

1. 地震・大きい地震 ⟶

地震っていえば、この間の地震は大きかったですね。

2. 料理・おいしい料理 ⟶

料理っていえば、この間の料理はおいしかったですね。

3. 台風・ひどい台風 ⟶

台風っていえば、この間の台風はひどかったですね。

4. 試験・むずかしい試験 ⟶

試験っていえば、この間の試験はむずかしかったですね。

5. 会・楽しいクラス会 ⟶

会っていえば、この間のクラス会は楽しかったですね。

6. 事故・ひどい交通事故 ⟶

事故っていえば、この間の交通事故はひどかったですね。

Ⅴ. A「今度、引越しなさるんだそうですね。」

B「ええ、家が狭くなったもんですから。」

A：“我聽說你要搬家了”。

B：“是的，目前我們住的地方太小”。

「今度、引越しなさるんだそうですね。」……(1)A_1

「うん、今の家が狭いんでね。」……(1)B_1

這句型用以回答別人，要注意除了簡單回答是或不是外。應該以解釋來擴展話題，注意～ですから的語調。

3. 子供の遊び──→
考えてみると、子供の遊びもだいぶ変わってきているんですね。

4. 親子の関係──→
考えてみると、親子の関係もだいぶ変わってきているんですね。

5. 女性の考えかた──→
考えてみると、女性の考えかたもだいぶ変わってきているんですね。

6. 学生たちの話題──→
考えてみると、学生たちの話題もだいぶ変わってきているんですね。

Ⅲ. 今は自動車で行けるんですが、昔は歩いて行ったんですね。

現在我們可以坐車到那邊，可是以前都是用走路的。

今はホテルなんかで結婚の披露宴をやりますけど、昔は自分の家でやれたんですね。……(1)A_7

這裡以兩種相對的情況來表現，而且過去、現在都是對立的。

練習　例にならって文を作りなさい。

(例) 自動車で行ける・歩いて行く──→
今は自動車で行けるんですが、昔は歩いて行ったんですね。

1 機械で作れる・手で作る──→
今は機械で作れるんですが、昔は手で作ったんですね。

2. 日本で作れる・外国から買う──→
今は日本で作れるんですが、昔は外国から買ったんですね。

3. 飛行機で行ける・船で行く──→
今は飛行機で行けるんですが、昔は船で行ったんですね。

4. 一日で行ける・三日もかかる──→
今は一日で行けるんですが、昔は三日もかかったんですね。

5. 翻訳で読める・原書を読む──→
今は翻訳で読めるんですが、昔は原書を読んだんですね。

6. 店で買える・うちで作る──→
今は店で買えるんですが、昔はうちで作ったんですね。

練習　例にならって文を作りなさい。

（例）畳の部屋はいく通りにも変化する――→

　　畳の部屋は便利ですね、いく通りにも変化するんですから。

1. 定期券は途中の駅でも降りられる――→

　　定期券は便利ですね、途中の駅でも降りられるんですから。

2. ジーンズは自分で洗える――→

　　ジーンズは便利ですね、自分で洗えるんですから。

3. 畳の部屋はいろいろに使える――→

　　畳の部屋は便利ですね、いろいろに使えるんですから。

4. デパートは何でも売っている――→

　　デパートは便利ですね、何でも売っているんですから。

5. ヘリコプター[2)]は狭い所にも降りられる――→

　　ヘリコプターは便利ですね、狭い所にも降りられるんですから。

6. 自転車は狭い道も通れる――→

　　自転車は便利ですね、狭い道も通れるんですから。

II. 考えてみると、わたしたちの生活もだいぶ変わってきているんですね。

想想看我們的生活方式已經改變了不少。

考えてみると、わたしたちの生活もだいぶ変わってきているんだね。……(1)B_7

注意考えてみると表示已經考慮清楚的結論，這是用來引出後面結論的句子。

練習　例にならって言いかえなさい。

（例）わたしたちの生活――→

　　考えてみると、わたしたちの生活もだいぶ変わってきているんですね。

1. 農村の生活――→

　　考えてみると、農村の生活もだいぶ変わってきているんですね。

2. 旅行のしかた――→

　　考えてみると、旅行のしかたもだいぶ変わってきているんですね。

5. 設備がいい ——→

A： なかなかいいアパートですね。

B： そうでもないんですよ、けっして設備がいいとはいえないし……。

A： でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B： そうでしょうか。

6. 環境がいい ——→

A： なかなかいいアパートですね。

B： そうでもないんですよ、けっして環境がいいとはいえないし……。

A： でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B： そうでしょうか。

---

1. 定期車票　2. 直升機　3. 機器　4. 原文書　5. 工作地方　6. 環境
7. 陽光照得到　8. 設備

「……。ま、四部屋だね。けっして広くはないけどね。」……(1)B_2

「都会では標準的な大きさじゃないですか。」……(1)A_3

「ま、そうだね。いなかへ行けばもっと広い家も多いだろうけど。」……(1)B_3

以謙虛來表現回答恭維，不過要注意說話者和聽者之間的眞正感覺的差距。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 広い──→

A：なかなかいいアパートですね。

B：そうでもないんですよ、けっして広いとはいえないし……。

A：でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B：そうでしょうか。

1. きれいだ──→

A：なかなかいいアパートですね。

B：そうでもないんですよ、けっしてきれいだとはいえないし……。

A：でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B：そうでしょうか。

2. 静かだ──→

A：なかなかいいアパートですね。

B：そうでもないんですよ、けっして静かだとはいえないし……。

A：でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B：そうでしょうか。

3. 新しい──→

A：なかなかいいアパートですね。

B：そうでもないんですよ、けっして新しいとはいえないし……。

A：でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B：そうでしょうか。

4. 日当(ひあた)りがいい──→

A：なかなかいいアパートですね。

B：そうでもないんですよ、けっして日当りがいいとはいえないし……。

A：でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。

B：そうでしょうか。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）家が狭くなった──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、家が狭くなったもんですから。

1. 家が古くなった──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、家が古くなったもんですから。

2. 子供が大きくなった──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、子供が大きくなったもんですから。

3. 勤め先がかわった──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、勤め先がかわったもんですから。

4. 環境が悪くなった──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、環境が悪くなったもんですから。

5. 近所に工場ができた──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、近所に工場ができたもんですから。

6. 自分の家を建てた──→

A：　今度、引越しなさるんだそうですね。

B：　ええ、自分の家を建てたもんですから。

Ⅵ. A「なかなかいいアパートですね。」

B「そうでもないんですよ、けっして広いとはいえないし……。」

A「でも、わたしにはうらやましいくらいですよ。」

B「そうでしょうか。」

A：“這公寓眞不錯耶”？

B：“噢，不，它不能說得上寬敞，而且……。”

A：“不過，對我而言，就令我羨慕了”，

B：“眞的”？

第五課　旅行計画

■ 新 出 語

旅行計画　旅行計劃

計画　計劃

計画する　計劃（動詞）

先日　前幾天

ごちそうさま　承您款待，多謝您招待

例の～　那個
（以前我們提到的那個～，我們都知道的那個～）

まとまる　歸納、集集、整理

行く先　目的地

山陰　山陰地區：指本州西南部面對日本海的地區

早速　立刻

交通公社　日本旅遊交通局

日程を組む　編排日程

日程　日程表，日程計劃表

9時発　九點開車

新幹線　新幹線，超級快車

～線　～線

4時20分着　4點20分到達

～泊　投宿於～

終日　整天

見物　遊覽（名詞）觀光

見物する　遊覽（他動詞）

途中下車する　中途下車

正午　正午

まず津和野へ行くわけですが
首先應去津和野……

まず　首先

旅館　旅館

ゆっくりと　慢慢地

見て歩く　邊走邊看，步行觀看

城　城堡

跡　遺跡

武家屋敷　武士宅邸，武士的住所

屋敷　宅邸、住所（尤其是佔地寬廣，大門堂皇的住宅）

見きれる　全部，沒有遺漏地看到

着がえ　換衣服（名詞）
　着がえる　換衣服（動詞）
少々　少許・一些
雨具　雨具
用意する　準備（動詞）
　用意　準備（名詞）

なお　還有・又
行き　去
帰り　回來・當天回來的旅行

指定券　預售票
　指定　指定・特定
　指定する　指定（動詞）
指定券がとれる　買得到預售票

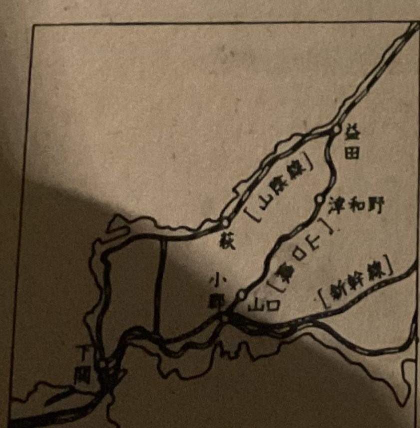
売り出す　開始賣
手に入る　到手・得到
間違いなく　正確地・確定・確實地

近いうちに　近期・這幾天內
地図　地圖
案内書　指南手冊
都合　方便
～様　～先生・小姐

■ 本　文

先日はごちそうさまでした。例の旅行の計画がまとまったので、お知らせします。

行く先は山陰の津和野と萩にしました。早速、交通公社へ行って相談し、次のような日程を組んでみました。





	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日
朝	東京（9時発）↓（新幹線）	（終日津和野見物）	津和野（9時ごろ発）↓（山口線）	（終日萩見物）	（午前中萩見物）↓
昼	小郡 ↓（山口線）		益田（途中下車するか）↓（山陰線） 萩（2～3時ごろ着）		萩（正午ごろ発）↓（山陰線）
夜	津和野（4時20分着）				下関 ↓（新幹線） 東京（9時ごろ着）
	津和野泊	津和野泊	萩　泊	萩　泊	

まず津和野へ行くわけですが、着くのが夕方ですから、その日は旅館の近くを散歩するぐらいにして、次の日にゆっくりと町の中を見て歩くことにしました。小さい町ですが、お城の跡や武家屋敷など、一日では見きれないくらい見物する所があるという話です。また、「雁」や「高瀬舟」で有名な作家、森鷗外の生まれた家やお墓もあるそうです。

津和野に二泊して、五日の朝、九時ごろの列車で萩へ向かいたいと思います。津和野から萩までは二時間余りです。益田（乗換え駅）で途中下車をして万福寺に寄ってみたらどうかと、交通公社の人がすすめてくれました。その寺には、雪舟が作ったと言われるきれいな庭があるのだそうです。駅から二時間もあれば十分往復できるようですから、天気さえよかったら行ってみませんか。

萩にも二泊します。萩は津和野よりずっと大きな町なので、そ

4. • 益田で途中下車をして万福寺に寄ってみたらどうかと、交通公社の人がすすめてくれました。(*l.* 12)

(1) この大学を受験(じゅけん)してみたらどうかと、先輩がすすめてくれた。

(2) この本を読んでみたらどうかと、友だちが貸してくれた。

(3) 人に聞いてばかりいないで、少しは自分で調(しら)べてみたらどうかと先生に注意された。

(4)「お父さんに相談(そうだん)してごらんになったらいかがかと思います。」

(5)「今からでも間に合うか、電話(でんわ)をかけてきいてみたらどうかと思うのですが。」

5. • 駅から二時間もあれば十分往復できるようですから、天気さえよかったら行ってみませんか。(*l.* 15)

(1)「駅までなら、タクシーで千円もあれば十分行けますよ。」

(2) 一週間も練習(れんしゅう)すれば、できるようになると思う。

(3) この仕事は二・三人もいれば、きょうじゅうに十分終わるだろう。

(4) この薬を飲んで二・三日もじっと寝(ね)ていれば、なおります。

(5)「ただ今会議中ですが、あと三十分もすれば終わると思います。」

6. • 天気さえよかったら行ってみませんか。(*l.* 16)

(1)「あなたの都合さえよかったら、すぐ出かけましょう。」

(2)「やり方さえ教えてもらえば、自分でやります。」

(3) この本さえ買えば、あとは用事はない。

(4) この試合にさえ勝てれば優勝(ゆうしょう)ができそうだ。

(5) ペンキがかわきさえすればすぐ使ってかまわない。

7. • 萩は津和野よりずっと大きな町なので、それだけ見る所も多いようです。(*l.* 17)

(3) 東京に来てちょうど一か月になるわけだが、まだよく東京の地理がわからない。

(4)「さっき説明したように、あすから授業が始まるわけですが、テキストにはこの本を使います。」

(5) この事故は彼に責任があるわけだが、大けがをしているのでくわしい事情を聞くことができない。

2. • その日は旅館の近くを散歩するぐらいにして、次の日にゆっくりと町の中を見て歩くことにしました。(l. 5)

(1) 大阪は大阪城を見物するぐらいにして、すぐ京都へ行くことにする。

(2)「荷物は着がえを一・二枚持って行くぐらいにして、なるべく少なくしましょう。」

(3) それほど急ぐ仕事ではないから、今晩はこのぐらいにして、また、あしたやることにしよう。

(4) 朝ごはんはパンとコーヒーぐらいにして、昼ごはんをたくさん食べることにしている。

(5) 酒はあまり好きではないと言っても、ビールぐらいなら飲むだろう。

3. • 一日では見きれないくらい見物する所があるという話です。(l. 8)

(1) 一度には食べきれないくらいごちそうがある。

(2) きのうの会には予想以上に人が集まって会場にはいりきれないくらいだった。

(3) バスの停留所には一台では乗りきれないくらい、大ぜいの人が待っている。

(4) 彼は一生かかっても読みきれないほどの本を買い込んだが、一体どうするつもりなのだろう。

(5) そういう例は数えきれないほどたくさんある。

れだけ見る所も多いようです。ここも江戸時代のおもかげを残している武家屋敷などが主な見どころだという話です。

萩には洋式のホテルもあるようですが、せっかく古い城下町を見に行くのだからと思って、日本式の旅館を頼みました。結局、津和野も萩もそれぞれ二泊ずつ、朝晩二食付きで一泊八千円の部屋が予約できました。どちらもバス・トイレ付きで、税・サービス料込みの料金です。

四泊五日の旅行になりますから、着がえを少々と雨具を用意するほうがいいと思います。

なお、行きと帰りの新幹線だけ指定券を頼みました。指定券は乗る日の一週間前に売り出すので、今はまだ手に入らないのですが、多分間違いなくとれるだろうという話でした。

近いうちに、地図や案内書などをお見せしたいと思います。都合のよい日をお知らせください。

九月十日

松田三郎

ジョン・スコット様

■ 用　　例

1. • まず津和野へ行くわけですが、着くのが夕方ですから、その日は旅館の近くを散歩するぐらいにして、次の日にゆっくりと町の中を見て歩くことにしました。(*l. 5*)

(1) この前、雨が降ったのは先月の五日だから、ちょうど一か月降らないわけだ。

(2) 「あかないわけです。かぎが違っているのですから。」

作家　作家

墓　墳，墳墓

二泊する　住二夜

列車　列車

萩へ向かう　往「萩」去，前往「萩」

二時間余り　二小時多

乗換え駅　換乘火車的車站

乗換え　換乘，換車

乗換える　改乘

〜寺　〜廟

寄る　順便到（去另一個目的地中途拐到某處）

すすめる　勸告

寺　（佛教）寺廟

十分　充分地，足夠地

往復する　往返（自動詞）

往復　往返

天気さえよかったら　只要天氣好的話（さえ指出唯一採取行動的情況：好天氣）

江戸時代　江戸時代

おもかげ　跡象，風貌，姿容，風采

主だ　最主要

見どころ　遊玩，觀賞的地方

洋式　西式

〜式　樣式，類型

せっかく　特意

城下町　城鎮，以城堡爲中心繁榮起來的城鎮

頼む　請求，拜託

結局　結果，最後

それぞれ　各各，各個

二泊ずつ　各二晚

朝晩二食付き　附帶早晚二餐

〜付き　附帶，包含

一泊八千円　一晚八千日幣

予約する　預約（他動詞）

予約　預約（名詞）

バス　浴室

トイレ　化粧室，盥洗室

税・サービス料込み　包括稅金和服務費

〜料　〜費用

〜込み　包含〜

料金　費用

四泊五日　四夜五天

■ 会　話　　旅行から帰って

人　A：最近、高山へ行ってきた学生

B：Aの友人

A₁：この前、高山に行ってきたよ。

B₁：あら、いいところへ行ったわねえ。よかったでしょ。わたしも去年行って感激しちゃった。

A₂．ああ、そうだったね。そう言えば君ぐらいの年ごろの女性客が大勢いたなあ。

B₂：高山とか木曽って、女性に人気がある[1]観光地なのよ。

A₃：そうらしいね。萩とか、津和野なんかも人気があるんだってね。

B₃：京都も忘れないでよ。

A₄：ああ、もちろん。………ねえ、今言った町には、どこか共通点があると思わない。

B₄：ええ、たしかにあるわよね。みんな古い町で、昔の家とか、いろんな建物なんかが、たくさん残ってるところなんか[2]。

從旅行回來

人物：A：最近曾去高山的學生

B：A的朋友

A₁：前幾天，我去高山旅行了。

B₁：喲，去了一個好地方呀！我去年也去過而且非常喜歡那地方。

A₂：是啊！聽說你去過的呢！如此說來，像你那般年齡的女性觀光客很多囉！

B₂：像高山啦！木曾啦！是很得女性觀光客喜愛的觀光區。

A₃：就是啊！像荻啦或津和野那些地方也是討人喜歡的哩！

B₃：不要忘了還有京都。

A₄：啊！那當然啦！嗯！現在說的城鎮，你不覺得那裡有相同之處嗎？

B₄：是的，的確是如此，它們都是古老的城鎮，保留著很多古老的房子啦！各式各樣的建築物等。

(1)「この辺は駅に近くて便利なので、それだけアパートの部屋代も高いようです。」

(2) この子のほうが一つ年上（としうえ）なので、それだけ体も大きい。

(3) この研究にはたいへんな苦労（くろう）をしたので、成功した今は、それだけ喜びも大きい。

(4) 休まないで毎日練習すれば、それだけ進歩（しんぽ）も速（はや）くなる。

(5)「こっちのほうが品物（しなもの）がいいね。それだけねだんも高いけど。」

8. • <u>せっかく</u>古い城下町を見に行くのだからと思って、日本式の旅館を頼みました。*(l. 20)*

(1) せっかく日本に来たのだから、日本の料理を食べてみよう。

(2)「せっかく作ったのですから、食べて帰ってください。」

(3) せっかく高いカメラを買ったのに、さっぱり使う機会がない。

(4) せっかくおみやげを持って遊（あそ）びに行ったのに、田中さんは留守（るす）だった。

(5) 私のせっかくのプレゼントを彼はあまり喜んでくれなかった。

9. • せっかく古い城下町を<u>見に行くのだからと思って</u>、日本式の旅館を頼みました。*(l. 20)*

我想……所以……

(1) せっかく日本に来たのだからと思って、日本人の家に下宿（げしゅく）した。

(2) あなたが来るからと思って、たくさんごちそうを作りました。

(3)「君がおこるからと思って今まで言い出せなかったんだが、実は、この間借（か）りた本をなくしてしまったんだよ。」

(4) 冬の北海道（ほっかいどう）だからと思って厚着（あつぎ）して来たら意外に寒（さむ）くなかった。

(5) 友だちの紹介だからと思って信用（しんよう）して買ったら、ひどい品物だった。

話者無法很清楚的說明）。 ⑭趣きがある——帶有藝術情趣的。 ⑮ちょっと——稍微。 ⑯いやね——一種發語詞。 ⑰そりゃ＝それは(C)。 ⑱そんなふうに＝そんなように。 ⑲つまんなくなっちゃわない＝つまらなくなってしまわない(C)。 ⑳そういえばそうだ——你要這麼說，也沒錯／對，你可以這麼說。

■ 会話の練習

I. 京都とか奈良とかは、女性に人気がある観光地なんです。

京都和奈良都是女人喜歡去的觀光勝地。

高山とか木曽って、女性に人気がある観光地なのよ。……B_2

這是一種舉出例子說明事情的方法，要注意～に人氣がある和～とか～とか的使用和練習。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例） 女性に——→

京都とか奈良とかは、女性に人気がある観光地なんです。

1. 若い人に——→

京都とか奈良とかは、若い人に人気がある観光地なんです。

2. 学生に——→

京都とか奈良とかは、学生に人気がある観光地なんです。

3. 外国人に——→

京都とか奈良とかは、外国人に人気がある観光地なんです。

4. 歴史の好きな人に——→

京都とか奈良とかは、歴史の好きな人に人気がある観光地なんです。

5. 年寄にも若い人にも——→

京都とか奈良とかは、年寄にも若い人にも人気がある観光地なんです。

6. 女性にも男性にも——→

京都とか奈良とかは、女性にも男性にも人気がある観光地なんです。

A_{11}：うん、そうなんだ。

B_{11}：どんなこと。

A_{12}：いやね。[16] また行きたいとは思うんだけど、住みたいとは思わない。それはなぜかってことさ。

B_{12}：そりゃ[17]、まあ、わたしも、そうね。

A_{13}：つまり、ぼくたちは旅行者として見るからいいんだろうね。

B_{13}：もし、冬（ふゆ）、ああいう家に住むとしたらたいへんでしょうね。寒（さむ）くって。

A_{14}：趣きはあるけど生活には不便だよね。

B_{14}：そんなふうに[18]考えたら、旅行するのがつまんなくなっちゃわない。[19]

つまらなくなってしまわない

A_{15}：そういえばそうだ[20]な、たしかに。

A_{11}：嗯，是的。

B_{11}：什麼事？

A_{12}：喔，我只是想再去，但不想住下來，這是爲什麼呢？

B_{12}：是啊，我也是那樣想。

A_{13}：換句話說，就我們旅行者來看覺得那裡很不錯。

B_{13}：如果，冬天住在那種屋子裡，不得了吧！太冷了。

A_{14}：這些房子是富有情趣的但對生活不方便呢！

B_{14}：如果那樣想的話，旅行就變成枯燥無味的事呢？

A_{15}：一點不錯！正如你說的。

註解

(1)人氣がある——很受歡迎。　だってね＝だというね，だそう（だ）ね(C)。　(2)みんな……なんか——全都是充滿古老房屋，和大建築物遺跡的古都。　(3)ばらばら——零星散布(O)。　(4)町並み——市容，都市外觀。　(5)～そのもの——某物某事本身（加強的語氣）。　(6)昔のまま——如往昔，昔のままっていう感じ＝昔のままという感じ。(7)地元の人——當地人，該區居民。　(8)熱意がある——很熱心的。　(9)行ったろう＝行っただろう（C，m）。　(10)見ての御感想——觀後感。　(11)高くって＝高くて(C)。(12)手間をかける——刻意地或費心地去做。　(13)なんとなく——就某種意義來說，（設

A$_5$：それも、ばらばら[3]に残っているんじゃなくて、町並み[4]そのもの[5]が昔のまま[6]っていう感じだねえ。

B$_5$：やっぱり、地元[7]の人に、昔のものを保存しようという熱意がある[8]からでしょうね。

A$_6$：うん、そうかもしれないね。高山じゃ日下部民芸館に行ったろう[9]。

B$_6$：ええ、もちろんよ。

A$_7$：どう、見ての御感想は[10]。

B$_7$：いいわねえ、どっしりした柱が黒く光っているのって。天井も高くって気持がいいし[11]。それに、らんまの彫刻もすばらしかったわ。

A$_8$：細かいところに手間をかけて[12]いるよね。

B$_8$：ああいう家って、なんとなく[13]家全体に落ち着いた感じがするわね。

A$_9$：新建材とかコンクリートの家より、木の家の方が趣きがある[14]なあ、たしかに。

B$_9$：また、行ってみたいなあ。

A$_{10}$：そうだね。だけど、ちょっと[15]考えたことがあるんだけど。

B$_{10}$：何。旅行に行って考えたの。

A$_5$：並且它們不只是零零落落地保留下來，就街上的房子排列也覺得和從前一樣呢！

B$_5$：那是因爲當地的人們仍然有股保存古物的熱忱吧！

A$_6$：嗯！可能如此吧！去過高山的日下部的民族藝術館吧？

B$_6$：嗯，當然。

A$_7$：怎樣？感想如何？

B$_7$：太棒了，沈重的柱子還黑的發光，天井也很高感覺很好，而且拉窗上的彫刻也很漂亮。

A$_8$：細微的地方，都花了一番工夫呢！

B$_8$：像這樣的房子，讓人覺得有一種穩定寧靜感。

A$_9$：比起鋼筋水泥之類現代化的建築房子，的確，木造的房子，比較富有情趣。

B$_9$：眞想再去看看啊！

A$_{10}$：是啊！但是我想過這樣的事……。

B$_{10}$：什麼事，旅行的事？

2. 民族[1]・勤勉だ[2]──────→

A： 今言った民族には、どこか共通点があると思いませんか。

B： ええ、たしかにありますね。どちらも勤勉ですね。

3. 国・歴史が古い──────→

A： 今言った国には、どこか共通点があると思いませんか。

B： ええ、たしかにありますね。どちらも歴史が古いですね。

4. 絵・暗い感じがする──────→

A： 今言った絵には、どこか共通点があると思いませんか。

B： ええ、たしかにありますね。どちらも暗い感じがしますね。

5. 大学・自由な雰囲気をもっている──────→

A： 今言った大学には、どこか共通点があると思いませんか。

B： ええ、たしかにありますね。どちらも自由な雰囲気をもっていますね。

6. 作品・細かいところに手間をかけている──────→

A： 今言った作品には、どこか共通点があると思いませんか。

B： ええ、たしかにありますね。どちらも細かいところに手間をかけていますね。

V. A「どうですか、御感想は。」

B「いいですね、細かいところに手をかけた家は。それに、ふすまの絵もすばらしいですね。」

A：怎樣？你的感想如何？

B：很好，這是一幢連細微處都精心建造的房子，而且在紙窗門上的畫棒極了。

「どう、見ての御感想は。」……A_7

「いいわねえ、どっしりした柱が黒く光っているのって。天井も高くって気持かいいし。それに、らんまの彫刻もすばらしかったわ。」……B_7

這句型讓人練習問別人的印象和回答的方法，讀者應該特別注意讚美的說話技巧，同時注意把題材範圍擴大的方法，因爲這是比較難用外國語來表達。

1. 洋服・着物(きもの)——→
洋服より、着物のほうが趣きがありますね、たしかに。

2. ホテル・旅館——→
ホテルより、旅館のほうが趣きがありますね、たしかに。

3. 洋間・和室(わしつ)——→
洋間より、和室のほうが趣きがありますね、たしかに。

4. 新しいもの・古いもの——→
新しいものより、古いもののほうが趣きがありますね、たしかに。

5. 機械で作ったもの・手で作ったもの——→
機械で作ったものより、手で作ったもののほうが趣きがありますね、たしかに。

6. 晴(は)れた日・雨(あめ)の日——→
晴れた日より、雨の日のほうが趣きがありますね、たしかに。

Ⅳ. A「今言った町には、どこか共通点があると思いませんか。」
B「ええ、たしかにありますね。どちらも昔のおもかげがありますね。」
A:你不覺得我們所提到的城鎮有共同的地方嗎？
B:是的，這的確有共同的地方，這兩個城市都仍然保留着過去的痕跡。
「……ねえ、今言った町には、どこか共通点があると思わない。」……A_4
「ええ、たしかにあるわよね。みんな古い町で、昔の家とか、いろんな建物なんかが、たくさん残ってるところなんか。」……B_4

這是一種表明兩種事物有共同點的方式。注意B不單只同意，更以他所提出的觀點支持A的說法。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）町・昔のおもかげがある——→
A： 今言った町には、どこか共通点があると思いませんか。
B： ええ、たしかにありますね。どちらも昔のおもかげがありますね。

1. 町・明(あか)るい感じがする——→
A： 今言った町には、どこか共通点があると思いませんか。
B： ええ、たしかにありますね。どちらも明るい感じがしますね。

II. ああいう家って、なんとなく落ち着いた感じがしますね。

像這樣的房子不由得讓人覺得穩定寧靜。

ああいう家って、なんとなく家全体に落ち着いた感じがするわね。……B。

這是一種表現模糊感覺的普通方式，但是要注意ああいう～的用法表示一種說話者和訴者之間對所討論的事有共同的感受。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）落ち着いた家——→

ああいう家って、なんとなく落ち着いた感じがしますね。

1. 落ち着いた町——→

ああいう町って、なんとなく落ち着いた感じがしますね。

2. 落ち着かない店——→

ああいう店って、なんとなく落ち着かない感じがしますね。

3. 使いにくいカメラ——→

ああいうカメラって、なんとなく使いにくい感じがしますね。

4. 入りにくい店——→

ああいう店って、なんとなく入りにくい感じがしますね。

5. 住みにくい家——→

ああいう家って、なんとなく住みにくい感じがしますね。

6. 体（からだ）が弱そうな人——→

ああいう人って、なんとなく体が弱そうな感じがしますね。

III. コンクリートの家より、木の家のほうが趣きがありますね、たしかに。

確實，木做的房子比之水泥的房子富有情趣。

新建材とかコンクリートの家より、木の家のほうが趣きがあるなあ、たしかに。……A。

在這種情況，最後的たしかに應該以強烈感情口吻來說，要小心，在這個字和主句部份不要停頓太久。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）コンクリートの家・木の家——→

コンクリートの家より、木の家のほうが趣きがありますね、たしかに。



3. すばらしい・住みたい→

A： ちょっと考えたことがあるんですが。

B： どんなことですか。

A： すばらしいとは思うけれど、住みたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

4. 友達になりたい・結婚したい→

A： ちょっと考えたことがあるんですが。

B： どんなことですか。

A： 友達になりたいとは思うけれど、結婚したいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

5. この仕事は辛い[6]・やめたい→

A： ちょっと考えたことがあるんですが。

B： どんなことですか。

A： この仕事は辛いとは思うけれど、やめたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

6. 時々行きたい・長く住みたい→

A： ちょっと考えたことがあるんですが。

B： どんなことですか。

A： 時々行きたいとは思うけれど、長く住みたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

---

1. 民族，　2. 勤奮的　3. 傢俱　4. 花樣　設計　5. 刺繡
6. 困難的，痛苦的，考驗的。

Ⅵ. A「ちょっと考えたことがあるんですが。」
B「どんなことですか。」
A「また行きたいとは思うけれど、住みたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。」

A：我想過這樣的事……
B：什麼事？
A：我想我會再去一次，不過我不認爲我會喜歡住在那裏，所以我一直在想究竟是爲什麼。

「……　だけど、ちょっと考えたことがあるんだけど。」……A_{10}
「……。」……B_{10}
「……。」……A_{11}
「どんなこと。」……B_{11}
「いやね。また行きたいとは思うんだけど、住みたいとは思わない。それはなぜかってことさ。」……A_{12}

注意A當時如何透露他的想法。與其讓B大吃一驚的用"我想…"不如以ちよつと考えたことがあるんですが來作起頭，注意這類的會話，通常只在朋友間才出現。

練習　例にならって会話をしなさい。

(例) また行きたい・住みたい――→
A：　ちょっと考えたことがあるんですか
B：　どんなことですか。
A：　また行きたいとは思うけれど、住みたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

1. 時々会いたい・いつも一緒にいたい――→
A：　ちょっと考えたことがあるんですが。
B：　どんなことですか。
A：　時々会いたいとは思うけれど、いつも一緒にいたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

2. おもしろそうだ・やってみたい――→
A：　ちょっと考えたことがあるんですが。
B：　どんなことですか。
A：　おもしろそうだとは思うけれど、やってみたいとは思わない。それはなぜかってことなんです。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 家・ふすまの絵 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけた家は。それに、ふすまの絵もすばらしいですね。

1. 家・庭 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけた家は。それに、庭もすばらしいですね。

2. 家・家具 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけた家は。それに、家具もすばらしいですね。

3. もの・色 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけたものは。それに、色もすばらしいですね。

4. もの・色や形 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけたものは。それに、色や形もすばらしいですね。

5. もの・色や柄 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけたものは。それに、色や柄もすばらしいですね。

6. 刺しゅう・柄や色 ――→

A： どうですか、御感想は。

B： いいですね、細かいところに手をかけた刺しゅうは。それに、柄や色もすばらしいですね。

第八課　豊作貧乏

■ 新出語

豊作貧乏　豊收引起的貧乏

豊作　豊收，作物豊收

貧乏　貧窮，貧乏（名詞）

貧乏する　使貧窮，貧乏（動詞）

なにげない　無意中，若無其事地

一面　一大片～，整個區域

キャベツ畑　包心菜圃，（甘藍菜）園

片はしから　依次，一個個地全部都～

トラクター　農耕曳引機

踏みつぶす　踏碎，踏爛

画面　畫面，銀幕

映し出す　放映出來，顯出影像

何で　爲什麼

あんな　那樣的

もったいない　可惜的，浪費的

アナウンサー　播音員，新聞播音員

耳を傾ける　傾耳注意聽

傾ける　傾向，傾斜

例年になく　例年少有的，不尋常的

例年　往年，例年

収穫する　收成，收穫（動詞）

収穫　收穫（名詞）

出荷する（用船）運出，上市（動詞）

出荷　裝船運出，上市

どんどん　很快地，不間斷地

値　價值，價格

大量　大量

かえって　反而

赤字　虧空，入不敷出，赤字

出荷量　出貨量，上市總數

おさえる　抑制

保存がきく　能夠保存

保存　保存（名詞）

保存する　保存（動詞）

きく　使～有效，使～可能

やむをえず　不得已

つぶす　糟蹋，壓碎，搗碎

農村　農村，鄉村

なまじ～ために　由於馬馬虎虎的～t，由於欠缺週詳的，由於太～

損をする　蒙受損失（動詞）

損　損失（名詞）

需要　需要，（貨物的）需求

供給　供給，（貨物的）供應

　供給する　供給（動詞）

調整する　調整，調節（動詞）

　調整　調整，調節（名詞）

とれすぎる　濫拿，取得太多

　とれる　收取，收獲，捕獲（魚，蝦等）

世界的だ　世界性的

　世界　世界

食糧危機　糧食危機

　食糧　食物，食糧

　危機　緊急，危機

実に　實際，實在

馬鹿げた　愚蠢的，不合理的，可笑的

守る　維護，保護，防衛，遵守

農民　農民，農夫

こうした～　像這樣，這樣的～

手段　手段，辦法，步驟

やむをえない　不得不

一方　另一方面，同時

我々　我們

消費者　消費者

　消費　消費（名詞）

　消費する　消費（動詞）

大いに　非常地

結構だ　很好的，非常好的

新鮮だ　新鮮的

異を唱える　高唱反調，大放異論

　唱える　提倡

まず～あるまい　不可能有～吧！

小売店　零售店

　小売　零售（名詞）

　小売する　零售（動詞）

店頭　商店

たとえば　譬如

生産者　生產者

　生産　生產者（名詞）

　生産する　生產、製造

昨年　去年

半値　半價

嘆く　嘆息，悲嘆

前年　前幾年

せいぜい　充其量，最多不過～

二・三割　百分之二、三十

　～割　～成，～的十分之一

どうやら　似乎～

～の側　～這一邊

犠牲を払う	付出犧牲
払う	付出
見合う	平衡，抵得上，相稱
恩恵	利益
受ける	蒙受，接受
おそらく	恐怕，可能～
結ぶ	連接，結合，綁在一起
流通機構	分派，指揮機構
流通	流通，分派，流動（名詞）
流通する	流通（動詞）
機構	機構，結構，制度
複雑だ	複雜的
仕組み	結構，組織
原因	原因
現状	現狀，現在的情況
～のもとで	在～之下
今後	今後

■ 本　文

夕食の時、なにげなくテレビのニュースを見ていたら、一面のキャベツ畑を片はしからトラクターで踏みつぶしている画面が映し出されていた。何であんなもったいないことをするのだろうと思って、アナウンサーの声に耳を傾けると、次のような説明をしていた。

今年は例年になくキャベツが豊作で、収穫したキャベツを全部出荷しようとすれば、どんどん値が下がる。大量に出荷すればするほどかえって赤字になる。それで、出荷量をおさえるために、保存のきかないキャベツのことだから、やむをえずつぶしているのだ、という。

農村では、なまじ豊作であったためにかえって損をすることがよくある。需要と供給の関係をうまく調整することができず、とれすぎて損をすることを「豊作貧乏」というのだそうだ。

世界的な食糧危機が問題にされている今日、実に馬鹿げたことだと思われる。だが、生活を守るために、農民がこうした手段を選ばなければならないのは、やむをえないことのようだ。

一方、我々消費者の立場からすれば、豊作大いに結構。新鮮な野菜やくだものが安く買えることに異を唱える者はまずあるまい。ところが、現実には、小売店の店頭に出されると、期待されたほどは安くなっていないことが多い。たとえば、生産者は昨年の半値でしか売れないと嘆いているのに、小売店では、前年に比べてせいぜい二・三割しか安くなっていない、ということだ。どうやら、生産者の側が払った犠牲に見合うほどの恩恵を、我々消費者は受けていないようだ。

これはおそらく、生産者と消費者の間を結ぶ流通機構の複雑な仕組みに原因があるのだろう。現状のような流通機構のもとでは、こうしたことが今後も続くのではないだろうか。

■ 用　例

1. • 何であんなもったいないことをするのだろうと思って、アナウンサーの声に耳を傾けると、次のような説明をしていた。(*l*. 3)

(1) 彼は何であんないい就職口をことわってしまったのだろう。

(2) もう九月だというのに、どうしてこんなに暑いのだろう。

(3) 毎日雨でいやになってしまう。一体いつになったら晴れるのだろう。

(4) 物価は高いし、アルバイトはないし、これからどうやって生活すればいいのだろう。

(5)「ひどいことをするもんですね、爆弾をしかけるなんて。」
「ほんとに、だれがあんなばかなことをしたんでしょう。」

2. • 大量に出荷すればするほどかえって赤字になる。(l. 7)

(1) この絵は見れば見るほどすばらしい。

(2) 考えれば考えるほどこの問題のむずかしさがわかってきた。

(3) ことわるなら早いほうがいい。時間がたてばたつほどことわりにくくなる。

(4)「いくらぐらいの品をおさがしですか。」「そりゃあ、安ければ安いほどいいが、すぐこわれてしまうようなのじゃ困るね。」

(5) 金をもうけようとすればするほど、かえって赤字がふえてしまった。

3. • 大量に出荷すればするほどかえって赤字になる。(l. 7)

(1) 弁解（べんかい）すればするほど、かえって彼はみんなに疑（うたが）われた。

(2) せっかく高い金を払ってタクシーに乗ったのに、道（みち）がこんでいたので、かえっておそくなってしまった。

(3) 親切（しんせつ）に注意してやったのに、かえって彼女にうらまれてしまった。

(4) くびになってもいいと思ってはっきり文句を言ったら、かえって社長（しゃちょう）に喜ばれた。

(5) 高級（こうきゅう）なレストランの料理がおいしいとは限らない。かえって、大衆的（たいしゅうてき）なレストランのほうがおいしいことがある。

4. • 保存のきかないキャベツのことだから、やむをえずつぶしているのだ、という。(l. 9)

(1) なまけ者の彼のことだから、約束の日までに仕事は終わらないだろう。

(2) 物価の高い東京のことだから、奨学金（しょうがくきん）だけでは生活が苦しいだろう。

(3) 夏だといっても、高原（こうげん）のことだから朝晩（あさばん）はかなり冷える。

(4) あの店のことだから、そんなに悪い品は売らないだろう。

(5)「この案に田中さんも賛成してくれるでしょうか。」
「さあね、田中さんのことだから、きっとすぐにうんとは言わないでしょうね。」

5. • 農村では、なまじ豊作であったためにかえって損をすることがよくある。(l. 11)

(1) なまじ朝早く起きたために、ゆだんして遅刻してしまった。

(2) なまじ美人に生まれたため、かえって結婚の機会をのがしてしまった。

(3) 彼はなまじ健康に自信があって健康診断を受けていなかったので、癌の発見が遅れてしまった。

(4) なまじ金を持っていたので、つい要らないものまで買ってしまった。

(5) なまじ頭がいいと、努力を怠り、かえって失敗することがよくある。

6. • 世界的な食糧危機が問題にされている今日、実に馬鹿げたことだと思われる。(l. 14)

(1) 世代が違えば考え方も違うのは当然なことだと思われる。

(2) 外国語を学ぶ人がふえているのは好ましいことだと思われる。

(3) 金さえあれば何でもできる、という考え方が社会を支配するのは危険なことだと思われる。

(4) 石油などは掘ればいくらでも出てくる、というような安易な考えが今日のエネルギー危機を招いたのだと思われる。

(5)「このような傾向は日本だけではないと私には思われます。」

7. • 我々消費者の立場からすれば、豊作大いに結構。(l. 17)

(1) 夫の立場からすれば週休二日制は大いに結構であるが、妻の立場からすれば、せまい家の中で一日中夫がテレビの前にすわっていると、掃除もできなくて困るというわけである。

(2) 経営者側からすれば組合の要求に安易に応じるわけにはいかない。

(3) 少しぐらい交通の便が悪くても、環境の良さという点からすれば、こんないい所はない。

(4) 彼の日ごろの主張からすれば、文化勲章を辞退したのは当然だ。

8. • 新鮮な野菜やくだものが安く買えることに異を唱える者はまずあるまい。(l. 17)

(1) 人にほめられてうれしいと思わない者はまずあるまい。

(2) きょうは降るまいと思って傘を持たずに来たのに、午後からまたひどい雨になった。

(3)「お口に合うまいと思いますが、どうぞ。」
「まあ、おいしそう。いただきます。」

——— * ——— * ——— * ———

(4) 二日酔になるたびにもう二度と酒は飲むまいと思うのだが、誘われるとついまた飲んでしまう。

(5)「こう寒いと、言うまいと思ってもつい『寒い』と言いたくなりますね。」

(6)「きょうの会に出ようと出まいと君の自由だ。」

9. • どうやら、生産者の側が払った犠牲に見合うほどの恩恵を、我々消費者は受けていないようだ。(l. 22)

(1) 天気予報によると、どうやらあしたも雨のようだ。

(2)「はじめは怒っていましたが、最後にはどうやら納得したらしいです。」

(3)「あの人は合格したんでしょうか。」
「さあ、あの顔を見ると、どうやらだめだったようですよ。」

(4) 我々労働者の苦労がどうやら経営者にはわかっていないようだ。

(5) 彼女もとうとう結婚して、どうやら平凡な生活に入ったようだ。

10. • 現状のような流通機構のもとでは、こうしたことが今後も続くのではないだろうか。(l. 26)

(1) 現在のような社会機構のもとでは、学歴のない人間は損な立場に立たされることが多い。

(2) 封建的な父権制度のもとでは、女性の人権は無視されていた。

(3) 厳しい先生のもとで修行したおかげで、彼は立派な画家になることができた。

(4) 国家の保護のもとに福祉事業が強力に進められるようになった。

(5) 国土開発の名のもとに無残な自然破壊が行われている。

11. • 現状のような流通機構のもとでは、こうしたことが今後も続くのではないだろうか。(l. 26)

(1) 今、東京に大地震が起きたら、関東大震災以上の死者が出るのではないだろうか。

(2) 外国語を覚えるためには、その国へ行って習うのが一番いいのではないだろうか。

(3)「発車まであと三十分しかないんだから、今から行っても間に合わないんじゃないでしょうか。」

(4) 個人の力などは社会を変える役には立たないのではないだろうか。

(5) どんな結果になるかを考えるよりも、いいと思ったことは、とにかくやってみることが必要なのではないだろうかと思う。

■ 会話

豊作貧乏

(1)

人 A： ある会社員
B： Aの同僚

A₁：きのうは、ちょっと驚きましたよ。

B₁：どうしてですか。

A₂：テレビを見てましたらね、ブルドーザーでつぶしているんですよ。一面のキャベツ畑をかたっぱしから踏[1]みつぶしていくんです。

B₂：あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。ただ、あれなんですってね。[2] ああいうことは、キャベツだけじゃなくて、ミカンとか、ほかのくだものや野菜の場合でも時々あるらしいんですね。

A₃：そうですか。考えてみると、世界には食糧が足りなくて困っている国がいくらもあるっていうのに、せっかくの作物をつぶしたり、捨てたりするなんて、どうも……。

豐收貧乏

(1)

人物A：某位公司職員
B：A的同事

A₁ 昨天我有點吃驚耶？

B₁：爲什麼呢？

A₂. 我看了電視呢，有個畫面是堆土機在壓踏著包心菜哦，一行一行地把整個包心菜田都壓爛了。

B₂：啊！那個新聞我也看過了哦。但是，你知道那種事情不只是包心菜，似乎橘子，其他的水果、蔬菜等等也時常發生這種事呢！

A₃：眞的嗎？想想看世界上爲了糧食不夠而傷腦筋的國家不知有多少，但我們這樣故意毀掉丟棄農作物，實在太………。

B₃：おかしな話ですよ[3]ね。きのうのキャベツの話では、できすぎると値段がどんどん安くなるから、うっかり出荷できない。出荷すればするほど赤字が大きくなってしまって、自動車のガソリン代[4]にもならないってことがあるっていってましたね。

A₄：ええ、そうでしたね。だから、値くずれをふせぐ[5]ために、やむをえずつぶしているんだという話でしたけど、どうも何かまちがっているようですね。

(2)

人　A：ある主婦

　　B：Aと親しく交際している近所の主婦

A₁：ミカンが大豊作だって聞いてる[6]のに、ちっとも安くならないわね。

B₁：ほんと。でも、ミカンだけじゃないわよね。ほかの野菜もみんなそうでしょう。

B₃：你的話有點荒謬呢，就拿昨天看過的那個包心菜問題來說，因爲收穫太多價錢就會變得便宜，所以不能全部上市。上市愈多赤字就愈大，甚至都不夠卡車的汽油費呢。

A₄：嗯，原來如此。所以爲了防止價格太賤，不得不把包心菜壓掉，不過我覺得似乎有點不大對勁耶！

(2)

人物：A：一位家庭主婦。

　　　B：和B很熟悉的附近主婦。

A₁：聽說橘子大豐收，但是一點也不便宜耶！

B₁：不錯！但是不只橘子而已耶。其他的蔬菜也都是如此呢！

A_2：魚だって[7]そうよね。いくらたくさんとれたなんていっても、わたしたちが買う時は、そんなこと関係ない値段だわ。

B_2：ミカンなんて、作ってるとこでは、捨ててるっていうのに。

A_3：いったい、どうなっちゃってる[8]のかしら。

B_3：ほんとよね。いくら<u>値くずれ</u>をふせぐためっていっても捨てなくちゃならないんですもの。

A_4：生産者も辛いだろうと思うわ。せっかく丹精して作ったん[9]でしょうに。

B_4：ミカンもかわいそうよね。捨てられちゃうなんて。

A_5：わたし、行って拾ってこようかしら。ミカンを助けてあげたいわ。

B_5：みんなで行きましょうか。

A_6：そして、大安売りでもして。

B_6：ミカンでも何でも、わたしたちのところへ来るまでに、どっかで[10]高くなっちゃうんでしょうねえ。

A_7：そうなんでしょうね。ずいぶん複雑だって話[11]聞いたことあるわ、あの、リューツー……。

A_2：魚也是呢！即使捕得很多，我們買的時候價錢跟那個一點也沒關係呢！

B_2：聽說橘子成熟了却把它們丟掉。

A_3：這樣做不知是為什麼？

B_3：一點不錯！聽說為了防止價格太低賤，但即使如此也不應該全部毀掉呀。

A_4：我想生產者一定也很痛心吧！自己血汗辛勞種植的東西呢！

B_4：橘子似乎很可憐耶。被人類這樣拋棄！

A_5：說不定我要去撿它們呢。救救橘子哦！

B_5：我們一齊去吧。

A_6：然後，再來個大拍賣。

B_6：橘子也好，其他東西也好，來到我們手中之前不知在什麼地方變得如此昂貴呢！

A_7：我想可能是這樣，聽說原因相當複雜呢！那個，流通……。

B₇：流通機構、でしょ。

A₈：そうそう、その流通機構。そこをぐるぐるまわっている[12]うちに値段が上がっちゃうのよね。

B₈：そうらしいわねえ。生産者の手から消費者のところに来るまではたいへんなんですってね。

A₉：問屋とか仲買いとかいろいろあるんでしょ。

B₉：そういうものを全部なくす[13]わけにもいかないんでしょうけど、生産者は安くて泣いてる[14]……。

A₁₀：消費者も高くて泣いてる。

B₁₀：何だか変よねえ。

A₁₁：変だわよねえ。

B₇：流通機關？
A₈：對了，就是流通機關。在那裡一轉，價格就擡高了。
B₈：似乎如此。從生產者手裡到消費者之間要經過很麻煩的手續耶。
A₉：批發商呀，中間商人呀！很多人呢！
B₉：我想也無法把這些中間商人全部消除掉，但是生產者因爲價格低得在哭耶……。
A₁₀：消費者也價格高得在哭呢。
B₁₀：眞是莫名其妙呀。
A₁₁：實在是莫名其妙。

註解

(1)かたっぱしから——一個接一個，一行接一行地。 (2)あれなんですってね：給予說話者停頓思考的時刻，あれ的解釋在下一句。 (3)おかしな話だ——奇怪的話，荒謬的話。 (4)自動車のガソリン代——汽車的油費、運輸工具的汽油錢， (5)値くずれをふせぐ——防止跌價。 (6)だって聞いてる＝だと聞いている（聽說）(C)、 (7)魚だって＝魚でも（魚也如此）(C)。 (8)どうなっちゃってる＝どうなってしまっている——怎麼一回事，情形怎麼樣了？ (9)丹精して作る——花費心血耕種。 (10)どっかで＝どこかで（何處）(C)。 (11)だって話＝だという話(C)。 (12)ぐるぐるまわる——輾轉好幾手，兜圈子打轉(O)。 (13)なくす＝なくする——喪失，避免。 (14)生產者が泣いてる——生產者的悲傷，製造者深感悲哀。

■ 会話の練習

1. ああいうことは、キャベツだけじゃなくて、ほかの野菜でも時々あるらしいんですね。

那種情形，不只是包心菜而已，其他的蔬菜也是一樣。

ああいうことは、キャベツだけじゃなくて、ミカンとか、ほかのくだものや野菜の場合でも時々あるらしいんですね。……(1)B。

這對擴充話題是很有用的方法，但必須先有關於ああいうこと的話題。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) キャベツ・ほかの野菜 ──→

ああいうことは、キャベツだけじゃなくて、ほかの野菜でも時々あるらしいんですね。

1. 電車・ほかの乗物(のりもの) ──→

ああいうことは、電車だけじゃなくて、ほかの乗物でも時々あるらしいんですね。

2. 富士山(ふじさん)・ほかの山(やま) ──→

ああいうことは、富士山だけじゃなくて、ほかの山でも時々あるらしいんですね。

3. 高速道路(こうそくどうろ)・普通の道 ──→

ああいうことは、高速道路だけじゃなくて、普通の道でも時々あるらしいんですね。

4. トンネル工事[2)]・ほかの工事 ──→

ああいうことは、トンネル工事だけじゃなくて、ほかの工事でも時々あるらしいんですね。

5. 都会・いなか ──→

ああいうことは、都会だけじゃなくて、いなかでも時々あるらしいんですね。

6. 自動車事故・ほかの事故──→
ああいうことは、自動車事故だけじゃなくて、ほかの事故でも時々あるらしいんですね。

II. 夏が来るというのに、少しも暑くならないなんて、どうもおかしな話ですね。
雖然夏天來了，但一點也不熱──，這實在有點奇怪。

「……。考えてみると、世界には食糧が足りなくて困っている国がいくらもあるっていうのに、せっかくの作物をつぶしたり、捨てたりするなんて、どうも……。」……(1)A。
「おかしな話ですよね。……。」……(1)B。

這是一種對於令人難以接受的現象表示懷疑的方法，除了驚奇的感覺，這種形式包括一種"這樣不行"的感受。

練習　例にならって文を作りなさい。

(例) 夏が来る・少しも暑くならない──→
夏が来るというのに、少しも暑くならないなんて、どうもおかしな話ですね。

1. 冬だ・少しも雪が降らない──→
冬だというのに、少しも雪が降らないなんて、どうもおかしな話ですね。

2. 一時間も待っている・だれも来ない──→
一時間も待っているというのに、だれも来ないなんて、どうもおかしな話ですね。

3. 豊作だ・少しも安くならない──→
豊作だというのに、少しも安くならないなんて、どうもおかしな話ですね。

4. 十年も習った・英語が話せない──→
十年も習ったというのに、英語が話せないなんて、どうもおかしな話ですね。

5. 一か月前に送った・まだ着いていない──→
一か月前に送ったというのに、まだ着いていないなんて、どうもおかしな話ですね。

6. だれにも話さなかった・みんなが知っている──→
だれにも話さなかったというのに、みんなが知っているなんて、どうもおかしな話ですね。

III. 出荷すればするほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

聽說上市愈多赤字就愈大。

出荷すればするほど赤字が大きくなってしまって、自動車のガソリン代にもならないってことがあるっていってましたね。……(1)B_3

這是常用的辭句，該辭句的改變是兩種變化發生情況成正比時適用這種句型，其基本的句型是早ければ早いほど。

練習　例にならって文を作りなさい。

（例）出荷する ──→

出荷すればするほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

1. 豊作になる ──→

豊作になればなるほど赤字が大きくなーてしまうって、言ってましたね。

2. いい品物（しなもの）を作る ──→

いい品物を作れば作るほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

3. 手間をかける ──→

手間をかければかけるほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

4. 宣伝（せんでん）をする ──→

宣伝をすればするほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

5. みかんがたくさんとれる ──→

みかんがたくさんとれればとれるほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

6. 作物がよくできる ──→

作物がよくできればできるほど赤字が大きくなってしまうって、言ってましたね。

IV. A「きのうは、ちょっと驚きましたよ。」

B「どうしてですか。」

A「テレビを見てましたらね、ブルドーザーでキャベツをつぶしているんですよ。」

B「あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。」

4. 子供がたばこをすう──→
A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、子供がたばこをすっているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

5. 小さな子供が試験勉強をする──→
A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、小さな子供が試験勉強をしているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

6. 八十歳の老人（ろうじん）が富士山に登（のぼ）る──→
A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、八十歳の老人が富士山に登っているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

3－B完

V. A「ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。」
B「いったい、どうなってるんでしょうね。」
A「いくら値くずれをふせぐためっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。」

A：說到橘子，聽說成熟的橘子都丟棄了。
B：「到底是怎麼一回事」。
A：聽說是爲了防止價格下跌，即使如此，這樣的丟棄，農人們一定很痛心。

「ミカンなんて、作ってるとこでは、捨ててるっていうのに。」……(2)B_2
「いったい、どうなっちゃってるのかしら。」……(2)A_3
「ほんとよね。いくら値くずれをふせぐためっていっても捨てなくちゃならないんですもの。」……(2)B_3
「生産者も辛いだろうと思うわ。せっかく丹精して作ったんでしょうに。」……(2)A_4

A在最後的述說中顯示出對第三者的困境，這表示同情的一種方法，兩個辭句以いくら～といっても和なんて～來連結，使最後的那個句子成爲難度極高的寫法之一，但最主要的是了解在第一～なんて和第二述說者的いったい之間所包含的那種感受。

A：昨天我有點驚訝。
B：怎麼了？
A：我看了電視呢！出現推土機壓爛包心菜的畫面。
B：噢，這新聞我也看了。
「きのうは、ちょっと驚きましたよ。」……(1)A_1
「どうしてですか。」……(1)B_1
「テレビを見てましたらね、ブルドーザーでつぶしているんですよ。一面のキャベツ畑をかたっぱしから踏みつぶしていくんです。」……(1)A_2
「あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。……。」……(1)B_2
注意B是如何肯定她與A有同樣的遭遇，注意這經驗並不馬上述說出所有的事情，它們是一步一步的表達出來的。

練習　例にならって会話をしなさい。

(例) ブルドーザーでキャベツをつぶす──→

A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、ブルドーザーでキャベツをつぶしているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

1. ミカンを捨てる──→

A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、ミカンを捨てているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

2. キャベツをつぶす──→

A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、キャベツをつぶしているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

3. とった魚を捨てる──→

A：　きのうは、ちょっと驚きましたよ。
B：　どうしてですか。
A：　テレビを見てましたらね、とった魚を捨てているんですよ。
B：　あ、あのニュースなら見ましたよ、わたしも。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）値くずれをふせぐため――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうてすね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくら値くずれをふせぐためっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。

1. 赤字をふせぐため――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくら赤字をふせぐためっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。

2. 値下がりをふせぐため――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくら値下がりをふせぐためっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。

3. とれすぎたから――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうてすね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくらとれすぎたからっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。

4. 出荷すると赤字になるから――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくら出荷すると赤字になるからっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。

5. やむをえない――→

A：　ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。

B：　いったい、どうなってるんでしょうね。

A：　いくらやむをえないっていっても、捨てるなんて、辛いてしょうね。

6. 値くずれをふせぐためにはやむをえない――→捨ててるそうですね。

A： ミカンなんて、作ってるところでは、捨ててるそうですね。

B： いったい、どうなってるんでしょうね。

A： いくら値くずれをふせぐためにはやむをえないっていっても、捨てるなんて、辛いでしょうね。」

VI. A「こんなことになるのは、流通機構に原因があるんでしょうね。」

B「そうなんでしょうね、ずいぶん複雑だって話、聞いたことがありますよ。」

A：「導致這樣的情形，原因恐怕在管理機構吧！」。

B：「似乎如此，聽說那機構相當複雜哦。」

「……。ずいぶん複雑だって話、聞いたことあるわ、あの、リューツー……。」……$(2)A_7$

「流通機構、でしょ。」……$(2)B_7$

「そうそう、その流通機構。そこをぐるぐるまわっているうちに値段が上がっちゃうのよね。」……$(2)A_8$

「そうらしいわねえ。……。」……$(2)B_8$

注意B不但同意A，且加上一些她的想法。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）流通機構・複雑だ――→

A： こんなことになるのは、流通機構に原因があるんでしょうね。

B： そうなんでしょうね、ずいぶん複雑だって話、聞いたことがありますよ。

1. 選挙のやりかた・複雑だ――→

A： こんなことになるのは、選挙のやりかたに原因があるんでしょうね。

B： そうなんでしょうね、ずいぶん複雑だって話、聞いたことがありますよ。

2. 試験のやりかた・わかりにくい――→

A： こんなことになるのは、試験のやりかたに原因があるんでしょうね。

B： そうなんでしょうね、ずいぶんわかりにくいって話、聞いたことがありますよ。

3. 社長の考えかた・がんこだ[5)]――→

A： こんなことになるのは、社長の考えかたに原因があるんでしょうね。

B： そうなんでしょうね、ずいぶんがんこだって話、聞いたことがありますよ。

4. 出荷のし方・めんどうだ ─────→
A： こんなことになるのは、出荷のし方に原因があるんでしょうね。
B： そうなんでしょうね、ずいぶんめんどうだって話、聞いたことがありますよ。

5. 彼の性格(せいかく)(6)・がんこだ ─────→
A： こんなことになるのは、彼の性格に原因があるんでしょうね。
B： そうなんでしょうね、ずいぶんがんこだって話、聞いたことがありますよ。

6. 日程の組み方・無理な日程だ ─────→
A： こんなことになるのは、日程の組み方に問題があるんでしょうね。
B： そうなんでしょうね、ずいぶん無理な日程だって話、聞いたことがありますよ。

---

(1)高速公路 (2)隧道工程 (3)宣傳，廣告 (4)跌價 (5)頑固 (6)個性，性格

反対派（はんたいは）　反對黨

運動員（うんどういん）　助選員

運動　運動，助選

運動する　運動，助選（動詞）（可指體能的活動，或政治、社會等性質的運動）

いやがらせをする　討厭（動詞）

いやがらせ　使人討厭的事或話

社宅地区（しゃたくちく）　公司住宅、宿舍區

社宅　公司宿舍（公司爲僱員而建的宿舍）

地区　地區

番犬（ばんけん）　守門犬，看門狗

立ち向かう（たちむかう）　面對，對抗

若き日（わかきひ）　年輕的時候

勇敢だ（ゆうかんだ）　勇敢的

姿（すがた）　姿態，樣子

政治的立場（せいじてきたちば）　政治的立場

政治　政治

立場　立場

妻（つま）　妻子

すべて　全部

犠牲（ぎせい）　犧牲

サラリーマン　薪水階級

捨てる（すてる）　丟棄

数日後（すうじつご）　幾天後

数日　幾天

十一日付（じゅういちにちづけ）　十一日

拝見する（はいけんする）　拜讀，看（敬語）

私自身（わたしじしん）　自己本身

～自身　本身

不満（ふまん）　不滿

聞かされる（きかされる）　聽到

ある程度　某程度

男性（だんせい）　男性

ひとこと　一句話

主人（しゅじん）　主人，丈夫

弁護する（べんごする）　辯護（動詞）

弁護　辯護

あわせて　除了～之外，還有

弁明する（べんめいする）　辯解（動詞）（爲某件事向他人道歉解說）

弁明　辯解

筆をとる（ふでをとる）　取筆，寫

第四課　二つの投書

■ 新出語

投書　投書

　投書する　投書（動詞）

主婦　家庭主婦

選挙　選舉

　選挙する　選舉（動詞）

近づく　接近

ゆううつ〔憂鬱〕

周囲　周圍，一個人週遭的社會環境

　反対　反對，相反

　反対する　反對（動詞）

押し切る　排除

権力　權力

屈する　屈服

意志　意志

強さ　強度

尊敬する　尊敬（動詞）

　尊敬　尊敬

ところが　但是

夫　丈夫

意見　意見

推薦する　推薦（動詞）

　推薦　推薦

投票する　投票（動詞）

　投票　投票

強制する　強迫（動詞）

　強制　強迫；強制

退社時間後　下班時間後

　退社時間　下班時間

　退社　辭職，退休，下班（包括這兩種不同意思，視前後文而定）

　退社する　下班，辭職（動詞）

対立候補　對立的候選人

　対立　對立

　対立する　（彼此）對立（動詞）

　候補　候選人，候補

非難する　批評，責難（動詞）

　非難　批評，責難

ビラ　廣告，傳單

張る　張貼

が　但

同時に　同時的

きびしい　嚴厲的

業界　商業界

競争　競爭

競争する　競爭（動詞）

耐える　忍受

√企業　企業　きぎょう

発展する　發展（動詞）

発展、發展

二十四時間勤務　二十四小時值勤

勤務　工作

勤務する　工作（動詞）

成り立つ　構成

要は　重要的是～

個人　個人

選択　選擇

選択する　選擇（動詞）

あえて　敢

後者をとる　選擇後者

後者　後者

幸か不幸か　幸或不幸

幸　幸運

不幸　不幸

選ばれたまでだ　選擧爲止
（選ばれた是選んだ的尊敬用法）

選ぶ　選擇

ただ一つ　僅僅一個

出世　出息，成功

出世する　成功，發跡（動詞）

昇進する　擢升（動詞）

昇進　擢升

管理職につく　任管理之職，從事管理工作

管理職　管理權

管理　管理

管理する　管理（動詞）

ただし　但是……

選挙運動　選擧活動

まきこむ　捲入

現実　現實

無理だ　不合理，太勉強

注文　定購，要求

注文する　定購，要求（動詞）

が　但

同時に　同時的

きびしい　嚴厲的

業界　商業界

競争　競爭

競争する　競爭（動詞）

耐える　忍受

✓企業　企業　きぎょう

発展する　發展（動詞）

発展　發展

二十四時間勤務　二十四小時値勤

勤務　工作

勤務する　工作（動詞）

成り立つ　構成

要は　重要的是～

個人　個人

選択　選擇

選択する　選擇（動詞）

あえて　敢

後者をとる　選擇後者

後者　後者

幸か不幸か　幸或不幸

幸　幸運

不幸　不幸

選ばれたまでだ　選擧爲止
（選ばれた是選んだ的尊敬用法）

選ぶ　選擇

ただ一つ　僅僅一個

出世　出息，成功

出世する　成功，發跡（動詞）

昇進する　擢升（動詞）

昇進　擢升

管理職につく　任管理之職，從事管理工作

管理職　管理權

管理　管理

管理する　管理（動詞）

ただし　但是……

選挙運動　選擧活動

まきこむ　捲入

現実　現實

無理だ　不合理，太勉強

注文　定購，要求

注文する　定購，要求（動詞）

■ 本　文

十月十一日　ある主婦からの投書

選挙が近づきました。また、わたしのゆううつが始まります。わたしたちは、若いころ周囲の人の強い反対を押し切って結婚しました。権力に屈しない、彼の意志の強さを尊敬していました。ところが、十年後のいま、夫はすっかり変わってしまいました。選挙があると、自分の意見も何もなく、会社が推薦する人に必ず投票します。それだけでなく、わたしにもその人に投票することを強制します。そして、退社時間後も、対立候補を非難するビラを張りに歩いたり、反対派の運動員にいやがらせをして社宅地区に入れないようにしたり、まるで会社の番犬です。権力に立ち向かおうとする、若き日の勇敢な姿はどこにもありません。会社のためには、自分の政治的立場も妻の意見もすべて犠牲にすることが必要なのでしょうか。サラリーマンというものは、会社のために自分を捨てなければならないのでしょうか。（主婦三十二歳）

数日後　あるサラリーマンからの投書

十一日付の投書を拝見。私自身もいつも妻に同じような不満を聞かされているので、お気持はある程度わかるような気がします。しかし、男性の立場からひとことご主人を弁護し、あわせて私自身の立場も弁明させてもらいたいと思って、筆をとりました。

会社員は九時から五時まで会社のために働けば、あとの時間は自分のものである、という考えもあるでしょう。が、同時に、きびしい業界の競争に耐えて自分の企業を発展させるためには二十四時間勤務が必要だ、という考えも成り立ちます。どちらが正しいかはだれにも決められることではありません。要は個人の選択

私はあえて後者をとりました。ご主人も幸か不幸かの問題です。後者を選ばれたまでです。

ただ一つ言えることは、出世昇進して早く管理職につけ、ただし会社の選挙運動にはまきこまれるな、というのは、現実には無理な注文だということです。（会社員三十八歳）

■ 用　例

1. • 彼の意志の強さを尊敬していました。<u>ところが</u>、十年後のいま、夫はすっかり変わってしまいました。(*l. 4*)

(1)「私たちはみんな、春子さんは太郎さんと結婚するのだろうと思っていました。ところが、春子さんは明さんと結婚したのです。」

(2) こんな仕事は１・２時間もあればできると思っていた。ところが、始めてみたら、意外にめんどうで、夕方までかかってしまった。

(3)「田中さんはちょっと見ると、丈夫そうにみえるでしょう。ところが病気ばかりしているんですよ。」

(4) 三日も降り続いたのだから、きょうは晴れるだろうと思っていたところが、きのうよりもひどい雨だ。

(5) 遅刻しそうだと思って大急ぎで教室へ行ったところが、きょうの講義は休講だった。

2. • 権力に<u>立ち向かおうとする</u>、若き日の勇敢な姿はどこにもありません。(*l. 10*)

(1) 地震を予知し、災害をくいとめようとする研究が本格的に始められた。

(2)「あの学生にはいくら教えても無駄ですよ。本人に覚えようとする意欲がないんですから。」

(3) 病人の苦しみというものは　経験した者にしかわからない。

(4)「友だちというものは、もっと大切にしなければいけないと思いますよ。」

(5) 原子力というものは、使い方一つで人類に幸福をもたらしたり、不幸をもたらしたりする。

――――＊――――＊――――＊――――

(6) 人を教育するということは、単に知識や技術を与えることではない。

5. • 私自身の立場も弁明させてもらいたいと思って、筆をとりました。(l. 18)

(1)「きょうの会は、かぜぎみなので欠席させてもらいたいと思います。」

(2)「疲れたから、ちょっとかけさせてもらいます。」と言って、彼は椅子にすわって講演を続けた。

(3)「さっき、その辞書をちょっと使わせてもらいましたよ。」

(4)「そのことについて私からも意見を言わせていただきたいと思います。」

(5)「これがこの間話した本です。」

「ちょっと、拝見させていただけますか。」

6. • 会社員は九時から五時まで会社のために働けば、あとの時間はのものである、という考えもあるでしょう。が、同時に、きびしい業界の競争に耐えて自分の企業を発展させるためには二十四時間勤務が必要だ、という考えも成り立ちます。(l. 20)

(1) 昔に比べると、驚くほど交通が便利になった。が、同時に事故も多くなった。

(2)「二度とない機会ですから、大いに勉強に励んでほしいと思います。が、同時に、健康にも十分気をつけてください。」

の問題です。私はあえて後者をとりました。ご主人も幸か不幸か後者を選ばれたまでです。

ただ一つ言えることは、出世昇進して早く管理職につけ、ただし会社の選挙運動にはまきこまれるな、というのは、現実には無理な注文だということです。(会社員三十八歳)

■ 用　　例

1. • 彼の意志の強さを尊敬していました。ところが、十年後のいま、夫はすっかり変わってしまいました。(l. 4)

(1)「私たちはみんな、春子さんは太郎さんと結婚するのだろうと思っていました。ところが、春子さんは明さんと結婚したのです。」

(2) こんな仕事は1・2時間もあればできると思っていた。ところが、始めてみたら、意外にめんどうで、夕方までかかってしまった。

(3)「田中さんはちょっと見ると、丈夫そうにみえるでしょう。ところが病気ばかりしているんですよ。」

(4) 三日も降り続いたのだから、きょうは晴れるだろうと思っていたところが、きのうよりもひどい雨だ。

(5) 遅刻しそうだと思って大急ぎで教室へ行ったところが、きょうの講義は休講だった。

2. • 権力に立ち向かおうとする、若き日の勇敢な姿はどこにもありません。(l. 10)

(1) 地震を予知し、災害をくいとめようとする研究が本格的に始められた。

(2)「あの学生にはいくら教えても無駄ですよ。本人に覚えようとする意欲がないんですから。」

(3) どんな困難にも耐えぬこうとする強い意志の力が今日の成功をもたらした。

(4) あの事件は私には忘れようとしても忘れることのできないものである。

* * *

(5) 彼は家族の者を心配させ<u>まい</u>とする気持から妻にも病気のことを話さなかった。

(6) 彼についての妙な噂は聞く<u>まい</u>としてもどこからか耳にはいってきてしまう。

3. • <u>会社のため</u>には、自分の政治的立場も妻の意見もすべて犠牲にすることが必要なのでしょうか。*(l. 11)*

• きびしい業界の競争に耐えて自分の企業を<u>発展させるため</u>には二十四時間勤務が必要だ、という考えも成り立ちます。*(l. 21)*

(1)「あなたのためを思って注意しているのですよ。」

(2) 甘やかすことは、子供のためにはならない。

(3) 日本語を読むためには、どうしても漢字を習う必要がある。

(4) 学校へ九時までに行くためには、うちを七時半に出なければならない。

(5) 健康のためには、早寝早起きがいちばんだ。

(6) 人はパンのためにのみ生きるのではない。

4. • <u>サラリーマンというものは</u>、会社のために自分を捨てなければならないのでしょうか。*(l. 13)*

(1)「選挙というものは、ずいぶん金がかかるんですね。」

(2) たばこなどというものは、体に害はあっても何の益もない。

(3) 病人の苦しみというものは　経験した者にしかわからない。

(4)「友だちというものは、もっと大切にしなければいけないと思いますよ。」

(5) 原子力というものは、使い方一つで人類に幸福をもたらしたり、不幸をもたらしたりする。

―――――＊―――――＊―――――＊―――――

(6) 人を教育するということは、単に知識や技術を与えることではない。

5. • 私自身の立場も弁明させてもらいたいと思って、筆をとりました。(l. 18)

(1)「きょうの会は、かぜぎみなので欠席させてもらいたいと思います。」

(2)「疲れたから、ちょっとかけさせてもらいます。」と言って、彼は椅子にすわって講演を続けた。

(3)「さっき、その辞書をちょっと使わせてもらいましたよ。」

(4)「そのことについて私からも意見を言わせていただきたいと思います。」

(5)「これがこの間話した本です。」
「ちょっと、拝見させていただけますか。」

6. • 会社員は九時から五時まで会社のために働けば、あとの時間はのものである、という考えもあるでしょう。が、同時に、きびしい業界の競争に耐えて自分の企業を発展させるためには二十四時間勤務が必要だ、という考えも成り立ちます。(l. 20)

(1) 昔に比べると、驚くほど交通が便利になった。が、同時に事故も多くなった。

(2)「二度とない機会ですから、大いに勉強に励んでほしいと思います。が、同時に、健康にも十分気をつけてください。」

(3) 田中さんは私の友人だが、同時に山田さんの友人でもある。

＊　＊　＊

(4) 気がやさしいことは彼の長所である。と同時に、彼の欠点にもなっている。

(5) 夏目漱石は明治時代の代表的な作家であると同時に、すぐれた英文学者でもあった。

7. • どちらが正しいかはだれにも決められることではありません。(l. 23)

(1) この計画が実行できるかどうかは、まだ我々にもわからない。

(2) このような場合には、どんな言い方が最も適当かを考えてみよう。

(3) 人間の価値は金をどれだけ持っているかで決まるものではない。

(4) 彼らが一体何を要求しているのかがよくわからない。

(5) このごろは物価が高くて、何を買う場合でも品がいいかどうかより、ねだんが安いかどうかをまず考えてしまう。

8. • どちらが正しいかはだれにも決められることではありません。要は個人の選択の問題です。(l. 23)

(1)「長々と話しましたが、要は、何ごとにおいても誠意が必要だということです。」

(2) どちらがいいかは一概には決められない。要は、個人の好みの問題だ。

(3) 費用や時間がどれだけかかるかは問題ではない。要は、いい仕事ができるかどうかだ。

(4) いろいろな方法が考えられるが、要は、計画を一日も早く実現させることである。

(5)「田中君は技術的にはすぐれているのに、どうして、試合では勝てな

いのだろう。」

「要は、気力の問題じゃないですか。」

9.・私はあえて後者をとりました。(l. 25)

(1) あなたが話したくないのなら、私はあえて聞こうとは思わない。

(2) この計画は多くの人に反対されたが、私はあえて実行にうつした。

(3) 君のためを思って、もっと慎重に行動するようにあえて忠告する。

(4)「言いにくいことですが、あえて申し上げます。」

(5) いやなら、あえて行くには及ばない。

10.・ご主人も幸か不幸か後者を選ばれたまでです。(l. 25)

(1) 別に深い考えがあって言ったのではない。ちょっと思いつきを言ったまでだ。

(2)「特に用事があったわけではありません。近くまで来たので寄ってみたまでです。」

(3) 電車が動かないのならしかたがない。歩いて帰るまでだ。

(4) そんな心配をすることはない。できなかったら、もう一度やりなおすまでだ。

(5)「つまらないものですが、感謝のしるしまでに別便でお送り申し上げます。」

(6) まずは、とりあえず御礼まで。

11.・ただ一つ言えることは、出世昇進して早く管理職につけ、ただし、会社の選挙運動にはまきこまれるな、というのは、現実には無理な注文だということです。(l. 27)

(1)「この店は毎週月曜日が休みです。ただし、祝祭日と重なる場合には、翌日の火曜日が休みになります。」

(2)「今度の休みには久しぶりに山に出かけようと思っているんです。ただし、天気がよければですがね。」

(3) 旅行の費用は運賃・宿泊代あわせて三万五千円になる。ただし、昼食代は含まれていないから、実際にはもう少しかかることになる。

(4) 入会資格に特に制限はない。但し、未成年者は父兄の同意あるものに限る。

(5) 日曜・祭日休診。但し、急患はその限りにあらず。

二十四時間勤務

■ 会　話

場所　Aの叔父（おじ）の家

人〃　A：ある会社員の妻

　　　B：Aの叔父。ある会社の管理職をしている

A_1：きょうは少し、聞いてほしいことがあるんですが。

B_1：何だい、改（あらた）まって[1]。

A_2：また、選挙が近づいたでしょう。それで、わたし、ゆううつなのよ。

B_2：どうして。

A_3：だって[2]、うちの人[3]ったら[4]、選挙の応援（おうえん）に一生懸命（いっしょうけんめい）なんですもの。

B_3：だれかの運動員でもやっているのかい。

A_4：ええ、運動員というほどじゃないけれど、会社が推薦する候補者（こうほしゃ）を応援しているんです。

24小時執勤

地方：A的叔叔的家

人物：A：某位公司職員的妻子

　　　B：A的叔叔，任某個公司管理之職

A_1：今天有一點事，想請問你。

B_1：什麼事，那麼認眞

A_2：選擧又接近了，所以我很煩惱。

B_2：爲什麼。

A_3：因爲我先生一心認眞的去助選。

B_3：他也作那一位的助選嗎？

A_4：嗯，還不到助選員那樣的程度，但是他熱心地支持公司推薦的候選人。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）運動員・応援する──→
運動員というほどじゃないけれど、熱心に応援しているんです。

1. 運動員・選挙運動をする──→
運動員というほどじゃないけれど、熱心に選挙運動をしているんです。

2. 二十四時間勤務・会社のために働く──→
二十四時間勤務というほどじゃないけれど、熱心に会社のために働いているんです。

3. 研究（けんきゅう）・調（しら）べる──→
研究というほどじゃないけれど、熱心に調べているんです。

4. 専門家（せんもんか）・調べる──→
専門家というほどじゃないけれど、熱心に調べているんです。

5. 専門家・研究する──→
専門家というほどじゃないけれど、熱心に研究しているんです。

6. 詩人（しじん）[2]・詩を作る──→
詩人というほどじゃないけれど、熱心に詩を作っているんです。

II. 昔は革新派だったんです。それが今は、まるで会社の番犬みたいなんです。
以前是革新派的人，而現在宛如是公司的守門狗。

「明君は、昔は革新派だったね。」……B_5

「だから、わたし好きだったのよ。それが、今はまるで会社の番犬みたいなの…。……。」……A_6

這句以過去和現在對比的句型，表現一種強烈的感情語調，それが這個代名詞是用作連接詞，而不作爲前述詞的代名詞。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）革新派だった・会社の番犬──→
昔は革新派だったんです。それが今は、まるで会社の番犬みたいなんです。

1. 革新派だった・企業の番犬──→
昔は革新派だったんです。それが今は、まるで企業の番犬みたいなんです。

B15：将来はどうなるかわからないけど、今は無理だろうね。
A16：………。
B16：明君も四十近くなって、いろいろ考えているんだろう。好きで選挙運動やってる(14)わけでもないだろうし、あまり文句(15)を言って困らせるなよ。

B15：將來怎樣是不知道的，但是現在是無法做到的。
A16：……
B16：明君也近四十，有著各種考慮吧！也不是因爲喜歡選擧活動，而去作，所以不要太發牢騷，而使他困擾。

註解

(1)改まって——鄭重其事。 (2)だって——但，含有反對前面所說的語氣。 (3)うちの人——家之主，我丈夫。 (4)うちの人ったら＝うちの人というのは：ったら表示相當程度的不滿與厭惡。 (5)革新派——革新主義者，革新派。 (6)おだやかじゃない——不安祥，不温和，不婉轉的。 (7)だけじゃなくって＝だけじゃなくて不僅僅(C)。 (8)見張りをする——嚴加看守，提高警覺。 (9)熱心なもんだ——他眞是十分熱心。 (10)ねえ：用在引起聽話者的特別注意。 (11)しなくちゃ＝しなくては。 (12)いったい：加強語氣之用，諸如"搞什麼呀？""究竟怎麼回事？" (13)〜しないですむ——不…而達成。 (14)やってる＝やっている(C)。 (15)文句を言う——抱怨。

■ 会話の練習

I．運動員というほどじゃないけれど、熱心に応援しているんです。
不至於像助選員那樣的程度，但是很熱心的去支援。
運動員というほどじゃないけれど、会社が推薦する候補者を応援しているんです。……A4
這是一種有限制條件的句型，而語調的抑揚是做成對比語態的要點，像運動員和熱心に應援している。

A10：ねえ、[10]叔父さん。サラリーマンて、こんなふうにしなくちゃ[11]いけないんですか。

B10：しなくてもいいさ。でも、しなくちゃいけないね。

A11：いったい、[12]どっちなんですか。

B11：サラリーマンには、二つの生き方があるということだよ。つまり、会社は、九時から五時まで働いてお金(かね)をもらうところで、あとは自分の時間だという考え方が一つある。

A12：もう一つは。

B12：簡単(かんたん)にいえば、二十四時間勤務という考え方だ。

A13：二十四時間勤務。ひどいわねえ。

B13：たしかにひどいさ。でも、会社を支(ささ)えるのは、そういう人たちだと思われているよ。出世するのも、もちろんその人たちさ。

A14：そうじゃない人たちは、出世しないんですか。

B14：まあ、出世はしないだろうね。そのかわり、会社の番犬にはならなくてすむ[13]よ。

A15：両立(りょうりつ)は無理なんですか。

A10：嗯！叔叔請告訴我薪水階級的人是否非這樣作不可？

B10：即使不這樣作也可以，但是不得不作。

A11：我不懂你在說什麼。

B11：薪水階級的人可以說有二種生活方式，也就是在公司從早上九時到下午五時，工作，拿了錢，之後就是自己的時間，這是其中之一的想法。

A12：再一個，

B12：簡單的說是二十四小時值動的想法。

A13：二十四小時值動，那是很不講理的。

B13：的確是不講理的，但是這些人認爲應該支持公司。能出人頭地的當然是那些人了。

A14：不那樣做的人，就不會出人頭地嗎？

B14：是呀！是不會出人頭地的，但是不成爲公司的守門狗也可以呀！

A15：就無法二者兼顧嗎？

2. 大学の先生・研究している
大学の先生というものは、いつでもこんなふうに研究していなくてはいけないんですか。

3. デパートの店員・立っている→
デパートの店員というものは、いつでもこんなふうに立っていなくてはいけないんですか。

4. サラリーマン・背広を着ている→
サラリーマンというものは、いつでもこんなふうに背広を着ていなくてはいけないんですか。

5. 学生・夜遅(よるおそ)くまで勉強する→
学生というものは、いつでもこんなふうに夜遅くまで勉強しなくてはいけないんてすか。

6. 政治家(せいじか)・選挙のことを考えている→
政治家というものは、いつでもこんなふうに選挙のことを考えていなくてはいけないんですか。

V. A「ちょっとご相談(そうだん)したいことがあるんですが。」
B「何ですか、改まって。」
A「選挙が近づいてきました。それて実は困っているんです。」
A：想稍爲與你商量。
B：什麼事，那麼認眞。
A：選舉接近了，所以實在令人困擾。
「きょうは少し、聞いてほしいことがあるんてすか。」……A_1
「何たい、改まって。」……B_1
「また、選挙が近づいたでしょう それで、わたし、ゆううつなのよ。」……A_2
這是向人請教時的常用句型，要注意日本人不在交談開始時提出問題，都是先問人願否與之商討，別人答應後，才開始說出原因和問題。

練習 例にならって会話をしなさい。
(例) 選挙が近づいてくる→
A： ちょっとご相談したいことがあるんですが。
B： 何ですか、改まって。
A： 選挙が近づいてきました。それで実は困っているんです。

2. 買う──→
あの人は自分が買うだけじゃなくて、ほかの人にも買うようにすすめるんです。

3. 食べる──→
あの人は自分が食べるだけじゃなくて、ほかの人にも食べるようにすすめるんです。

4. 投票する──→
あの人は自分が投票するだけじゃなくて、ほかの人にも投票するようにすすめるんです。

5. 習(なら)う──→
あの人は自分が習うだけじゃなくて、ほかの人にも習うようにすすめるんです。

6. 見に行く──→
あの人は自分が見に行くだけじゃなくて、ほかの人にも見に行くようにすすめるんです。

Ⅳ. サラリーマンというものは、いつでもこんなふうに会社のために働かなくてはいけないんですか。

所謂薪水階級的人，非一直這樣的爲公司工作不可嗎？

サラリーマンて、こんなふうにしなくちゃいけないんですか。……A_{10}

要注意語調中帶有疑問的語氣，這是表達疑問的一種有用句型。

練習　例にならって文を作りなさい。

(例) サラリーマン・会社のために働く──→
サラリーマンというものは、いつでもこんなふうに会社のために働かなくてはいけないんですか。

1. サラリーマン・日曜日(にちようび)も働く──→
サラリーマンというものは、いつでもこんなふうに日曜日も働かなくてはいけないんですか。

B₄：ふうん。

A₅：結婚したころとは、すっかり変わっちゃったわ。

B₅：明君は、昔は革新派[5]だったね。

A₆：だから、わたし好きだったのよ。それが、今はまるで会社の番犬みたいなの‥‥。心の中はどうだかわからないけど。

B₆：おいおい、自分の夫を番犬なんていうのはちょっとおだやかじゃないな[6]。

A₇：でも、ほんとにそうなんですもの。自分が応援するだけじゃなくって[7]、わたしにも、その人に投票するように言うのよ。

B₇：なるほど。

A₈：会社が終わってからも、ビラを張って歩いたり、反対派の運動員の見張りをしたり[8]するの。

B₈：明君も熱心なもんだね[9]。

A₉：ね、やっぱり番犬でしょう。

B₉：…………。

B₄：喔

A₅：結婚後，完全都變了。

B₅：明君從前是新派的哪。

A₆：所以我喜歡他，而現在完全就像公司的守門狗一樣。

B₆：喂喂！說自己的丈夫是守門狗，不太妥當吧！

A₇：但是，眞的就是那樣，不僅他自己去助選，也叫我要投票給那個人。

B₇：眞是的！

A₈：下班後步行張貼廣告，又對反對派的助選員嚴格監視。

B₈：明君是很熱心的。

A₉：哼還不是一隻守門狗（走狗）。

B₉：………

2. 小さな店だった・デパート──→
昔は小さな店だったんです。それが今は、まるでデパートみたいなんです。

3 静かな住宅街だった・銀座(ぎんざ)──→
昔は静かな住宅街だったんてす。それが今は、まるで銀座みたいなんです。

4. きれいな川(かわ)だった・下水(げすい)──→
昔はきれいな川だったんです。それが今は、まるで下水みたいなんです。

5. 趣味(しゅみ)でやっていた・専門家──→
昔は趣味でやっていたんです。それが今は、まるで専門家みたいなんです。

6. やせていた・おすもうさん──→
昔はやせていたんです。それが今は、まるでおすもうさんみたいなんです。

III. あの人は自分が応援するだけじゃなくて、ほかの人にも応援するようにすすめるんです。

那個人不僅自己去助選，也勸其他的人去支援。

自分が応援するだけじゃなくって、わたしにも、その人に投票するように言うのよ。

……A,

這是第三人稱行爲上的感情表述，強調自己和別人的分別。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 応援する──→

あの人は自分が応援するだけじゃなくて、ほかの人にも応援するようにすすめるんです。

1. 読む──→

あの人は自分が読むだけじゃなくて、ほかの人にも読むようにすすめるんです。

第十二課　日本語と漢字

■ 新出語

言語学　語言學

言語　語言

本質　本質，基本性質

音声　聲音

求める　要求，尋求

文字　文字（假名，漢字等）

付随的だ　偶發的隨機的，附帶的，次於……的

付随する　附帶　附隨

役割　角色，一部份

担う　負擔，承受（職責）

考え方　思想，觀念，思考方式

支配的だ　統治，支配，控制的

確かに　確切地，必然地

人類　人類

使い出す　開始使用

非常に　極端地，非常地

言語一般　一般語言

論じる　有秩序有系統地討論，說明眞相，辯明

妥当性　確實性　妥當性

妥当だ　妥切的，正確的

妥当する　（就某種特殊情況）可採用，可成立

～について見る限り　就……範圍來說，就有關～來說

必ずしも～ではない　非必然地，不一定～

負う　背負，承受

例　範例，例子

いくらでも　任其所需的數目，不管多少～不論多少

接する　接觸，與……聯繫，和……見面

思い浮かぶ　想到，突然想到～

漢字表記　用漢字表示，「漢字」文字

表記　（用文字或記號）表示

表記する　寫，記載（動詞）

～を媒介として　以……爲媒介

媒介　媒介

存在する　存在（動詞）

存在　存在

米国（べいこく）　美國

高速道路（こうそくどうろ）　高速公路

　道路　公路，道路

地名（ちめい）　地名

何故に（なにゆえ）　爲何，爲什麼

～間（かん）　在……期間

相撲（すもう）　日本傳統摔角

角界（かくかい）　摔角界，相撲界

角力（すもう）　角力，相撲

作り出す　造成，創造

際（さい）　在……情況時
　　當……時候

もとの　前……，原……

全く（まった）　全然，完全，實在，

替える（か）　替換，改變

用いる（もち）　利用，使用

音（おん）　漢字仿中國音的讀法

訓（くん）　漢字訓讀，漢字日本音的讀法

逆に（ぎゃく）　相對地，相反地

体系（たいけい）　體系

～を異にする（こと）　異於……

切り替える（き・か）　由（某事）變換成（另一事）

時には　有時，偶而

別の（べつ）　另外的，不同的

いつの間にか（ま）　不知什麼時候，不知不覺地

従来（じゅうらい）　到目前爲止，過去

音形（おんけい）　發音形式

擦り替える（す・か）　頂替，偸換

雪渓（せっけい）　雪谷（夏季不消的）積雪山谷

お花畑（はなばたけ）　花田

人気（にんき）　人緣，人望

元来（がんらい）　本來

訓読み（くんよ）　漢字訓讀

音読み（おんよ）　漢字音讀

漢語（かんご）　中國字，以漢字寫的

日本的だ　典型日本的，日本風味的

訓読する（くんどく）　漢字訓讀（動詞）

　訓読　訓讀，以日本音來說讀漢字

説（せつ）　學說，看法，意見

頭に描く（あたま・えが）　想像，在腦筋裡描繪

　描く　描寫，描繪

識別(しきべつ)がなされる　被分辨清楚

識別　分辨，區別（事物）

識別する　（將一物與另一物）分別，辨別（差異）

同音語(どうおんご)　發音相同的，同音字

私立(しりつ)　私立的

市立(しりつ)　市立的

民族学　民族學

民俗学(みんぞくがく)　民俗學

事典(じてん)　百科辭典

想像力(そうぞうりょく)　想像力

想像　想像，臆測（名詞）

想像する　想像（動詞）

伸(の)ばす　伸展，擴展

創造力(そうぞうりょく)　創造力

創造　創造（名詞）

創造する　創造（動詞）

何(なん)らかの　一些的，某些～

意味的(いみてき)だ　含有深刻意思的

関連(かんれん)　相關性，關連

関連する　關連（動詞）

同一(どういつ)の　同一的～

文脈(ぶんみゃく)　句子前後文，文章脈絡

可能性　可能性

この種(しゅ)の　這一種

種　種類

事情(じじょう)　情況，內情

共存(きょうぞん)する　共存，同時存在

共存　共存

その一方　其中之一

排除(はいじょ)する　除掉……，除去～

排除　排除

むしろ　反而

増加(ぞうか)する　增加（動詞）

増加　增加，獲得（名詞）

傾向(けいこう)　傾向

耳にする　聽見

直接(ちょくせつ)　直接地

フィルターを通す　使～經過過濾器

フィルター　過濾器

段階(だんかい)　層次，等級

テレビ型(がた)　電視機型

～型　……型

視覚印象　視覺印象

視覚　視覺

聴覚印象　聽覺印象

聴覚　聽覺

同様の　同樣的

機能　性能，功能，機能（名詞）

機能する　運作功能，發揮性能

まさしく　無疑地，確實地

■　本　　文

言語学の世界では、言語の本質は音声に求められ、文字は付随的な役割しか担っていないという考え方が支配的である。確かに、人類の長い歴史の中で、文字を使い出したのは非常に新しいことであり、現在でも文字を持たない民族が多数あるという点からみても、言語一般について論じようとするなら、このような考え方には十分妥当性があると言えよう。

ところが、日本語について見る限り、必ずしもそうとは言えない面がある。文字が音声と同じ程度に重要な役割を負っていると考えざるをえない例に、いくらでも接することができるのである。

まず思い浮かぶのが、漢字表記を媒介として作られた言葉が多数存在することである。

「米国」というのは、「アメリカ」を漢字で「亜米利加」と書いたことに由来するものである。「東名高速道路」も、地名「ナゴヤ」が「名古屋」と書かれることを知らない者には、それが何故に東京・名古屋間の高速道路という意味になるのか理解しがたいであろう。相撲の社会を「角界」というが、これも、相撲を「角力」と書いたことに基づく。

このように、漢字表記が媒介となって新しい言葉が作り出される際に、もとの発音とは全く異なる発音に替えられることが非常

に多い。同じ漢字を用いながら、音から訓へ、或は逆に訓から音へと、全く体系を異にする読みへと切り替えられるのである。時には、同じ字の別の音や訓になることもある。

漢字の読みが替えられることによって、いつの間にか従来とは音形を異にする言葉に擦り替えられてしまう例もある。雪渓やお花畑で人気のある「白馬岳」は、元来、「シロウマダケ」であったが、近ごろは「ハクバダケ」という者が非常に多くなった。訓読みから音読みへと擦り替えられたのである。一方、「当たり前」という言葉は、漢語「当然」の日本的な表記「当前」が訓読されたものだという説がある。

次に、漢字表記を頭に描くことによって意味の識別がなされているとしか考えられないような同音語が決して少なくない、という事実があげられる。

「私立—市立」「民族学—民俗学」「辞典（じてん）—事典」「（子供の）想像力を伸ばす—創造力を伸ばす」などは、何らかの点で意味的な関連があり、しかも同一の文脈で用いられる可能性の大きい同音語である。この種の同音語が何かの事情で共存するようなことになった場合には、その一方が排除される方向に向かうのが言語一般に見られる現象だと言われるが、日本語では、むしろその反対に増加する傾向さえある。音声を耳にして、それから直接意味の理解がなされるのではなく、途中に漢字表記というフィルターを通す段階があって、そこで意味の識別がなされているのであろう。ある人が日本語を「テレビ型の言語だ」と言ったが、視覚印象が聴覚印象同様の機能を持つという点でまさしく「テレビ型」の言語である。

［正しく］

■ 用　例

1. • 日本語について見る限り、必ずしもそうとは言えない面がある。(l.7)

(1) この論文について見る限り、彼の考えはかなり保守的だと言えよう。

(2) 彼はまだ技術の点では若い選手に負けないが、体力について見る限り、全盛期は過ぎたようだ。

(3) 私たちが調査した限りでは、この本に書いてあるような事実は発見できなかった。

(4) 「私の知っている限りのことはすべてお話しました。」

(5) 彼はきょう限りで会社をやめるそうだ。

2. • 文字が音声と同じ程度に重要な役割を負っていると考えざるをえない例に、いくらでも接することができるのである。(l.8)

(1) これだけ証拠がそろうと、やはり彼女が犯人だと考えざるをえない。

(2) このように会員が減ってしまっては、この会は解散せざるをえないだろう。

(3) この統計を見てもわかるように、たばこは人体に有害だと言わざるをえない。

(4) 風邪ぎみなので出かけたくないが、責任者としては行かざるをえないだろう。

(5) 人の三倍くらい時間をかけても覚えられないようでは、彼の能力を疑わざるをえない。

3. • まず思い浮かぶのが、漢字表記を媒介として作られた言葉が多数存在することである。(l.10)

(1) 子供たちがやさしくしてくれるのが、年老いた親にとっては一番うれしいことである。

(2) 今でも忘れることができないのは、学生時代に一人でアラスカ探検をした時のことである。

(3) 外国旅行をしていて私が一番めんどうに思うのは、国ごとに通貨が変わることである。

(4)「地震が起きた時にまず初めにしなければならないのが、台所やストーブの火を消すことです。」

(5) 資源不足を補う方法としてだれでも考えつくのは、海底資源をもっと積極的に利用することだが、実現はなかなかむずかしい。

4. • 漢字表記が媒介となって新しい言葉が作り出される際に、もとの発音とは全く異なる発音に替えられることが非常に多い。(*l.* 18)

(1) 工場を新しく建設する際には、その地域の人々の十分な理解をえなければならない。

(2) 外国製品は出国の際に持ち出しの申告をしておかないと、帰って来た時に関税をかけられることがある。

(3)「非常の際はこの箱の中のハンドルを手前に引いて下さい。ドアがあきます。」

(4) 原子力というのは原子が分裂する際に発生する強力なエネルギーのことである。

(5) 雨天の際は中止。

5. • 同じ漢字を用いながら、音から訓へ、或は逆に訓から音へと、全く体系を異にする読みへと切り替えられるのである。(*l.* 20)

(1) 中学から高校、高校から大学へと進むにつれて、だんだん成績が下がってきた。

(2) 印度に起こった仏教は中国へまず伝わり、中国から朝鮮へ、そして、朝鮮から日本へと伝わってきた。

(3) 革命を境にして、彼の興味は文学から政治へと大きく変わっていった。
(4) 夏になると、都会から地方へと、人口の大移動がみられる。
(5) 昼は海から陸へ、夜は陸から海へと風が吹く。

6. 漢字の読みが替えられることによって、いつの間にか従来とは音形を異にする言葉に擦り替えられてしまう例もある。*(l. 23)*
(1) 彼は大学受験に失敗したことによって、すっかり自信を失ってしまった。
(2) 毎日適度な運動をすることによって、健康が維持される。
(3) これはピタゴラスの定理を応用することによって簡単に解ける問題だ。
(4) 時差出勤をすることによってラッシュがいくらか緩和されるだろう。
(5) この薬は非常によく効く薬だが、大量に服用することによって生じる副作用をどうやって防ぐかが問題である。

7. • 漢字表記を頭に描くことによって意味の識別がなされているとしか考えられないような同音語が決して少なくない、という事実があげられる。*(l. 30)*
• 音声を耳にして、それから直接意味の理解がなされるのではなく、途中に漢字表記というフィルターを通す段階があって、そこで意味の識別がなされているのであろう。*(l. 39)*
(1) この歌については古くから二通りの解釈がなされている。
(2) この問題については、さらに検討がなされるであろう。
(3) 組合の大会で、明日から三日間ストライキを行うという決定がなされた。

(4) この物理学上の難問を解くためになされた試みは、すべて失敗に終わった。

(5) 多くの人々によってなされてきた研究は、ついにここに完成を見るに至った。

8. • この種の同音語が何かの事情で共存するようなことになった場合には、その一方が排除される方向に向かうのが言語一般に見られる現象だと言われるが、日本語では、むしろその反対に増加する傾向さえある。(*l. 36*)

(1) 最近の交通事故は大都市よりも、むしろ中小都市に多いようだ。

(2)「二停留所ぐらいなら、バスなんかに乗るより、むしろ歩いた方が早いですよ。」

(3)「あの男といっしょにやるくらいなら、少しぐらい忙しくなってもむしろぼく一人でやりますよ。」

(4) わたしたちの若いころは音楽と言えばクラシックしか考えなかったが、今の若い人たちは、むしろジャズやロックに惹かれるようだ。

(5) 地震による災害といっても、家屋の倒壊などはたいしたことはない。恐ろしいのはむしろ地震によって生じる火災である。

会話　　漢字・漢語の功罪

場面　テレビの教養番組で行われた座談会

人　A：司会者
　　B：教育評論家
　　C：国語学者

A₁：ところで、漢字の問題といいますと、まず、どんなことがとりあげられるんでしょうか。

B₁：あれでしょうね[1]、音訓の二本立てということなんかですかね。

A₂：はあ。

B₂：ええ、しかも、漢字一字に訓が一つ、音が一つというんなら、まだそれなりに[2]扱いようもある[3]んだが、実際はそうじゃないし……。

A₃：はあ、一つの漢字に音と訓が両方あるってことですね。

漢字、漢語功過

場面：在電視教養節目中舉行的座談會

人物A　司儀
　　B　教育評論家
　　C　國語專家

A₁：談到有關漢字的問題，首先可以舉出什麼問題呢？

B₁：就是那個吧，音訓二元性讀法的問題吧。

A₂：嗯，嗯。

B₂：嗯，而且，一個漢字有一個訓讀，一種音讀，那就相當好處理了，可是事實上並不如此……。

A₃：嗯，你是說一個漢字有音讀與訓讀兩種讀法？

B_3：それが文脈の中でいろいろに使い分けられているんでやっかいですよね。

A_4：そうですね。たとえば「生きる」なんて字は、いったい、いくつぐらい読み方があるんでしょうね。

C_1：ざっと数えて十五[5]ぐらいはあるんじゃないですか。ただ、漢字の問題といっても、実は一字一字の文字そのものの問題というよりは、語彙の問題なんじゃないでしょうか。

B_4：それはそうですね。日本語の場合、日常語と、専門語というか文章語というか[6]、この二つがかなりはっきり対立していて、いわば、違う語彙体系をつくっているようなところがありますね。

A_5：それは具体的に言いますと。

B_5：和語と漢語と[7]言ってもいいんですが、たとえば、床屋と理髪店、あしたと明日、というような……。

C_2：それはたしかにそうですが、でも場面による文体の違いのようなことは、ほかのことばにもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

B_3：由於句子前後文的關係而被分做好幾種讀法，所以很麻煩呢！

A_4：就是嘛。例如「生」這個字，不知道到底有多少種讀法呢？

C_1：算來，也許有十五種左右的讀法吧，與其說是漢字的問題——也就是一字一字，文字本身的問題，倒不如說是語彙的問題吧。

B_4：一點不錯。像日語有日常用語和專門語——較正確地說是文章語兩種。這兩種用語彼此對立得相當明顯，造成兩種所謂不同的語彙系統呢！

A_5：更具體的說是…………。

B_5：也可以說是和語與漢語，例如床屋（ Tokoya ）與理髮店，Ashita和明日（ Myounichi ）等等…………。

C_2：的確是這樣，可是由於場合不同文體也不同，在別的語言也有這種情形吧！只是程度不同罷了但………。

A₆：あの、日本語では文体の違いが大きくて、外国人が勉強する時、大変苦労[くろう]するっていうことを聞いたんですが。

B₆：そうですね。耳で聞く場合に限って言っても、[9] 買物[かいもの]をするとか、友達と話をするとかいう日常生活のことばと、改まった時[10]のことばはずいぶん違いますからね。

A₇：そうですね、演説[えんぜつ]とか、大学での講義[こうぎ]とか。

C₃：座談会の時だって[11]違いますね。

B₇：そういう時は、ふだんの会話[かいわ]であまり使わないことばがずいぶん入ってきますね。

A₈：なんか、例を出してくださいますか。

B₈：そうですね。ええと、[12]「きょう午後[ごご]三時から委員[いいん]会を開きます」[13]というところを「本日午後三時より委員会を開催[かいさい]いたします」とか。

C₄：ただそういう使いわけに、どれだけ[14]意味があるか[15]ということは、また別の問題ですね。

B₉：しかし、実際問題として、同じようなことを言うにも、漢語をたくさん使って言った方が、何となく重々[おもおも]しいというか、偉[えら]そうにみえるということは事実ですよね。

A₆：聽說在日本語裡由於文體相差得太大，外國人在學習時必需下番苦功？

B₆：是啊。仅以聽而言，買東西時，或朋友談話等日常生活的用語，和正式場合說的話相差很大呢！

A₇：就是呀！像演說啦，或大學的講課啦。

C₃：甚至座談會的用語也不一樣呢！

B₇：那時候，會說出平常會話裡很少說的用語哪。

A₈：可以舉個什麼例子嗎？

B₈：可以。例如，「きょう午後三時から委員會を開きます」說成「本日午後三時より委員會を開催いたします」等等

C₄：但像那種分別使用不同的說法，到底有什麼意思，這又是另一個問題了。

B₉：可是事實上。即使一件類似的事，使用很多漢語，總覺得比較有份量，看起來比較偉大似的。這是事實呢！

A₉：そういう傾向は実際にありますね。

C₅：どうなんでしょう[16]、現在では、漢語の使いすぎよりも、外来語を使うと偉そうにみえるという風潮の方が問題になっているんじゃありませんか。

B₁₀：まあ、外来語も大きな問題ですが、でも、まだ漢語をたくさん使った文の方が格調の高い[17]文だという考えが、それも知識人といわれるような人たちに残っているんじゃないかと思うんですがね。

A₁₀：そうかもしれませんね。

B₁₁：かななんてもの[18]は、大体、女子供の使うものであって、インテリは漢文だという考えはずいぶん長く続いていましたからね。

C₆：そうかもしれません。しかし、漢語に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思うし、それから日常的な表現と、形式ばった[19]表現との差の問題はどの言語にもあるのであって、日本語だけの問題ではないと、私は思うんですが。

A₁₁：わたしが専門違いのせいもあるでしょう[20]が、農業用語とか、気象用語なんかで、ずいぶんむずかしいことばがありますね。

A₉：實際上確實有這傾向呢！

C₅：不知怎樣。目前麼，與其說現在使用太多漢語，不如說現在使用更多的外來語使自己看起來比較偉大，這趨向已經成爲一項問題不是嗎？

B₁₀：嗯，外來語也是很大的問題，而且我覺得有一些被稱爲知識份子的人們，他們的心目中還留着使用很多漢語的文章才是格調高雅的文章這種想法。

A₁₀：也許如此。

B₁₁：因爲假名是女性，小孩使用的，知識階級的人，使用漢文，這種觀念持續很久了。

C₆：也許是吧！可是我覺得對漢語的價值觀最近已經變得很多，而且，我覺得日常性的語言表達與正式性的語言表達的差別問題，任何語言都有，不只是日語而已。

A₁₁：也許我的專長不同吧！所以我覺得有些農業用語或氣象用語，有相當難的字彙呢！

C7：ありますねえ。たとえば、どうして「種をまく時」と言わないで、「播種期」[21]と言うんでしょうね。

B12：まあ、そのあたりになってくると[22]、いくらか問題でしょうが、日本の近代化に漢語が大いに役立った、という見方もできますね。

A12：どういう点でですか。

B13：明治以後、欧米から新しく入ってきた概念を、漢語でとらえることに成功したという点ですよ。もし漢語というものが使えないとしたら、日本の大学の講義なんかも、とくに自然科学のものなどはどうしようもなくて[23]、外国語を使ってやらなければならなかったかもしれません。漢字の功績も大きいんですよ。

C8：さあ、それは少々一方的な見方じゃないでしょうか。漢語によって新しいものごとがつかめる[24]というのは。漢字を見ただけで何となく意味がわかる。そのことばのもっている概念は正確にはつかめていないのにわかったつもりになってしまう。そのことが、今、むしろ教育上の問題にもなっているんじゃないでしょうか。

C7：有啊。例如爲什麼不說「種をまく時」　而要說「播種期」麼。

B12：呀，導致這種情形，或許漢字有許多問題。，可是你也 可以說漢語對於日本的現代化會有很大的幫助。

A12：在那一方面呢？

B13：那就是明治以後，用漢語成功地掌握了由歐美新進的概念，這一點，假若不能用漢語，那日本大學講課，尤其是自然科學這些，可說是一籌莫展，非使用外國話來教學不可了。漢字的功勞可說是很大的。

C8：哦，那不會稍爲有點主觀嗎？關於用漢語可以掌握一些新的事物這件事。看了漢字就能懂它的意思！
本來我們可以正確地掌握這字彙所包含的概念結果却不能正確地了解（掌握）它的含義了。我覺得這件事，現在反而成爲教育上的問題哪。

A₁₃：むずかしそうな問題ですね。教育上の問題についてもう少し具体的にお話をうかがえると……。

A₁₃：這好像是很難的問題呢。關於教育上的問題能否說得稍微具體點…………。

註解

(1)あれでしょうね：あれ的前述詞出現在該句的後半部。 (2)それなりに——就那樣地，以適合該問題的方式解決。 (3)まだ扱いようもある——還有另一處理方法。 (4)「生きる」なんて字：「生」之類的字。 (5)ざっと数える——大略地數一數。 (6)～というふ……というか——或最好說是～。 (7)漢語是由中文來的外來語，書寫是中文形式，並以類似原文的方式發音，「床屋」和「あした」是日本語，「理髮店」和「明日」是漢語。 (8)どの程度かは別にして——撇開程度不同的問題不談……可能只是程度不同而已吧！ (9)～に限って言っても——即使就～而言，但……。 (10)改まった時——正式的場合。 (11)座談會の時だって＝座談會の時でも（在座談會時）(C)。 (12)ええと——嗯。 (13)「…委員會を…」：「委員會」後一句更正式，並包含更多漢語。 (14)どれだけ＝どれほど——有多少。 (15)意味がある——有意義，含意深刻。 (16)どうなんでしょう：他要求他們考慮的問題接在後面提出。 (17)格調の高い——格調高。 (18)かななんてもの——所謂「假名」。なんて有削弱後面名詞的意味。 (19)形式ばった表現——嚴肅正式的表達，刻板正式的措詞。 (20)～のせいである——～之緣故，～之罪。 (21)播種期：播種期在如此情況下，罕用的"播"字使這個漢語成爲難字。 (22)そのあたりになってくると——像那種例子。 (23)どうしようもない——一點也沒辦法，束手無策。 (24)ものごとがつかある——掌握事情的前因後果。

■ 会話の練習

1. 漢字一つに訓が一つ、音が一つだというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

如果問題是每個字都有一個訓讀和一個音讀，這還可以解決，事實不然。

ええ、しかも、漢字一字に訓が一つ、音が一つというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんだが、実際はそうじゃないし……。……B₂

這種句型用來解釋和強調某些問題的複雜性很有用，要注意它是以假設字眼〝假如〞開頭，再否定它。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 漢字一つに訓が一つ、音が一つだ——→

漢字一つに訓が一つ、音が一つだというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

1. 学生がみんな中国人だ——→

学生がみんな中国人だというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

2. 金を払えばすむ——→

金を払えばすむというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

3. 習慣の違いによるものだ——→

習慣の違いによるものだというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

4. 時間をかければできる——→

時間をかければできるというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

5. 時間と金をかければいい——→

時間と金をかければいいというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

6. 原因がわかっている——→

原因がわかっているというんなら、まだそれなりに扱いようもあるんですが、実際はそうじゃないんです。

II. 漢語に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

我想，人們對漢語的價值觀，近來恐怕已經改變很多了吧？

しかし、漢語に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思うし、それから日常的な表現と、形式ばった表現との差の問題はどの言語にもあるのであって、日本語だけの問題ではないと、私は思うんですが ……C6)

這種句型在表明個人觀點時很適用。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 漢語 ——→

漢語に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

1. 大学教育 ——→

大学教育に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

2. 学問 ——→

学問に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

3. 日本歴史 ——→

日本歴史に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

4. 機械文明[1] ——→

機械文明に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

5. 自然 ——→

自然に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

6. 労働 ——→

労働に対する価値観は、最近、ずいぶん変わってきているんじゃないかと思います。

Ⅲ. 文体の違いの問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

我覺得文體差異的問題，每個國家都有，不只是日本才有。

……と思うし、それから日常的な表現と、形式ばった表現との差の問題はどの言語にもあるのであって、日本語だけの問題ではないと、私は思うんですが。……C_6

這個句型適合用來強調某種情況並非很特別，而是普遍常見的，試試做這個變換練習，以便將どの國にも改成どの社會にも或どの家庭にも。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）文体の違いの問題――→

文体の違いの問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

1. 近代化の問題――→

近代化の問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

2. 教育の問題――→

教育の問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

3. エネルギー問題[2]――→

エネルギー問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

4. 公害（こうがい）問題[3]――→

公害問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

5. 都市の過密化――→

都市の過密化は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

6. 言語政策の問題――→

言語政策の問題は、どの国にもあるのであって、日本だけの問題ではないと思います。

Ⅳ. A「漢字の問題といいますと、まず、どんなことがとりあげられるんでしょうか。」

B「あれでしょうね、音訓の二本立てということなんかでしょうね。」

A：說到漢字的問題第一個要討論的是什麼？

B：“哦，我想可能是音讀及訓讀二元性讀法的問題吧”。

6. 日本経済・流通機構のこと──→

A： 日本経済の問題といいますと、まず、どんなことがとりあげられるんでしょうか。

B： あれでしょうね、流通機構のことなんかでしょうね。

V. A「漢字の問題はじつにやっかいですね。」

B「ええ、そうですね。ただ、漢字の問題といっても、実は、語彙の問題なんじゃないでしょうか。」

A：“漢字的問題實在很難處理呢！”

B：“就是說啊！不過，雖然說是漢字的問題，實際上是字彙的問題。

「それが文脈の中でいろいろに使い分けられているんでやっかいですよね。」……B_3

「そうですね。……。」……A_1

「……。ただ、漢字の問題といっても、実は一字一字の文字そのものの問題というよりは、語彙の問題なんじゃないでしょうか。」……C_1

注意第二個說話者如何以不同觀點將話題轉移成重新評價某個問題。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 漢字・語彙──→

A： 漢字の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、漢字の問題といっても、実は、語彙の問題なんじゃないでしょうか。

1. 日本語・漢字──→

A： 日本語の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、日本語の問題といっても、実は、漢字の問題なんじゃないでしょうか。

2. 学校教育・教育制度──→

A： 学校教育の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、学校教育の問題といっても、実は、教育制度の問題なんじゃないでしょうか。

3. 経済政策・失業者対策——→

A： 経済政策の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、経済政策の問題といっても、実は、失業者対策の問題なんじゃないでしょうか。

4. 留学生・ことば——→

A： 留学生の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、留学生の問題といっても、実は、ことばの問題なんじゃないでしょうか。

5. 選挙・政治意識[5)]——→

A： 選挙の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、選挙の問題といっても、実は、政治意識のの問題なんじゃないでしょうか。

6. 農業政策・農村の近代化——→

A： 農業政策の問題はじつにやっかいですね。

B： ええ、そうですね。ただ、農業政策の問題といっても、実は、農村の近代化の問題なんじゃないでしょうか。

VI. A「日本では、どうも、場面によって文体が違うんですね。」

B「それはたしかにそうですが、でも、場面によって文体が違うということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。」

A：“在日本，似乎場合不同，文體就不同呢？”

B：“正是如此，這種依場合而改變文體的情形，別的語言不是也有這種情形嗎？”

「それはそうですね。日本語の場合、日常語と、専門語というか文章語というか、この二つがかなりはっきり対立していて、いわば、違う語彙体系をつくっているようなところがありますね。」……B_4

「それは具体的に言いますと。」……A_5

「和語と漢語と言ってもいいんですが、たとえば、床屋と理髪店、あしたと明日、というような……。」……B_5

「それはたしかにそうですが、でも場面による文体の違いのようなことは、ほかのことばにもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。」……C_2

注意到第二個説話者如何表示對方所説的某一部分他同意而另一部分不以爲然。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）場面によって文体が違う――→

A：　日本では、どうも、場面によって文体が違うんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、場面によって文体が違うということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

1. 相手によってことはをかえる――→

A：　日本では、どうも、相手によってことばをかえるんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、相手によってことばをかえるということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

2. 農村が過疎化してきている――→

A：　日本では、どうも、農村が過疎化してきているんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、農村が過疎化してきているということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

3. 汽車（きしゃ）で旅行する人が減っている――→

A：　日本では、どうも、汽車で旅行する人が減っているんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、汽車で旅行する人が減っているということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

4. 学歴（がくれき）を問題にする――→

A：　日本では、どうも、学歴を問題にするんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、学歴を問題にするということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか。どの程度かは別にして。

5. インテリが外来語をよく使う――→

A：　日本では、どうも、インテリが外来語をよく使うんですね。

B：　それはたしかにそうですが、でも、インテリが外来語をよ　使うということは、ほかの国の場合にもあるんじゃないでしょうか　どの程度かは別にして。

いかに　如何地，～怎樣地

読書　讀書

好む　享受，喜歡

より正確に　更正確地

　正確だ　正確的，精確的

書物を通じて　由閱讀書籍

　書物　書

得る　得到，獲得

知識　知識

情報　資料

しかも　並且

注目する　注目，重視（動詞）

　注目　注目（名詞）

出版物　出版刊物

翻訳書　翻譯的書籍

　翻訳　翻譯（名詞）

　翻訳する　翻譯（動詞）

割合　比率，百分比

欧米　歐美

学問　學問

～に対する　關於～　對於～

並々ならぬ　非比尋常，非同小可

関心　關心

深さ　深度

物語る　敍述，說明，講

日本文化　日本文化

明治維新以後　明治維新以後

　明治維新　明治維新（1868年）
　1868年日本回復明治天皇專權的時代

　以後　以後，之後

西欧　西歐

文献　文獻，文件

積極的だ　積極的，積極性的

翻訳活動　翻譯工作

　活動　活動、行動

　活動する　使～生動，活動

～を初めとして　以～爲首

文学　文學

その他　其他（事物）

成果　成果

受け入れる　接受

年月をかける　花費經年累月的時間

　年月　經年累月，長時間

達成する　達成，完成（動詞）

　達成　達成（名詞）

第九課　一方交通の文化

■ 新　出　語

一方交通　單行交通

一方　單方面，單方向

交通　交通

文化　文化

本屋街　書店街，書城

～街　～街

目にする　看見

通りかかる　剛巧經過，碰巧經過

ショーウインドー　展示橱窗

新刊書　新出版書籍

発行順　發行順序

発行　發行、出版（名詞）

発行する　發行、出版（動詞）

日を追って　按著日子，循著日子

追う　追隨

～程度　大約，差不多

～近い　接近於～

陳列されているわけではない　不會，不一定都被陳列出來

陳列する　陳列、展示（動詞）

陳列　陳列、展示（名詞）

実際には　實際上

多くの　許多的

少なくとも　至少

数百部　數百冊

数百　好幾百

～部　～冊，～本

印刷する　印刷（動詞）

印刷　印刷（名詞）

数　數字

おびただしい　巨大的，大量的

量、數量

～にのぼる　總計～，共達～

一般の　一般的，普通的

社会人　社會人士，已經離開學校或家庭進入社會的人

社会　社會

～から～に至るまで　從～至～

至る　到～，擴至～

専門　專長

学者　學者

近代科学（きんだい） 現代科學

近代 現代

わずか 僅僅，只有

半世紀（はんせいき）のうちに 半世紀之間

半世紀 半世紀

みごとだ 完美的，耗費可觀的，

吸収（きゅうしゅう）する 吸收、了解（動詞）

吸収 吸收、了解（名詞）

分野（ぶんや） 範疇、範圍

またたく間（ま）に 轉瞬之間，頃刻之間

水準（すいじゅん） 標準、水準

到達（とうたつ）する 到達（動詞）

到達 到達（名詞）

あるいは 或者

かかる 如此的，這樣的

急速（きゅうそく）だ 急速地，很快地

進歩（しんぽ） 進步（名詞）

進歩する 進步（動詞）

可能（かのう）だ 可能的

背後（はいご） 背後、背地

それなりの 那種的～

それなりに 恰如其分地

下地（したじ） 基礎、根基

確（たし）かだ 確實的，無疑的

国学（こくがく） 國學，國學常識

―において 對於～，在～方面

既（すで）に 已經

数々（かずかず）の 多數的

業績（ぎょうせき） 成就，貢獻

「古事記伝（こじきでん）」 「古事記傳」，古事記傳共四十四冊 1764 至 1798 年由本居宣長所撰寫

現代（げんだい） 現代，（在「近代」之後）

科学的だ 科學的

いささかの 略，稍微，一點

いささか 些微的

遜色（そんしょく）がない 毫無遜色

窓口（まどぐち） 窗口，門戶

細々（ほそぼそ）ながら 儘管微少

細々 微少地

オランダ 荷蘭

輸入（ゆにゅう）され続ける 繼續被進口
ported

輸入ずる 進口

輸入 進口，輸入

～に加（くわ）えて 加上～，還有～

読み・書き・そろばん　閱讀，寫作，算盤

読み書き　讀寫

そろばん　算盤

端的だ　坦白，直接地，直截了當地

庶民教育　平民教育

庶民　人民，平民

教育　教育

教育する　教育，培育

見逃せる　使～疏忽

見逃す　遺漏，看走眼，漏看，放走

無視しえない　不能忽視

無視する　忽視

進展　進展（名詞）

進展する　進展（動詞）

驚異的だ　奇蹟似的

最高水準　最高水準

最高　最高

～に達しさえしている　甚至達到～

なお　還有

かつて　曾，曾經

かかげる　懸掛，捲起

追いつく　追上

追い越す　趕過，超過

スローガン　標語，口號

意識　意識、知覺

意識する　感覺，意識到（動詞）

一部　一部分

根強い　根深蒂固地

生き残る　倖免於難

限る　限制

いや　不，更正確地說是～

動向　動向，指向

絶えず　不斷的

向ける　轉向～

遅れをとるまい　決意不落後，這個まい是一個否定的動詞詞尾，表示決心。

遅れをとる　落後

遅れ　延遲，落後

姿勢をとる　採取某種姿態，以～態度

姿勢　姿態，態度

何事によらず　無論什麼情況，在任何情形下

細大もらさず　鉅細無靡，完整地

もらす　遺漏

意欲　意欲，渴望，意向

氾濫　氾濫（名詞）

　氾濫する　氾濫（動詞）

現象　現象

現れる　出現

吸収することにのみ追われる　只忙著吸收，儘其所能，吸收各種事物。

受け身の　被動的，受攻擊的

反面　反面，相反

自国　本國

海外　海外

広める　擴展，廣為推展

理解する　理解

　理解　理解（動詞）

努力　努力，竭力（名詞）

　努力する　努力，盡力（動詞）

怠る　疏忽，怠忽

結果　結果

招く　邀請

ゆえん　緣由，緣故

■　本　　文

神田の本屋街を歩いていて目にしたことである。ある本屋の前を通りかかると、ショーウインドーに新刊書が発行順に日を追って並べてあった。それを見ると、少ない日でも二十冊程度、多い日には五十冊近い新刊書が発行されている。新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。同じ本が、少なくとも数百部、多ければ何千部、何万部と印刷されるのだから、その数はおびただしい量にのぼる。

このことは、学生・一般の社会人から専門の学者に至るまで、いかに読書を好むか、より正確に言えば、書物を通じて得た知識や情報をいかに大切にしているか、ということを示すものである。しかも、ここで注目しなければならないのは、おびただしい量の

出版物の中で、翻訳書がかなりの割合を占めているということである。これは、外国の—特に欧米の—学問・文化などに対する並並ならぬ関心の深さを物語るものである。

ここで思い出されるのが、日本文化を「一方交通の文化」と評した言葉である。

明治維新以後、西欧の文献の積極的な翻訳活動が始まり、学問の世界を初めとして、文学の世界その他で、その成果が多くの人人に受け入れられていった。そして、西欧の社会で百年・百五十年の年月をかけて達成した近代科学の成果も、日本ではわずか半世紀もたたぬうちにみごとに吸収してしまった。学問の多くの分野で、またたく間にその水準が欧米のそれに到達し、あるいは、近づいていったのである。

かかる急速な進歩が可能であった背後には、それなりの下地があったことは確かである。江戸（えど）時代、国学の分野においても、既に数々の業績がみられた。中でも、宣長（のりなが）の「古事記伝」などは、その方法において、現代の科学的な方法にいささかの遜色もないものであった。また、西欧の近代科学も、長崎（ながさき）を窓口に、細々ながらもオランダから輸入され続けていた。これに加えて、「読み・書き・そろばん」という言葉で端的に示される庶民教育の普及も見逃せない。

こうした下地は無視しえないとは言うものの、明治以後の学問の進展は驚異的なものであった。そして、ある分野では既に世界の最高水準に達しさえしている。だが、現在でもなお、かつてかかげた「追いつき追い越せ」のスローガンが、我々の意識の一部に根強く生き残っているのであろう。学問に限らず多くの分野で、西欧いや欧米の動向に絶えず目を向け、それに遅れをとるまいとする姿勢をとり続けているようだ。この、何事によらず新（あたら）しい情

報は細大もらさず吸収しようとする意欲が、翻訳書の氾濫という現象となって現れているとみてよい。

欧米の学問・文化を吸収することにのみ追われる受け身の姿勢は、その反面において自国の学問の成果を積極的に海外に広めよう、自国の文化を世界の人々に正しく理解してもらおうとする努力を怠らせる結果を招くことになった。これが、「一方交通の文化」と言われるゆえんである。

■ 用　　例

1. • 新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。(*l.* 4)

(1) 人生(じんせい)には、こんな不幸なことばかりあるわけではなかろう。

(2) 彼もこの事件に責任を感じていないわけではなかろうから、何か対(たい)策(さく)を考えていてくれるだろう。

(3) 今は旅行シーズンではないから、ホテルに直接(ちょくせつ)行っても空(あ)いている部屋がないわけでもないだろうが、できたら予約しておくほうが安心していられる。

(4) 彼は酒はあまり好きではないようだが、ぜんぜん飲めないわけではないだろう。

(5) フランス語がそれほど上手なわけではないが、一年間のパリ生活で特に困ることもなかった。

2. • 新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。(*l.* 4)

(1) 年収(ねんしゅう)一億(おく)円といっても、高い税金(ぜいきん)をとられるので、実際に手に入る金はもっと少ないことになる。

(2) 今ここで働いている工員は約千人だが、この工場は一日三交替制だから、実際にはもっと大ぜいの工員がいることになる。

(3) こんな風の強い日に火事が起きたら大変なことになる。

(4) 東京とパリとでは時差が八時間あるから、パリは今真夜中だということになる。

(5) 授業に出ても居眠りばかりしていたのだから、講義を聞いたことにはならない。

3. • このことは、学生・一般の社会人から専門の学者に至るまで、いかに読書を好むか、より正確に言えば、書物を通じて得た知識や情報をいかに大切にしているか、ということを<u>示すものである</u>。(*l*. 9)

(1) 野菜やくだものが豊作だというのに意外に安くならないのは複雑な流通機構に問題があるということを示すものである。

(2) 正月と盆にはどの列車も帰省客で超満員になるということは、日本人にとってこの二つの行事がどんなに大切であるかを示すものである。

(3) どこの観光地も紙屑や空きかんで美観がそこなわれているということは観光客の公徳心の欠如を示すものである。

(4) 今回の選挙で投票率が60パーセントに達しなかったことは、有権者が政治に対していかに無関心であるかということを表すものと言えるだろう。

(5) 海外旅行者の急増は日本経済の成長を端的に物語るものと見てよい。

4. • このことは、学生・一般の社会人から専門の学者に至るまで、いかに読書を好むか、より正確に言えば、書物を通じて得た知識や情報をいかに大切にしているか、ということを示すものである。<u>しかも</u>、

ここで注目しなければならないのは、おびただしい量の出版物の中で、翻訳書がかなりの割合を占めているということである。(l.9)

(1) 彼は才能に恵まれている。しかも、大変な努力家だ。

(2)「あの人は奥さんがずっと病気なんですよ。しかも、小さい子供が大ぜいいるんですから生活が大変だろうと思いますよ。」

(3) ここは夏暑く、しかも、冬寒いのだから、実に住みにくい所だ。

(4) こんな旅館にはもう二度と泊まりたくない。料金も高いし、しかも、サービスがひどく悪い。

(5) 彼が体をこわしたのは当然だ。毎晩おそくまで、しかも、強い酒ばかり飲んでいたのだから。

5. • 西欧の社会で百年・百五十年の年月をかけて達成した近代科学の成果も、日本ではわずか<u>半世紀もたたぬうち</u>にみごとに吸収してしまった。(l.20)

(1) 彼はベッドに入って一分もたたぬうちに、もういびきをかきはじめた。

(2) 帰宅してまだ服も着かえぬうちに、会社から呼び出しの電話がかかってきた。

(3) 旅行を楽しみにしている子供たちは、夜も明けぬうちから起き出してさわいでいる。

(4) 眠っていて気がつかぬうちに船はもう港に入っていた。

(5) しばらく会わぬ間に、彼はすっかり髪の毛が白くなってしまった。

6. • 江戸時代、<u>国学の分野においても</u>、既に数々の業績がみられた。(l.26)

(1) 彼は基礎医学の分野ばかりでなく臨床医学の面においてもすぐれた業績を残している。

(2) このテープレコーダーは価格も安いし、性能の点においても申し分がない。

(3) 現在のような財政状態においては減税などはとても期待できそうもない。

(4) 外交問題をめぐって国会において与党と野党の間で激しい論議が行われている。

(5) 本日午後一時より第一会議室において教授会を開催いたします。

7. • 西欧の近代科学も、長崎を窓口に、細々ながらもオランダから輸入され続けていた。(l. 29)

(1) 彼女は夫を失ってから細々ながらも商売を続け、三人の子供を立派に育てた。

(2) 昨年に比べると、わずかながらも景気が回復してきている。

(3) 彼は苦しみながらも、途中であきらめずに最後まで泳ぎぬいた。

(4) せまいながらも楽しいわが家。

——— * ——— * ——— * ———

(5) ジョンソンは日本に三年もいながら、まだ京都に行ったことがないそうだ。

(6) 向こうに着いたら必ず連絡すると言いながら、一ヵ月もたったのにはがき一枚よこさない。

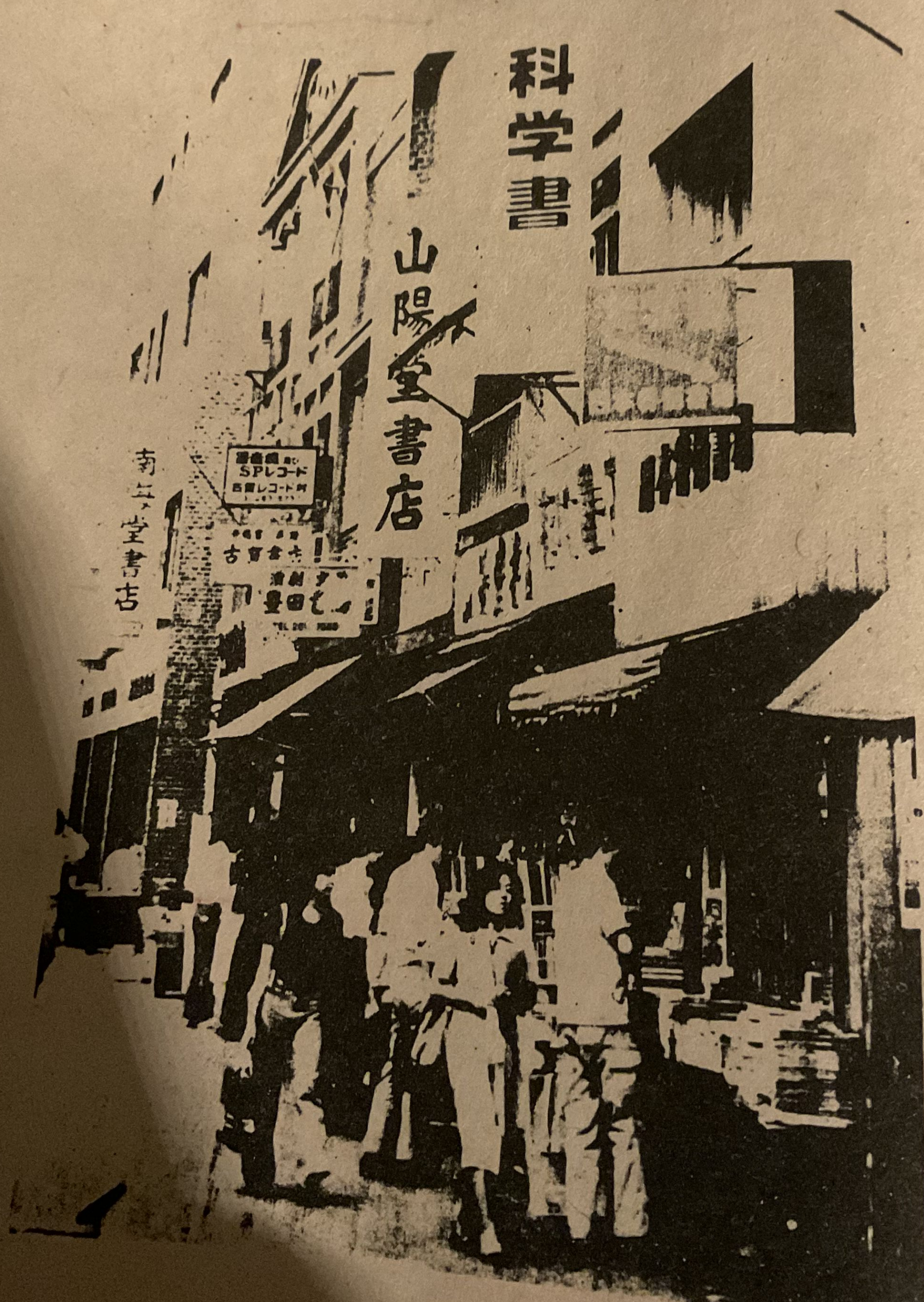
(7) 秋とは言いながら、まだ夏のような暑さが続いている。

8. • こうした下地は無視しえないとは言うものの、明治以後の学問の進展は驚異的なものであった。(l. 33)

(1) この小説は、読んだことがあるとはいうものの、二十年も前のことなのでどんな筋かよく覚えていない。

(2) 便利だからと宣伝されていろいろな台所用品を買ってはみるものの、

結局使わないでしまっておくもののほうが多い。
(3) 夏休みには海へ行ったものの、天気が悪くてほとんど泳げなかった。
(4) 景気回復のきざしは見えてきたものの、私たちの生活は一向に楽にはならない。
(5) 切符をもらったから見に来たものの、あまり面白い映画ではなかった。



C₂：そのことですが、ここに昭和15年の物価を基準にして比較した表があるんですが、昭和49年現在[5]、本の場合、952倍になっていますね。新聞はどうかというと[6]、1416倍だし、食料品の方では、そばが1133倍になっているんですよ。

B₃：へえ[7]、そんなですか[8]。そうすると、他の物価と比較してみると、本はまだ安いと言える、というわけですか。

C₃：ええ、そういう気がしますね。

A₃：しかし、わたしなんかの感じじゃ、本もずいぶん高くなりましたよ。これじゃ、売れ行きもあまりよくない[9]んじゃないでしょうか。

そりゃそうでしょうね。ところでそのう[10]、作った本のうち、どのぐらいまで売れるもんでしょう。もちろんそれは本によって違うでしょうけど。

C₄：これは山下出版の社長の話なんですが、物によっては[11]返品率が七割をこえたりするそうですよ。

B₅：そんなにあるんですか。

C₅：ええ、つまり、一万冊作っても七千冊はもどってくるわけですね。その残った七千冊を売り切るには、三年も四年もかかるってことなんですよ。

C₂：是啊，這裡有一份以昭和十五年的物價爲基準做比較的表，現在是昭和四十九年，書是漲了952倍了。那麼報紙是1416倍，食品方面，麵是漲了1133

B₃：嗯，這樣啊。那麼跟其他的物價相比，書本可說是便宜的了？

C₃：嗯，有這個感覺。

A₃：可是，我總覺得書已經是相當的貴了。這麼一來，銷路會不太好吧！

B₄：你說得一點都不錯！可是這印好的書，不知道能賣多少，當然這是因書而異的。

C₄：根據山下出版社社長說的話，有些項目退貨還超過七成。

B₅：有那麼多啊。

C₅：嗯，也就是說，雖然印了一萬本，却退回來七千本哪。要賣掉這剩下的七千本，還得花三年或四年的時間。

本の値段

人　A：ある大学の教員
　　B：
　　C：｝Aの同僚

A₁：このごろ本が高くなりましたね。

B₁：まったくですね。ここのところ[1]急に値上がりしましたからね。

A₂：ちょっと前には千円札一枚で買える本が多かったけど、このごろは買う前にこわごわ[2]定価を見ちゃいますよ。

C₁：そうですね。でも、考えようによっては[3]、今までが安すぎた[4]んじゃないでしょうかね。

B₂：そうかもしれませんね。でも、安いといってもまあそれは主観的なものでしょ。客観的にはどうなんでしょうか。

書的價錢

人物A：某大學教授
　　B：
　　C：　A的同事

A₁：最近書都很貴呢！

B₁：就是嘛！最近突然漲價了哪。

A₂：不久前一張一千元就能買的書很多，可是最近總是在買前先小心地看看定價。

C₁：就是啊，不過，那要看你的想法是怎樣，我覺得是不是原來賣得太便宜了呢？

B₂：也許是的。可是，「便宜」這種想法可能是主觀性的吧，在客觀地說，應該是怎樣呢

A4：しかし、三、四年前に出た本がどうしても手に入らなく[12]て、困る場合がありますね。

B6：そうなんですね。私も、まあ大した本を買うわけじゃないんですが、困るんですよね。よくそういうことがあって。

A5：それが欧米と決定的に違う点なんじゃないかな。欧米の場合だと、相当前の出版物でも、本屋さんに注文すればどうにか手に入りますけど。

B7：そうらしいですね。

A6：ところが日本の場合は、出た時に買っておかないともうだめなんですね。

C6：ああ、それは、実は税金の問題なんですよ。

A7：そうですか。どういうわけなんですか。

C7：出版社か売れない本を倉庫に入れておくと、それは資産、つまり財産として課税されるんですね。

B8：ははあ。

A4：可是，有時候想買三、四年前出版的書，却買不到而令人困惑啊。

B6：就是嘛。我雖然不是買什麼大不了的書，可是也經常碰到這種頭痛的事。

A5：也許這就是與歐美完全不同的地方。在歐美，只要向書店訂購，還可以買到相當久以前的出版物。

B7：聽說如此。

A6：可是在日本，出版的時候不買以後就買不到了。

C6：是啊，其實，那是稅金的問題。

A7：這樣啊，為什麼呢？

C7：出版社將賣不出去的書存入倉庫，那就是資產，當作財産要被課稅的。

B8：哦。

C₈：ですから、本を裁断して処分してしまわないと、出版社としては経営が苦しくなってしまうんです。

B₉：そうですか。じゃ、それは税法に問題があるんですね。

C₉：そうなんですよ。税務署は「もうからなきゃ切れ」って言うんですから。

A₈：そりゃひどいですね。

C₈：所以，若不將書處理掉，出版社就不好經營了。
B₉：原來如此。那麼問題就在於稅法了！
C₉：是啊，稅捐處要你"賺不了錢就註銷啊。"
A₈：這太那個了。

註解

(1)ここのところ——這些天，這些日字，近來。 (2)こわごわ（定價を）見る——很耽心的看一看（價格）(0)。 (3)考えようによっては——視各人觀點不同而異。 (4)今までが安すぎた——以前價格過於便宜。 (5)昭和49年現在——昭和49年的今天，注意"現在"兩字，指當時的"現在"。 (6)新聞はどうかというと——至於（報業）。 (7)へえ：吃驚的驚嘆。 (8)そんなですか——這麼多嗎？ (9)売れ行きがいい——銷售良好。 (10)そのう——表示肯定答覆的語氣詞。 (11)特によっては——視項目（書籍）而定。 (12)手に入る——得到，手到。

■ 会話の練習

I．ここに物価の表があるんですが、食料品が一番高くなっていますね。
這裡有一份價目表，食品是最昂貴的一項呢！

そのことですが、ここに昭和15年の物価を基準にして比較した表があるんですが、昭和49年現在、本の場合、952倍になっていますね。……C₂

表示像大きく～或變化している～可以高くなつていますね代替。這句型在說明一圖表，曲線圖或圖片是有用的。

練習　例にならって文を作りなさい。

（例）物価・食料品が高い ⟶

ここに物価の表があるんですが、食料品が一番高くなっていますね。

1. 物価・東京が高い――――→
ここに物価の表があるんですが、東京が一番高くなっていますね。

2. 本の値段・専門書が高い――――→
ここに本の値段の表があるんですが、専門書が一番高くなっていますね。

3. 課税率・酒やたばこが高い――――→
ここに課税率の表があるんですが、酒やたばこが一番高くなっていますね。

4. 輸入品・食料が多い――――→
ここに輸入品の表があるんですが、食料が一番多くなっていますね。

5. 収入・農村が多い――――→
ここに収入の表があるんですが、農村が一番多くなっていますね。

6. 出荷量・野菜が多い――――→
ここに出荷量の表があるんですが、野菜が一番多くなっていますね。

II. 他のものと比較してみると、本はまだ安いと言える、というわけですか。
所以你的意思是，同其他項目的價格相比，書價仍被稱之爲便宜。

そうすると、他の物価と比較してみると、本はまだ安いと言える、というわけですか。
……B_3

這裡重點是擺在使用まだ。這句本可以做簡單敍述句まだ安い。注意～と言える和というわけ的附加如何使一簡單敍述更柔順委婉。這種表示法在敍述「某事並不如你所想般壞」時是有用的。

練習　例にならって文を作りなさい。

(例) 他のもの・本――――→
他のものと比較してみると、本はまだ安いと言える、というわけですか。

1. 他のもの・雑誌（ざっし）――――→
他のものと比較してみると、雑誌はまだ安いと言える、というわけですか。

2. 国鉄・私鉄――――→
国鉄と比較してみると、私鉄はまだ安いと言える、というわけですか。

3. 東京・ニューヨークの家賃（やちん）[2)]――――→
東京と比較してみると、ニューヨークの家賃はまだ安いと言える、というわけですか。

4. 野菜・くだもの——→
野菜と比較してみると、くだものはまだ安いと言える、というわけですか。

5. 牛肉・豚肉——→
牛肉と比較してみると、豚肉はまだ安いと言える、というわけですか。

6. 電気・ガス——→
電気と比較してみると、ガスはまだ安いと言える、というわけですか。

iii. A「このごろ野菜が安くなりましたね。」
B「でも、安いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。」

A：蔬菜最近較便宜了，不是嗎？
B：但是"便宜"這概念是很主觀的吧。就客觀地來說可否被稱爲"便宜"？

「このごろ本が高くなりましたね。」……A_1
「まったくですね。……。」……B_1
「……。」……A_2
「そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうかね。」……C_1

「そうかもしれませんね。でも、安いといってもまあそれは主観的なものでしょ。客観的にはどうなんでしょうか。」……B_2

這裡，主觀和客觀是處於相對地位，但這型式同樣可以用來比較都市和鄉村或男人和女人用於B的句子，當你要表示懷疑某人所說之言或提出說法從另一觀點來看或許不正確時，是有用的。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）野菜が安い——→
A：　このごろ野菜が安くなりましたね。
B：　でも、安いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

1. ものが高い——→
A：　このごろものが高くなりましたね。
B：　でも、高いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

2. 入学試験がむずかしい——→

A：　このごろ入学試験がむずかしくなりましたね。

B：　でも、むずかしいといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

3. 本の値段が高い——→

A：　このごろ本の値段が高くなりましたね。

B：　でも、高いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

4. 景気が悪い——→

A：　このごろ景気が悪くなりましたね。

B：　でも、悪いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

5. 本の売れ行きが悪い——→

A：　このごろ本の売れ行きが悪くなりましたね。

B：　でも、悪いといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

6. 学生が勉強しない——→

A：　このごろ学生が勉強しなくなりましたね。

B：　でも、勉強しないといっても、それは主観的なものでしょう。客観的にはどうなんでしょうか。

IV. A「これじゃ、売れ行きもあまりよくないんじゃないでしょうか。」

B「そりゃそうでしょうね。」

A：在這種價格之下，它們不能銷售得很好吧？

B：你說得一點不錯！

「……。これじゃ、売れ行きもあまりよくないんじゃないでしょうか。」……A_3

「そりゃそうでしょうね。……。」……B_4

在你熟練了這個對答練習之後，試着在B的部分加上一些加強短語，諸如こんな高いもの，買う人少ないでしょう，B所給的這種答案，在表示完全同意A的敍述顯然無誤時，是有用的。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）売れ行きがよくない——→

A： これじゃ、売れ行きもあまりよくないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

1. 給料（きゅうりょう）がよくない——→

A： これじゃ、給料もあまりよくないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

2. 値段が安くない——→

A： これじゃ、値段もあまり安くないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

3. 会社がもうからない——→

A： これじゃ、会社もあまりもうからないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

4. 注文がない——→

A： これじゃ、注文もあまりないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

5. 客が入らない——→

A： これじゃ、客もあまり入らないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

6. 生活が楽（らく）にならない——→

A： これじゃ、生活もあまり楽にならないんじゃないでしょうか。

B： そりゃそうでしょうね。

V. A「このごろ本が高くなりましたね。」

B「そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうか。」

A「それもそうですね。」

A：近來書價很昂貴，不是嗎？

B：是的，這完全在於你怎麼看它，或許可以說是以前的書價太便宜了。

A：你或許說得對吧！

B： そうですね。でも、考えようによっては、今までがやさしすぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

5. 町の通りが明るい・暗い───→
A： このごろ町の通りが明るくなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが暗すぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

6. 交通事故が少ない・多い───→
A： このごろ交通事故が少なくなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが多すぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

Ⅵ. A「ですから、出版社としては、経営が苦しくなってしまうんです。」
B「そうですか。じゃ、それは税法に問題があるんですね。」
A「そうなんですよ。」
A：所以，對出版公司來說，在經營上就很困難了。
B：是嗎！如此則是税法的錯誤了。
A：完全正確。
「出版社が売れない本を倉庫に入れておくと、それは資産、つまり財産として課税されるんですね。」……C7
「ははあ。」……B8
「ですから、本を裁断して処分してしまわないと、出版社としては経営が苦しくなってしまうんです。」……C8
「そうですか。じゃ、それは税法に問題があるんですね。」……B9
「そうなんですよ。……。」……C9

確定要強調税法。這裏一個像B那樣的敍述，指出問題所在時，是有用的。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）出版社・税法───→
A： ですから、出版社としては、経営が苦しくなってしまうんです。
B： そうですか。じゃ、それは税法に問題があるんですね。
A： そうなんですよ。

「このごろ本が高くなりましたね。」……A_1
「まったくですね。……。」……B_1
「……。」……A_2
「そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうかね。」……C_1
「そうかもしれませんね。……。」……B_2

在這對答練習中B要提出一不同的觀點，但注意在她用でも預備表示她的反對以前，她先用そうですね表示對A所處地位的同情。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 本が高い・安い——→

A： このごろ本が高くなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

1. 米(こめ)が高い・安い——→
A： このごろ米が高くなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

2. 野菜が高い・安い——→
A： このごろ野菜が高くなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが安すぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

3. 病院(びょういん)が多い・少ない——→
A： このごろ病院が多くなりましたね。
B： そうですね。でも、考えようによっては、今までが少なすぎたんじゃないでしょうか。
A： それもそうですね。

4. 入学試験がむずかしい・やさしい——→
A： このごろ入学試験がむずかしくなりましたね。

大地震　大地震

起こる　發生

デマが飛ぶ　謠自滿天飛

　デマ　謠言

気象台　氣象台

　気象　天氣

ジャンジャン電話がくる　電話鈴響了

　電話がくる　來電話

問い合わせ　詢問，調査

　問い合わせる　詢問，調査（動詞）

気が早い　衝動的，沈不住氣的

者　意思和「人」一様但「者」較正式謙恭

避難　避難

　避難する　避難（動詞）

準備　準備

　準備する　準備（動詞）

人々　人們

心　情緒（不是單指器官，而是包括情緒的、心智的抽象意義）

しみこむ

俗に　通俗的，普遍的

代表として　作爲代表

　代表　代表

　代表する　代表（動詞）

筆頭にあげる　首先提出

　筆頭　筆尖，首席

　あげる　提出

当然だ　當然

最後に　在最後

　最後　最後

顔を出す　出現，露臉

変な感じがする　覺得奇怪

　変だ　奇怪

いくらでもある　無論多少都有

わざわざ　故意的，特意的

持ち出す　拿出來，提出來

単に　僅僅

七五調　反覆七音五音的格律（被採用於日本傳統詩歌及敍事文學中）

調子　押韻的形成

第六課　地震・雷・火事・おやじ

■ 新出語

地震　地震

雷　雷

おやじ　父親、老人

大正十二年　大正十二年：西元 1923 年

関東大震災　關東大地震

死者　死者

および　和

行方不明　下落不明

負傷者　受傷者，傷患

　負傷　受傷

　負傷する　受傷（動詞）

損傷家屋　損壞的房子和建築物

　損傷　損壞

　損傷する　損壞（動詞）

　家屋　房屋

～戸　房屋的計算單位

及ぶ　擴及於，達到

災害　災害

もたらす　帶來，造成

経済上　在經濟上

　経済　經濟

損害　損害

今日　當今，今天

数兆円　好幾兆元

　兆　兆

達する　達到

とりわけ　特別，尤其

恐ろしい　恐怖的，可怕的

　恐ろしさ　恐怖（名詞）

予知　預知

　予知する　預知（動詞）

方法　方法，手段

～にもとづく　由於，基於

科学　科學

進む　進展

まだまだ　尚未

被害　被害

食い止める　阻止

整える　有條不紊地整理，安排

とり合わせの妙　配合的巧妙、不尋常。

とり合わせ　配合（名詞）收集

ねらう　瞄準

とれる　被解釋爲能取

案外　出乎意料

通じる　被理解，溝通

天災観　天災的觀念

天災　天災（諸如地震，洪水，颱風，等等）

～観　～觀感

一過性　一時性，短暫性

評する　批評（動詞）

過ぎる　超過

一瞬　一刹那，一瞬間

じっと　目不轉睛的，一聲不響的，安靜地，耐心地

平和　和平，寧靜

やってくる　來臨，〔意思和くる一樣，但較口語〕

くよくよする　擔憂，煩燥

いわば　可以說……說起來。

楽天的だ　樂觀的

できごと　事件，發生的事情。

燃える　燃燒（動詞）

それまでだ　只不過如此，那樣而已。部了

あとあと　未來

～思いをする　覺得～（動詞）

怒る　生氣，發怒

母親　母親

いつまでも　總是，永遠。

ぐちを言い続ける　不斷地抱怨，訴苦

ぐち　怨言

バカッ　笨蛋！（一種尖刻的說詞，強調ばか）

ばか　愚笨，笨蛋

どなる　吼叫

3. • 俗に「地震・雷・火事・おやじ」と言われるように、恐ろしいものの代表として地震がまず筆頭にあげられるのは当然であろう。(l. 11)

(1)「時は金なり」と言われるように、我々はもっと時間を大切に使わなければならない。

(2) この表を見ればわかるように、日本人の平均寿命は年々伸びてきている。

(3) みんなが心配していたように、彼の病気はやはり癌であった。

(4)「あなたもよく御存知のように、あの人は約束の時間に平気で遅れて来る人ですよ。」

(5) だれもが願っているように、地震の予知ができるようになれば、こんなすばらしいことはない。

4. • 俗に「地震・雷・火事・おやじ」と言われるように、恐ろしいものの代表として地震がまず筆頭にあげられるのは当然であろう。(l. 11)

(1) 彼は在校生の代表として卒業式で祝辞を述べた。

(2) 彼は五年前に観光客として日本へ来たことがあったが、今回は外交官として来ることになった。

(3)「先生のおっしゃることはわかりますが、やはり私としては賛成いたしかねます。」

(4) 彼は博士論文のテーマとして「日米外交史」を取り上げることにした。

(5) 火事の原因として、まず第一にたばこの火の不始末があげられる。

5. • 一度過ぎてしまえばそれで終わりということである。(l. 21)

(1)「君のやったことは、あやまればそれで済むという問題ではない。」

(2) お菓子などは食べてしまえばそれで終わりだから、旅行のおみやげには何か記念に残るものがいい。

地震や雷は一瞬のできごとだ。火事も燃えてしまえばそれまでで、あとあとまで恐ろしい思いをすることはない。おやじが怒るのも、母親がいつまでもぐちを言い続けるのと違って、一度「バカッ」とどなればそれで終わりだ、という点では一過性と言えるのかもしれない。

どな
［怒鳴る］（自）大声で叱責

■ 用　　例

1. • まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。(l. 6)

(1) 二十世紀(せいき)の科学技術はついに人間を月に送りこむところまで進歩した。

(2) この小説(しょうせつ)の第一巻(だいいっかん)は、主人公(こう)がパリへ旅立(たびだ)つところで終わっている。

(3) 食事をしようとしているところに、田中さんがやって来た。

(4)「あの人は私が困っているところを助けてくれた恩人(おんじん)です。」

(5)「お忙しいところをおいでいただいてありがとうございました。」

2. • 科学がずいぶん進んだようでも、まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。(l. 6)

(1) 医学(いがく)はずいぶん進歩したようでも癌(がん)をなおせるところまではきていない。

(2) 日本語が上達(じょうたつ)したようでも通訳(つうやく)ができるところまではいっていません。

(3) 海水(かいすい)を真水(まみず)に変える実験に成功したといっても、実用化(じつようか)するまでには年月(ねんげつ)がかかりそうだ。

(4) まだ計画をねっている段階(だんかい)で、みんなに発表(はっぴょう)するまでにはなっていない。

(5) 見ればわかることだから、わざわざ説明するまでもないでしょう。

■ 本　文

大正十二年の関東大震災は、死者および行方不明十万六千人、負傷者五万二千人、損傷家屋六十九万四千戸に及ぶ災害をもたらした。経済上の損害は百億円（今日のお金で数兆円）にも達したと言う。

災害の中でもとりわけ地震が恐ろしいのは、予知の方法がないことにもとづく。科学がずいぶん進んだようでも、まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。

何月何日の何時何分に大地震が起こる、などというデマが飛ぶと、気象台にジャンジャン問い合わせの電話がくる。気の早い者は避難の準備さえ始める。地震の恐ろしさが人々の心にしみこんでいるからである。俗に「地震・雷・火事・おやじ」と言われるように、恐ろしいものの代表として地震がまず筆頭にあげられるのは当然であろう。

それに続くのが雷と火事で、最後におやじがくる。雷と火事が恐ろしいのもよくわかるが、最後におやじが顔を出すのはちょっと変な感じがする。ほかに恐ろしいものはいくらでもありそうなのに、わざわざ「おやじ」を持ち出したのはどういうことだろう。単に七五調の調子を整えるためだとも、とり合わせの妙をねらったものだともとれる。しかし、おやじの恐ろしさには、案外地震などと通じるものがあるのかもしれない。

日本人の天災観をある人は「一過性」と評した。一度過ぎてしまえばそれで終わりということである。天災というものは、その恐ろしい一瞬さえじっと耐えれば、あとにまた平和がやってくるのだから、くよくよすることはないという、いわば楽天的な天災観だそうである。

(3)「貸していただく必要はありませんよ。ちょっと見せていただければそれでいいんです。」

(4)「この病気は熱が下がればそれでなおったというものじゃないんだから、一週間ぐらいは安静にしていて下さい。」

(5) あの月賦はあと一回払えばそれでおしまいだ。

6. • 天災というものは、その恐ろしい一瞬さえじっと耐えれば、あとにまた平和がやってくるのだから、くよくよすることはないという、いわば楽天的な天災観だそうである。(l. 22)

(1) 人間というものは死んでしまえばそれまでなのだから、生きている間にしたいことをしておくほうがいい。

(2) 外国語というものは使わなければ忘れてしまうものなのだから、いつも使うようにしていなければだめだ。

(3) お金というものは使ってしまえばそれまでなのだから、あるからといって、やたらに無駄づかいをしないほうがいい。

(4) 子供というものはお菓子を見れば食べたがるのだから、夜寝る前にはお菓子を見せないほうがいい。

(5) 彼という人間は自分さえよければ人のことはどうでもよいと思っているのだから困った人だ。

7. • 天災というものは、その恐ろしい一瞬さえじっと耐えれば、あとにまた平和がやってくるのだから、くよくよすることはないという、いわば楽天的な天災観だそうである。(l. 22)

(1) 時間はじゅうぶんあるのだから、今からあわてることはない。

(2) まだ機会があるのだから、一度ぐらい失敗したからといってあきらめることはない。

(3) 間違いはだれにでもあるのだから、そんなに恥しがることはない。

(4)「安いからって、いらないものを買うことはないでしょ？」

(5) たいしたけがでもないから、わざわざ病院に行くこともないと思っているうちに、痛みがひどくなってきた。

8. • 火事も燃えてしまえばそれまでで、あとあとまで恐ろしい思いをすることはない。(l. 26)

(1) いくらお金をためていても、死んでしまえばそれまでなのだから、生きているうちに有効に使うほうがいい。

(2) 会社がいくらたくさんダイレクトメールを出しても、受け取った人が読んでくれなければそれまでだ。

(3)「フィルムは一度でも感光させてしまえばそれまでですから、現像中は絶対に暗室のドアをあけないで下さい。」

(4) この機会をのがしたらそれまでで、もう二度と彼には会えないだろう。

(5)「女の子なんていくら可愛がって育てても嫁に行ってしまえばそれまでですよ。」

9. • おやじが怒るのも、母親がいつまでもぐちを言い続けるのと違って、一度「バカッ」とどなればそれで終わりだ、という点では一過性と言えるのかもしれない。(l. 27)

(1) 漢字をもとにしているという点ではひらがなもかたかなも同じである。

(2) 持ち運びの便利さという点ではカセットレコーダーのほうがいいが、音の点ではオープンリールのレコーダーのほうがすぐれている。

(3) 日本語がうまいという点では、この大使館に彼の右に出る人はいないでしょう。

(4) 彼は能力の点では申し分ないが、性格的に欠陥があるので、上の者の信用がない。

(5)「このアパートは家賃の安い点では文句はないんですが、駅から遠いのが難点ですよ。」



■ 会　　話　　　　地震の体験

時　地震のあった翌日

人　A：関東大震災を体験した人

　　B：Aの知人。Aと同じく関東大震災を体験している

A_1：ゆうべも地震がありましたね。

B_1：そうでしたね。そういえば、ちかごろは、地震が続きますね、[1] 小さいけど。

A_2：大きなの[2]が来なければいいんですけどね。

B_2：大きな地震といえば、関東大震災の時は、ひどかったですね。あの時はどうしていらっしゃったんですか。

A_3：あの時はね、私、築地に住んでいた時で、ちょうどおひる[3]の支度が終わってほっとした瞬間にぐらっと[4]来て……。

地震的經歷

時間：地震發生後的次日

人物：A：經歷到關東大地震的人

　　　B：是A的熟人和A同樣是經歷過關東大地震的人

A_1：昨天也有地震呢！

B_1：是的，我想起來了，最近發生一連串的地震呢，雖然是小地震，但……

A_2：如果不發生大地震就好了。

B_2：說到大地震的話，關東大震災的時候是相當厲害的，那個時候你在做什麼？

A_3：那時我住在「築地」，正好準備好午餐，鬆一口氣時的那一霎那就來了。

1923年大地震

B_3：うん。

A_4：それからドドッ[5]ていう物音でしょう[6]。

B_4：九月一日の午前11時58分ですね。

A_5：いつもとは違う、と思ったもんですから、子供を引き寄せましてね。

B_5：はあはあ。

A_6：その上に伏せたんです。

B_6：ふん。

A_7：その時はもう壁土がばらばら[7]落ちてきて……。

B_7：ええ、ええ。

A_8：もうもうと[8]煙みたいに部屋に立ちこめて……。

B_8：ううん。

A_9；目もあけられないんです。

B_9：昔のうちは土の壁が多かったから……。

A_{10}：ちょっとしずまったかと思ったら、また余震でしょう。

B_{10}：そうそ、そうそ。 静まる

B_3：喔！

A_4：而後有轟轟的響聲吧！

B_4：是在9月1日早上11點58分呢？

A_5：覺得和平常不一樣，就把小孩子拉近。

B_5：喔，是這樣的，

A_6：然後扒在小孩上面。

B_6：嗯……？

A_7：那時牆壁上的土已一塊一塊的掉落下來了。

B_7：然後呢……？

A_8：濛濛的像烟霧一樣瀰整個屋子。

B_8：嗯。

A_9：眼睛也睜不開。

A_9：因爲從前的房子多是土牆的關係。

A_{10}：稍覺得平靜之後，又發生餘震了。

B_{10}：喔！是這樣的。

A_{11}：もういけない[9]と思って子供の手を引きましてね。

B_{11}：ふん。

A_{12}：戸だの障子だの[10]の倒れた上を伝って庭へ出ましたの。

B_{12}：ええ、ええ。

A_{13}：そうしたらぱっくり[11]地割れがしてましてね。

B_{13}：庭がですか。

A_{14}：水がどうどう[12]吹き出してるんです。

B_{14}：そりゃひどい。

A_{15}：その中を子供の手を引いて走って、ようやく裏の原っぱに逃げたんです。あなたはどこにいらしたんですか。

B_{15}：わたしは被服廠跡[13]にいたんですがね。

A_{16}：まあ、それでよく……。

B_{16}：ええ、運が強かった[14]んですね。

A_{17}：ほんとにねえ。

B_{17}：ああいう時は、みんな荷物をしょって逃げますからね。

A_{11}：覺得已經不行，就牽小孩的手。

B_{11}：然後呢？

A_{12}：爬過一個個倒塌的窗戶和紙門，走到庭院。

B_{12}：噢！是是。

A_{13}：之後地就開始地裂了。

B_{13}：是庭院的地嗎？

A_{14}：水就猛噴出來。

B_{14}：那眞厲害。

A_{15}：當時我牽著小孩的手好不容易才逃到後院的平地去，那時你在那裏呢？

B_{15}：我在以前的軍服廠遺址。

A_{16}：嘿，那你眞幸運……

B_{16}：是的，我的運氣好。

A_{17}：眞是的。

B_{17}：在那時候，大家都背著行李逃走呢！

A18：そうですわね。

B18：火の粉が降って[15]くると荷物に火がついて[16]、すぐ燃えだすんですね。

A19：そうそう。

B19：あわてて消しにかかっても[17]、人と人で身動きもできない[18]でしょう。

A20：そうなんです。

B20：一人が足場を失って[19]どっと[20]倒れると、みんながばたばた[21]将棋倒し[22]に泥水の中へ倒れましてね。

A21：川っぷちだったんですね。

B21：そのうち、ゴーッと[23]強い風の音がして。

A22：ええ。

B22：また火の雨で。

A23：ほんとにね。

B23：泥水でびっしょりぬれ[24]てた着物がからっからに乾いてしまってるんですよ。

A24：ああ。

B24：そうこうするうちに[25]髪の毛がじりじり[26]焼けてきて。

A18：是啊！

B18：所以火花一飄下，就在行李上著火，立刻就燃燒起來。

A19：是的，是的。

B19：即使慌忙的想把火熄掉，在人群中身體也動彈不得。

A20：對！

B20：一個人站不穩突然倒下，大家也就像骨牌倒下一樣跟著連續跌倒到泥沼中。

A21：是在河邊。

B21：之後就刮起強風的吼叫聲音。

A22：是，是。

B22：還有火雨。

A23：實在是………

B23：被泥水濺得濕漉漉的衣服就變得乾乾的。

A24：喔………

B24：在這樣，那樣作的時候，頭髮就慢慢的開始燒起來了。

■ 会話の練習

I. いつもとは違う、と思ったもんですから、すぐ電話(でんわ)しました。

覺得和平日不同所以立刻打電話。

いつもとは違う、と思ったもんですから、子供を引き寄せましてね。……A_5

這個句型於解釋某人採取某種行爲的理由上是有用的。小心清楚地發，在～と思った部份前面，也就是理由的音。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) いつもとは違う ──→

いつもとは違う、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

1. あぶない ──→

あぶない、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

2. 知らせたほうがいい ──→

知らせたほうがいい、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

3. あしたでは遅い ──→

あしたでは遅い、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

4. 忘れると困る ──→

忘れると困る、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

5. 医者をよんだほうがいい ──→

医者をよんだほうがいい、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

6. 警察(けいさつ)に知らせたほうがいい ──→

警察に知らせたほうがいい、と思ったもんですから、すぐ電話しました。

II. 電気(でんき)がついたかと思ったら、また消(き)えました。

覺得電來了，又熄掉了。

ちょっとしずまったかと思ったら、また余震でしょう。……A_{10}

這是表示在面對急遽改變的情形下，一個人的混亂的有用句型。在～かと思ったう之前一定要用～た／だ的型式來表示行爲的終結。

A₂₅：……。

B₂₅：あの時はもうこれで終わりかと思いましたねえ。[27]

A₂₆：ねえ、恐ろしい思い[28]をなさいましたね。

B₂₆：お互(たが)いさまひどい目にあい[29]ましたね。

A₂₅：………

B₂₅：那時我想恐怕我會這樣完蛋了。

A₂₆：是的，你一定覺得很可怕吧！

B₂₆：我們彼此都有可怕的經歷。

註解

(1)地震がつづく——地震經常發生。 (2)大きなのが：の＝地震。 (3)おひるの支度——準備午飯。 (4)くらっと：轟轟（描述物體或大地突然開始猛烈搖撼）。 (5)ドドッ：咚咚（形聲字，描述大浪、山崩、地震等情況下所出現的巨響。 (6)物音でしょう＝物音があったでしょう。 (7)ばらばら（落ちる）：相繼地。（用來描述粒狀的東西一大片一大片落下來。擊中別的物體的景象與聲音）。 (8)もうもうと——罩在濃煙中，一片濛濛地。(0) (9)もういけない——（如果我們還在那裏）我們就完了。 (10)戸だの障子だの＝戸とか障子とか。（窗戶和紙門）。 (11)ばっくり——裂開。(0) (12)どうどう——咕咚咕咚；一種搖撼的聲音（被強風刮起或被猛浪撞擊到）(0)。 (13)被服廠跡——軍服廠的遺跡（數千人逃到這塊空曠的地面，以爲會安全，結果却有大多數被燒死）。 (14)運が強い——運氣好。 (15)火の粉が降る——火花四落。 (16)火かつく——著火。 (17)消しにかかる——進行滅火。 (18)身動きもできない——身體動彈不得。 (19)足
場を失う——失足跌倒。 (20)どっと——突然，剎那間(0)。 (21)ばたばた倒れる——一
個接一個相繼倒下(0)。 (22)將棋倒し——一個接一個倒下（像骨牌成排倒下一般）。
(23)ゴーッと——伴著重物墜地的聲音(0)。 (24)びっしょりぬれる——濕漉漉的黏在皮膚
上(0)。 (25)そうこうするうちに——同時間。 (26)じりじり燒ける——（不容易起火的
東西），慢慢燒焦而嘶嘶作響(0)。 (27)これで終わりかと思いました——我以爲此生就
到此爲止了。 (28)恐ろしい思いをする——有過可怕的經驗，經歷可怕的事。 (29)ひど
い目にあう——經歷一次恐怖經驗。

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）電気がつく・消える――→

電気がついたかと思ったら、また消えました。

1. 雨がやむ・降りだす――→

雨がやんだかと思ったら、また降りだしました。

2. 少し暖かくなる・寒くなる――→

少し暖かくなったかと思ったら、また寒くなりました。

3. なおる・痛くなる――→

なおったかと思ったら、また痛くなりました。

4. 静かになる・騒ぎはじめる――→

静かになったかと思ったら、また騒ぎはじめました。

5. 眠る・目をさます――→

眠ったかと思ったら、また目をさましました。

6. 火が消える・もえはじめる――→

火が消えたかと思ったら、またもえはじめました。

III. もうやんだだろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ雨は降っているんです。

以爲眼看就要停止了，結果又下雨了。

もういけないと思って子供の手を引きましてね。……A_{11}

戸たの障子たのの倒れた上を伝って庭へ出ましたの。……A_{12}

そうしたらばっくり地割れがしてましてね。……A_{13}

水かどうどう吹き出してるんです。……A_{14}

這是一種事與願違的驚嘆表達方式，說話的人可以用～見てみたら，まだ～來作一長句，而そうしたら更表現出一種對換的語調，降っている的用法使得過去的情景聽著說更傳神。

練習 例にならって文を作りなさい。

(例) 雨がやむ・降っている──→

もうやんだだろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ雨は降っているんです。

1. 新聞が来る・来ていない──→

もう来ただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ新聞は来ていないんです。

2. 外が明るくなる・暗い──→

もう明るくなっただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ外は暗いんです。

3. 父が帰ってくる・帰っていない──→

もう帰ってきただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ父は帰っていないんです。

4. 工事が終わる・終わっていない──→

もう終わっただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ工事は終わっていないんです。

5. 弟が出かける・出かけていない──→

もう出かけただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ弟は出かけていないんです。

6. 車が来る・着いていない──→

もう来ただろうと思って見てみたんです。そうしたら、まだ車は着いていないんです。

Ⅳ. A「ああいう時は、みんな荷物をしょって逃げますからね。」

B「そうですね。」

A「たいへんなんです。」

A：在那時候大家都背著行李逃走。

B：是的。

A：那眞糟糕。

「ああいう時は、みんな荷物をしょって逃げますからね。」……B_{17}
「そうですわね。」……A_{18}
「……。」……B_{18}
「そうそう。」……A_{19}

這是一種緊急事件對話方式，注意說話的人一定要對ああいう時的意思有同感。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）荷物をしょって逃げる——→

A： ああいう時は、みんな荷物をしょって逃げますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

1. あわてる——→

A： ああいう時は、みんなあわてますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

2. 何となく不安（ふあん）になる[2)]——→

A： ああいう時は、みんな何となく不安になりますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

3. 自分のことばかり考える——→

A： ああいう時は、みんな自分のことばかり考えますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

4. 身動きもできない——→

A： ああいう時は、みんな身動きもできませんからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

5. 急（いそ）いで帰りたいと思う——→

A： ああいう時は、みんな急いで帰りたいと思いますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

同感。

6. ばたばた将棋倒しに倒れる──→

A： ああいう時は、みんなはたはた将棋倒しに倒れますからね。

B： そうですね。

A： たいへんなんです。

V. A「きのうも地震がありましたね。」

B「そうでしたね。そういえば、ちかごろは地震が多いですね。」

A:昨天也發生地震。

B:是的，我想起最近地震很多呢？

「ゆうべも地震がありましたね。」……A_1

「そうでしたね。そういえば、ちかごろは、地震が続きますね、小さいけど。」……B_1

注意在討論中如何以一件事情的發生來作爲擴大談話的樞紐，這就是把共同集中話題轉移到普通的話題上去，要達到較好的溝通，擴大談話內容的能力是很重要的。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) きのう・地震──→

A： きのうも地震がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは地震が多いですね。

1. きのう・火事──→

A： きのうも火事がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは火事が多いですね。

2. けさ・地震──→

A： けさも地震がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは地震が多いですね。

3. さっき・停電(ていでん)──→

A： さっきも停電がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは停電が多いですね。

4. ゆうべ・電車の事故────

A： ゆうべも電車の事故がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは電車の事故が多いですね。

5. 先日・ガス爆発[4]

A： 先日もガス爆発がありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろはガス爆発が多いですね。

6. きのう　学生のデモ[5]

A： きのうも学生のデモがありましたね。

B： そうでしたね。そういえば、ちかごろは学生のデモが多いですね。

---

(1)建築工程　(2)變得焦慮不安　(3)停電　(4)瓦斯爆炸

(5)示威遊行（政治等～）

新しがり屋　喜好新奇的人

猪　野豬

大好きだ　最喜愛的

四つ足　四足動物

食う　吃，食

かまど　烹飪爐灶

神様　神，神明

怒る　生氣，發怒

料理　煮食，烹飪

料理する　烹東西

そこで　於是，因此

やむなく　不得已

庭先　庭院

火をおこす　生火，起火

fire

発達　發展，成長

狩猟　狩獵

獣　野獸

食料として　作爲食物

古代　古代，古時候

決して～(ない)　絕不

農業　農業

発達する　發展，進步、成長

食料　食物

農耕　農耕，農業的

神　神

捧げる　供應，供獻

儀式　儀式

記録　記錄

記録する　記錄，登記（動詞）

立証　證明

立証する　證明；證實（動詞）

風習　風俗；習慣

いくつか　一些；好幾個

空間的だ　空間上的問題，空間性的

空間　空間

制約　限制，約制

制約する　限制，約制（動詞）

牛馬　牛馬

地域　地域，區域

放牧する　放牧（動詞）

放牧　畜牧，牧養

牧畜　畜牧

ふるう　茂盛，興隆

田畑　田野，田間

労役　勞工，勞力

さらに　再者，更

第十課　蛋白質（たんぱくしつ）の歴史（れきし）

■ 新出語

蛋白質　蛋白質

歴史　歴史

足（た）りる　足夠

コマーシャル　商業

数年前（すうねんまえ）　數年前

流行（りゅうこう）する　流行（動詞）

流行　時尚，流行

ソーセージ　香腸

ビタミン剤（ざい）　維他命丸

～剤　～劑（多種藥物名之尾）

広告（こうこく）　廣告（名詞）

広告する　廣告、宣傳（動詞）

欧米社会　西方社會

接触（せっしょく）　接觸（名詞）

接触する　接觸（動詞）

体力（たいりょく）　體力

痛感（つうかん）する　深深感覺到

とらえる　抓住

文句（もんく）　措辭，抱怨

以前（いぜん）　以前

ヨーロッパ諸国（しょこく）　歐洲諸國

諸国　不同的國家，諸國

国民（こくみん）一般　一般國民

国民　國民

肉類（にくるい）消費量　肉類消費者

肉類　肉類

お話にならない　不值一提

肉食（にくしょく）　食肉、吃肉

当（あ）たり前（まえ）だ　合理的，當然的

徳川末期（とくがわまっき）　德川時代末期

末期　末期，末葉

さかのぼる　溯回～，退回～

祖父（そふ）　祖父

もちろん　當然

人間（にんげん）　人類

伝来　傳來，輸入

伝来する　傳來，輸入（動詞）

仏説によると　根據佛教的教旨

仏説　佛教的教旨，佛教的說法

仏陀　佛陀

すべての　全部

生き物　生物

憐れみをかける　憐憫

憐れみ　可憐，同情

憐れむ　可憐，同情（動詞）

かけ給う　[たもう受授關係的一種用法是古式日本語，現在都改用命令式的たまえ

殺す　殺

仏罰　佛教的罪惡

罰　責罰，處罰

殺生禁断　禁止殺生

戒め　告誡

仏門に入る　成爲佛教徒，進入佛門

仏門　佛教僧侶階級，佛門

僧侶　僧侶

支配者によって　由統治者所～

支配者　統治者

支配　統治，控制

支配する　控制，統轄

民衆　民衆，人民

押しつける　強施～ 於～

一般民衆　一般民衆

忠実だ　忠實的，信實的

考えがたい　難以想像，難以相信

精神的だ　精神的，精神上的

精神　精神

圧迫する　壓迫（動詞）

圧迫　壓迫

否定する　否認（動詞）

否定　否認

輝かしい　光輝的，輝煌的

美術　藝術，美術

深い　深的，深奥的

精神文化　精神文化

伝統　傳統

築きあげる　建設，建立

築く　建設，建築（動詞）

異論　不同的意見，異論，反調

ありがたい　可喜的，値得慶幸的
禁じる　禁止
方向　方向，指向
推し進める　推進
欠ける　欠缺，短少
作りあげる　創造，完成
恨む　對……怨恨

■ 本　文

「蛋白質が足りないよ」というコマーシャルが数年前に流行した。ソーセージかビタミン剤か、何の広告だったかは忘れたが、欧米社会との接触の機会が増えて、自分たちの体力の足りないことを痛感させられた日本人の気持を、うまくとらえた文句であったと思う。

日本人も以前に比べれば肉をたくさん食べるようにはなったが、ヨーロッパ諸国やアメリカに比べると、国民一般の肉類消費量はお話にならないほど少ない。それは、日本では、肉食が当たり前のことになったのが、明治か、せいぜい徳川末期までしかさかのぼれないことに、原因があるのだろう。

わたしの祖父は—もちろん明治の人間であったが—新しがり屋で、若い時、牛や馬や猪などの肉が大好きであった。ところが、周囲では、「四つ足を食うと動物になってしまう」とか、「かまどの神様がお怒りになる」とか言って、家の中で料理や食事をさせなかった。そこで、やむなく庭先で火をおこして焼き、一人で食べたそうである。

だが、日本人は古代から肉食をしなかったのかというと、決してそうではない。農業が発達する以前には、狩猟によって得た獣が食料としてかなり重要な部分を占めていた。農耕が始まってからも、農耕の神に牛や馬を犠牲として捧げ、儀式の後でその動物

の肉を食うということが行われていた。このことは、はっきりと記録に残されていて、立証ができるそうである。

この肉食の風習が消えてしまった原因はいくつかある。その一つは、日本では、空間的な制約で牛馬を広い地域に放牧することができないため、牧畜がふるわなかったことであり、また、一つは、農業が発達して、牛馬を田畑の労役に使うことが多くなったことである。さらにもう一つ、大きな原因として、仏教の伝来と普及があげられる。

仏説によると、仏陀は「すべての生き物に憐れみをかけ給う」ものであるから、生き物を殺すものは仏罰を受けることになる。殺生禁断の戒めは、仏門に入った僧侶ばかりでなく、支配者によって一般の民衆にも押しつけられるようになった。もちろん一般民衆が忠実にこの戒めを守ったとは考えがたいが、少なくとも肉食の習慣を精神的に圧迫することになった事実は否定できない。

仏教が輝かしい美術と深い精神文化の伝統をこの国に築きあげたことには異論がない。また、仏教が人の心に生き物を憐れむことを教えてくれたのはありがたいことである。しかし、それが肉食を禁じる方向にこの国を推し進め、体力に欠ける日本人を作りあげる原因になったとすれば、ちょっと恨みたくもなるのである。

■ 用　例

1. ・それは、日本では、肉食が当たり前のことになったのが、明治か、せいぜい徳川末期までしかさかのぼれないことに、原因があるのだろう。*(l. 8)*

(1) 交通事故の多くは運転する者の不注意に原因がある。

(2) あの事業が計画どおり進まないのは、資金が不足していることに原

因があるようだ。

(3) 性格的な面に問題があって、彼は希望する会社に入れなかった。

(4) この試合の敗因は、相手の力を甘くみすぎたことにあると言ってよい。

(5)「手術はそれほどむずかしいものではありませんが、体力がもつかどうかに不安が残ります。」と医者は家族の者に語った。

2. • ところが、周囲では、「四つ足を食うと動物になってしまう」とか、「かまどの神様がお怒りになる」とか言って、家の中で料理や食事をさせなかった。そこで、やむなく庭先で火をおこして焼き、一人で食べたそうである。(*l*. 12)

(1) クラブの仲間が結婚することになった。そこで、みんなでお祝いを贈ることにした。

(2) 先生が「では、きょうはこのへんで……」と言って本をとじた。そこで、学生も帰りじたくを始めた。

(3) 彼は食うや食わずの生活をしてお金をためた。そして、土地を買い、家を建てた。そこではじめて彼女に結婚を申し込んだのである。

(4) アイデアはいいが成功する見込みは薄いと言って、だれも積極的に協力しようとはしなかった。そこで、彼は計画をたてなおすことにした。

(5) 彼の兄はアマゾンの探検に出かけたまま帰国の期日が過ぎても何の連絡もなかった。現地の大使館に問い合わせても消息がつかめなかった。そこで、彼自身が捜索に行く決心をした。

3. • 日本人は古代から肉食をしなかったのかというと、決してそうではない。(*l*. 17)

(1) 小林さんはいつも試験の成績がいい。だが、勉強ばかりしているか

というと決してそうではない。

(2) 雨期だから一日中雨が降り続くのかというと、決してそうではなく、毎日2・3時間スコールがあるだけだ。

(3) たばこを吸いすぎると肺癌になりやすいというが、それなら吸わなければ大丈夫かというと必ずしもそうではない。

(4) 理論物理学というのはひどくむずかしい学問かというと、基礎的な考え方さえわかれば、実はそれほどではないようだ。

(5) 当用漢字をみんな覚えれば、何でも読めるかというと、専門書などには当用漢字外の字が使われていて意外に苦労させられる。

4. • 殺生禁断の戒めは、仏門に入った僧侶ばかりでなく、支配者によって一般の民衆にも押しつけられるようになった。(l. 31)

(1) 彼の名は国内ばかりでなく、広く海外にも知られている。

(2) 今住んでいるアパートは狭いばかりでなく、駅からも遠くて不便だから引越すことにした。

(3) この花は色がきれいなばかりでなく、香りもとてもいい。

(4) 今度の旅行は天気が悪かったばかりでなく、乗り物もひどく混んであまり楽しくなかった。

(5) 彼は作詩・作曲をするばかりでなく、歌手としてステージに立つこともある。

5. • それが肉食を禁じる方向にこの国を推し進め、体力に欠ける日本人を作りあげる原因になったとすれば、ちょっと恨みたくもなるのである。(l. 37)

(1) 私の手紙を見てすぐに向こうを発ったとすれば、もうこちらに着いていいころだ。

(2)「ぼくの言ったことで君が怒っているのだとすれば、あやまるよ。」

(3) 革命そのものは失敗に終わったが、それが民主化のきっかけになったとすればある意味では成功したと言ってよい。

(4) この計画は我々しか知らないことなのだから、事前に敵に知られていたとすれば、この中のだれかがもらしたことになる。

(5) 今まで待っても返事がないとすれば、彼は引き受けてくれる気がないのだろう。

■ 会　話　　　初めての肉食

人　A：寮生活をしている大学生

B：Aと同郷の先輩。会社員

A₁：先だっては[1]、どうもごちそうさまでした。

B₁：いや、こちらこそ夜遅くまでひきとめてしまって。

A₂：いいえ、本当に楽しかったですよ。久しぶりに家庭的な雰囲気が味わえたし、すきやきもおいしかったし。

B₂：まあ、そう言ってくれると家内も喜ぶと思うよ。あ、そうそう、あの時、日本人の肉食がどうのこうの[2]って話が出たね。

A₃：たしか、江戸時代には、日本人は肉を食べなかったって話でしたね。

B₃：うん、あの時には「安愚楽鍋」[3]のことしか話題にならなかったけ[4]ど。

A₄：何か他におもしろい話でもあるんですか。

第一次吃肉

人物A：住在學生宿舍的大學生

B：與A同鄉的前輩。公司職員

A₁：謝謝你上次的招待（請客）。

B₁：不，不敢當，晚上我還把你留得那麼晚。

A₂：那裡，眞是太愉快了。好久沒有享受到家庭的氣氛，火鍋又好吃。

B₂：哦，聽你這麼說我想內人會很高興的。呀，對了，那晚我們談到了日本人和肉食等等事情呢！

A₃：我記得，江戸時代，聽說日本人是不吃肉的。

B₃：嗯，但是那晚我們所談的話題只是「安愚樂鍋」吧！

A₄：另外還有什麼有趣的話嗎？

B_4：次の日、会社であの時の話を友達にしたら、当時のことが書いてある本、自叙伝なんだけど持っててね、貸してくれたんだよ。

A_5：何ていう本[5]ですか。

B_5：「武士の娘」っていう[6]んだよ。杉本エツっていう人が書いた本で。

A_6：やはり明治の初めのころの話なんですか。

B_6：うん、初めっていうより二十年ごろの話なんだよ。長岡藩士の娘でね。

A_7：はあ。

B_7：で、杉本エツさんっていう人がね、そのころまだ七つか八つだったんだけど。学校から帰ってくると、家ん中[7]が何となく変な感じたったっていうんだな。

A_8：……

B_8：いつものように、おばあさんの所に「ただいま」って言いに行ったんだね。そしたら。

A_9：おばあさんが牛肉食べてたんですか。

B_9：いやいや、そうじゃないんだよ。女中さんに手伝ってもらって、仏壇に目張りをして[8]たんだな、障子紙でね。

B_4：第二天，在公司我把那晚的談話告訴朋友，結果他把記載着當時的事的一本自敍傳，借給我哪。

A_5：叫什麼書呢？

B_5：叫着「武士的女兒」啊。是名叫杉本越的人所寫的書。

A_6：還是說些明治初期的事是嗎？

B_6：嗯，有關明治初期，二十年那時候的事啊，是有關長岡藩士的女兒的事哪。

A_7：喔！

B_7：那杉本越這個人啊，當時只是七、八歲而已。他說有一天放學回來以後，不知怎的覺得家裡面有什麼怪怪的。

A_8：…………………

B_8：跟平常一樣，到祖母那兒去說一聲「我回來了」。結果！

A_9：祖母在吃牛肉是嗎？

B_9：不不，不是的。由女傭人繁忙，用紙板門的紙，把佛壇旁的壁縫都貼住。

A_{10}：え、何でまた仏壇に。

B_{10}：うん、牛肉を食べるんで、仏様をけがしちゃもったいない[9]ってわけなんだな。

A_{11}：はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして牛肉を食べることにしたんでしょうね。

B_{11}：それはね、杉本エツっていう人のお父さんの体が弱くて。[10]

A_{12}：じゃあ、おばあさんがそれを心配して……。

B_{12}：いや、おばあさん自身じゃなくて、医者の勧めなんだよ。牛肉を食べれば、お父さんも丈夫になり、子供たちも強い子になれるっていってね。それも異人さん[11]のようにってんだよ。

A_{13}：それで、家じゅうで食べることにしたってわけですか、おばあさんも長生きできると。[12]

B_{13}：そうじゃないんだよ。おばあさんは「異人さんのように強くなろうなんて思いません」て言ってね。

A_{14}：はあ。

B_{14}：「御先祖様と同じものをいただくのが一番いいんだ」って、結局は食べなかったんだそうだよ。

A_{10}：啊，又爲什麼在香桌那兒？

B_{10}：嗯，爲了要吃牛肉，總不能違瀆神佛啊！

A_{11}：喔？既然那麼麻煩，爲什麼要吃牛肉呢？

B_{11}：那是因爲，杉本越這個人的父親身體很弱。

A_{12}：啊！所以，祖母就心他的……。

B_{12}：不，不是祖母本身的意思，是醫生的勸告。說吃了牛肉，父親就會健康，孩子們也會變得健壯哪。像外國人一樣哪。

A_{13}：所以決定一家人都要吃了，並且祖母也可以長生，是嗎？

B_{13}：不是的，祖母說「我才不希望變成像外國人那麼健康哪。」

A_{14}：嗯。

B_{14}：她說「吃的跟祖先一樣才是最好的」，結果她一點也沒有吃。

此處整個句型結構很單純，不過要小心～たんでしたね的用法，因爲是說話者在回憶往事，因而採用了這種型式。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）歌を歌った────→

A：　あの時、みんなで歌を歌いましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に歌ったんでしたね。

1. 酒を飲んだ────→

A：　あの時、みんなで酒を飲みましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に飲んだんでしたね。

2. 映画を見た────→

A：　あの時、みんなで映画を見ましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に見たんでしたね。

3. すきやきを食べた────→

A：　あの時、みんなですきやきを食べましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に食べたんでしたね。

4. 京都へ行った────→

A：　あの時、みんなで京都へ行きましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に行ったんでしたね。

5. 山に登った────→

A：　あの時、みんなで山に登りましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に登ったんでしたね。

6. デモに参加(さんか)した────→

A：　あの時、みんなでデモに参加しましたね。

B：　ええ、たしか、川上さんも一緒に参加したんでしたね。

A「仏壇に目張りをしたんですよ。」

B「え、何でまた目張りなんかしたんですか。」

A：「他們把佛壇的所有裂縫都貼住了。」

B：「欸！什麼事情使他們甚至要這樣做。」

A_{15}：やはり、お年寄りは文明開化にはなじめなかったんでしょうかね。

B_{15}：そういうことかな。でも、エツさんっていう人は、食べた後で、姉さんと二人でおいしかったって話し合っているんだね。

A_{16}：じゃ、エツさんの家にも文明開化の波が打ち寄せて……。

B_{16}：いや、なかなかそういう具合にはいかなかったようだね。牛肉を食べたってことがよその人[13]には言えずに、姉さんと二人だけで、こっそり[14]話し合ったっていうんだから。

A_{15}：也許那老年人還是不習慣開化的文明吧。

B_{15}：也許是吧，可是越這個人吃了以後，跟他姊姊兩個人一起在談論着很好吃哪哪。

A_{16}：那，文明開化的巨浪也衝擊到越的家…………。

B_{16}：不，似乎也不見得那麼順利呢！吃了牛肉這件事又不能告訴別人，只是跟姊姊兩人偸偸的談論着啊。

註解

(1)先だって——幾天前，數日前。 (2)どうのこうの——這個和那個等等的～，各式各樣。 (3)「安愚樂禍」：一本諷刺小說，描寫一個實行新式西方觀念的東京人，1871年由Kanngaki Robun出版。 (4)話題になる——變成一種熱門話題，受廣泛討論。 (5)何ていう本＝何という本(C)。 (6)「武士の娘」っていう＝「武士の娘」そいう。 (7)家ん中＝家の中。 (8)目張りをする——封住，阻塞（裂口）。 (9)もったいない——不虔敬的，褻瀆的。 (10)体が弱い——身体弱。 (11)異人さん＝外人さん。 (12)長生きできると——（以便）她也可以活得很久。 (13)よその人——局外人，旁觀者。 (14)こっそり——隱密地，隱匿地(O)。

■ 会話の練習

I. A「あの時、みんなで歌を歌いましたね。」

B「ええ、たしか、川上さんも一緒に歌ったんでしたね。」

A：「那時大家一起唱歌了呢。」

B：「是，確實，川上先生也一起唱了哦！」

「……。あ、そうそう、あの時、日本人の肉食がどうのこうのって話が出たね。」……B_2

「たしか、江戸時代には、日本人は肉を食べなかったって話でしたね。」……A_3

「…… 女中さんに手伝ってもらって、仏壇に目張りをしてたんだな、障子紙でね。」……B₉

「え、何でまた仏壇に。」……A₁₀

B用的問話句型適於在要求對方對出乎意料的事做解釋時使用。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）仏壇に目張りをした──→

A：　仏壇に目張りをしたんですよ。

B：　え、何でまた目張りなんかしたんですか。

1. 銀行から金を借りた──→

A：　銀行から金を借りたんですよ。

B：　え、何でまた金なんか借りたんですか。

2. 友達にうそをついた──→

A：　友達にうそをついたんですよ。

B：　え、何でまたうそなんかついたんですか。

3. 父親とけんか[2]をした──→

A：　父親とけんかをしたんですよ。

B：　え、何でまたけんかなんかしたんですか。

4. アメリカから電話をかけてきた──→

A：　アメリカから電話をかけてきたんですよ。

B：　え、何でまた電話なんかかけてきたんですか。

5. 試験勉強で徹夜をした──→

A：　試験勉強で徹夜をしたんですよ。

B：　え、何でまた徹夜なんかしたんですか。

6. ピストル[3]で子供を殺した──→

A：　ピストルで子供を殺したんですよ。

B：　え、何でまた子供なんか殺したんですか。

Ⅲ. A「結局そうするほかないと考えたわけなんです。」

B「はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして牛肉を食べることにしたんでしょう。」

A：「我猜想他們覺得除了這樣做沒別的辦法。」

B：「呀，但，既然那麼麻煩，爲什麼要吃牛肉呢。」

「……。女中さんに手伝ってもらって、仏壇に目張りをしてたんだな、障子紙でね。」……B9

「……。」……A10

「うん、牛肉を食べるんで、仏様をけがしちゃもったいないってわけなんだな。」……B10

「はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして牛肉を食べることにしたんでしょうね。」……A11

此處B用的句型是表示"爲達到某個目的，所用的方法似乎太極端了"的懷疑。~てまで這種用語比較難，因此，首先以そんなことをしてまで來練習，之後再用更具體的措詞取代そんなこと。

練習 例にならって会話をしなさい。

（例）牛肉を食べる————→

A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。

B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして牛肉を食べることにしたんでしょう。

1. 外国へ行く————→

A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。

B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして外国へ行くことにしたんでしょう。

2. 家を買う————→

A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。

B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして家を買うことにしたんでしょう。

3. フランスに留学する————→

A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。

B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうしてフランスに留学することにしたんでしょう。

4. 大学へ行く——→
A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。
B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして大学へ行くことにしたんでしょう。

5. 結婚する——→
A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。
B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして結婚することにしたんでしょう。

6. 商売を始める——→
A： 結局そうするほかないと考えたわけなんです。
B： はあ、でも、そんなことをしてまで、どうして商売を始めることにしたんでしょう。

N. A「じゃあ、その時、牛肉を食べていたんですか。」
B「いいえ、食べていたんじゃなくて、これから食べようとしていたんですよ。」
A：「呀，那時他們吃牛肉嗎？」
B：「不，還沒吃牛肉，正想開始吃牛肉。」
「それはね、杉本エツっていう人のお父さんの体が弱くて。」……B_{11}
「じゃあ、おばあさんがそれを心配して……。」……A_{12}
「いや、おばあさん自身じゃなくて、医者の勧めなんだよ。……。」……B_{12}

此處B先敍述A的話，再改正它的錯誤，因爲重述的動詞和改正部分的動詞是同一動詞的不同形式，請特別留意，發音時要很清楚。

練習 例にならって会話をしなさい

(例) 牛肉を食べていた——
A： じゃあ、その時、牛肉を食べていたんですか。
B： いいえ、食べていたんじゃなくて、これから食べようとしていたんですよ。

1. 部屋を掃除していた——→
A： じゃあ、その時、部屋を掃除していたんですか。
B： いいえ、掃除していたんじゃなくて、これから掃除しようとしていたんですよ。

2. 酒を飲んでいた──
A： じゃあ、その時、酒を飲んでいたんですか。
B： いいえ、飲んでいたんじゃなくて、これから飲もうとしていたんですよ。

3. 旅行に行っていた──→
A： じゃあ、その時、旅行に行っていたんですか。
B： いいえ、行っていたんじゃなくて、これから行こうとしていたんですよ。

4. もう結婚していた──→
A： じゃあ、その時、もう結婚していたんですか。
B： いいえ、結婚していたんじゃなくて、これから結婚しようとしていたんですよ。

5. もう寝(ね)ていた──→
A： じゃあ、その時、もう寝ていたんですか。
B： いいえ、寝ていたんじゃなくて、これから寝ようとしていたんですよ。

6. 風呂(ふろ)に入っていた──→
A： じゃあ、その時、風呂に入っていたんですか。
B： いいえ、入っていたんじゃなくて、これから入ろうとしていたんですよ。

V. A「じゃあ、牛肉を食べなかったんですか。」
B「ええ、いやだからって、結局は食べなかったんです。」
A：「那她没吃牛肉嗎？」
B：「是，他不喜歡，所以最後没吃了。」
「それはね、杉本エツっていう人のお父さんの体が弱くて。」……B_{11}
「じゃあ、おばあさんがそれを心配して……。」……A_{12}
「いや、……。」……B_{12}
「それで、家じゅうで食べることにしたってわけですか、おばあさんも長生きできると。」
……A_{13}

「そうじゃないんだよ。おばあさんは『異人さんのように強くなろうなんて思いません』て
すってね。」……B_{13}

「はあ。」……A_{14}

「『御先祖様と同じものをいただくのが一番いいんだ』って、結局は食べなかったんだそう
だよ。」……B_{14}

注意って的簡寫形式，代替といって，此處B用的句型適於用在解釋第三者的行爲及其動機。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) いやだから・牛肉を食べない ⟶

A： じゃあ、牛肉を食べなかったんですか。

B： ええ、いやだからって、結局は食べなかったんです。

1. お金がないから・旅行に行かない ⟶

A： じゃあ、旅行に行かなかったんですか。

B： ええ、お金がないからって、結局は行かなかったんです。

2. 見たくないから・映画を見ない ⟶

A： じゃあ、映画を見なかったんですか。

B： ええ、見たくないからって、結局は見なかったんです。

3. お金がほしいから・アルバイト[5]をする ⟶

A： じゃあ、アルバイトをしたんですか。

B： ええ、お金がほしいからって、結局はしたんです。

4. 役に立たないから・大学へ行かない ⟶

A： じゃあ、大学へ行かなかったんですか。

B： ええ、役に立たないからって、結局は行かなかったんです。

5. 暇(ひま)がないから・アルバイトを断(こと)わる[6] ⟶

A： じゃあ、アルバイトを断わったんですか。

B： ええ、暇がないからって、結局は断わったんです。

6. 体によくないから・たばこをやめる ⟶

A： じゃあ、たばこをやめたんですか。

B： ええ、体によくないからって、結局はやめたんです。

VI. A「どうもうまくいきませんでした。」

B「やはり、お年寄りは文明開化にはなじめなかったんでしょうか。」

A「そういうことでしょうね。」

A：「似乎並沒有那麼順利。」

B：「老年人還是不能接受文明的開化？」

A：「是的，似乎如此」

「『御先祖様と同じものをいただくのが一番いいんだ』って、結局は食べなかったんだそうだよ。」……B_{14}

「やはり、お年寄りは文明開化にはなじめなかったんでしょうかね。」……A_{15}

「そういうことかな。……。」……B_{15}

在一段長的會話之後，不要忘記使用這種交換意見的表示，B首先從前面的討論做了一個結語，之後A表示同意。

練習　例にならって会話をしなさい。

（例）お年寄りは文明開化にはなじめなかった──→

A：　どうもうまくいきませんでした。

B：　やはり、お年寄りは文明開化にはなじめなかったんでしょうか。

A：　そういうことでしょうね。

1. 値段が高すぎた──→

A：　どうもうまくいきませんでした。

B：　やはり、値段が高すぎたんでしょうか。

A：　そういうことでしょうね。

2. 計画が悪かった──→

A：　どうもうまくいきませんでした。

B：　やはり、計画が悪かったんでしょうか。

A：　そういうことでしょうね。

3. 説明が足りなかった──→

A：　どうもうまくいきませんでした。

B：　やはり、説明が足りなかったんでしょうか。

A：　そういうことでしょうね。

4. 準備が足りなかった――→

A： どうもうまくいきませんでした。

B： やはり、準備が足りなかったんでしょうか。

A： そういうことでしょうね。

5. 年寄りには無理だった――→

A： どうもうまくいきませんでした。

B： やはり、年寄りには無理だったんでしょうか。

A： そういうことでしょうね。

6. 新しいものにはなじめなかった――→

A： どうもうまくいきませんでした。

B： やはり、新しいものにはなじめなかったんでしょうか。

A： そういうことでしょうね。

---

(1)參加　(2)口角，吵架　(3)手槍　(4)買賣，貿易往來　(5)兼職工作
(6)拒絕

第十五課　「ウチ」の意識

■ 新出語

ウチ　家，我家

一定の　一定的～，一件～

～からなる　由…組成

社会集団　社團，社會群衆

構成　組成，結構，機構

　構成する　形成，組織（動詞）

要因　重要因素

きわめて　極端地

抽象的だ　抽象的

原理　原理，理論

資格　資格，能力

場　地方，場合

設定する　建立

　設定　建立，設定（動詞）

すなわち　就是指…

集団構成　集團組織

〔一〕第一条件　第一條件

　第一　第一

　条件　條件

共通性　共通性，相似性

共有　共有（財産，主權等）

　共有する　共有，共同擁有…

社会的個人　社會中的一份子

質　本質，性格，個性

表す　表示

氏・素性　姓氏，門第

　素性　出身，家世

生まれながら　天生地

備わる　備有～，擁有～

学歴　學歴，教育程度

地位　社會地位，等級

職業　職業

生後　出生以後

獲得する　獲得（動詞）

獲得　獲得

経済的だ　有關經濟的

資本家　資本家

資本　資本

労働者　勞工

地主　地主

小作人　佃農

男・女　男，女

老・若　老老少少

生物的だ　生物學的

生物　生物，有機體

差　差異

生ずる　引起～，造成～後果

相違　差別

相違する　不同於…（動詞）

取り上げる　拿起，擧出～

区別する　辨別（動詞）

区別　區分，區別

質的だ　本質，品質的

基準　基準，標準

いずれか　任一

特定の　特定的

職業集団　職業團體

父系血縁集団　血緣團體

父系　父系的

血縁　血親，血親

カースト集団　特權階級

～に対して　相對於～，對於～

所属機関　所屬機關組織

所属　屬於

所属する　附屬（動詞）

機関　機構（教育，交通的）機構

～を問わず　不關…，不問～

問う　詢問

枠　架構

部落　部落，小村落

成員　成員

産業界　工商界

産業　工商業

～界　～界

～を例にとる　以…爲例

旋盤工　車牀工

～工　公司…工，機工

社員　職員，僱員

同様に　同樣地

教授　教授

事務員　事務員

事務　事務，辦公室工作

向かう　朝向～

他人　其他人

位置づける　位於…，位置

位置　位於…

位置する　位於（動詞）

好んで～する　心甘情願地做…

優先する　有～優先權，優先於～

記者　記者

エンジニア　工程師

～社　公司

印刷工　印刷工人

実際　實際

～テレビ　～電視

プロデューサー　製片家，導演

カメラマン　攝影師

運転手　司機

集団認識　團隊意識

認識　認知，認同

認識する　了解（動詞）

第二　第二

あり方　事實，有此情況

職場　工作地點

相手　對手

オタク　您，府上

表現　表現

表現する　表示

表れる　顯示，出現

契約関係を結ぶ　締結契約的關係

契約関係　契約關係

契約　契約

契約する　簽約（動詞）

企業体　企業整體

自己　自我

客体　客體

主体化する　主體化

全生命　整體生命

生命　生命

拠り所　地方，基石

エモーショナルだ　情緒的

要素　要素，因素

濃厚だ　濃厚的

株主　持有券者，股東，老板

論法　辯論，推論

素朴だ　單純的，樸直的，率直的

～の前には　在…之前

近代法　現代法律

法　法律

～といえども　即使，縱然

譲歩せざるを得ない　無可避免，不得不讓步屈服於……

譲歩する　讓步…

文化的特殊性　文化的特殊性

文化的だ　文化的

特殊性　特殊性

特殊だ　特殊的，特別的，個異的

〔二〕

集団結集力　團結力，集團結合力

結集する　聯合，聚合

導き出す　導出

～方法を講じる　尋求～之法

同一集団成員　同一團體的會員

外部　外界，外面

ワレワレ　我們

グループ意識　團隊意識

グループ　團隊

強調する　強調

対抗意識　敵對意識

対抗　對抗，敵對

対抗する　對敵
rival

内部的だ　內部的

内部　內部

グループ成員　團員

情的だ　情緒式的

結びつき　繫結，連結

差別　差別，歧視（N）

差別する　區別，歧視（V）

理性的だ（りせいてき）　理性的

理性　理性

越える（こ）　超越

感情的だ（かんじょうてき）　感情用事的

感情　感情

アプローチ　方法，手法

招来する（しょうらい）　招請，邀請

絶えざる（た）　不停的

絶える　停止

人間接触　人際關係來往

往々にして（おうおう）　不時的，經常的

パーソナルだ　個人

あらゆる　所有，每一

公私（こうし）　公、私（事）

人間関係　人際關係

侵入する（しんにゅう）　入侵

侵入　侵略，入侵

したがって　因而，於是

思想（しそう）　思想，想念

入り込む（はい）　造成

こうなると　在此情況，在～處境，既然如此

社会生活　社交生活

公の（おおやけ）　公立的，公共的

私生活（しせいかつ）　私生活

区別がつく（くべつ）　可區別的，特出的

事態（じたい）　情況

こうした　這種，這樣的～

個々人（ここじん）　各個人

全面的だ（ぜんめんてき）　全面性的，全部

集団参加（さんか）　參與團體

参加　參與

参加する　參加

基盤（きばん）　基礎

強要する（きょうよう）　強迫，強令

一体感（いったいかん）　整體感，一體感

一体　整體

閉ざす（と）　關閉

孤立性（こりつせい）　孤立性

孤立　孤立

孤立する　孤立（動詞）.

必然的だ（ひつぜんてき）　必然的，不可免的

家風（かふう）　家風，家族傳統作

社風（しゃふう）　公司作風，某一公司的傳統作風

醸成する　造成・釀成

集団結束　團結

結束　統一・團結

結束する　聯合

盛り立てる　支持，幫助

旗印　旗號，旗徽，標幟

旗　旗幟，標準

印　印記，表記、記號

いっそう　更且…

集団化　團體化

促進する　促進，增進

養成する　教養成，訓練成，培育成

養成　培育，教育

強固さ　堅固

強固だ　牢固的

同一資格者　具有同樣條件的人

溝　溝・會野

距離　距離

縮める　縮短，減短

同類集団　同類團體爲同類型的人辦的組織

同類　同類型

麻痺する　麻木

麻痺　麻痺

社会組織　社會組織

組織　組織，結構

組織する　組織（V）

安定性　安定性

同類意識　同類意識

希薄だ　薄弱，虛弱，鬆弛的

ヨソ者　旁觀者，外人

ヨソ　旁邊，旁處，另一地方

差別意識　差別意識，歧視態度

正面　正面

打ち出す　提出（一種觀念等）

感覚　感覺

尖鋭化する　尖銳化

〜以外　除…以外

コントラスト　對照

突き飛ばす　推動，起飛

親しい　親密的

知人　熟人，好朋友

譲る　退讓，轉移

滑稽(こっけい)だ　滑稽，有趣，詼諧

仲間(なかま)　同志

態度(たいど)をとる　採取…態度

　態度　態度

劣勢(れっせい)　（力量或人數上的）劣勢

優越感(ゆうえつかん)　優越感

非礼(ひれい)　無禮，粗魯

大(おお)っぴらだ　公然地，無顧忌的

常(つね)　一般情況，世俗的，平常，普通

慣習的だ　傳統的，習慣性的

離島(りとう)　離島

島(しま)　島嶼

山間僻地(さんかんへきち)　山間僻地

　僻地　偏遠地

軽蔑(けいべつ)　輕視，輕蔑

　軽蔑する　輕視

疎外(そがい)　保持距離，疏遠

　疎外する　迴避（某人），對（某人）疏遠冷淡

敵意(てきい)　敵意

タテ社会　縱貫性組織的社團

　タテ　縱的，垂直的（方向）

■ 本　文

〔一〕

一定の個人からなる社会集団の構成の要因を、きわめて抽象的にとらえると、二つの異なる原理—資格と場—が設定できる。すなわち、集団構成の第一条件として、それを構成する個人の「資格」の共通性によるものと、「場」の共有によるものとがある。

ここで資格と呼ぶものは、普通使われている意味よりずっと広く、社会的個人の一定の質を表すものである。

例(たと)えば、氏・素性といったように、生まれながらに個人に備わっているものもあれば、学歴・地位・職業などのように、生後個

人が獲得したものもある。また、経済的にみると、資本家・労働者、地主・小作人などというものも、それぞれ資格の種類となり、更に、男・女、老・若などといった一定の社会的（生物的差から生ずる）相違によるものまで、ここでいう資格（質）の一つとして取り上げることができる。

このような、一定の個人を他から区別しうる質的な基準のいずれかを使うことによって、集団が構成されている場合、「資格による」という。例えば、特定の職業集団、一定の父系血縁集団、一つのカースト集団などがその例である。

これに対して、「場による」というのは、一定の地域とか所属機関などのように、資格の相違を問わず、一定の枠によって、一定の個人が集団を構成している場合をさす。例えば、〇〇部落の成員というように。産業界を例にとれば、旋盤工というのは資格であり、P会社の社員というのは場による設定である。同様に、教授・事務員・学生というのはそれぞれ資格であり、R大学の者というのは場である。

日本人が外に向かって（他人に対して）自分を社会的に位置づける場合、好んでするのは、資格よりも場を優先することである。記者であるとかエンジニアであるということよりも、まず、A社、S社の者ということである。また、他人がより知りたいことも、A社、S社ということがまず第一であり、それから、記者であるか印刷工であるか、またエンジニアであるか事務員であるか、ということである。

実際、〇〇テレビの者です、というので、プロデューサーかカメラマンであると思っていたら、運転手だったりしたなどということがある。

ここではっきり言えることは、場、すなわち会社とか大学とかいう枠が、社会的に集団構成、集団認識に大きな役割をもっているということであって、個人のもつ資格自体は第二の問題となってくるということである。

この集団認識のあり方は、日本人が自分の属する職場、会社とか、官庁、学校などを「ウチの」、相手のそれを「オタクの」などという表現を使うことにも表れている。

この表現によく象徴されているように、「会社」は、個人が一定の契約関係を結んでいる企業体であるという、自己にとって客体としての認識ではなく、私の、また我々の会社であって、主体化して認識されている。そして、多くの場合、それは自己の社会的存在のすべてであり、全生命の拠り所というようなエモーショナルな要素が濃厚に入ってくる。

A社は株主のものではなく、我々のものという論法がここにあるのである。この強い素朴な論法の前には、いかなる近代法といえども現実に譲歩せざるを得ないという、きわめて日本的な文化的特殊性が見られる。

〔二〕

ここで問題となるのは、異なる資格をもつ者から構成される集団が強い機能をもつ場合、集団結集力を導き出す何らかの方法が必ず講ぜられなければならないということである。

資格の異なる者に同一集団成員としての認識、そしてその妥当性をもたせる方法は、外部に対して「ワレワレ」というグループ意識を強調することである。そして、それは外にある同様なグループに対する対抗意識ともなる。内部的には「同じグループ成員」という情的な結びつきをもつようにすることである。資格の差別

は理性的なものであるから、それを越えるために、感情的なアプローチが使われる。

この感情的アプローチの招来するものは絶えざる人間接触であり、これは往々にしてパーソナルなあらゆる分野（公私を問わず）に人間関係が侵入してくる可能性をもっている。

したがって、個人の行動ばかりでなく、思想、考え方にまで集団の力が入り込んでくる。こうなると、どこまでが社会生活（公の）で、どこからが私生活なのか区別がつかなくなるという事態さえ、往々にして出てくるのである。

こうした、個々人の全面的な集団参加を基盤として強調され、また強要される集団の一体感というものは、それ自体閉ざされた世界を形成し、強い孤立性を招くことになる。ここに必然的に家風とか社風とかいうものが醸成される。そして、これはまた、集団結束、一体感を盛り立てる旗印となって強調され、いっそう集団化が促進される。

一体感によって養成される枠の強固さ、集団の孤立性は、同時に、枠の外にある同一資格者の間に溝を作り、一方、枠の中にある資格の異なる者の間の距離を縮め、資格による同類集団の機能を麻痺させる役割をなす。すなわち、こうした社会組織にあっては、社会に安定性があればあるほど同類意識は希薄となり、一方「ウチの者」「ヨソ者」の差別意識が正面に打ち出されてくる。

「ウチ」「ヨソ」の意識が強く、この感覚が尖鋭化してくると、まるで「ウチ」の者以外は人間ではなくなってしまうと思われるほどの極端な人間関係のコントラストが、同じ社会にみられるようになる。知らない人だったら、突き飛ばして席（せき）を獲得したその同じ人が、親しい知人（特に職場で自分より上の）に対しては、

自分がどんなに疲れていても席を譲るといった滑稽な姿がみられるのである。

実際、日本人は仲間と一緒にグループでいるとき、他の人々に対して実に冷たい態度をとる。相手が自分たちより劣勢であると思われる場合には、特にそれが優越感に似たものとなり、「ヨソ者」に対する非礼が大っぴらになるのが常である。この態度が慣習的となって極端に表れる例は、離島といわれるような島の人たちや、山間僻地にある部落や特殊な職業をもつ部落の人たちなどに往々にして示される、冷たさ、軽蔑、疎外の態度である。自分たちの世界以外の者に対しては、敵意に似た冷たささえもつのである。

——中根千枝「タテ社会の人間関係」による——

■ 用　　例

1. •一定の個人からなる社会集団の構成の要因を、きわめて抽象的にとらえると、二つの異なる原理—資格と場—が設定できる。すなわち、集団構成の第一条件として、それを構成する個人の「資格」の共通性によるものと、「場」の共有によるものとがある。(*l. 1*)

(1) スチューデント・ビザで来日した外国人は営利的な行為によって収入を得ることはできない。すなわち、留学生のアルバイトは原則として禁じられている。

(2) 日本は三権分立を基本とする立憲国家である。すなわち、立法、行政、司法の三権がそれぞれ独立の権限を有し、相互に侵すことを許さないことが憲法によってはっきり規定されている。

(3) 彼が学会で発表した説には、二つの全く相反する評価がなされている。すなわち、一つは従来の考えを一新する画期的な説だとするも

のであり、一つは事実の裏付けを欠いた空論(くうろん)に過ぎないとするものである。

(4) 徳川家康(とくがわいえやす)の幕府開設によって、江戸すなわち今の東京が京都に代わり、政治・経済・文化の中心的な位置を占めるようになった。

(5) この大学の規則(きそく)では、学生は正規(せいき)の学習年限(がくしゅうねんげん)の二倍、すなわち八年間在籍(ざいせき)できることになっている。

2. • 氏・素性といったように、生まれながらに個人に備わっているものもあれば、学歴・地位・職業などのように、生後個人が獲得したものもある。(l. 7)

(1) 起きる時間は決まっていない。早く起きることもあればおそく起きることもある。

(2) 彼は音楽的才能に恵まれていて、ピアノもひけばバイオリンもひく。

(3)「長い人生だから苦しい時もあれば楽しい時もあるんです。」

(4) 田中君は病気なのだろうか。授業にも出て来なければ、クラブの集まりにも出て来ない。

(5) これは別に珍(めずら)しいものではなく、ここにもあればあそこにもあるといったありふれたものだ。

3. • このような、一定の個人を他から区別しうる質的な基準のいずれかを使うことによって、集団が構成されている場合、「資格による」という。……………これに対して、「場による」というのは、一定の地域とか所属機関などのように、資格の相違を問わず、一定の枠によって、一定の個人が集団を構成している場合をさす。(l. 14)

(1) 冬になると日本列島の太平洋側では晴天が続き空気が乾燥する。これに対して、日本海側では連日(れんじつ)のように雪が降り続き、雪が降らない日でもどんより曇(くも)っていることが多い。

(2) 鉄道では、地方から中央へ向かう列車を「上り」という。それに対して中央から地方へ向かう列車を「下り」という。

(3) あの二人は兄弟でも全く性格が違う。兄は陽気で社交的であるのに対し、弟は、内向的で人づきあいをあまり好まない。

(4) 演繹的な方法というのは、一つの原理を基にして、そこから個々の事象を合理的に説き明かそうとする方法である。これに対して、帰納的な方法というのは、個々の事象の分析を通して、それらに統一的な判断を導き出そうとする方法である。

(5) 今までの漁業はいかに能率的に漁獲高を増すかということに重点が置かれていたのに対し、これからは、いかに効果的に増殖するかにより大きな関心が向けられるべきである。

4. • 日本人が外に向かって自分を社会的に位置づける場合、好んでするのは、資格よりも場を優先することである。記者であるとか、エンジニアであるということよりも、まず、A社、S社の者ということである。………………実際、○○テレビの者です、というので、プロデューサーかカメラマンであると思っていたら、運転手だったりしたなどということがある。*(l. 25)*

(1) 女性は流行に弱いといわれているが、実際、街を歩いている若い女性のほとんどが、自分のスタイルなど少しも気にせずミニスカートをはいている。

(2) みんなは彼のことをけちだといっている。そういわれてみれば、実際、彼がだれかに御馳走したなどという話は聞いたことがない。

(3) 四国地方の旱魃は予想以上にひどいという話だ。実際、写真でみると、田んぼが一面に干上がってしまっている。

(4) 彼は会うたびに生活の苦しさを訴えているが、実際、彼の給料はひどいもので、私の半分にもならないようだ。

(5) だれでも母国語の問題点には気づかないようだ。外国人に教えてみると、実際、わからないことだらけだ。

5. • この強い素朴な論法の前には、いかなる近代法といえども現実に譲歩せざるを得ないという、きわめて日本的な文化的特殊性が見られる。(l. 49)

(1) いかなる権力者といえども、一国の法律を自分一人の意志で変えることはできない。

(2) 現代の医学では、いかなる名医と言えども、まだこの病気を治すことは困難だと言われている。

(3) いかなる大富豪といえども、金で幸福が買えるものではない。

(4) いかなるベテランの登山家といえども、この岩壁を登ることは不可能である。

(5) いかなる極悪人といえども、やはり彼も人の子だ、子供への愛情は断ち切れなかった。

6. • この感情的アプローチの招来するものは絶えざる人間接触であり、これは往々にしてパーソナルなあらゆる分野に人間関係が侵入してくる可能性をもっている。したがって、個人の行動ばかりでなく、思想、考え方にまで集団の力が入り込んでくる (l. 62)

(1) 彼の父親は彼が生まれると間もなく交通事故で死んでしまった。したがって、彼は父親の顔を知らない。

(2) 兄は私より六つ年上である。したがって、私が小学校に入った年には兄はもう中学校へ進んでいた。

(3) 私の家は祖父の代から天ぷらやをやっている。したがって、私で三代目だということになる。

(4) 新幹線ができて、東京から広島まで五時間で行けるようになった。したがって、朝早く東京を発てば日帰りすることも可能である。

(5) 日本付近は冬型の気圧配置になり、今冬一番の強い寒気が日本海に南下してきている。したがって、全国的に気温が下がり、北日本や北陸方面では大雪になるおそれがある。

7. • したがって、個人の行動ばかりでなく、思想、考え方にまで集団の力が入り込んでくる。こうなると、どこまでが社会生活で、どこからが私生活なのか区別がつかなくなるという事態さえ、往々にして出てくるのである。(*l.* 65)

(1) 最近の土地の値上がりはひどいものだ。こうなると、十年前友だちに勧められた時に買わなかったのが悔まれる。

(2) 実力伯仲で、試合は延長戦にはいった。こうなると、あとは体力のあるほうが勝ちだ。

(3) 不景気が長引いて倒産する会社が多くなった。こうなると、多少給料が悪くても安定している公務員になりたがる者が多くなるのは当然のことだ。

(4) 彼は来月海外へ出張するそうだが、そうなると、彼が今やっている仕事をだれかが代わってやらなければならなくなる。

(5) 来年にはアメリカへ行っているむすこの家族が帰ってくるという。そうなると、この家も狭くなるので増築を考えなければならないと思っている。

■会　話　　「タテ社会」と経営学

人物　A：ある新聞記者
　　　B：ある大学の教員。経営学を専門にする

A₁：なんですか[1]、このごろ、企業の経営者がさかんに中根千枝さんのこと[2]を講演によぶんですってね。

B₁：ええ、そうらしいですね。

A₂：どういう目的なんですかねえ。

B₂：中根さんの考え方というか、理論というか、まあ、いろいろ経営の参考になる[3]ことがあるからじゃないですか。

A₃：ほう、経営の参考ねえ。でも中根さんは、文化人類学が専門でしょ。いったい、どんなところで結びつくのかなあ。

B₃：そりゃ、経営そのものに直接役立つということじゃないんでしょうが。彼女の日本社会のとらえ方が、今の経営者にうけてる[4]んじゃないかと思うんですよ。

「縱式社會」和經營學

人物A：新聞記者
　　B：大學教員，專門於商業經營

A₁：最近，企業經營家經常邀請中根千枝小姐做演講呢！
B₁：是的，似乎如此
A₂：有什麼目的呢？
B₂：因爲中根小姐的觀念、理論，可作爲各種經營的參考呢？
A₃：喔！經營的參考，但中根小姐專攻的是文化人類學到底和什麼地方有關連呢？
B₃：是的，似乎對經營管理方面沒有直接幫助，但她對日本社會的了解，使現今的經營主管都能接受她的言論喔。

A₄：ああ、タテ社会理論ですね、例の。封建的だとか、遅れていると
かいわれる部分をどちらかというと[5]肯定的に取り上げていますね。

B₄：そう、そこなんだと思いますね、今、中根千枝が経営者にもてて
いる[6]のは。

A₅：でも、経営学ならほかにも専門家がいくらでもいるでしょうに。

B₅：うん、たしかにそうなんだけど、だいたい、アメリカ流の経営学
のうけうりをして[7]いるような人が多かったんですよ。

A₆：ああ、そういえば、何とかっていう有名な経営学者が社長におさ
まったら[8]会社が倒産しちゃったなんて話もありましたっけ。

B₆：ああ、それがいい例ですよ。やはり、アメリカの経営学じゃ社会
構造や風土の違う日本には、いまひとつ[9]ぴったりこなかったん[10]じゃ
ないでしょうか。

A₇：なるほど、そんなもんなんですかね。

A₄：呀，是她所謂縱式社會理論吧，這個理論肯定地提出什麼是封建的，或與其說是落
任的。

B₄：是的，這也是爲什麼現在中根千枝如此受經營家們的歡迎。

A₅：但是經營學方面另外還有很多專家吧！

B₅：嗯，確是如此，但過去也有很多人現學現賣美式的經營學

A₆：呀！旣然你揚起，我曾聽說這樣的事，某公司請了個很有名的經營學者來做社長，
結果倒閉了。

B₆：是的，你舉的眞是好例子，美式經營學用在社會構造和風土習慣不同的日本，現在
還不是極恰當的。

A₇：確實，一點不錯。

B7：まあ、そんなとこなんですよ。終身雇用制とか、年功序列制とかは、古さの典型みたいにいわれてましたが、これが案外会社に対する忠誠心を生み出しているんだとかで、このごろはむしろ外国でも注目されはじめたとか。

A8：ううん、日本経済発展のカギはタテ社会にあり[11]、というわけですか。

B8：ある程度はそういうことがいえるようですよ。

A9：たしかにモーレツ社員[12]なんてのは、「企業の発展、すなわち自分の生きがい」だなんていうことなのかもしれませんねえ。

B9：そういう社員の存在が日本経済を支えている、それを生み出しているのがタテ社会ということになるんでしょう。

A10：そんなら[13]なにも[14]経営者が中根さんをわざわざ講演によぶことはないんで、今まで通りにタテ社会の維持につとめてりゃ[15]、企業はますます[16]成長していくんでしょうに、中根さんにいわれるまで、經営者は気がつかなかったんですかね。

B7：呀，還有一件事，終身雇用制度和年資制度，是久遠典型的制度，但是這也使得員工們對公司產生忠誠不二的向心力，所以最近反而外國也開始重這件事。

A8：就某一程度似乎可以如此說日本經濟發展之鑰在於一個縱向的社會。

B8：就某一程度似乎可以如此說。

A9：確實傳統型職員，可能是所謂「企業公司的發展就是自己生存的價值」

B9：有這樣的職員支持日本經濟，產生日本經濟，正是「縱向」社會之功。」

A10：那麼，如果經營主管者沒有特意地邀請中根小姐來演講，那〔努力維持以往的「縱向」社會使企業愈來愈茁壯〕經營者就不會注意到這點嗎？

A：我聽說經營主管們最近常常邀請學者專家來演說。
B：是的，似乎是如此的。
A：有什麼目的嗎？
B：我想那是因爲他們認爲那在某些方面是有用的。

「なんてすか、このごろ、企業の経営者がさかんに中根千枝さんのことを講演によぶんですってね。」……A_1

「ええ、そうらしいてすね」……B_1

「どういう目的なんですかねえ」……A_2

「中根さんの考え方というか、理論というか、まあ、いろいろ経営の参考になることがあるからじゃないですか。」……B_2

注意這種代換的表達方法，這是日本人如何論時勢和風尙的說法。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 経営者が学者をよんで話を聞く ──→

A： このごろ、経営者がさかんに学者をよんで話を聞くそうですね。

B： ええ、そうらしいですね。

A： どういう目的なんでしょう。

B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

1. 家庭の主婦が国会(こかい)を見学(けんがく)する[2] ──→

A： このごろ、家庭の主婦がさかんに国会を見学するそうですね

B： ええ、そうらしいですね。

A： どういう目的なんでしょう。

B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

2. サラリーマンが歴史の本を読む ──→

A： このごろ、サラリーマンがさかんに歴史の本を読むそうですね。

B： ええ、そうらしいですね。

A： どういう目的なんでしょう。

B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

3. 小学校(しょうがくこう)の先生が子供の漫画(まんが)[3]を読む ──→

A： このごろ、小学校の先生がさかんに子供の漫画を読むそうですね。

B： ええ、そうらしいですね。

A： どういう目的なんでしょう。

B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

4. 学生が海外旅行をする――→
A： このごろ、学生がさかんに海外旅行をするそうですね。
B： ええ、そうらしいですね。
A： どういう目的なんでしょう。
B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

5. 男性が料理の本を読む――→
A： このごろ、男性がさかんに料理の本を読むそうですね。
B： ええ、そうらしいですね
A： どういう目的なんでしょう。
B： まあ、何かの役に立つと思っているからでしょうね。

II. A「日本経済発展のカギはタテ社会にあり、というわけですか。」
B「ある程度はそういうことがいえるようですよ。」
A：日本經濟發展之鑰在於「縱貫性社會」是不是？
B：就某種程度來說是對的。

「ううん、日本経済発展のカギはタテ社会にあり、というわけですか。」……A_8
「ある程度はそういうことがいえるようですよ。」……B_8

用於B的這種句子，在表示部分的或猶豫不決的同時是有用的，一旦你以現代式做了這練習之後，想想先前的對話，然後以廣泛的形式再做這練習。

練習· 例にならって会話をしなさい。

（例） タテ社会――→
A： 日本経済発展のカギはタテ社会にあり、というわけですか。
B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

1. 年功序列制――→
A： 日本経済発展のカギは年功序列制にあり、というわけですか。
B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

2. 終身雇用制――→
A： 日本経済発展のカギは終身雇用制にあり、というわけですか。
B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

3. 庶民教育の普及——→

A： 日本経済発展のカギは庶民教育の普及にあり、というわけですか。

B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

4. 勤勉な国民性[4]——→

A： 日本経済発展のカギは勤勉な国民性にあり、というわけですか。

B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

5. 対外貿易[5]の促進——→

A： 日本経済発展のカギは対外貿易の促進にあり、というわけですか。

B： ある程度はそういうことがいえるようですよ。

III. A「封建的だとか、遅れているとかいわれている部分を、肯定的に取り上げていますね。」

B「そう、そこなんですね、中根千枝が経営者にもてるのは。」

A：她肯定地提出所謂封建的，落伍的地方，不是嗎？

B：是的，我想那就是爲什麼中根千枝小姐受到經營主管們的歡迎重視。

「ああ、タテ社会理論ですね、例の。封建的だとか、遅れているとかいわれる部分をどちらかというと肯定的に取り上げていますね。」……A。

「そう、そこなんだと思いますね、今、中根千枝が経営者にもてているのは。」……B。

這裏，當A把他的方法特點列出來時，B熱心的支持，注意B是如何也加上他自己的意見。

練習 例にならって会話をしなさい。

(例) 中根千枝が経営者にもてる——→

A： 封建的だとか、遅れているとかいわれている部分を、肯定的に取り上げていますね。

B： そう、そこなんですね、中根千枝が経営者にもてるのは。

1. 彼の理論がもてる——→

A： 封建的だとか、遅れているとかいわれている部分を、肯定的に取り上げていますね。

B： そう、そこなんですね、彼の理論がもてるのは。

広さ　大小

奥の間　裏間房子・内屋

わからぬ　不知道（這是文言的形式ぬ是動詞否定的結尾）

呼ぶ　稱呼

その時々　一時一時的

用途の面　就用途而言

名前をつける　命名

名前のつけようがない　無法命名

近ごろ　最近

様子　狀況、情況、情形

家財道具　傢俱、家庭用具

〜わけにはいかない　不能〜

洋服だんす　衣櫃

戸棚　櫥櫃（有架子）

役をする　扮演〜

役　角色，職責

■ 本　文

ある青年が子供のころを思い出して、親類におもしろい家があったと話してくれた。

「ふすまをあけると次の部屋で、そこのふすまをあけると、またその向こうが次の部屋、というふうに、どこのふすまをあけてもみんな次の部屋になっているので、かくれんぼをするのにとてもよかった。」と言うのである。

「なんだ、そんなことか。日本の家は昔はみんなそうだったんだよ。」と答えると、その青年は、「へえ、そうですか。」と、不思議そうな顔をした。

昔の家の部屋は、たいていふすまか障子でしきられていた。部屋と部屋の間のふすまを全部はずしてしまうと、家全体が一部屋の大座敷になる。婚礼や法事の時には、そうやって大勢の客をもてなした。どれほど大きな家でなくても、ふすまをはずせば二部

屋や三部屋は一続きの部屋になるのが普通だった。

このような畳の部屋には、寝室とか食堂とかいうような用途を示す名前がない。部屋を指す時には、八畳とか六畳とか四畳半とかいう、広さを示すことばを使ったり、座敷とか奥の間といった、わかったようなわからぬような名前で呼んだりする。部屋の使い方がその時々で違うため、用途の面から名前をつけたくても、名前のつけようがないのである。

しかし、日本の家も近ごろではだいぶ様子が変わってきた。昔に比べて家財道具がふえたため、どちらのふすまをあけても隣りの部屋というわけにはいかなくなった。ふすまの前に洋服だんすや戸棚を並べたりしては、ふすまがふすまの役をしなくなってしまうからである。

■ 用例

1. ●「ふすまをあけると次の部屋で、そこのふすまをあけると、またその向こうが次の部屋、というふうに、どこのふすまをあけてもみんな次の部屋になっているので、かくれんぼをするのにとてもよかった。」と言うのである。*(l. 3)*

(1) 今月は田中君の家、来月は鈴木君の家というふうに、毎月会場をかえて集まることにした。

(2) 春は花、秋はもみじというふうに、四季折々の自然を楽しむ生活が今ではめずらしいものになってしまった。

(3) 一人帰り、また一人帰るというふうに順に席を立って、とうとうだれもいなくなってしまった。

(4) 夜ふかしはする、酒は浴びるほど飲むというふうな生活が、体にいいわけがない。

■　本　文

十月十一日　ある主婦からの投書

選挙が近づきました。また、わたしのゆううつが始まります。わたしたちは、若いころ周囲の人の強い反対を押し切って結婚しました。権力に屈しない、彼の意志の強さを尊敬していました。ところが、十年後のいま、夫はすっかり変わってしまいました。選挙があると、自分の意見も何もなく、会社が推薦する人に必ず投票します。それだけでなく、わたしにもその人に投票することを強制します。そして、退社時間後も、対立候補を非難するビラを張りに歩いたり、反対派の運動員にいやがらせをして社宅地区に入れないようにしたり、まるで会社の番犬です。権力に立ち向かおうとする、若き日の勇敢な姿はどこにもありません。会社のためには、自分の政治的立場も妻の意見もすべて犠牲にすることが必要なのでしょうか。サラリーマンというものは、会社のために自分を捨てなければならないのでしょうか。（主婦三十二歳）

数日後　あるサラリーマンからの投書

十一日付の投書を拝見。私自身もいつも妻に同じような不満を聞かされているので、お気持はある程度わかるような気がします。しかし、男性の立場からひとことご主人を弁護し、あわせて私自身の立場も弁明させてもらいたいと思って、筆をとりました。

会社員は九時から五時まで会社のために働けば、あとの時間は自分のものである、という考えもあるでしょう。が、同時に、きびしい業界の競争に耐えて自分の企業を発展させるためには二十四時間勤務が必要だ、という考えも成り立ちます。どちらが正しいかはだれにも決められることではありません。要は個人の選択

の問題です。私はあえて後者をとりました。ご主人も幸か不幸か後者を選ばれたまでです。

ただ一つ言えることは、出世昇進して早く管理職につけ、ただし会社の選挙運動にはまきこまれるな、というのは、現実には無理な注文だということです。（会社員三十八歳）

■ 用　　例

1. • 彼の意志の強さを尊敬していました。ところが、十年後のいま、夫はすっかり変わってしまいました。*(l. 4)*

(1)「私たちはみんな、春子さんは太郎さんと結婚するのだろうと思っていました。ところが、春子さんは明さんと結婚したのです。」

(2) こんな仕事は１・２時間もあればできると思っていた。ところが、始めてみたら、意外にめんどうで、夕方までかかってしまった。

(3)「田中さんはちょっと見ると、丈夫そうにみえるでしょう。ところが病気ばかりしているんですよ。」

(4) 三日も降り続いたのだから、きょうは晴れるだろうと思っていたところが、きのうよりもひどい雨だ。

(5) 遅刻しそうだと思って大急ぎで教室へ行ったところが、きょうの講義は休講だった。

2. • 権力に立ち向かおうとする、若き日の勇敢な姿はどこにもありません。*(l. 10)*

(1) 地震を予知し、災害をくいとめようとする研究が本格的に始められた。

(2)「あの学生にはいくら教えても無駄ですよ。本人に覚えようとする意欲がないんですから。」

着(き)がえ　換衣服(名詞)

　着がえる　換衣服(動詞)

少々(しょうしょう)　少許，一些

雨具(あまぐ)　雨具

用意(ようい)する　準備(動詞)

　用意　準備(名詞)

なお　還有，又

行(ゆ)き　去

帰(かえ)り　回來，當天回來的旅行

指定券(していけん)　預售票

　指定　指定，特定

　指定する　指定(動詞)

指定券がとれる　買得到預售票

売(う)り出(だ)す　開始賣

手(て)に入(はい)る　到手，得到

間違(まちが)いなく　正確地，確定，確實地

近いうちに　近期，這幾天內

地図(ちず)　地圖

案内書(あんないしょ)　指南手冊

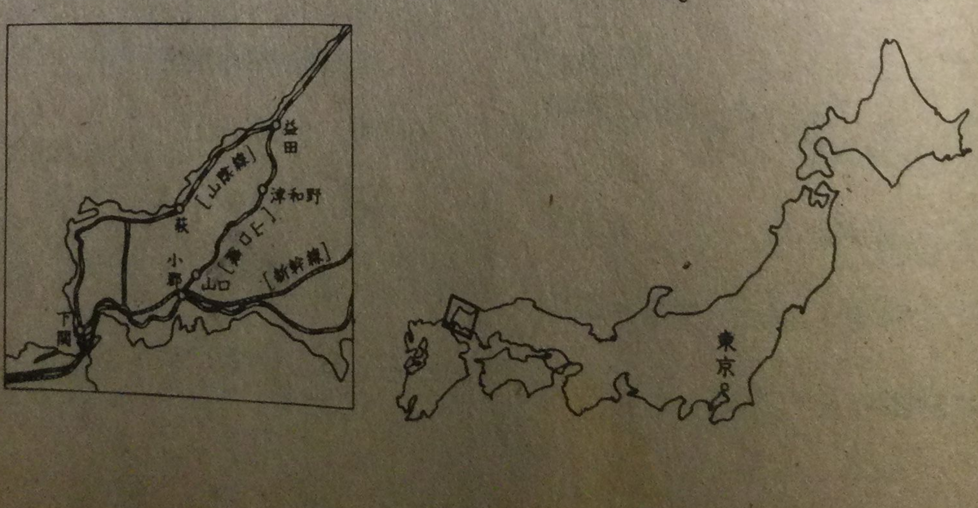
都合(つごう)　方便

～様(さま)　～先生，小姐

■　本　文

先日はごちそうさまでした。例の旅行の計画がまとまったので、お知らせします。

行く先は山陰の津和野(つわの)と萩(はぎ)にしました。早速、交通公社へ行って相談(そうだん)し、次(つぎ)のような日程を組んでみました。



	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日
朝	東京（9時発）↓（新幹線）	（終日津和野見物）	津和野（9時ごろ発）↓（山口線）	（終日萩見物）	（午前中萩見物）↓
昼	小郡 ↓（山口線）		益田（途中下車するか）↓（山陰線）		萩（正午ごろ発）↓（山陰線）
夜	津和野（4時20分着）		萩（2～3時ごろ着）		下関 ↓（新幹線）
	津和野泊	津和野泊	萩泊	萩泊	東京（9時ごろ着）

まず津和野へ行くわけですが、着くのが夕方ですから、その日は旅館の近くを散歩するぐらいにして、次の日にゆっくりと町の中を見て歩くことにしました。小さい町ですが、お城の跡や武家屋敷など、一日では見きれないくらい見物する所があるという話です。また、「雁」や「高瀬舟」で有名な作家、森鷗外の生まれた家やお墓もあるそうです。

津和野に二泊して、五日の朝、九時ごろの列車で萩へ向かいたいと思います。津和野から萩までは二時間余りです。益田（乗換え駅）で途中下車をして万福寺に寄ってみたらどうかと、交通公社の人がすすめてくれました。その寺には、雪舟が作ったと言われるきれいな庭があるのだそうです。駅から二時間もあれば十分往復できるようですから、天気さえよかったら行ってみませんか。

萩にも二泊します。萩は津和野よりずっと大きな町なので、そ

れだけ見る所も多いようです。ここも江戸時代のおもかげを残している武家屋敷などが主な見どころだという話です。

萩には洋式のホテルもあるようですが、せっかく古い城下町を見に行くのだからと思って、日本式の旅館を頼みました。結局、津和野も萩もそれぞれ二泊ずつ、朝晩二食付きで一泊八千円の部屋が予約できました。どちらもバス・トイレ付きで、税・サービス料込みの料金です。

四泊五日の旅行になりますから、着がえを少々と雨具を用意するほうがいいと思います。

なお、行きと帰りの新幹線だけ指定券を頼みました。指定券は乗る日の一週間前に売り出すので、今はまだ手に入らないのですが、多分間違いなくとれるだろうという話でした。

近いうちに、地図や案内書などをお見せしたいと思います。都合のよい日をお知らせください。

九月十日

松田三郎

ジョン・スコット様

■ 用　例

1. • まず津和野へ行くわけですが、着くのが夕方ですから、その日は旅館の近くを散歩するぐらいにして、次の日にゆっくりと町の中を見て歩くことにしました。(l. 5)

(1) この前、雨が降ったのは先月の五日だから、ちょうど一か月降らないわけだ。

(2)「あかないわけです。かぎが違っているのですから。」

■ 本　文

大正十二年の関東大震災は、死者および行方不明十万六千人、負傷者五万二千人、損傷家屋六十九万四千戸に及ぶ災害をもたらした。経済上の損害は百億円（今日のお金で数兆円）にも達したと言う。

災害の中でもとりわけ地震が恐ろしいのは、予知の方法がないことにもとづく。科学がずいぶん進んだようでも、まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。

何月何日の何時何分に大地震が起こる、などというデマが飛ぶと、気象台にジャンジャン問い合わせの電話がくる。気の早い者は避難の準備さえ始める。地震の恐ろしさが人々の心にしみこんでいるからである。俗に「地震・雷・火事・おやじ」と言われるように、恐ろしいものの代表として地震がまず筆頭にあげられるのは当然であろう。

それに続くのが雷と火事で、最後におやじがくる。雷と火事が恐ろしいのもよくわかるが、最後におやじが顔を出すのはちょっと変な感じがする。ほかに恐ろしいものはいくらでもありそうなのに、わざわざ「おやじ」を持ち出したのはどういうことだろう。単に七五調の調子を整えるためだとも、とり合わせの妙をねらったものだともとれる。しかし、おやじの恐ろしさには、案外地震などと通じるものがあるのかもしれない。

日本人の天災観をある人は「一過性」と評した。一度過ぎてしまえばそれで終わりということである。天災というものは、その恐ろしい一瞬さえじっと耐えれば、あとにまた平和がやってくるのだから、くよくよすることはないという、いわば楽天的な天災観だそうである。

地震や雷は一瞬のできごとだ。火事も燃えてしまえばそれまでで、あとあとまで恐ろしい思いをすることはない。おやじが怒るのも、母親がいつまでもぐちを言い続けるのと違って、一度「バカッ」とどなればそれで終わりだ、という点では一過性と言えるのかもしれない。

［怒鳴る(どなる)］/(自) 大声で責

■ 用　　例

1. • まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。(*l.* 6)

(1) 二十世紀(せいき)の科学技術はついに人間を月に送りこむところまで進歩した。

(2) この小説(しょうせつ)の第一巻(だいいっかん)は、主人公(こう)がパリへ旅立(たびだ)つところで終わっている。

(3) 食事をしようとしているところに、田中さんがやって来た。

(4)「あの人は私が困っているところを助けてくれた恩人(おんじん)です。」

(5)「お忙しいところをおいでいただいてありがとうございました。」

2. • 科学がずいぶん進んだようでも、まだまだ地震を予知して被害を食い止めるところまではきていない。(*l.* 6)

(1) 医学(いがく)はずいぶん進歩したようでも癌(がん)をなおせるところまではきていない。

(2) 日本語が上達(じょうたつ)したようでも通訳(つうやく)ができるところまではいっていません。

(3) 海水(かいすい)を真水(まみず)に変える実験に成功したといっても、実用化(じつようか)するまでには年月(ねんげつ)がかかりそうだ。

(4) まだ計画をねっている段階(だんかい)で、みんなに発表(はっぴょう)するまでにはなっていない。

(5) 見ればわかることだから、わざわざ説明するまでもないでしょう。

■ 本　文

家中の者がうちそろってにぎやかにさわぐ様子を、「盆と正月がいっしょに来たようだ」という。この二つは、日本人の年中行事の中で何としても欠かせないものである。大ざっぱな言い方をすれば、一年の行事のうち正月の行事が半分を、盆の行事が残りの半分を占める、と言えないこともない。もともとこれは旧暦によって行われるものであった。明治以降は、正月の行事は新暦に移行したが七月の盆の行事は、畑仕事の関係で旧暦のままか一月おくれで行う所が多い。

昔は、商店などの奉公人が休暇をもらって郷里に帰ることのできる日は、年に二回、正月の十六日と盆の十六日だけであった。現在のように週休制が普及し、週休二日制も広まろうとしている時代でも、正月と盆の帰省客のために国鉄が列車を大増発し、それでも各列車が満員になるという事実を見れば、この二つの行事がどんなに重要なものであるかがわかる。

盆と正月には、徹夜までして切符を買ったり、何時間も立ち詰めの苦しい思いをしたりしても故郷へ帰らなければならない、というのはどういうことなのか。当人たちも、なぜかと聞かれれば返事に困るであろう。とにかく、帰巣本能の嵐が盆と正月には、日本列島を吹きまくる。

正月はさておき、盆について言うなら、盆という言葉は于蘭盆という仏教語に由来するが、盆の行事の大部分、特に主要な部分はすべて日本特有のものであって、仏教の本来の行事ではない。日本に古くからある御霊祭の習慣に、仏教がたまたま結びついたものと考えられる。

七月十三日に迎え火をたいて先祖の霊を迎える。そして、さま

ざまなごちそうを供えたり、盆踊りをしたりして霊をなぐさめる。十五日か十六日に送り火をたいて送り出す。地方によってこれらの行事は形の異なる場合もあるが、いずれの場合にも先祖の霊をもてなす、つまり生きている者が死者と数日間の交歓を行うという考えは一貫している。先祖と子孫、広い意味での親と子がむつみ合う機会であることを考えれば、日本列島を通じての帰巣本能に駆られた民族大移動も、なるほどとうなずける気がする。

■ 用　例

1. • このニつは、日本人の年中行事の中で何としても欠かせないものである。(l. 2)

(1) 水産資源は、日本人の生活に何としても欠かせないものである。
(2) 空気と水は、人間が生きていくために、何としても必要なものだ。
(3) 彼のしたことは何としても許すことはできない。
(4) 朝から頭がひどく痛むが、きょうは試験だから何としても学校に行かなければならない。
(5)「三十歳までに何としてもヒマラヤへ行くぞ。」と彼はよく言っていたが、とうとうその夢は実現しなかった。

2. • 大ざっぱな言い方をすれば、一年の行事のうち正月の行事が半分を、盆の行事が残りの半分を占める、と言えないこともない。(l. 3)

(1) 人間は、一生の三分の一をベッドの中で過ごす、と言えないこともない。
(2) 医者という職業は、ふつうのサラリーマンと違って、二十四時間勤務だと言えないこともない。
(3) 学生時代の失恋が、彼の性格を変えてしまった、と言えないことも

犠牲を払う　付出犧牲

払う　付出

見合う　平衡，抵得上，相稱

恩恵　利益

受ける　蒙受，接受

おそらく　恐怕，可能～

結ぶ　連接，結合，綁在一起

流通機構　分派，指揮機構

流通　流通，分派，流動（名詞）

流通する　流通（動詞）

機構　機構，結構，制度

複雑だ　複雑的

仕組み　結構，組織

原因　原因

現状　現狀，現在的情況

～のもとで　在～之下

今後　今後

■　本　文

夕食の時、なにげなくテレビのニュースを見ていたら、一面のキャベツ畑を片はしからトラクターで踏みつぶしている画面が映し出されていた。何であんなもったいないことをするのだろうと思って、アナウンサーの声に耳を傾けると、次のような説明をしていた。

今年は例年になくキャベツが豊作で、収穫したキャベツを全部出荷しようとすれば、どんどん値が下がる。大量に出荷すればするほどかえって赤字になる。それで、出荷量をおさえるために、保存のきかないキャベツのことだから、やむをえずつぶしているのだ、という。

農村では、なまじ豊作であったためにかえって損をすることがよくある。需要と供給の関係をうまく調整することができず、とれすぎて損をすることを「豊作貧乏」というのだそうだ。

世界的な食糧危機が問題にされている今日、実に馬鹿げたことだと思われる。だが、生活を守るために、農民がこうした手段を選ばなければならないのは、やむをえないことのようだ。

一方、我々消費者の立場からすれば、豊作大いに結構。新鮮な野菜やくだものが安く買えることに異を唱える者はまずあるまい。ところが、現実には、小売店の店頭に出されると、期待されたほどは安くなっていないことが多い。たとえば、生産者は昨年の半値でしか売れないと嘆いているのに、小売店では、前年に比べてせいぜい二・三割しか安くなっていない、ということだ。どうやら、生産者の側が払った犠牲に見合うほどの恩恵を、我々消費者は受けていないようだ。

これはおそらく、生産者と消費者の間を結ぶ流通機構の複雑な仕組みに原因があるのだろう。現状のような流通機構のもとでは、こうしたことが今後も続くのではないだろうか。

■ 用　　例

1. • 何であんなもったいないことをするのだろうと思って、アナウンサーの声に耳を傾けると、次のような説明をしていた。*(l. 3)*

⑴ 彼は何であんないい就職口をことわってしまったのだろう。

⑵ もう九月だというのに、どうしてこんなに暑いのだろう。

⑶ 毎日雨でいやになってしまう。一体いつになったら晴れるのだろう。

⑷ 物価は高いし、アルバイトはないし、これからどうやって生活すればいいのだろう。

⑸「ひどいことをするもんですね、爆弾をしかけるなんて。」

「ほんとに、だれがあんなばかなことをしたんでしょう。」

世界的な食糧危機が問題にされている今日、実に馬鹿げたことだと思われる。だが、生活を守るために、農民がこうした手段を選ばなければならないのは、やむをえないことのようだ。

一方、我々消費者の立場からすれば、豊作大いに結構。新鮮な野菜やくだものが安く買えることに異を唱える者はまずあるまい。ところが、現実には、小売店の店頭に出されると、期待されたほどは安くなっていないことが多い。たとえば、生産者は昨年の半値でしか売れないと嘆いているのに、小売店では、前年に比べてせいぜい二・三割しか安くなっていない、ということだ。どうやら、生産者の側が払った犠牲に見合うほどの恩恵を、我々消費者は受けていないようだ。

これはおそらく、生産者と消費者の間を結ぶ流通機構の複雑な仕組みに原因があるのだろう。現状のような流通機構のもとでは、こうしたことが今後も続くのではないだろうか。

■ 用　　例

1.• 何であんなもったいないことをするのだろうと思って、アナウンサーの声に耳を傾けると、次のような説明をしていた。(*l*. 3)

(1) 彼は何であんないい就職口をことわってしまったのだろう。

(2) もう九月だというのに、どうしてこんなに暑いのだろう。

(3) 毎日雨でいやになってしまう。一体いつになったら晴れるのだろう。

(4) 物価は高いし、アルバイトはないし、これからどうやって生活すればいいのだろう。

(5)「ひどいことをするもんですね、爆弾をしかけるなんて。」

もらす　遺漏

意欲　意欲，渴望，意向

氾濫　氾濫（名詞）

　氾濫する　氾濫（動詞）

現象　現象

現れる　出現

吸収することにのみ追われる　只忙著吸收，儘其所能，吸收各種事物。

受け身の　被動的，受攻擊的

反面　反面，相反

自国　本國

海外　海外

広める　擴展，廣爲推展

理解する　理解

　理解　理解（動詞）

努力　努力，竭力（名詞）

　努力する　努力，盡力（動詞）

怠る　疏忽，怠忽

結果　結果

招く　邀請

ゆえん　緣由，緣故

■　本　文

神田の本屋街を歩いていて目にしたことである。ある本屋の前を通りかかると、ショーウインドーに新刊書が発行順に日を追って並べてあった。それを見ると、少ない日でも二十冊程度、多い日には五十冊近い新刊書が発行されている。新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。同じ本が、少なくとも数百部、多ければ何千部、何万部と印刷されるのだから、その数はおびただしい量にのぼる。

このことは、学生・一般の社会人から専門の学者に至るまで、いかに読書を好むか、より正確に言えば、書物を通じて得た知識や情報をいかに大切にしているか、ということを示すものである。しかも、ここで注目しなければならないのは、おびただしい量の

出版物の中で、翻訳書がかなりの割合を占めているということである。これは、外国の—特に欧米の—学問・文化などに対する並並ならぬ関心の深さを物語るものである。

ここで思い出されるのが、日本文化を「一方交通の文化」と評した言葉である。

明治維新以後、西欧の文献の積極的な翻訳活動が始まり、学問の世界を初めとして、文学の世界その他で、その成果が多くの人人に受け入れられていった。そして、西欧の社会で百年・百五十年の年月をかけて達成した近代科学の成果も、日本ではわずか半世紀もたたぬうちにみごとに吸収してしまった。学問の多くの分野で、またたく間にその水準が欧米のそれに到達し、あるいは、近づいていったのである。

かかる急速な進歩が可能であった背後には、それなりの下地があったことは確かである。江戸(えど)時代、国学の分野においても、既に数々の業績がみられた。中でも、宣長(のりなが)の「古事記伝」などは、その方法において、現代の科学的な方法にいささかの遜色もないものであった。また、西欧の近代科学も、長崎(ながさき)を窓口に、細々ながらもオランダから輸入され続けていた。これに加えて、「読み・書き・そろばん」という言葉で端的に示される庶民教育の普及も見逃せない。

こうした下地は無視しえないとは言うものの、明治以後の学問の進展は驚異的なものであった。そして、ある分野では既に世界の最高水準に達しさえしている。だが、現在でもなお、かつてかかげた「追いつき追い越せ」のスローガンが、我々の意識の一部に根強く生き残っているのであろう。学問に限らず多くの分野で、西欧いや欧米の動向に絶えず目を向け、それに遅れをとるまいとする姿勢をとり続けているようだ。この、何事によらず新(あたら)しい情

報は細大もらさず吸収しようとする意欲が、翻訳書の氾濫という現象となって現れているとみてよい。

欧米の学問・文化を吸収することにのみ追われる受け身の姿勢は、その反面において自国の学問の成果を積極的に海外に広めよう、自国の文化を世界の人々に正しく理解してもらおうとする努力を怠らせる結果を招くことになった。これが、「一方交通の文化」と言われるゆえんである

〔所以〕

■ 用　　例

1. • 新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。(*l*. 4)

(1) 人生(じんせい)には、こんな不幸なことばかりあるわけではなかろう。

(2) 彼もこの事件に責任を感じていないわけではなかろうから、何か対策(たいさく)を考えていてくれるだろう。

(3) 今は旅行シーズンではないから、ホテルに直接(ちょくせつ)行っても空(あ)いている部屋がないわけでもないだろうが、できたら予約しておくほうが安心していられる。

(4) 彼は酒はあまり好きてはないようだが、ぜんぜん飲めないわけではないだろう。

(5) フランス語がそれほど上手なわけではないが、一年間のパリ生活で特に困ることもなかった。

2. • 新刊書がすべて陳列されているわけではなかろうから、実際にはもっと多くの本が毎日発行されていることになる。(*l*. 4)

(1) 年収(ねんしゅう)一億(おく)円といっても、高い税金(ぜいきん)をとられるので、実際に手に入る金はもっと少ないことになる。

ありがたい　可喜的，值得慶幸的

禁じる　禁止

方向　方向，指向

推し進める　推進

欠ける　欠缺，短少

作りあげる　創造，完成

恨む　對……怨恨

■ 本　文

「蛋白質が足りないよ」というコマーシャルが数年前に流行した。ソーセージかビタミン剤か、何の広告だったかは忘れたが、欧米社会との接触の機会が増えて、自分たちの体力の足りないことを痛感させられた日本人の気持を、うまくとらえた文句であったと思う。

日本人も以前に比べれば肉をたくさん食べるようにはなったが、ヨーロッパ諸国やアメリカに比べると、国民一般の肉類消費量はお話にならないほど少ない。それは、日本では、肉食が当たり前のことになったのが、明治か、せいぜい徳川末期までしかさかのぼれないことに、原因があるのだろう。

わたしの祖父は—もちろん明治の人間であったが—新しがり屋で、若い時、牛や馬や猪などの肉が大好きであった。ところが、周囲では、「四つ足を食うと動物になってしまう」とか、「かまどの神様がお怒りになる」とか言って、家の中で料理や食事をさせなかった。そこで、やむなく庭先で火をおこして焼き、一人で食べたそうである。

だが、日本人は古代から肉食をしなかったのかというと、決してそうではない。農業が発達する以前には、狩猟によって得た獣が食料としてかなり重要な部分を占めていた。農耕が始まってからも、農耕の神に牛や馬を犠牲として捧げ、儀式の後でその動物

の肉を食うということが行われていた。このことは、はっきりと記録に残されていて、立証ができるそうである。

この肉食の風習が消えてしまった原因はいくつかある。その一つは、日本では、空間的な制約で牛馬を広い地域に放牧することができないため、牧畜がふるわなかったことであり、また、一つは、農業が発達して、牛馬を田畑の労役に使うことが多くなったことである。さらにもう一つ、大きな原因として、仏教の伝来と普及があげられる。

仏説によると、仏陀は「すべての生き物に憐れみをかけ給う」ものであるから、生き物を殺すものは仏罰を受けることになる。殺生禁断の戒めは、仏門に入った僧侶ばかりでなく、支配者によって一般の民衆にも押しつけられるようになった。もちろん一般民衆が忠実にこの戒めを守ったとは考えがたいが、少なくとも肉食の習慣を精神的に圧迫することになった事実は否定できない。

仏教が輝かしい美術と深い精神文化の伝統をこの国に築きあげたことには異論がない。また、仏教が人の心に生き物を憐れむことを教えてくれたのはありがたいことである。しかし、それが肉食を禁じる方向にこの国を推し進め、体力に欠ける日本人を作りあげる原因になったとすれば、ちょっと恨みたくもなるのである。

■ 用　　例

1. • それは、日本では、肉食が当たり前のことになったのが、せいぜい徳川末期までしかさかのぼれないことに、原因があるのだろう。(l. 8)

(1) 交通事故の多くは運転する者の不注意に原因がある。

(2) あの事業が計画どおり進まないのは、資金が不足していることに原

奨励金　奨金

奨励　鼓勵，奬勵

奨励する　鼓勵，鼓舞（動詞）

制度　制度

設ける　設立，建立，爲做～而準備～

末梢的だ　枝節末微無關緊要的

解決　解決

解決する　解決（動詞）

総合的だ　全盤的，綜合的

総合　綜合

総合する　綜合（動詞）

抜本的だ　根本的，抽根斧底的

対策　對策，解決方法

■ 本　文

日本の大都市、東京なり大阪なり横浜なりを歩いてみると、若者が多いのに気づく。電車に乗っても、食堂や映画館に入っても、若い人が多い。これは単なる印象にとどまらず、実際の数字に当たってみても、東京二十三区の二十歳台の人口は全人口の二十三パーセント、京都では二十四パーセントを占める。ミラノでは十三パーセント、ニューヨークでは十二パーセントに過ぎない。つまり、西欧の主要都市の二倍ということになる。

もちろん、世界中どこの国でも農村から都市への人口流入はある。アメリカでは、南部から北部への人口流入のほか、プエルトリコやメキシコなどから多数の人が北部や西部の大都市へ入って行く。イタリアなどでも、南部の農村から北部の都会へ大量の人口流入が見られる。ただ日本と違うのは、欧米の場合、機械化が進んだため失業した人などが一家を挙げて移住することが多いということである。

日本では、農村にちゃんと一家が残り、その家から若者だけが離れて単身大都会へ出て来るという形が多い。この場合、全国の教育水準の驚くべき均一化と標準語の普及が大いにものを言う。きのう農村から出て来た若者が大都市の工場へ入っても、互いにすぐ話も自由に通じるし、上役から言われた仕事も理解でき、一応こなせる。こういう有能な若者が農村の自然の中で元気に育ち、大都会へ出て来て、安い賃金で勤勉に働き、貯蓄にも励んで、日本経済の推進力となってきたのである。

今まではそれでよかったかもしれない。だが、問題はこれからである。水質汚染も進み、空気の汚れもひどくなって、都会へ出て来た若い労働力の健康がむしばまれていく現状を無視するわけにはいかなくなったのである。

また、貿易面に現れた食糧自給率の極端な低下に象徴的に示されているように、日本の農業政策の歪みも大きくクローズアップされてきた。農村では、妻と子供、それに老人が寂しく家を守っている所も多い。若者たちは都会に出て行き、父親もまた、一年の半分近くを都会へ出稼ぎに行っているのである。このように過疎化した農村からは、もう今までのように若い労働力を送り出し続けることはできない。それどころか、農家の後継者不足自体が問題になっているのである。

このままの状態を放っておいてよいわけはない。といって、何かの規制を作って、都会の環境汚染がこれ以上進まないようにするとか、農村へ人が戻って来るように奨励金制度を設けるとかいうような末梢的な方法では、問題の解決にはなるまい。都会だけを、また農村だけを考えるのではなく、より総合的な、抜本的対策が必要なのである。

視覚印象　視覺印象

視覚　視覺

聴覚印象　聽覺印象

聴覚　聽覺

同様の　同樣的

機能　性能，功能，機能（名詞）

機能する　運作功能，發揮性能

まさしく　無疑地，確實地

■ 本　　文

言語学の世界では、言語の本質は音声に求められ、文字は付随的な役割しか担っていないという考え方が支配的である。確かに、人類の長い歴史の中で、文字を使い出したのは非常に新しいことであり、現在でも文字を持たない民族が多数あるという点からみても、言語一般について論じようとするなら、このような考え方には十分妥当性があると言えよう。

ところが、日本語について見る限り、必ずしもそうとは言えない面がある。文字が音声と同じ程度に重要な役割を負っていると考えざるをえない例に、いくらでも接することができるのである。

まず思い浮かぶのが、漢字表記を媒介として作られた言葉が多数存在することである。

「米国」というのは、「アメリカ」を漢字で「亜米利加」と書いたことに由来するものである。「東名高速道路」も、地名「ナゴヤ」が「名古屋」と書かれることを知らない者には、それが何故に東京・名古屋間の高速道路という意味になるのか理解しがたいであろう。相撲の社会を「角界」というが、これも、相撲を「角力」と書いたことに基づく。

このように、漢字表記が媒介となって新しい言葉が作り出される際に、もとの発音とは全く異なる発音に替えられることが非常

に多い。同じ漢字を用いながら、音から訓へ、或は逆に訓から音へと、全く体系を異にする読みへと切り替えられるのである。時には、同じ字の別の音や訓になることもある。

漢字の読みが替えられることによって、いつの間にか従来とは音形を異にする言葉に擦り替えられてしまう例もある。雪渓やお花畑で人気のある「白馬岳」は、元来、「シロウマダケ」であったが、近ごろは「ハクバダケ」という者が非常に多くなった。訓読みから音読みへと擦り替えられたのである。一方、「当たり前」という言葉は、漢語「当然」の日本的な表記「当前」が訓読されたものだという説がある。

次に、漢字表記を頭に描くことによって意味の識別がなされているとしか考えられないような同音語が決して少なくない、という事実があげられる。

「私立―市立」「民族学―民俗学」「辞典―事典」「(子供の)想像力を伸ばす―創造力を伸ばす」などは、何らかの点で意味的な関連があり、しかも同一の文脈で用いられる可能性の大きい同音語である。この種の同音語が何かの事情で共存するようなことになった場合には、その一方が排除される方向に向かうのが言語一般に見られる現象だと言われるが、日本語では、むしろその反対に増加する傾向さえある。音声を耳にして、それから直接意味の理解がなされるのではなく、途中に漢字表記というフィルターを通す段階があって、そこで意味の識別がなされているのであろう。ある人が日本語を「テレビ型の言語だ」と言ったが、視覚印象が聴覚印象同様の機能を持つという点でまさしく「テレビ型」の言語である。

〔正しく〕/付. 的确, 确然

注意する　留心，警覺

西風（にしかぜ）　西風

からからに乾く　烘乾，非常乾燥

異常乾燥注意報（いじょうかんそうちゅういほう）　異常乾燥的警報

異常乾燥　異常乾燥

異常だ　異常的，不正常的

乾燥　乾燥

乾燥する　變乾

火災発生件数（かさいはっせいけんすう）　火災次數

火災　火災

発生　發生

発生する　發生（動詞）

件数　案件次數

ぐっと　急遽轉變成～，非常地～

増す（ま）　增加

江戸の華（はな）　江戸之花

江戸　江戸，東京在明治維新以前的舊名

火の用心（ひのようじん）　提防火災

用心　警惕，預防

用心する　警覺，小心（動詞）

一段と（いちだん）　更～，更加～

神経を使う（しんけい）　非常小心地，格外用心

神経　神經

のど　喉嚨

痛める（いた）　傷害，痛

かぜひき患者（かんじゃ）　感冒患者，感冒

患者　患者，病患（由客觀接觸的人，如醫生、護士使用，很少由病人本身或其家屬使用該字）

当然　當然地

■ 本　文

桜だより

春分を過ぎると、本格的な春（はる）の訪れを迎える。朝晩はまだ冷え込んでも、昼間（ひるま）の太陽の光は明（あか）るい。草木の芽が伸び出し、各地からの桜だよりも聞かれるようになる。

四月の上旬、東京で桜が満開のころ、北日本ではやっと雪どけが始まり、梅の盛りとなる。三月中旬に九州や四国、紀伊半島の南岸に上陸したつばめは、そろそろ関東にも姿を見せ始める。しかし、北海道の春はまだ遠い。

四月は官庁の会計年度が変わる月。学校も新入生を迎えて、新しい一年が始まる。

梅雨

五月は、さわやかな五月晴れの空に新緑が映える。しかし、それも長くは続かず、六月中旬ごろになれば、うっとうしい梅雨に入る。気温が低く、しとしと降るのは梅雨の前期。後期はむし暑く、大降りとなることが多い。所によっては集中豪雨の被害が出たりもする。

家の中までじめじめし、食べ物は腐りやすく、洗濯物も乾かない。うっかりしていると、下駄箱の中の靴までが黴で真青になる。都会生活者にとっては、空梅雨で終わってくれた方がありがたいのかもしれない。しかし、稲作には大事な雨だ。

このころ北海道では好天が続き、春と夏が同時に訪れたように、野の花が咲き乱れ、美しい季節となる。

盛夏

七月に入ってすぐのころ、梅雨明けを思わせる晴天の続くことがある。しかし、これは梅雨の中休みで、梅雨が明けて真夏を迎えるのは、例年七月中旬過ぎである。

梅雨明けから八月の上旬にかけての一・二週間、日本の上空は高気圧にすっぽりと包まれて、安定した天気が続く。暑さはきびしいが、海水浴や登山には絶好だ。高原や海岸の避暑地は涼を求

める人たちでにぎわう。

八月も中旬になると、夕立が多くなる。青い空に巨大な入道雲がもくもくと広がり、やがて激しい雷鳴を伴って強い雨が降り出す。昼の暑さにぐったりとしていた草木もやっと生気を取り戻す。

実りの秋

九月の台風シーズンが去れば、めっきり秋らしくなり、菊のつぼみがふくらむ。秋は収穫の季節である。抜けるような青空のもとで、黄金色に波打つ稲の刈り入れが行われる。真赤に色づいた柿の実が夕日に映えるのは、秋の風物詩の一つである　ぶどう・なし・柿・りんご・みかん・栗など秋の味覚がくだもの屋の店先に並ぶ。

早い年には九月の下旬、遅くても十月に入れば、富士山には初雪が見られる。北国や山国からはもみじのたよりが届く。紅葉は一雨ごとにその彩りを深め、北から南へ、山間部から平野部へと次第に移ってくる。東京の近郊に紅葉が見られるようになるのは十一月の半ばごろである。そのころには、北国や高い山には雪が降り始める。

冬の訪れ

十二月に入り、東京あたりで木枯しに落葉が舞うようになると、日本列島は太平洋側と日本海側で極端な天候の違いを示す日が多くなる。

日本海側では、年の変わらぬうちに大雪注意報の出ることもある。一方、太平洋側では晴天が続き、強い西風で空気はからからに乾き、毎日のように異常乾燥注意報が出される。火災発生件数もぐっと増す。「火事は江戸の華」などと言ってはいられない。

火の用心に一段と神経を使う。のどや鼻(はな)を痛めたかぜひき患者も、当然増える。

しかし、東京から富士山の美しい姿が見られる日の多いのもこの季節である。

■ 用　例

1. A • 草木の芽が伸び出し、各地からの桜だよりも聞かれるようになる。(l. 3)

(1) 菊もかおる十月下旬になると、空が一段と澄(す)んでくる。

(2) 何もかも値上がりして、欲(ほ)しいものも容易には買えなくなった。

(3) まだ子供だと思っていた妹(いもうと)ももう高校生になった。

(4)「こんな月もない夜の山道を、よく迷(まよ)わずに越えられたね。」

B • 八月も中旬になると、夕立が多くなる。(l. 31)

(1) 私の生まれ故郷は北海道も北のはずれだ。

(2) 日本の近代化が始まったのは、明治維新つまり十九世紀も半ばを過ぎてからである。

(3) 暮(くれ)もいよいよ押しつまって、あと二日を残すだけとなった。

2. • 六月中旬ごろになれば、うっとうしい梅雨に入る。(l. 13)

(1) 九月の末(すえ)になれば、富士山には初雪が見られる。

(2) この辺の店は、九時を過ぎればみんな店を閉(し)めてしまう。

(3) あのころは、金があれば旅行ばかりしていた。

(4) あの二人は会えばきまってけんかをしている。

(5)「彼はこう言えばああ言い、ああ言えばこう言う。全くへそ曲がりのやつだ。」

革新　革新

平和論者　和平主義者

～論者　主張～論的人

武力弾圧派　武力鎮壓派，主張使用武力的黨派

武力　武力，軍事力量

弾圧　鎮壓

弾圧する　鎮暴，鎮壓（動詞）

～派　～派分

多少　多少

血なまぐさい　血腥的

転換期　轉捩點

転換　轉變

転換する　轉換（動詞）

要するに　總而言之

歴史的だ　歷史性的

探る　探討

■　本　　文

ここ、二・三十年を振り返ってみると、周期的ともいえるように、歴史ブームといった現象が現れる。しかも、面白いことに、それが日本民族の源流を求めようとする日本国家の成立論に関するときほど、人々の興味をひくようだ。

特に、一九七二年に高松塚古墳が発掘され、中に描かれていた壁画が古代朝鮮の陵のそれと共通する点が多い、ということをきっかけに湧き起こった古代史ブームはすさまじいものであった。古代国家成立の謎を解く邪馬台国（中国の史書「魏志倭人伝」に記載されている日本の国名）がどこにあったかをめぐって、それまでくすぶり続けていた論争が一度に炎を上げ出した感があった。専門の歴史学者を初め、町の研究家、あるいは推理作家に至るまで、あれこれと自説を展開し、論議に花を咲かせた。

いったい何がこれほどまでに日本人の関心を古代史に向けさせるのだろうか。

思うに、一個の民族というものは、安易に他の民族　文化とは置き換えられない独自の文化の伝統を持つものである。たとえ、異民族の支配に屈し、政治形態や社会機構が見かけの上ではどう変えられようとも、その言語や意識構造・社会慣習までが異民族のそれにすっかり塗り替えられるということはまずあるまい。歴史の流れの中に生きる人々がこういったことを自覚するとき、それでは自分たちの民族の起源は、その興亡の歴史は、ということに自ら関心が向くことになるのではなかろうか。例をヨーロッパにとってみても、世界史的な視野からその歴史の全体像を観（み）ることも勿論（もちろん）可能だが、いずれかの民族に属する人々にとっては、それ以上に、自分たちの民族の興亡の歴史として興味がそそられるのではなかろうか。文献時代以後においても、ヨーロッパの地図は目まぐるしく塗り替えられてきた。日本人の目から見れば、単なる優れた政治家であり、勇猛な武将であるに過ぎない人物でも、その民族の人々から見れば、まさに救国の志士であり、民族の英雄であるのだ。つまり、民族の興亡との関り合いで歴史を観るとき、自分たちの民族の置かれた現状はどうか、今後いかなる方向に進むべきかといった問題と主体的に関連づけることが可能になり、単なる知識として過去を知るという以上に大きな興味と問題意識をもって、歴史をとらえるようになるのであろう。

ところが、日本歴史を観るかぎり、文献以前はいざ知らず、文献時代以後の歴史というものは、ヨーロッパ諸民族のそれなどに比べて、はるかに単調なものであったと言わざるを得ない。国家としての日本も有史以来単一の民族（いわゆる大和（やまと）民族）のみによって形成されてきたといってよく、その間に受けた外国からの侵略の脅威といえば、わずかに鎌倉（かまくら）時代に元の襲来を受けたとき

滑稽(こっけい)だ　滑稽，有趣，詼諧

仲間(なかま)　同志

態度(たいど)をとる　採取…態度

態度　態度

劣勢(れっせい)　（力量或人數上的）劣勢

優越感(ゆうえつかん)　優越感

非礼(ひれい)　無禮，粗魯

大(おお)っぴらだ　公然地，無顧忌的

常(つね)　一般情況，世俗的，平常，普通

慣習的だ　傳統的，習慣性的

離島(りとう)　離島

島(しま)　島嶼

山間僻地(さんかんへきち)　山間僻地

僻地　偏遠地

軽蔑(けいべつ)　輕視，輕蔑

軽蔑する　輕視

疎外(そがい)　保持距離，疏遠

疎外する　迴避（某人），對（某人）疏遠冷淡

敵意(てき い)　敵意

タテ社会　縱貫性組織的社團

タテ　縱的，垂直的（方向）

■ 本　文

〔一〕

一定の個人からなる社会集団の構成の要因を、きわめて抽象的にとらえると、二つの異なる原理—資格と場—が設定できる。すなわち、集団構成の第一条件として、それを構成する個人の「資格」の共通性によるものと、「場」の共有によるものとがある。

ここで資格と呼ぶものは、普通使われている意味よりずっと広く、社会的個人の一定の質を表すものである。

例(たと)えば、氏・素性といったように、生まれながらに個人に備わっているものもあれば、学歴・地位・職業などのように、生後個

人が獲得したものもある。また、経済的にみると、資本家・労働者、地主・小作人などというものも、それぞれ資格の種類となり、更に、男・女、老・若などといった一定の社会的（生物的差から生ずる）相違によるものまで、ここでいう資格（質）の一つとして取り上げることができる。

このような、一定の個人を他から区別しうる質的な基準のいずれかを使うことによって、集団が構成されている場合、「資格による」という。例えば、特定の職業集団、一つのカースト集団、一定の父系血縁集団などがその例である。

これに対して、「場による」というのは、一定の地域とか所属機関などのように、資格の相違を問わず、一定の枠によって、一定の個人が集団を構成している場合をさす。例えば、○○部落の成員というように。産業界を例にとれば、旋盤工というのは資格であり、P会社の社員というのは場による設定である。同様に、教授・事務員・学生というのはそれぞれ資格であり、R大学の者というのは場である。

日本人が外に向かって（他人に対して）自分を社会的に位置づける場合、好んでするのは、資格よりも場を優先することである。記者であるとかエンジニアであるということよりも、まず、A社、S社の者ということである。また、他人がより知りたいことも、A社、S社ということがまず第一であり、それから、記者であるか印刷工であるか、またエンジニアであるか事務員であるか、ということてある。

実際、○○テレビの者です、というので、プロデューサーかカメラマンであると思っていたら、運転手だったりしたなどということがある。

ここではっきり言えることは、場、すなわち会社とか大学とかいう枠が、社会的に集団構成、集団認識に大きな役割をもっているということであって、個人のもつ資格自体は第二の問題となってくるということである。

この集団認識のあり方は、日本人が自分の属する職場、会社とか、官庁、学校などを「ウチの」、相手のそれを「オタクの」などという表現を使うことにも表れている。

この表現によく象徴されているように、「会社」は、個人が一定の契約関係を結んでいる企業体であるという、自己にとって客体としての認識ではなく、私の、また我々の会社であって、主体化して認識されている。そして、多くの場合、それは自己の社会的存在のすべてであり、全生命の拠り所というようなエモーショナルな要素が濃厚に入ってくる。

A社は株主のものではなく、我々のものという論法がここにあるのである。この強い素朴な論法の前には、いかなる近代法といえども現実に譲歩せざるを得ないという、きわめて日本的な文化的特殊性が見られる。

〔二〕

ここで問題となるのは、異なる資格をもつ者から構成される集団が強い機能をもつ場合、集団結集力を導き出す何らかの方法が必ず講ぜられなければならないということである。

資格の異なる者に同一集団成員としての認識、そしてその妥当性をもたせる方法は、外部に対して「ワレワレ」というグループ意識を強調することである。そして、それは外にある同様なグループに対する対抗意識ともなる。内部的には「同じグループ成員」という情的な結びつきをもつようにすることである。資格の差別

は理性的なものであるから、それを越えるために、感情的なアプローチが使われる。

この感情的アプローチの招来するものは絶えざる人間接触であり、これは往々にしてパーソナルなあらゆる分野（公私を問わず）に人間関係が侵入してくる可能性をもっている。

したがって、個人の行動ばかりでなく、思想、考え方にまで集団の力が入り込んでくる。こうなると、どこまでが社会生活（公の）で、どこからが私生活なのか区別がつかなくなるという事態さえ、往々にして出てくるのである。

こうした、個々人の全面的な集団参加を基盤として強調され、また強要される集団の一体感というものは、それ自体閉ざされた世界を形成し、強い孤立性を招くことになる。ここに必然的に家風とか社風とかいうものが醸成される。そして、これはまた、集団結束、一体感を盛り立てる旗印となって強調され、いっそう集団化が促進される。

一体感によって養成される枠の強固さ、集団の孤立性は、同時に、枠の外にある同一資格者の間に溝を作り、一方、枠の中にある資格の異なる者の間の距離を縮め、資格による同類集団の機能を麻痺させる役割をなす。すなわち、こうした社会組織にあっては、社会に安定性があればあるほど同類意識は希薄となり、一方「ウチの者」「ヨソ者」の差別意識が正面に打ち出されてくる。

「ウチ」「ヨソ」の意識が強く、この感覚が尖鋭化してくると、まるで「ウチ」の者以外は人間ではなくなってしまうと思われるほどの極端な人間関係のコントラストが、同じ社会にみられるようになる。知らない人だったら、突き飛ばして席（せき）を獲得したその同じ人が、親しい知人（特に職場で自分より上の）に対しては、

自分がどんなに疲れていても席を譲るといった滑稽な姿がみられるのである。

実際、日本人は仲間と一緒にグループでいるとき、他の人々に対して実に冷たい態度をとる。相手が自分たちより劣勢であると思われる場合には、特にそれが優越感に似たものとなり、「ヨソ者」に対する非礼が大っぴらになるのが常である。この態度が慣習的となって極端に表れる例は、離島といわれるような島の人たちや、山間僻地にある部落や特殊な職業をもつ部落の人たちなどに往々にして示される、冷たさ、軽蔑、疎外の態度である。自分たちの世界以外の者に対しては、敵意に似た冷たささえもつのである。

——中根千枝「タテ社会の人間関係」による——

■ 用　　例

1. •一定の個人からなる社会集団の構成の要因を、きわめて抽象的にとらえると、二つの異なる原理—資格と場—が設定できる。すなわち、集団構成の第一条件として、それを構成する個人の「資格」の共通性によるものと、「場」の共有によるものとがある。*(l. 1)*

(1) スチューデント・ビザで来日した外国人は営利的な行為によって収入を得ることはできない。すなわち、留学生のアルバイトは原則として禁じられている。

(2) 日本は三権分立を基本とする立憲国家である。すなわち、立法、行政、司法の三権がそれぞれ独立の権限を有し、相互に侵すことを許さないことが憲法によってはっきり規定されている。

(3) 彼が学会で発表した説には、二つの全く相反する評価がなされている。すなわち、一つは従来の考えを一新する画期的な説だとするも

蜘蛛の糸　芥川龍之介

一

ある日の事でございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、一人でぶらぶらお歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のように真白で、その真中にある金色の蕊からは、何とも言えない好い匂が、絶え間なくあたりへ溢れております。極楽は丁度朝なのでございましょう。

やがてお釈迦様はその池のふちにお佇みになって、水の面を蔽っている蓮の葉の間から、ふと下の様子を御覧になりました。この極楽の蓮池の下は、丁度地獄の底に当たっておりますから、水晶のような水を透き通して、三途の河や針の山の景色が、丁度覗き眼鏡を見るように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、犍陀多と言う男が一人、外の罪人と一緒にうごめいている姿が、お目に止まりました。この犍陀多と言う男は、人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事を働いた大泥坊でございますが、それでもたった一つ、善い事を致した覚えがございます。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りますと、小さな蜘蛛が一匹、道端を這って行くのが見えました。そこで犍陀多は早速足を上げて、踏み殺そうと致しましたが、「いや、いや、これも小さいながら、命のあるものに違いない。その命をむやみにとるという事は、いくら何でもかわいそうだ」と、こう急に思い返して、とうとうその蜘蛛を殺さずに助けてやったからでございます。

お釈迦様は地獄の様子を御覧になりながら、この犍陀多には蜘蛛を助けた事があるのをお思い出しになりました。そうしてそれだけの善い事をした報には、出来るなら、この男を地獄から救い出してやろうとお考えになりました。幸、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸をそっとお手にお取りになって、玉のような白蓮の間から、遥か下にある地獄の底へ、まっすぐにそれをお下しなさいました。

二

こちらは地獄の底の血の池で、外の罪人と一緒に、浮いたり沈んだりしていた犍陀多でございます。何しろどちらを見ても、真暗で、たまにその暗闇からぼんやり浮き上がっているものがあると思いますと、それは恐ろしい針の山の針が光るのでございますから、その心細さと言ったらございません。その上あたりは墓の中のようにしんと静まり返って、たまに聞えるものと言っては、ただ罪人がつく微な嘆息ばかりでございます。これはここへ落ちて来る程の人間は、もうさまざまな地獄の責苦に疲れはてて、泣声を出す力さえなくなっているのでございましょう。ですからさすが大泥坊の犍陀多も、やはり血の池の血に咽びながら、まるで死にかかった蛙のように、ただもがいてばかりおりました。

ところがある時の事でございます。何気なく犍陀多が頭を上げて、血の池の空を眺めますと、そのひっそりとした闇の中を、遠い遠い天上から、銀色の蜘蛛の糸が、まるで人目にかかるのを恐れるように、一筋細く光りながら、するすると自分の上へ垂れてまいるのではございませんか。犍陀多はこれを見ると、思わず手

を打って喜びました。この糸に縋りついて、どこまでものぼって行けば、きっと地獄からぬけ出せるのに相違ございません。いや、うまく行くと、極楽へはいる事さえも出来ましょう。そうすれば、もう針の山へ追い上げられる事もなくなれば、血の池に沈められる事もあるはずはございません。

こう思いましたから犍陀多は、早速その蜘蛛の糸を両手でしっかりとつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐりのぼり始めました。もとより大泥坊の事でございますから、こういう事には昔から、慣れきっているのでございます。

しかし地獄と極楽との間は、何万里となくございますから、いくら焦って見たところで、容易に上へは出られません。ややしばらくのぼるうちに、とうとう犍陀多もくたびれて、もう一たくりも上の方へはのぼれなくなってしまいました。そこで仕方がございませんから、まず一休み休むつもりで、糸の中途にぶら下がりながら、遙かに目の下を見下しました。

すると、一生懸命にのぼった甲斐があって、さっきまで自分がいた血の池は、今ではもう闇の底にいつの間にかかくれております。それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になってしまいました。この分でのぼって行けば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかも知れません。犍陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出した事のない声で、「しめた。しめた」と笑いました。ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼって来るではございませんか。犍陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、暫くはただ、馬鹿のように大きな口を

開いたまま、目ばかり動かしておりました。自分一人でさえ切れそうな、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みに堪える事が出来ましょう。もし万一途中で切れたと致しましたら、せっかくここへまでのぼって来たこの肝腎な自分までも、もとの地獄へ逆落しに落ちてしまわなければなりません。そんな事があったら、大変でございます。が、そう言ううちにも、罪人たちは何百となく何千となく、真暗な血の池の底から、うようよと這い上がって、細く光っている蜘蛛の糸を、一列になりながら、せっせとのぼって参ります。今のうちにどうかしなければ、糸は真中から二つに切れて、落ちてしまうのに違いありません。

そこで犍陀多は大きな声を出して、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は俺のものだぞ。お前たちは一体誰に聞いて、のぼって来た。下りろ。下りろ」と喚きました。

その途端でございます。今まで何ともなかった蜘蛛の糸が、急に犍陀多のぶら下がっている所から、ぷつりと音を立てて切れました。ですから、犍陀多もたまりません。あっという間もなく風を切って、独楽のようにくるくるまわりながら、見る見るうちに闇の底へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

後にはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光りながら、月も星もない空の中途に、短く垂れているばかりでございます。

三

お釈迦様は極楽の蓮池のふちに立って、この一部始終をじっと見ていらっしゃいましたが、やがて犍陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうなお顔をなさりながら、又ぶらぶらお歩きになり始めました。自分ばかり地獄からぬけ出そう

開いたまま、目ばかり動かしておりました。自分一人でさえ切れそうな、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みに堪える事が出来ましょう。もし万一途中で切れたと致しましたら、せっかくここへまでのぼって来たこの肝腎な自分までも、もとの地獄へ逆落しに落ちてしまわなければなりません。そんな事があったら、大変でございます。が、そう言ううちにも、罪人たちは何百となく何千となく、真暗な血の池の底から、うようよと這い上がって、細く光っている蜘蛛の糸を、一列になりながら、せっせとのぼって参ります。今のうちにどうかしなければ、糸は真中から二つに切れて、落ちてしまうのに違いありません。

そこで犍陀多は大きな声を出して、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は俺のものだぞ。お前たちは一体誰に聞いて、のぼって来た。下りろ。下りろ」と喚きました。

その途端でございます。今まで何ともなかった蜘蛛の糸が、急に犍陀多のぶら下がっている所から、ぷつりと音を立てて切れました。ですから、犍陀多もたまりません。あっという間もなく風を切って、独楽のようにくるくるまわりながら、見る見るうちに闇の底へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

後にはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光りながら、月も星もない空の中途に、短く垂れているばかりでございます。

三

お釈迦様は極楽の蓮池のふちに立って、この一部始終をじっと見ていらっしゃいましたが、やがて犍陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうなお顔をなさりながら、又ぶらぶらお歩きになり始めました。自分ばかり地獄からぬけ出そう

どする、犍陀多の無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰を受けて、もとの地獄へ落ちてしまったのが、お釈迦様のお目から見ると、浅ましく思召されたのでございましょう。

しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんな事には頓着致しません。その玉のような白い花は、お釈迦様の御足のまわりに、ゆらゆらうてなを動かして、その真中にある金色の蕊からは、何とも言えない好い匂が、絶え間なくあたりへ溢れております。極楽ももう昼に近くなったのでございましょう。

案内者　　寺田寅彦

どこかへ旅行がしてみたくなる。しかし別にどこというきまったあてがない。そういう時に旅行案内記の類をあけてみると、あるいは海浜、あるいは山間の湖水、あるいは温泉といったように、行くべき所がさまざまありすぎるほどある。そこでまずかりに温泉なら温泉ときめて、温泉の部を少し詳しく見て行くと、各温泉の水質や効能、周囲の形勝名所旧跡などのだいたいがざっとわかる。しかしもう少し詳しく具体的の事が知りたくなって、今度は温泉専門の案内書を捜し出して読んでみる。そうするとまずぼんやりとおおよその見当がついて来るが、いくら詳細な案内記を丁寧に読んでみたところで、結局ほんとうのところは自分で行って見なければわかるはずはない。もしもそれがわかるようならば、うちで書物だけ読んでいればわざわざ出かける必要はないと言ってもいい。次には念のためにいろいろの人の話を聞いてみても、人によってかなり言う事がちがっていて、だれのオーソリティを信じていいかわからなくなってしまう。それでさんざんに調べた

最後には、つまりいいかげんに、賽でも投げると同じような偶然な機縁によって目的の地をどうにか決めるほかはない。

こういうやり方は言わばアカデミックなオーソドックスなやり方であると言われる。これは多くの人々にとって最も安全な方法であって、こうすればめったに大きな失望やとんでもない違算を生ずる心配が少ない。そうして主要な名所旧跡をうっかり見落とす気づかいもない。

しかしこれとちがったやり方もないではない。たとえば旅行がしたくなると同時に最初から賽をふって行く所をきめてしまう。あるいは偶然に読んだ詩編か小説かの中である感興に打たれたような場所に決めてしまう。そうして案内記などにはてんでかまわないで飛び出して行く。そうして自分の足と目で自由に気に向くままに歩き回り見て回る。この方法はとかくいろいろな失策や困難をひき起こしやすい。またいわゆる名所旧跡などのすぐ前を通りながら知らずに見のがしてしまったりするのはありがちな事である。これは危険の多いヘテロドックスのやり方である。これはうっかり一般の人にすすめる事のできかねるやり方である。

しかし前の安全な方法にも短所はある。読んだ案内書や聞いた人の話が、いつまでも頭の中に巣をくっていて、それが自分の目を隠し耳をおおう。それがためにせっかくわざわざ出かけて来た自分自身は言わば行李の中にでも押しこめられたような形になり、結局案内記や話した人が湯にはいったり見物したり享楽したりすると同じような事になる、こういうふうになりたがる恐れがある。もちろんこれは案内書や教えた人の罪ではない。

しかしそれでも結構であるという人がずいぶんある。そういう人はもちろんそれでよい。

最後には、つまりいいかげんに、賽でも投げると同じような偶然な機縁によって目的の地をどうにか決めるほかはない。

こういうやり方は言わばアカデミックなオーソドックスなやり方であると言われる。これは多くの人々にとって最も安全な方法であって、こうすればめったに大きな失望やとんでもない違算を生ずる心配が少ない。そうして主要な名所旧跡をうっかり見落とす気づかいもない。

しかしこれとちがったやり方もないではない。たとえば旅行がしたくなると同時に最初から賽をふって行く所をきめてしまう。あるいは偶然に読んだ詩編か小説かの中である感興に打たれたような場所に決めてしまう。そうして案内記などにはてんでかまわないで飛び出して行く。そうして自分の足と目で自由に気に向くままに歩き回り見て回る。この方法はとかくいろいろな失策や困難をひき起こしやすい。またいわゆる名所旧跡などのすぐ前を通りながら知らずに見のがしてしまったりするのはありがちな事である。これは危険の多いヘテロドックスのやり方である。これはうっかり一般の人にすすめる事のできかねるやり方である。

しかし前の安全な方法にも短所はある。読んだ案内書や聞いた人の話が、いつまでも頭の中に巣をくっていて、それが自分の目を隠し耳をおおう。それがためにせっかくわざわざ出かけて来た自分自身は言わば行李の中にでも押しこめられたような形になり、結局案内記や話した人が湯にはいったり見物したり享楽したりすると同じような事になる、こういうふうになりたがる恐れがある。もちろんこれは案内書や教えた人の罪ではない。

しかしそれでも結構であるという人がずいぶんある。そういう人はもちろんそれでよい。

しかしそれでは、わざわざ出て来たかいがないと考える人もある。曲かりなりにでも自分の目で見て自分の足で踏んで、その見る景色、踏む大地と自分とが直接にぴったり触れ合う時にのみ感じ得られる鋭い感覚を味わわなければなんにもならないという人がある。こういう人はとかくに案内書や人の話を無視し、あるいはわざと避けたがる。便利と安全を買うために自分を売る事を恐れるからである。こういう変わり者はどうかすると万人の見るものを見落としがちである代わりに、いかなる案内記にもかいてないいいものを掘り出す機会がある。

私が昔二三人連れで英国の某離宮を見物に行った時に、その中のある一人は、始終片手に開いたベデカを離さず、一室一室これと引き合わせては詳細に見物していた。そのベデカはちゃんと一度下調べをしてところどころ赤鉛筆で丁寧にアンダーラインがしてあった。ある部屋へ来た時にそこのある窓の前にみんなを呼び集め、ベデカの中の一行をさしながら、「この窓から見ると景色がいいと書いてある」と言って聞かせた。一同はそうかと思って、この見のがしてならない景色を充分に観賞する事ができた。

私はこの人の学者らしい徹底したアカデミックなしかたに感心すると同時に、なんだかそこに名状のできない物足りなさあるいは一種のはかなさとでもいったような心持ちがするのを禁ずる事ができなかった。なんだかこれでは自分がベデカの編者それ自身になってその校正でもしているような気がし、そしてその窓が不思議なこだわりの網を私のあたまの上に投げかけるように思われて来た。部屋に付随した歴史や故実などはベデカによらなければ全くわからないが、窓のながめのよしあしぐらいは自分の目で見つけ出し選択する自由を許してもらいたいような気もした。

しかしそれでは、わざわざ出て来たかいがないと考える人もある。曲がりなりにでも自分の目で見て自分の足で踏んで、その見る景色、踏む大地と自分とが直接にぴったり触れ合う時にのみ感じ得られる鋭い感覚を味わわなければなんにもならないという人がある。こういう人はとかくに案内書や人の話を無視し、あるいはわざと避けたがる。便利と安全を買うために自分を売る事を恐れるからである。こういう変わり者はどうかすると万人の見るものを見落としがちである代わりに、いかなる案内記にもかいてないいいものを掘り出す機会がある。

私が昔二三人連れで英国の某離宮を見物に行った時に、その中のある一人は、始終片手に開いたベデカを離さず、一室一室これと引き合わせては詳細に見物していた。そのベデカはちゃんと一度下調べをしてところどころ赤鉛筆で丁寧にアンダーラインがしてあった。ある部屋へ来た時にそこのある窓の前にみんなを呼び集め、ベデカの中の一行をさしながら、「この窓から見ると景色がいいと書いてある」と言って聞かせた。一同はそうかと思って、この見のがしてならない景色を充分に観賞する事ができた。

私はこの人の学者らしい徹底したアカデミックなしかたに感心すると同時に、なんだかそこに名状のできない物足りなさあるいは一種のはかなさとでもいったような心持ちがするのを禁ずる事ができなかった。なんだかこれでは自分がベデカの編者それ自身になってその校正でもしているような気がし、そしてその窓が不思議なこだわりの網を私のあたまの上に投げかけるように思われて来た。部屋に付随した歴史や故実などはベデカによらなければ全くわからないが、窓のながめのよしあしぐらいは自分の目で見つけ出し選択する自由を許してもらいたいような気もした。

ベデカというものがなかった時の不自由は想像のほかであろう
が、しかしまれには最新刊のベデカにだまされる事もまるでない
ではない。ある都の大学を尋ねて行ったらそこが何かの役所にな
っていたり、名高い料理屋を捜しあてると貸家札が張ってあった
りした事もある。杜撰な案内記ででもあればそういう失敗はなお
さらの事である。しかし、こういう意味で完全な案内記を求める
のは元来無理な事でなければならない。そういうものがあると思
うのが困難のもとであろう。
それで結局案内記がなくても困るが、あっても困る場合もないと
は限らない。

中学時代に初めての京都見物に行った事がある。黒谷とか金閣
寺とかいう所へ行くと、案内の小僧さんが建築の各部分の什物の
品々の来歴などを一々説明してくれる。その一種特別な節をつけ
た口調も田舎者の私には珍しかったが、それよりも、その説明が
いかにも機械的で、言っている事がらに対する情緒の反応が全く
なくて、説明者が単にきまっただけの声を出す器械かなんぞのよ
うに思われるのがよほど珍しく不思議に感ぜられた。その時に見
た宝物や襖の絵などはもう大概きれいに忘れてしまっているが、
その時の案内者の一種の口調と空虚な表情とだけは今でも頭の底
にありありと残っている。

その時に一つ困った事は、私がたとえばある器物か絵かに特別
の興味を感じて、それをもう少し詳しくゆっくり見たいと思って
も、案内者はすべての品物に平等な時間を割り当てて進行して行
くのだから、うっかりしているとその間にずんずんさきへ行って
しまって、その間に私はたくさんの見るべき物を見のがしてしま
わなければならない事になる。それはかまわないつもりでいても、

そこを見て後に、同行者の間でちょうど自分の見落としたいいものについての話題が持ち上がった時に、なんだか少し惜しい事をしたという気の起こるのは免れ難かった。

学校教育やいわゆる参考書によって授けられる知識は、いろいろの点で旅行案内記や、名所の案内者から得る知識に似たところがある。

もし学校のようなありがたい施設がなくて、そしてただ全くの独学で現代文化の蔵している広大な知識の林に分け入り何物かを求めようとするのであったら、その困難はどんなものであろうか。初めから終わりまで道に迷い通しに迷って、無用な労力を浪費するばかりで、結局目的地の見当もつかずに日が暮れてしまうのがおちであろうと思われる。

しかし学校教育の必要といったような事を今さら新しくここで考え論じてみようというのではない。ただ学校教育を受けるという事が、ちょうど案内者に手を引かれて歩くとよく似ているという事をもう少し立ち入って考えてみたいだけである。

案内記が詳密で正確であればあるほど、これに対する信頼の念が厚ければ厚いほど、われわれは安心して岐路に迷う事なしに最少限の時間と労力を費して安全に目的地に到着することができる。これに増すありがたい事はない。しかしそれと同時についその案内記に記してない横道に隠れた貴重なものを見のがしてしまう機会ははなはだ多いに相違ない。そういう損失をなるべく少なくするには、やはりいろいろの人の選んだいろいろの案内記をひろく参照するといい。ただ困るのは、すでにある案内記の内容をそのままにいいかげんに継ぎ合わせてこしらえたような案内記の多い事である。これに反して、むしろ間違いだらけの案内記でも、そ

れが多少でも著者の体験を材料にしたものである場合には、存外何かの参考になる事が多い。

しかしいくら完全でも、結局案内記である。いくら読んでも暗唱しても、それだけでは旅行した代わりにはならない事はもちろんである。

案内記が系統的に完備しているという事と、それが読む人の感興をひくという事とは全然別な事で、むしろ往々相容れないような傾向がある。いわゆる案内記の無味乾燥なのに反してすぐれた文学者の自由な紀行文やあるいは鋭い科学者のまとまらない観察記は、それがいかに狭い範囲の題材に限られていても、その中に躍動している生きた体験から流露するあるものは、直接に読者の胸にしみ込む。そしてたとえそれが間違っている場合でさえも、書いた人の真を求める魂だけは力強く読者に訴え、読者自身の胸裏にある同じようなものに火をつける。そうして記された内容とは無関係にそこに取り扱われている土地その物に対する興味と愛着を呼び起こす。

専門の学術の参考書でもよく似た事がある。何かある題目に関して広く文献を調べようという場合にはいろいろなエンチクロペディやハンドブーフという種類のものはなくてはならない重宝なものであるが、少し立ち入ってほんとうの事が知りたくなればもうそんなものは役に立たない。つまりは個々のオリジナルの論文や著書を見なければならない。それでこのような参照用の大部なものを、骨折って初めから終わりまで漫然と読み通し暗唱したところで、すでになんらかの「題目」を持っていない学生にとってはきわめて効果の薄い骨折り損になりやすいものである。またこんなものから題目を選み出すという事も、できそうでできないもので

ある。これに反して個々の研究者の直接の体験を記述した論文や著書には、たとえその題材が何であっても、その中に何かしら生きて動いているものがあって、そこから受ける暗示は読む人の自発的な活動を誘発するある不思議な魔力をもっている。そうして読者自身の研究心を強く喚びさます。こういう意味からでも、自分の専門以外の題目に関するいい論文などを読むのは決して無益な事ではない。

それで案内記ばかりにたよっていてはいつまでも自分の目はあかないが、そうかと言ってまるで案内記を無視していると、時々道に迷ったり、事によると滝つぼや火口に落ちる恐れがある。これはわかりきった事であるが。それにかかわらず教科書とノートばかりをたよりにする学生がかなり多数である一方には、また現代既成の科学を無視したために、せっかくいい考えはもちながら結局失敗する発明家や発見者も時々出て来る。

名所旧跡の案内者のいちばん困るのは何か少しよけいなものを見ようとすると No time, Sir! などと言って引立てる事である。しかしこれも時間の制限があってみれば無理もない事である。それでほんとうに自分で見物するには、もう一ぺんひとりで出直さなければならない事になる。ただその時に、例の案内者が「邪魔」をしてくれさえしなければいい。しかし案内者や先達の中には、自己のオーソリティに対する信念から割り出された親切から個々の旅行者の自由な観照を抑制する者もないとは言われない。旅行者が特別な興味をもつ対象の前にしばらく歩を止めようとするのを、そんなものはつまらないから見るのじゃないと世話をやく場合もある。つまるとつまらないとが明らかに「相対的」のもので

ある場合にはこれは困る。案内者が善意であるだけにいっそう困るわけである。この種の案内者はその専門の領域が狭ければ狭いほど多いように見えるが、これは無理もない事である。自分の「お山」以外のものは皆つまらなく見えるからである。

一方で案内者のほうから言うと、その率いている被案内者からあまりに信頼されすぎて困る場合もずいぶんありうる。どこまでも忠実に付従して来るはいいとしても、まさかに手洗所までものそのそついて来られては迷惑を感じるに相違ない。

ニュートンの光学が波動説の普及を妨げたとか、ラプラスの権威が熱の機械論の発達に邪魔になったとかいう事はよく耳にする事である。ある意味では確かにそうかもしれない。しかしこの全責任を負わされてはこれらの大家たちはおそらく泉下に瞑する事ができまい。少なくも責任の半分以上は彼らのオーソリティに盲従した後進の学徒に帰せなければなるまい。近ごろ相対原理の発見に際してまたまたニュートンが引き合いに出され、彼の絶対論がしばしば俎の上に載せられている。これは当然の事としても、それがためにニュートンを罪人呼ばわりするのはあまりに不公平である。罪人はもっともっとほかにたくさんある。言わばニュートンは真理の殿堂の第一の扉を開いただけで逝いてしまった。彼の被案内者は第一室の壮麗に酔わされてその奥に第二室のある事を考えるものはまれであった。つい、近ごろにアインシュタインが突然第二の扉を蹴開いてそこに玲瓏たる幾何学的宇宙の宮殿を発見した。しかし第一の扉を通過しないで第二の扉に達し得られたかどうかは疑問である。

この次の第三の扉はどこにあるだろう。これはわれわれには全然予想もつかない。しかしその未知の扉にぶつかってこれを開く

ある場合にはこれは困る。案内者が善意であるだけにいっそう困るわけである。この種の案内者はその専門の領域が狭ければ狭いほど多いように見えるが、これは無理もない事である。自分の「お山」以外のものは皆つまらなく見えるからである。

一方で案内者のほうから言うと、その率いている被案内者からあまりに信頼されすぎて困る場合もずいぶんありうる。どこまでも忠実に付従して来るはいいとしても、まさかに手洗所までものそのそついて来られては迷惑を感じるに相違ない。

ニュートンの光学が波動説の普及を妨けたとか、ラプラスの権威が熱の機械論の発達に邪魔になったとかいう事はよく耳にする事である。ある意味では確かにそうかもしれない。しかしこの全責任を負わされてはこれらの大家たちはおそらく泉下に瞑する事ができまい。少なくも責任の半分以上は彼らのオーソリティに盲従した後進の学徒に帰せなければなるまい。近ごろ相対原理の発見に際してまたまたニュートンが引き合いに出され、彼の絶対論がしばしば俎の上に載せられている。これは当然の事としても、それがためにニュートンを罪人呼ばわりするのはあまりに不公平である。罪人はもっともっとほかにたくさんある。言わばニュートンは真理の殿堂の第一の扉を開いただけで逝いてしまった。彼の被案内者は第一室の壮麗に酔わされてその奥に第二室のある事を考えるものはまれであった。つい、近ごろにアインシュタインが突然第二の扉を蹴開いてそこに玲瓏たる幾何学的宇宙の宮殿を発見した。しかし第一の扉を通過しないで第二の扉に達し得られたかどうかは疑問である。

この次の第三の扉はどこにあるだろう。これはわれわれには全然予想もつかない。しかしその未知の扉にぶつかってこれを開く

人があるとすれば、その人はやはり案内者などのやっかいにならない風来(ふうらい)の田舎者でなければならない。第三の扉の事はいかに権威ある案内記にも記してないのである。

第十四課　古代史ブーム

新出語

古代史ブーム　對古代歷史的一股強烈興趣

古代史　古代史

振り返る　回首、回顧

周期的　週期性的

周期　週期

歷史ブーム　歷史上的治世（盛世）

日本民族　日本民族

源流　起源，源頭

日本国家　日本

国家　國家

成立論　發生論，分析某事件演變而成的理論學說

成立　發生，起源，初成（名詞）

成立する　成立，實現，出現

～論　關於…的理論

～に関する　有關…

興味をひく　引起興趣

興味　興趣

高松塚古墳　高松塚古墳

塚　墳墓

古墳　古墳

発掘する　挖掘（動詞）　はっくつ

発掘　發掘

壁画　壁畫　へきが

朝鮮　朝鮮

陵　帝王陵墓

共通する　共通，相似（動詞）

共通の　共同

～をきっかけに　趁…的機會，以…起步，由…開始

きっかけ　機會，開頭

湧き起こる　湧起

湧く　沸騰

すさまじい　可怕的，驚人的

謎　謎

~の上では　就…而言，關於～

意識構造　意識形態

構造　結構，形態

社会慣習　社會習俗

慣習　習慣，風俗

塗り替える　重新粉刷

塗る　粉刷，油漆

流れ　水流，潮流

流れる　流動（動詞）

自覚する　察覺到（動詞）

自覚　自覺，醒悟

起源　起源

興亡　興衰

自ら　自然而然地

関心が向く　對…感興趣

向く　轉向‥

~に例をとる　由…找例子

世界史的だ　世界歷史的，與世界歷史有關的

視野　視野，洞察

全体像　整體印象

いずれか　任一

属する　屬於…

興味をそそる　引起…興趣

そそる　激發…

文献時代以後　進入文字時代以後

文献時代　文獻時代

目まぐるしい　令人眩目的

優れた　優秀的，傑出的

優れる　優於

政治家　政治家

勇猛だ　勇敢的，勇猛的

武将　軍事將領

人物　人物（歷史，虛構的）

まさに　確實的，的確的

救国　救國

志士　愛國者

英雄　英雄

関り合い　關連，相關

置かれる　被置於

いかなる　如何的，怎樣的

進むべきだ　應該前進

進む　前進

主体的だ　主動的，獨立的，客觀的

主体　客體，主動者（與被動者相對）

関連づける　關連・相關

過去　過去

問題意識　意識到問題的存在

文献以前　在文字歷史前的時代

〜はいざ知らず　（無論某事件如何）

諸民族　各民族

諸〜　各〜・各種的〜

はるかに　遠遠地・實在〜

単調だ　單調的

言わざるを得ない　不得不說

有史以来　有史以來

単一の　單一的，一元的

いわゆる　所謂

大和民族　大和民族

形成する　構成（動詞）

形成　形成

その間　同時，其間

侵略　侵略

侵略する　侵略・入侵（動詞）

脅威　威脅

わずかに　只是，僅僅

元　中國元朝

襲来　入侵

襲来する　侵略，襲擊（動詞）

幕末　明治維新之前，德川幕府末年

通商　通商

軍艦　軍艦

差し向ける　差遣，分配

〜にならって　仿效，模仿〜

ならう　模仿

天皇　帝王

中心　中心

律令国家　法治國家

律令　律令制度，記述有關政府組織及提出成文法令。

体制　體制

保持する　保持

徐々に　逐漸地

〜一門　一族，一支

実権　實權

解く　解釋，解決

史書（ししょ）　史書

記載（きさい）する　記載，記錄

国名（こくめい）　國名

〜をめぐって　有關…

めぐる　…巡遊

くすぶり続ける　繼續冒煙

くすぶる　冒煙

論争（ろんそう）　爭論

論争する　爭辯

炎（ほのお）を上（あ）げ出す　吐出火焰

炎　火焰

上げ出す　升起

〜感がある　有〜之感

歴史学者　歷史學家

研究家（けんきゅうか）　研究者

研究　研究

研究する　研究（動詞）

推理（すいり）作家　神祕小說作家，偵探小說作家

推理　推理

推理する　推理（動詞）

あれこれ　那個這個

自説（じせつ）　己見，個人意見

展開（てんかい）する　推展

論議（ろんぎ）に花を咲かせる　展開熱烈討論

論議　討論，爭辯

論議する　爭執，討論（動詞）

いったい　究竟，到底

関心を向ける　對〜關心

思うに　我認爲，依我之見

一個（いっこ）　一個

安易（あんい）だ　太容易，毫無困難，毫不費力的

他（ほか）の　另一個的〜

置（お）き換（か）える　代替

独自（どくじ）の　獨自的，獨一的

たとえ　即使

異民族（いみんぞく）　不同民族

政治形態（けいたい）　政治形態

形態　形態

社会機構　社會結構

見かけ　外表，外觀

移(うつ)す　轉移

摂関(せっかん)政治　攝政之治　由兒皇帝或傀儡皇帝背後的代理人攝政的政權在平安時代中期以後常見之，當時藤原家族以代理輔助皇爲名總攬大權。

貴族勢力(きぞくせいりょく)　貴族勢力

貴族　貴族

勢力　勢力

衰退(すいたい)　衰退

衰退する　衰亡(動詞)

~と共(とも)に　和~一起，與…一起
with

台頭(たいとう)する　出頭，嶄露頭角

新興(しんこう)勢力　新興勢力

新興　新興的

武家　武士家族

移る　轉移

幕府開設(ばくふかいせつ)　幕府之創立

幕府　幕府，軍閥政府

開設　創建

開設する　建立(動詞)

根底(こんてい)　基礎

覆(くつがえ)す　推翻

事件(じけん)　事件

何一(なにひと)つない　一個也沒有

貴族階級(かいきゅう)　貴族階級

階級　階級

武士(ぶし)階級　武士階級

武士　武士

武士団同士(ぶしだんどうし)　武士團員們

~同士　~成員們

勢力争(あらそ)い　勢力鬥爭

争い　爭執，競爭

~初期(しょき)　~的初期

統計(とうけい)　統計

推定(すいてい)する　預定，估計(動詞)

推定　預定，推測

一般庶民　一般人民

まともに　直接了當地，正面地

荒波(あらなみ)　巨浪

もまれる　被浪潮沖激

保守系(ほしゅけい)　保守派

保守　保守

~系　~派

革新系(かくしん)　革新派

革新	革新
平和論者（へいわろんしゃ）	和平主義者
～論者	主張～論的人
武力弾圧派（ぶりょくだんあつは）	武力鎮壓派，主張使用武力的黨派
武力	武力，軍事力量
弾圧	鎮壓
弾圧する	鎮暴，鎮壓（動詞）
～派	～派分
多少（たしょう）	多少
血（ち）なまぐさい	血腥的
転換期（てんかんき）	轉捩點
転換	轉變
転換する	轉換（動詞）
要（よう）するに	總而言之
歴史的だ	歷史性的
探（さぐ）る	探討

■ 本　文

ここ、二・三十年を振り返ってみると、周期的ともいえるように、歴史ブームといった現象が現れる。しかも、面白（おもしろ）いことに、それが日本民族の源流を求めようとする日本国家の成立論に関するときほど、人々の興味をひくようだ。

特に、一九七二年に高松塚古墳が発掘され、中に描かれていた壁画が古代朝鮮の陵のそれと共通する点が多い、ということをきっかけに湧き起こった古代史ブームはすさまじいものであった。古代国家成立の謎を解く邪馬台国（やまたいこく）（中国（ちゅうごく）の史書「魏志倭人伝（ぎしわじんでん）」に記載されている日本の国名）がどこにあったかをめぐって、それまでくすぶり続けていた論争が一度に炎を上げ出した感があった。専門の歴史学者を初め、町の研究家、あるいは推理作家に至るまで、あれこれと自説を展開し、論議に花を咲かせた。

いったい何がこれほどまでに日本人の関心を古代史に向けさせるのだろうか。

思うに、一個の民族というものは、安易に他の民族　文化とは置き換えられない独自の文化の伝統を持つものである。たとえ、異民族の支配に屈し、政治形態や社会機構が見かけの上ではどう変えられようとも、その言語や意識構造・社会慣習までが異民族のそれにすっかり塗り替えられるということはまずあるまい。歴史の流れの中に生きる人々がこういったことを自覚するとき、それでは自分たちの民族の起源は、その興亡の歴史は、ということに自ら関心が向くことになるのではなかろうか。例をヨーロッパにとってみても、世界史的な視野からその歴史の全体像を観(み)ることも勿論(もちろん)可能だが、いずれかの民族に属する人々にとっては、それ以上に、自分たちの民族の興亡の歴史として興味がそそられるのではなかろうか。文献時代以後においても、ヨーロッパの地図は目まぐるしく塗り替えられてきた。日本人の目から見れば、単なる優れた政治家であり、勇猛な武将であるに過ぎない人物でも、その民族の人々から見れば、まさに救国の志士であり、民族の英雄であるのだ。つまり、民族の興亡との関り合いで歴史を観るとき、自分たちの民族の置かれた現状はどうか、今後いかなる方向に進むべきかといった問題と主体的に関連づけることが可能になり、単なる知識として過去を知るという以上に大きな興味と問題意識をもって、歴史をとらえるようになるのであろう。

ところが、日本歴史を観るかぎり、文献以前はいざ知らず、文献時代以後の歴史というものは、ヨーロッパ諸民族のそれなどに比べて、はるかに単調なものであったと言わざるを得ない。国家としての日本も有史以来単一の民族（いわゆる大和(やまと)民族）のみによって形成されてきたといってよく、その間に受けた外国からの侵略の脅威といえば、わずかに鎌倉(かまくら)時代に元の襲来を受けたとき

と、幕末に欧米諸国が通商を求めて軍艦を差し向けてきたときぐらいであった。

中国の制度にならって造りあげた、奈良時代の天皇を中心とする律令国家から、その体制を保持しながら徐々に藤原一門に実権の移された平安時代の摂関政治。やがて貴族勢力の衰退と共に台頭した新興勢力である武家へと政治の実権が移り、源頼朝の幕府開設に始まる鎌倉時代。・・・

と見てくると、確かにそこには、それなりの歴史というものがあることは事実だ。しかし、その間に、民族の文化を根底から覆すような事件は何一つ起こらなかったということもまた事実なのである。文献時代以後千四・五百年の歴史を見ても、そこに見られるのは、貴族階級と武士階級の対立、あるいはまた、武士団同士の勢力争い程度のものに過ぎなかったと言ってよい。明治初期の統計によると、国民の八十五パーセントは農民であったというが、さらにそれ以前には、もっと多かったと推定される農民を中心とする一般庶民が、まともに歴史の荒波にもまれるということは、ほとんどなかったのではなかろうか。言ってみれば、保守系と革新系、平和論者と武力弾圧派が多少血なまぐさい勢力争いを、歴史の転換期のそれぞれに行ってきたというだけのことである。

要するに変わっているようで変わっていないのが日本の歴史なのである。こういう歴史的事情が、民族の源流を探る古代史へと我々の関心を向けさせるのであろう。

用　例

1. ・面白いことに、それが日本民族の源流を求めようとする日本国家の成立論に関するときほど、人々の興味をひくようだ。(l. 2)

(1) 初めての海外旅行で心細い思いをしていたら、嬉しいことに友人が空港まで迎えに来てくれていた。

(2) 子供が急に熱を出したので医者に見せようと思ったが、困ったことに今日は日曜日でどこも休診だ。

(3) 週末に富士山に登ろうと思っているのに、具合の悪いことに台風が近づいているそうだ。

(4) この間、わたしの家の近くに大火事があったが、幸いなことに類焼を免れた。

(5) 三年ぶりに帰国すると、驚いたことに町の様子はすっかり変わってしまっていた。

2. ・一九七二年に高松塚古墳が発掘され、中に描かれていた壁画が古代朝鮮の陵のそれと共通する点が多い、ということをきっかけに湧き起こった古代史ブームはすさまじいものであった。(l. 5)

(1) 一発の銃声をきっかけに、両国は戦闘状態に入った。

(2) 国鉄運賃の値上げをきっかけにして、私鉄の運賃やタクシー料金も値上げされることになった。

(3) 首相の不用意な発言がきっかけになって、国会は混乱状態に陥った

(4) 彼が医学の研究に一生を捧げるようになったきっかけは、子供の時に弟を病気で失ったことである。

(5) 私も意見を述べたいと思っていたが、きっかけがつかめないうちに会議が終わってしまった。

3. ● 古代国家成立の謎を解く邪馬台国がどこにあったかをめぐって、それまでくすぶり続けていた論争が一度に炎を上げ出した感があった。(l. 8)

(1) 彼の死因をめぐって、いろいろな噂が流れている。

(2) 後任社長の人事をめぐって、社内の対立が一段と激しくなった。

(3) 石油に代わるエネルギー源の開発をめぐり、活発な研究が進められている。

(4) 日本文化をめぐる諸問題について、国際的なシンポジウムが開かれることになった。

(5) あの政治家をめぐる世間の評判はあまりかんばしくない。

4. ● 専門の歴史学者を初め、町の研究家、あるいは推理作家に至るまで、あれこれと自説を展開し、論議に花を咲かせた。(l. 11)

(1) 大都市を初め地方の農村に至るまで、全国的に電話の自動化が進み、日本じゅうどこへでもダイヤルを回すだけで通じるようになった。

(2) 彼の葬儀には、大統領・大臣などを初め、名もなき市民に至るまで、最後の別れを告げに参列した。

(3) 友人を初め親や兄弟までがわたしの言うことを信じてくれず、気狂い扱いをする。

(4) キリスト教はヨーロッパを初めとして、全世界に広まっている宗教といえよう。(l. 13)

(5) 明日の交通ストは、汽車・電車を初めとして、すべての交通機関がとまってしまうそうだ。

5. ● いったい何がこれほどまでに日本人の関心を古代史に向けさせるのだろうか。(l. 13)

(1) 経営者側がこれほどまでに厳しい労働条件を我々に強いるならば、

7. • たとえ、異民族の支配に屈し、政治形態や社会機構が<u>見かけの上では</u>どう変えられようとも、その言語や意識構造・社会慣習までが異民族のそれにすっかり塗り替えられるということはまずあるまい。*(l. 16)*

(1) 彼は見かけの上では健康な人と変わらないが、不治の病に冒されているのだそうだ。

(2) 理屈の上ではそのようなことが言えても、事実の裏付けがないうちは納得できない。

(3) 安全性の上では、火力発電の方が原子力発電にまさっている。

(4) この応募者は書類の上からは、何の問題もなさそうに見える。

(5) 計算の上からは、あと一世紀のうちに世界の人口は今の二倍になるということだ。

8. • 国家としての日本も有史以来単一の民族のみによって<u>形成されてきたといってよく</u>、その間に受けた外国からの侵略の脅威といえば、わずかに鎌倉時代に元の襲来を受けたときと、幕末に欧米諸国が通商を求めて軍艦を差し向けてきたときぐらいであった。*(l. 37)*

(1) 地震・台風などによる災害の多い点から見て、日本は世界一の天災国だといってよい。

(2) お盆の行事は在来の土俗信仰に仏教が結びついてできたものだと考えてよい。

(3) それだけ食欲が出れば、十分に健康を取り戻したと見てよいだろう。

(4) 地球から銀河までは、無限といってよいほど距離がある。

(5) 彼があの発明に成功したのは、全くの偶然だといってよく、彼自身でさえ、信じることができないほどであった。

9. • 外国からの侵略の脅威といえば、わずかに鎌倉時代に元の襲来を受けたときと、幕末に欧米諸国が通商を求めて軍艦を差し向けてきたときぐらいであった。(l. 39)

(1) 江戸時代には幕府の鎖国(さこく)政策によって、外国といえば、わずかにオランダ、中国の清(しん)と交渉(こうしょう)があったのみである。

(2) 世界的な食糧危機が予想されているが、蛋白資源といえば、最近では、海中(かいちゅう)のプランクトンの食品化(しょくひんか)が真剣(しんけん)に考えられ始めている。

(3) 明治時代の文豪(ぶんごう)といえば、森鷗外と夏目漱石の名をあげぬ者はあるまい。

(4) ウインタースポーツといえば、やはりスキーがその代表だろう。

(5) 地震による災害といえば、あの関東大震災の恐ろしさを思い出さずにはいられない。

10. • やがて貴族勢力の衰退と共に台頭した新興勢力である武家へと政治の実権が移り、源頼朝の幕府開設に始まる鎌倉時代。……… (l. 45)

(1) テレビの普及と共に衰退した映画産業(さんぎょう)が、最近またテレビ用映画の製作(せいさく)で復活(ふっかつ)してきた。

(2) 核家族化(かくかぞくか)の進行(しんこう)と共に、老人問題が一段と深刻化してきた。

(3) 明治維新を迎えると共に、日本は強力な中央集権(ちゅうおうしゅうけん)国家へと変わっていった。

(4) 旧法令(ほうれい)は新法令の施行(しこう)と共に自動的に無効(むこう)となる。

(5) 電子工学(でんしこうがく)の進歩と共にますます性能のよくなったコンピューターは、社会のあらゆる分野で利用されるようになった。

■ 会　話　邪馬台国をめぐって

場面　日本古代史を研究している人たちの座談会

人　A：司会者。国史を専門にする

B：国史学者。高橋

C：民族学者。内田

D：考古学者。佐藤

A_1：きょうここにお集まりの先生方[1]は、歴史、考古学、民族学と、御専門は異なっていらっしゃいますが、皆さんそれぞれに古代史に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ[2]、邪馬台国について、大いに論じ合っていただければ[3]という趣旨でお集まり願ったわけです。

關於邪馬台國

場景　由研究日本古代史的一群人所開的座談會

人物　A：主席。日本史專家

B：日本史學家。高橋

C：民族學者。內田

D：考古學家。佐藤

A_1：今天集會在此的教授們雖各有不同的專門研究，如歷史、考古學、民族學，但都是從事有關古代史的研究。這個集會的主題，就是請各位就有關邪馬台國好好地互相討論一番。

わたくしのような古代史の門外漢には、近ごろの邪馬台国論争は何が根本的な問題で、何が末梢的な議論なのか、その辺の筋道がどうもこんがらかってしまっているんじゃないかと思われるんです。で、先生方のような御専門の方々に、そのもつれた糸をほぐし、今後の研究のあり方[5]をお示しいただこうというようなわけで、この座談会を計画した次第です。[6]

初めに方法論に関する問題から入っていただけますでしょうか。それから順を追って[7]邪馬台国の所在地や成立事情などの問題へと進んでいけたら[8]と思います。

では、高橋先生から問題をお出し願えませんでしょうか。

B1：じゃ、まず、皆さんのたたき台[9]にしていただくつもりで口火を切ら[10]せていただきます。わたしは国史を専門にしているわけですが、わたしのような文献を扱う者の立場からすれば、もっと史料を大切にすべき[11]ではないかと思うんです。史実はこうだと先に決めてしまっておいて、それに合わせるために史料を都合よく解釈するといった傾向が近ごろ多いと思うんですが、あれは明らかに本末顚倒[12]で、どうにも[13]承服しがたいと感じているんです。 転

以我這樣的外行人來看，最近有關邪馬台國的爭論，顯得雜亂無章，分辨不出究竟那裡是問題根本，那裡只是枝節末微，因此我們計劃了這次座談會，目的是希望各位專家學者爲我們打開這糾結，指示未來研究的方向。

首先可否請各位從有關方法學方面開始討論？然後，希望各位逐一地進入有關邪馬台國地理位置，創建始末等問題上。

現在，首先請高橋老師提出問題。

B1：首先，各位既然推我爲開始，我只好不惴淺漏第一個提出意見。我是專攻日本史的所以從一個處理文獻的主場來說，我認爲應該多重視歷史素材。最近有一種普遍的傾向卽先決定"歷史事實是如此的"，再配合這種理論完滿地將史料做一番詮釋。這顯然是本末倒置我實在難以贊同。

C₁：今あなたが言った史料って、文献資料つまり「魏志倭人伝」なんかのことでしょ。

B₂：ええ、そうなんです。具体的に言うとこういうことなんです。「魏志倭人伝」の解釈にしても、たとえは、邪馬台国と末盧国や伊都国などとの位置関係を想定するのに、現存地名を手懸り[14]にして、先に位置を設定しておいて、それに辻褄の合った[15]解釈をしようとするんですね。

C₂：そういうこと、考古学の人なんかにも多いんじゃない。

D₁：うん、確かにそういう傾向ありますね、考古学やってる連中に。さっき本末顛倒とおっしゃったけど、全くその通りで、やっぱり考古学っていうのは歴史学の補助的な立場を貫き通す[16]べきだと思うんですけど、つい欲が出て[17]しまうんですね。

B₃：ええ、そこなんですね、問題は。文献を扱う者は、考古学的な事実を先取り[18]して史料を解釈してはいけない。まず、史料を史料として、文献学的に手堅く[19]分析することを心懸ける[20]べきだと思うんです。そういう点からすれば、邪馬台国云々にしても、[21]文献上の問題なんだから、文字を通して解釈できることはどれだけのことか、その限界をはっきりさせることが第一ですね。

C₁：剛才您所說的歷史資料，我想指的是歷史文獻即如「魏志倭人傳」吧！

B₂：是的，不錯。具體地說，是這樣的。即使「魏志倭人傳」的詮釋，例如，在假設邪馬台國、末盧國或伊都國等的位置時，以現在地名爲線索，先設定它們的位置。再對「魏志倭人傳」做一番合乎他們邏輯的詮釋。

C₂：這種事情對考古學家來說，不是常有的事嗎？

D₁：嗯，在考古學同行中確實有這種傾向，正如您剛才所說的本末例置，我想考古學還是應該堅持作爲補助歷史學的立場，但沒想到無意中就變得急於出風頭。

B₃：對，問題就在於此。處理文獻的人絕不能先以考古學上的事實來解釋歷史資料。我認爲首先應該決心以審愼的學術態度把歷史資料當作歷史資料來分析。從這點看來，最重要的，即使有種種不同的邪馬台國論，但因爲這是文獻上的問題，所以要清楚的定下以文字所能解釋的最大界際。

D2：ええ、ほんとにそう思いますね。わたしなども反省しなくちゃ。

C3：今の話、よくわかるし、その通りごもっとも[22]だと思いますがね。その点じゃ歴史学者自身にも多分に責任があるんじゃない。わたしに言わせれば[23]、ああも解釈できる、こうも解釈できるなんて、三通りにも四通りにも解釈しておいて、どれもが最善の解釈でございな[24]んて顔をしているのがおかしいんだね。

B4：いや、きびしい御指摘で。お説の通り[25]歴史をやっている者が意外に文献解読にルーズで、というよりはっきり言えば、その時代の語法に従って読むだけの力[26]がなくて、いい加減[27]に読んでおいて、わからない問題が出てくると、すぐ考古学や民族学に頼ってしまうというような……。

D3：でも、読もうとするだけいい[28]ですよ。我々は最初から諦めてる。ま、それは冗談として、結局、文献つまり文字の語ることと、物、つまり我々のやっている発掘調査の語ることと、どこでうまく折り合いをつける[29]かということですよね。

D2:是的，我認爲這是理所當然的，我們也應反省反省。

C3:我瞭解各位的意思，並且各位確實很有道理。關於這一點歷史學家不該擔負大半的責任嗎？就我個人認爲史學家說可以這麼解釋，也可以那麼解釋，甚至三個、四個的說法，而每一個都是最佳的解釋—這就有待商榷了。

B4:呀，這話眞是一針見血。如您所說的從事歷史工作者對文獻解釋出乎意外地非常鬆懈更明白地說，當沒有足夠能力了解那時代的語法，草率地閱讀史料，一旦碰到不懂的地方就馬上請教考古學家和民族學家……。

D3:不過你們至少是努力地去閱讀了，這一方面我們從頭開始就放棄了。言歸正傳，最後的結論就是應該如何將文獻—文字記載—與史蹟發掘的調查報告做合理的調整。

1. 計画に無理がありました──→
さっき計画に無理があったとおっしゃいましたが、全くその通りです。

2. もっと具体的に考えるべきです──→
さっきもっと具体的に考えるべきだとおっしゃいましたが、全くその通りです。

3. 税法に問題があります──→
さっき税法に問題があるとおっしゃいましたが、全くその通りです。

4. 流通機構を改めるべきです──→
さっき流通機構を改めるべきだとおっしゃいましたが、全くその通りです。

5. 歴史学者自身にも責任があります──→
さっき歴史学者自身にも責任があるとおっしゃいましたが、全くその通りです。

II. きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ古代史に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、邪馬台国について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

今天出席的每位都在從事有關古史的研究工作。那麼，我想請各位就邪馬台國爲題，做一次生動熱烈的討論。

きょうここにお集まりの先生方は、歴史、考古学、民族学と、御専門は異なっていらっしゃいますが、皆さんそれぞれに古代史に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、邪馬台国について、大いに論じ合っていただければという趣旨でお集まり願ったわけです。……A_1

這是鼓勵人發表意見的方式之一，注意這個說話者如何先指出出席敎授要明白的當前的主題，然後鼓勵他們以そこで一つ踴躍發言。試將這個例句的話題換成你自己所要的話題。

練習 例にならって話をしなさい。

（例）古代史・邪馬台国──→
きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ古代史に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、邪馬台国について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

糊不清。 (5)研究のあり方——研究的理想狀況，方法。 (6)～した次第です＝～したわけです。 (7)順を追って——逐一地，按順序。 (8)いけたら：此處又是應該挿入"如果…我將感激不盡"之類的片語。 (9)たたき台——切菜板。 (10)口火を切る——肇始，發端。 (11)すべき：べき前面的する必須改爲す的形式。 (12)本末顚倒——本末倒置，捨本逐末。 (13)どうにも——無論如何。 (14)手懸りにする——作爲線索，做爲把柄。 (15)辻棲が合う——合乎邏輯，前後一貫的。 (16)貫き通す——貫穿，貫徹始終。 (17)欲が出る——變得很貪婪。 (18)先取りする——搶先。 (19)手堅く——以一般認爲最穩當的方式從事。 (20)心懸ける——決意做某事，致力於。 (21)邪馬台国云云にしても——有關邪馬台国的種種說法。 (22)ごもっとも——你是對的。 (23)わたしに言わせれば——依我之見。 (24)解釋でござい——一種魯莽的說法。 (25)お說の通り——正如你所說／我同意你。 (26)讀むだけの力——有閱讀的能力。 (27)いい加減に——疏忽，草率，粗心大意地。 (28)讀もうとするだけいい——只要是你利用一種方式努去閱讀，那就是好的方法。 (29)折り合いをつける——調停、安撫、謀求解決之道。 (30)責任が負える——能負責，肯定他們確有把握。 (31)讀めてくる——自身變得明顯，不證自明。 (32)裏付けを得る——得到支持，獲得印證。

■ 会話の練習

1. さっき本末顚倒だとおっしゃいましたが、全くその通りです。

您剛才說的本末倒置，確實我完全同意。

「……。さっき本末顚倒とおっしゃったけど、全くその通りで、やっぱり考古学っていうのは歴史学の補助的な立場を貫き通すべきだと思うんですけど、つい欲が出てしまうんですね。」……D_1

此處說話者引用對方先前說過的，並表示完全同意，在這麼做時，他只要把別人先前所說的做一個摘要加以複述，而且，因爲這是間接引述，動詞應該改變成非正式的形成（です＝だ）

練習 例にならって文を作りなさい。

（例）本末顚倒です——→

さっき本末顚倒だとおっしゃいましたが、全くその通りです。

1. 近代史・明治維新──→

きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ近代史に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、明治維新について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

2. 宗教・戦争と宗教──→

きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ宗教に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、戦争と宗教について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

3. 近代文学・森鷗外──→

きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ近代文学に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、森鷗外について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

4. 政治学・選挙制度──→

きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ政治学に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、選挙制度について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

5. 民族学・日本文化──→

きょうここにお集まりの方々は、皆さんそれぞれ民族学に関する研究をなさっていらっしゃいます。そこで一つ、日本文化について、大いに論じ合っていただきたいと思います。

III. わたくしのような門外漢には、邪馬台国論争は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

以我這樣的外行人來看，我很難弄清楚關於邪馬台國的爭論究竟何者爲問題的根本，何者僅爲枝節末徵，因此我希望請各位專家澄清一下。

わたくしのような古代史の門外漢には、近頃の邪馬台国論争は何が根本的な問題で、何が末梢的な議論なのか、その辺の筋道がどうもこんがらかってしまっているんじゃないかと思われるんです。で、先生方のような御専門の方々に、そのもつれた糸をほぐし、今後の研究のあり方をお示しいただこうというようなわけで、この座談会を計画した次第です。……A_1

這是一種鼓勵人發表意見的方法，注意說話者雖然強調自己對主題的無知，他的用意是鼓勵他人發言，他可能有相當的學養，假裝無知只是禮貌上必須。

練習　例にならって話をしなさい。

（例）　邪馬台国論争→

わたくしのような門外漢には、邪馬台国論争は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

1. エネルギー問題→

わたくしのような門外漢には、エネルギー問題は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

2. 老人問題→

わたくしのような門外漢には、老人問題は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。て、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

3. 選挙制度の問題→

わたくしのような門外漢には、選挙制度の問題は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

4. 流通機構の問題→

わたくしのような門外漢には、流通機構の問題は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

5. 日本の外交問題→

わたくしのような門外漢には、日本の外交問題は、何が根本的で、何が末梢的なのか、よくわかりません。で、先生方のような御専門の方々に、それを明らかにしていただきたいと思います。

N. 初めに方法論に関する問題から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、邪馬台国の所在地や成立事情の問題へと進んでいけたらと思います。

首先，我想，可否請各位由有關方法學方面開始？之後，我們希望各位逐一提出討論有關邪馬台國的地理位置，創建的時代背景等問題。

初めに方法論に関する問題から入っていただけますでしょうか。それから順を追って邪馬台国の所在地や成立事情などの問題へと進んでいけたらと思います。……A₁

說話者在此有兩個目的，指明他所希望的討論各題目的順序，以及，婉轉的表示要大家合作，依照這樣的議程。

練習 例にならって話をしなさい。

(例) 方法論に関する問題・邪馬台国の所在地や成立事情の問題──→

初めに方法論に関する問題から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、邪馬台国の所在地や成立事情の問題へと進んでいけたらと思います。

1. 方法論・具体的な問題──→

初めに方法論から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、具体的な問題へと進んでいけたらと思います。

2. 明治時代の文学・昭和──→

初めに明治時代の文学から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、昭和へと進んでいけたらと思います。

3. 古代社会・近代社会の問題──→

初めに古代社会から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、近代社会の問題へと進んでいけたらと思います。

4. 発音の問題・文法（ぶんぽう）の問題──→

初めに発音の問題から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、文法の問題へと進んでいけたらと思います。

5. 概論（がいろん）[5]・個々（ここ）の[6]問題──→

初めに概論から入っていただけますでしょうか。それから順を追って、個個の問題へと進んでいけたらと思います。

---

(1)改靠，改進 (2)宗教 (3)戰爭 (4)外交問題 (5)大綱，概略的介紹
(6)各別的